

令和7（2025）年度  
中部環境パートナーシップオフィス運営業務  
年間報告書

2026年3月

中部環境パートナーシップオフィス  
（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）




# 令和7(2025)年度 中部環境パートナーシップオフィス運営業務年間報告書

## 目 次

業務概要	1
1 業務実施計画の作成	8
2 EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催	15
3 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの基本業務	19
(1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務	19
(2) 相談対応・対話の場づくり	22
(3) グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務	37
(4) 全国事業に関わる業務	45
(5) EPO ネットワークとの情報交換	45
(6) 施設の維持・管理	46
(7) ネットワークの維持活用	47
4 協働取組の促進のための業務	49
(1) 自治体・協働コーディネーターのネットワークを活用した環境教育の推進	49
(2) 自治体・協働コーディネーターとの連携による実践的な取組	54
(3) 自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献 についてのフィードバック	59
5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務	67
(1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業	67
(2) 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の開催	74
(3) 地域循環共生圏づくりのための関係性の構築	81
6 中部地方 ESD 活動支援センター業務	83
(1) 多様な主体の連携促進、交流機会の提供（学び合いプロジェクト）	83
(2) 学校における気候変動教育プログラムの実証事業	96
(3) ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催	103
(4) 自然資本等の活用による ESD 促進（ESD ダイアログの開催）	105
(5) SDGs 学生サミットの開催	109
(6) 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援	111
(7) 全国センターとの連携協力の推進等	113
(8) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化	114
7 EPO/ESD の行事を通じた意識や行動の変容の把握	125
8 関係主体との連携及び協働に関する業務	131
(1) EPO・GEOC・ESD 活動支援センターのネットワーク活用及び連携の確保・強化	131
(2) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換	131
(3) 中部地方環境事務所が開催する会議（外部評価委員会等）への対応	133
(4) 環境白書を読む会の企画・運営支援	139
(5) 全国ユース環境活動発表大会への参加	142
9 外部資金を活用した事業	143
(1) 環境再生保全機構への協力	143
(2) 愛知県環境学習コーディネート業務	146
10 今後に向けて	147

**本報告書の集計データ等について**

- ※ 本報告書は2026年3月17日までの業務を3月18日時点でとりまとめ、作成した。
- ※ 掲載した令和7（2025）年度の年間合計の集計データ等はすべて、2025年4月1日から2026年3月17日までのデータの集計結果となっている。

※下線部  : 本報告書内の該当ページへのリンクあり。

# 業務概要

---

## (ア) 業務の目的

持続可能な社会を構築する上で、国民、民間団体等が行う環境保全活動並びにその促進のための環境保全意欲の増進、環境教育が重要であることに加え、これらの取組を効果的に進める上で協働取組が重要となる。

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」(以下「環境教育等促進法」という。)第19条において、「国は、国民、民間団体等が行う環境保全等を効果的に推進するため、情報提供や助言、交流機会の提供等を行う拠点としての機能を担う体制の整備に努めること」とされており、同法第7条で定める国の方針(以下「促進法基本方針」という。)により、環境省においては、協働取組を構築・促進するための中核的な担い手として「環境パートナーシップオフィス(以下「EPO」という。))」を全国8ブロックに設置(以下「地方EPO」という。)した。中部地方では中部環境パートナーシップオフィス(以下「EPO中部」という。)を開設し事業を実施しているところである。

また、持続可能な社会の創り手を育成するESDの推進のため、文部科学省と環境省が共同で全国ESD活動支援センター(以下「全国センター」という。)と全国8ブロックに地方ESD活動支援センター(以下「地方センター」という。)を設置し、第2期ESD国内実施計画に基づくESDの全国的な展開、支援体制の充実等を図るとともに、気候変動を切り口としたESDの取組も進めているところである。

本業務は、EPO中部が環境教育等促進法の規定する国の役割を果たすため、また中部地方ESD活動支援センター(以下「中部ESDセンター」という。)が国内実施計画等を踏まえた役割を果たすため、地方EPOと地球環境パートナーシッププラザ(以下「GEOC」という。)のネットワーク(以下「EPOネットワーク」という。)を活用するとともに、中部地方の事情を踏まえて各種事業等を企画し、それを実施することにより、市民、NPO/NGO、行政、企業等、社会を構成する様々な主体による協働・連携の取組を広げ、効果的・効率的に環境保全活動、多種多様な環境施策への協力及びESD活動等を活性化させることを目的に実施した。

また、「第五次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)において提唱され、「第六次環境基本計画」(令和6年5月閣議決定)における中心概念「ウェルビーイング」の実現に向けた「新たな成長」の実践・実装の場として位置付けられるとともに、地域の主体性を基本に地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会の統合的向上を図る「地域循環共生圏」の考え方や、及び「地域課題を解決し、地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する脱炭素」をキーメッセージとして発信している「地域脱炭素ロードマップ」(令和3年6月国・地方脱炭素実現会議決定)の考えに基づき、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地域を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築するための創造に取り組むことを目的として実施した。

さらに、令和6年度に全て変更された環境教育等促進法の基本方針の中では、ESD活動支援センター、GEOC、EPO等の中間支援機能を活用した環境教育・協働取組の充実、人材育成について記載されている。また、同基本方針では、ESD活動支援センターの相談対応件数を令和10年度に令和4年度比で倍増させることにより、ESD活動支援センターの認知度を向上させ、学校と地域等をつなぐ中間支援機能をより一層充実させることが求められており、引き続きネットワークの強化及び周知を図ることとされている。

## (イ) 期待される役割

3年を1期として、今年度は第7期（令和6年4月1日から令和9年3月31日まで）事業の2年目となるEPO中部、中部ESDセンターにおいては、環境問題の解決、持続可能性に関する様々な課題を統合的に見る観点から、環境政策の統合、環境政策と他の政策分野とを統合した、統合的アプローチの実践のため以下の考え方にに基づき、市民活動などのより地域に近い活動での案件づくりを進めた。

- (ア) 脱炭素（CN）、資源循環（CE）、自然再興（NP）の統合的アプローチを実践に移し、地域関係者との対話の機会を創出し、2030年に向けた案件づくり、現場づくりを行う。
- (イ) 脱炭素先行地域・重点加速化事業、自然共生サイトなど全国的な施策と連動し、助成金や認定申請等を発掘し、優良・先進事例の創生を促進する。
- (ウ) 自治体、企業等に対しては、CN、CE、NPあるいは、環境調査研究、環境教育、環境管理など様々な角度から働きかけ、多面的な関係の強化・安定化を図る。
- (エ) 地域の他の関係者などとの連携、さらに県域、流域等といった広域の協力といった面的拡大の機会創出を図る。

上記を踏まえて、EPO中部・中部ESDセンターには、主に以下の役割を期するとされている。

- i 地域における中間支援機能の強化に資する地域ネットワークの強化
- ii 持続可能な社会の構築に向けた地域活動事業の創出と支援
- iii 地域における活動の普及・促進に資する環境教育（ESD）の促進
- iv 地方環境事務所との連携による施策の促進
- v 地域への情報の発信と連携による情報収集

令和6年度5月21日「第六次環境基本計画」が閣議決定された。これをうけ、中部地方環境事務所では「地域環境経済社会共進化室」を設置した。共に進化することを地域で目指して、地域の様々な立場との活発な政策対話により、国民・市場・政府が連携、提案、発信することを目指した。

EPO中部、中部ESDセンターにおいても「地域共進化」の考えに基づき、これを運営した。

なお、EPO中部、中部ESDセンターの事業は特定の分野に限らず、環境省全体の施策を進めるためのパートナーシップ醸成、ESDの推進であることも意識し、業務を実施した。

## (ウ) 実施業務

促進法基本方針を踏まえ、様々な主体による協働・連携の取組を通じた環境保全活動等を活性化するため、市民、NPO/NGO、行政、企業、金融機関等との連携を確保しながら、①環境教育等促進法の拠点としての推進、②環境教育・SDGs/ESDの推進、③地域循環共生圏の創造の推進について、各種業務を行った。また、これらの活動状況等について、Web等を通じて広く発信した。

具体的な事業内容については、(2)EPO中部・中部ESDセンター運営委員会等において業務実施計画の検討を行った上で、中部地方環境事務所担当官（以下「事務所担当官」という。）と協議して決定した。また、当該業務実施報告は、EPO中部のホームページにおいて公表している。

### (1) 業務実施計画（案）の作成及び公表

- ・業務実施計画（案）の作成（下記（3）以降の各項目を柱として構成し、項目ごとに定量的な達成目標（インプット・アウトプット）を設定）

- (2) EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター運営委員会の設置・開催
- ・「EPO 中部・中部 ESD センター運営委員会」（以下「運営委員会」という。）の設置・開催（委員 8 名以上、年 2 回開催）
  - ・委員の委嘱手続、委員等との連絡調整、会場手配・設営（オンライン開催）、委員会運営等の事務手続、資料の作成・印刷（1 回当たり EPO 中部、中部 ESD センター分として A4 で各両面 20 頁程度、10 部程度）、議事進行、会議録の作成等
- (3) EPO 中部・中部 ESD センターの基本業務
- i) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務
    - ㊦ ホームページの更新及び維持管理（月 2 回以上）
      - ・EPO 中部 (<https://www.epo-chubu.jp/>)、中部 ESD センター (<https://chubu.esdcenter.jp/>)
    - ㊧ 収集した情報の整理・蓄積・発信
    - ㊨ リーフレットの配布
  - ii) 相談対応・対話の場作り
    - ・各種情報紹介及び相談対応、助言や各種会合への参加、市民・NPO/NGO・行政・企業等多様な主体の交流やマッチングの場づくり、過去対応案件のフォローアップ、会議スペースの貸し出しや図書・資料閲覧への対応、ESD 活動の相談や支援 等
  - iii) 地域からのグリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務
    - ・ヒアリング、情報交換会やワークショップ等の開催運営業務（座談会 3 回、公開フォーラム 1 回の計 4 回、半日、30 名）
    - ・他団体等が主催する勉強会等（2 回程度、半日程度、2 名）参加、事務局として協力
  - iv) 全国事業に関わる業務
    - ・検討会議（都内、1 回、半日程度、2 名）
    - ・全国 EPO 連絡会（3 回、都内 2 回、地方 1 回）
  - v) EPO ネットワークとの情報交換会
    - ・EPO ネットワークの強化等に関するミーティング（都内、2 時間）
  - vi) 施設の維持・管理
    - ㊦ オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理
    - ㊧ 施設・設備の維持管理
    - ㊨ オフィス運営に必要な機材等の維持管理事務
  - vii) 事務所担当官による活用のための i ~ vi で得られた情報やネットワークの整理
- (4) 協働取組の促進のための業務
- i) 自治体や協働コーディネーターが持つネットワークを活用した環境教育の推進
    - ㊦ 中間支援をテーマにしたセミナーの開催（有識者 4 名、1 回、半日、30 名）
    - ㊧ 協働コーディネーターによる意見交換会の開催（1 回、半日、30 名）
  - ii) 自治体や協働コーディネーターとの連携による実践的な取組
    - ・フォーラム開催（大学教授級講師を各 2 名、2 回、半日、30 名）
  - iii) 自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック
    - ・有識者（大学教授級 3 名）による活動評価手法検討ワーキンググループ（3 回、半日）
    - ・検討結果のフィードバック、本成果のまとめ公表

(5) 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

i) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

㊦中間支援体制構築業務

- ・中間支援主体の見立てと打ち手に対する助言、地方事務局としての報告様式（フォローシート）記入・報告、ステークホルダーミーティングへの参加、制度設計への助言 等

㊧中間共有会の開催（講師2名、1回程度、2日）

㊨GEOCが主催する会議等への参加

- ・キックオフミーティング（1回、1日、オンライン開催）
- ・中間支援ギャザリング（1回、2日、都内）
- ・中間支援体制の強化等の検討に向けた作業部会（2回、3時間、都内）
- ・事業検討会議（2回、3時間、オンライン）

㊩参加団体の採択のための審査委員会（別途開催）運営にかかる協力

ii) 地域循環共生圏構築に向けた身近な自然資本の活用に関する意見交換会等の開催

- ・意見交換会の開催（講師2名、2回、30名）

iii) 地域循環共生圏づくりのための関係性の構築

- ・地域循環共生圏創造の担い手の情報収集、情報提供、関係性構築

(6) 地方ESD活動支援センター業務

i) 域内外の多様な主体の連携促進、交流の機会の提供（「ESD for 2030 学び合いプロジェクト」の企画・運営）

㊦活動計画の作成

㊧ノウハウの共有と推進に関する方策の検討

- ・作業部会への参加（都内、2回、2時間、2名）

㊨学び合いの実施（勉強会・意見交換会、ワークショップ等の実施）

- ・「学び合いの場」（2回、半日）
- ・「専門家有識者による検討会」（3回、半日）、「現場から学ぶ ESD 学びの場づくりワークブック」の活用方法を取りまとめた冊子、動画の作成・公表・配布

㊩実践活動（有識者2名、半日、30名）

㊪ESD推進ネットワーク全国フォーラムにて活動結果を報告（都内、1回、1日、2名）

㊫事務手続き

ii) 学校における気候変動教育のプログラムの実証事業

- ・ヒアリング等実施（2校）
- ・「教職員等環境教育・ESD推進リーダー養成研修」参加（1回、1名）
- ・全国センター実証事業への立ち会い（1回、2名）
- ・プログラム調整・実施に係るオンライン会議に参加（1時間、2回、2名）

iii) ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催

- ・フォーラム開催（1回、半日、30名）
- ・ポスター（電子媒体及び紙媒体）の制作、主たるステークホルダーへの送付

iv) 自然資本等の活用によるESD促進（「自然資産を活かした地域・人づくり ESD ダイアログ」開催）（大学教授級5名、1回、2日、30名）

v) SDGs 学生サミットの開催（大学教授級2名、1回、半日、オンライン100名、会場10名）

vi) 地域ESD拠点等のESD活動の支援

- ・共催・後援、助言・関係者の紹介、周知協力、情報発信や調整、地域ESD拠点の登録手続

- vii) 全国センターとの連携協力の推進等
    - ・ ESD 活動支援センター（全国・地方）連絡会（2回）へ出席
    - ・ 全国協力団体意見交換会（2回）、企画運営委員会（2回）に参加
  - viii) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化
    - ⑦ 専門家への包括的ヒアリング（2時間、1回以上、大学教授級以上1名）
    - ⑧ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング（2時間、1回、2名）
    - ⑨ 経営者等を対象にしたヒアリング（2時間、1回、2名）
- (7) EPO/ESD の行事を通じた意識や行動の変容の把握
- ・ 代表的な行事後等に関係コアメンバーへ簡易的ヒアリング（電話、メール等）（6事例）
- (8) 関係主体との連携及び協働に関する業務
- i) 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用及び連携の確保・強化（会合等への参加）
  - ii) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換
    - ・ 事務所担当官との定期的な打合せ（月1回以上）、行事出席者アンケート結果の説明
    - ・ 日々の業務について毎月、取りまとめて提出
  - iii) 中部地方環境事務所が開催する会議（外部評価委員会）に出席、資料作成等（1回、半日、3名）
  - iv) 白書を読む会の企画・運営支援（大学教授級1名、1回、3時間、会場50名、オンライン100名）
  - v) 全国ユース環境活動発表大会に参加（中部大会1回、半日、1名以上）、審査委員選定の協力、大会参加活動団体のホームページ等発信
- (9) 外部資金を活用した事業
- (10) 成果物の提出
- ・ 四半期報告書
  - ・ 年間報告書
  - ・ 年間報告書の概要版

(エ) 業務の実施概要 (2026年3月18日時点)

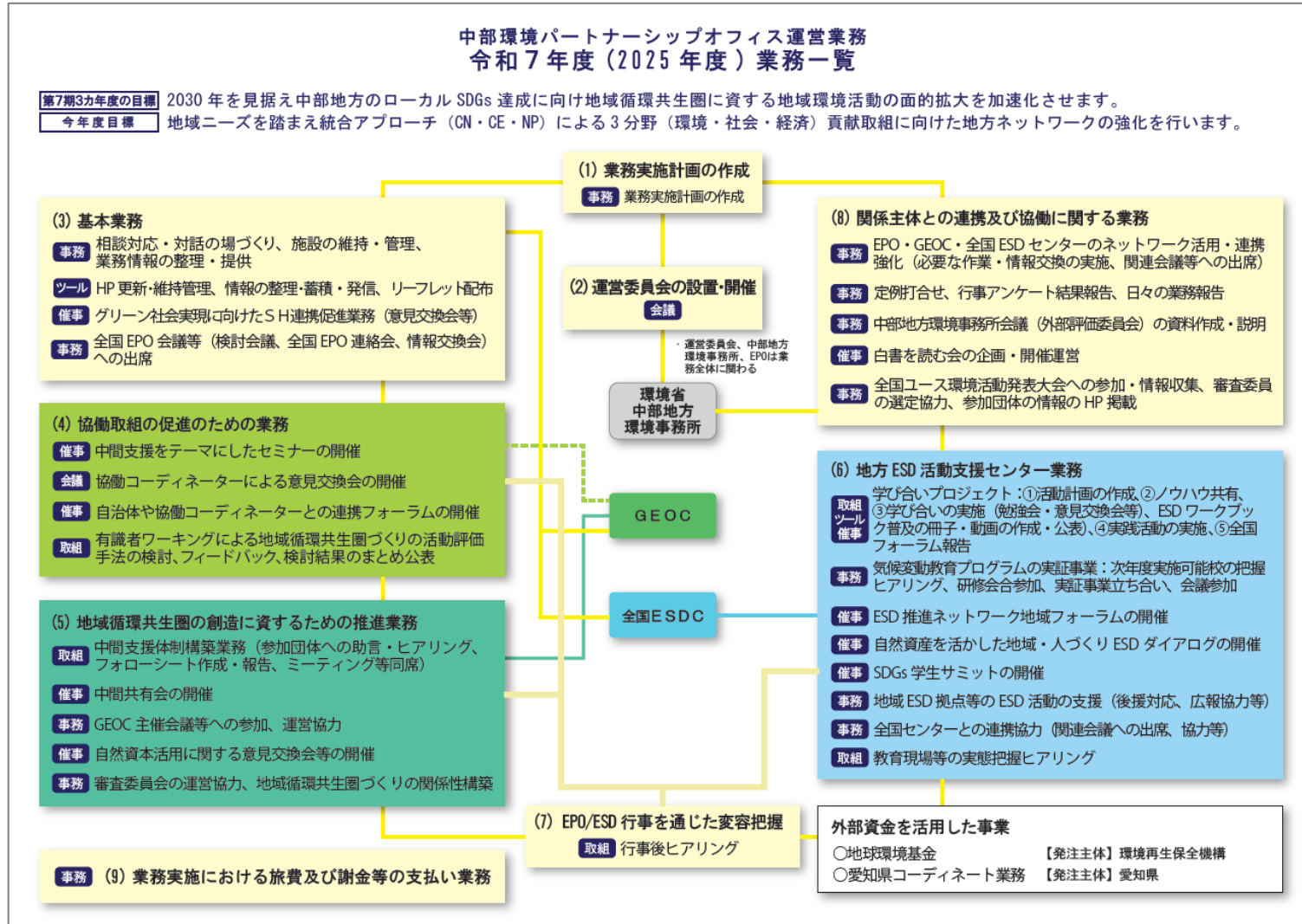
仕様書業務項目	業務内容	実施・開催等の進行状況			
1 業務実施計画の作成	令和7年度業務実施計画案、達成目標の作成	作成済み	→第1回運営委員会に諮問 →ウェブサイト掲載		
2 運営委員会の設置・開催	EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会の設置・開催【2回】	第1回：5/26開催→議事録公開	第2回：2/19開催→議事録公開		
3 基本業務	3-1 ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	月2回以上更新	アクセス数(PV数)：EPO:31,857件/ESD:9,019件		
	3-2 収集した情報の整理・蓄積・発信	毎月1回メルマガ発行(メルマガ：計12回配信、記事：計652掲載)			
	3-3 リーフレットの配布	前年度からの在庫50部	増刷・計800部	今年度一年間で約700部を配布	
	3-4 相談対応、対話の場づくり(交流・マッチングの場づくり、フォロー、資料等の閲覧対応、ESD関連支援・普及等)	適宜実施	相談対応44事例/照会・相談対応等の延べ件数213件/電話・メール対応135件/講師招聘19件/業務打合せ117件		
	3-5 グリーン社会実現に向けたSH連携促進業務：座談会・フォーラム等主催【4回(半日)】、他団体主催勉強会等参加・協力【2回(半日)】	①ヒアリング6件実施、②まちなか会合11/27実施、③里山会合12/15実施、④共進化フォーラム3/3実施		他主催参加：①北陸JICA研修10/24、②飯田市デジタル推進WS11/21、28、12/12	
	3-6 全国GEOC主催会議に出席：検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回】、情報交換会【1回】	検討会議：12/11出席	全国連絡会：①6/12-13出席、②11/4-5出席、③1/15-16出席	情報交換会：9/30出席	
	3-7 施設の維持管理	月次報告書の提出等適宜実施	来館利用件数：77件/来館者数：139人 業務実施日数：計244日		
	3-8 得られた情報やネットワークの整理・提供	適宜実施			
4 協働取組の促進のための業務	4-1 中間支援をテーマにしたセミナー【1回(半日)】	地域循環共生圏づくり支援セミナー2025を12/5実施		⇒まとめ冊子作成→公開	
	4-2 地域主体との連携によるフォーラム【2回(半日)】	①上市フォーラム12/6実施	②ローカルSDGs実践事例集の録画撮り3/11→公開		
	4-3 協働コーディネーターによる意見交換会【1回(半日)】	協働コーディネーター意見交換会を9/3に実施			
	4-4-1 有識者ワーキングGによる活動評価手法の検討【3回(半日)】	第1回ワーキング：6/2実施	第2回ワーキング：7/23実施	第3回ワーキング：12/4実施	
	4-4-2 検討結果のフィードバック、成果まとめの作成・公表	フィードバック：SDGs学生サミット紹介2事例を対象に実施		成果まとめ：4-1セミナーまとめ冊子として作成・公開	
5 地域循環共生圏の創造推進業務	5-1 中間支援体制構築業務：参加団体への助言、四半期フォローシート記入・報告、着手時打合せ、ミーティング同席 等	実施計画書打合せ：丹南5/14、長野4/30、半田5/13実施	フォローシート①：4月、②8月、③11月、④3月：提出済み	SHミーティング：長野1/18、半田1/31、丹南2/27実施	
	5-2 中間共有会【1回(2日)】	事業参加団体地域の一つ、愛知県半田市で11/13-14に実施			
	5-3 GEOC主催会議等出席：キックオフM【1回】、中間支援ギャザリング【1回】、作業部会【2回】、事業検討会議【2回】	キックオフM：5/29出席 中間支援ギャザリング：3/5-6出席	作業部会①7/18出席、②12/18出席	事業検討会議①5/15出席、②12/11出席	
	5-4 審査委員会への運営協力	12/25実施の継続審査委員会に資料提供等で協力、当日はオンラインで傍聴			
	5-5 身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回(半日)】	①AICHIEXPユースフェア10/3-4に出席	②2/23に子ども向け白山イベント「はくさん大発見」を開催		
	5-6 地域循環共生圏創造の担い手への情報提供、つながり維持の関係構築	適宜実施			

仕様書業務項目	業務内容		実施・開催等の進行状況		
6 中部地方 ESD活動 支援セン ター運営 業務	6-1-1	学び合いP:⑦活動計画の作成、①ノウハウ共有(作業部会出席【2回】)、④全国フォーラムで報告【1回】	⑦活動計画を作成→有識者検討会で協議して確定	④作業部会:①7/9出席、②2/25出席	④全国フォーラム報告:12/7出展・参加
	6-1-2	学び合いP:⑨-1学び合いの場【2回】、⑩実践活動	⑨-1学び合い①:7/18実施、学び合い②:8/29実施	⑩実践セミナー:11/25-26実施	
	6-1-3	学び合いP:⑨-2有識者検討会【3回】、ワークブック普及冊子・動画の作成・公表・配布	⑨-2有識者検討会…第1回会議:6/2実施、第2回会議:7/23実施、第3回会議:12/4実施		冊子・動画:作成→WEBに公開
	6-2	気候変動教育プログラム実証事業:⑦R8年度実施可能校把握ヒアリング【2校】、④研修参加【1回】、②全国C事業立ち合い【1回】、⑤関連会議出席【2回】	⑦ヒアリング:①桜台高校7/22、②斐太高校8/1+6-8(とりまとめ中)、④環境教育リーダー研修(名古屋)7/31参加、⑤全国C事業立ち合い:10/1京都先端科学大学附属高校の授業(Web参加)、10/27東京立正高校の授業(Web参加)		⑤関連会議:ガイドライン作成検討会議:①10/14、②2/16
	6-3	ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(半日)】、ポスター作成	9/29にハイブリッド方式で地域ESD拠点登録団体の会合として実施/ポスター・開催案内チラシを作成して地域ESD拠点登録団体へ提供		
	6-4	自然資源を活用した地域・人づくりESDダイアログ【1回(2日)】	10/17-18に三重県尾鷲市で南紀エリアの教育関係者が事例・取組発表等を行う会合を実施		
	6-5	SDGs学生サミット【1回(半日)】	SDGs活動に取り組む3大学・3高校の学生チーム、事業者・活動主体3団体が登壇する会合を2/7開催		
	6-6	地域ESD拠点等の活動支援	適宜実施		
	6-7	全国センター会議への出席・連携協力:連絡会【2回】、協力団体意見交換会【2回】、活動状況調査等への協力	連絡会…①6/13出席、②1/16出席	意見交換会…①7/8出席、②:12/7兼全国フォーラム出席	企画運営委員会…①6/9出席、②2/25出席
6-8	教育現場の実態把握と連携強化:専門家【1名(2時間)】/教育関係者【2名(各2時間)】/中小企業経営者【2名(各2時間)】	専門家:名古屋市立大学松村氏5/21実施	教育関係者:①愛知県立愛知商業高校10/20実施、中部大学第一高等学校10/21実施	中小企業:①(株)鈴六8/26実施、②NPOアスクネット9/24実施	
7	行動変容の把握:主催行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】		①JICA研修生の日報、②学び合い参加者からの報告、③上市フォーラム協力者、④ESDダイアログ:尾鷲市、⑤学び合いP(坂井市)関係者、⑥実践セミナー関係者を対象に実施		
8 関係主体 との連携 及び協働 に関する 業務	8-1	EPO・GEOC・ESDセンターのネットワーク活用及び連携の確保・強化のための会合出席	共生圏事業中間支援座談会…5/29第1回、7/20地球環境基金とEPO顔合わせミーティングなどに出席		
	8-2	事務所担当官との定期的な打合せ、日々の業務を毎月報告	月1回以上の打合せ実施 定例打合せは計12回実施		
	8-3	事務所開催会議(外部評価委員会等)の資料作成・説明【1回(半日)】	外部評価委員会3/2出席	自己評価シート、業務報告書の作成・提出	
	8-4	白書を読む会の企画、会場運営支援【1回(3時間)】	10/22開催・白書を読む会を企画・広報展開・運営を実施		
	8-5	全国ユース中部大会に参加【1回(半日)】、審査委員の選定、活動団体情報のWEB掲載	中部大会11/29に参加	審査委員の選定:浅野智恵美氏(環境カウンセラー)を推薦	出場校リストのwebに掲載
9	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務		適宜実施		
10	外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネーター業務		地域課題解決戦略検討業務:研修会:7/29出席、調査等:11/11実施⇒報告書:2/20提出	相談10件、コーディネーター5件実施	
成果物の提出:第1～3四半期報告書、年間報告書(及び概要版)		四半期報告書を①7/18、②10/17、③1/23にそれぞれ納品	年間報告書:3/31納品		

# 1 業務実施計画の作成

## (ア) 作成した令和7年度業務実施計画

### ①業務概要



## ②業務スケジュール（2025年5月の立案時点案）

### 2025年度業務スケジュール案

仕様業務項目	業務内容	主担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	業務実施計画の作成	原、富田	作成	運営委員会への提出	修正	公開								
2	運営委員会の設置・開催	富田	資料作成、開催準備・調整	運営委員会1開催	開催結果とりまとめ	公開					資料作成、開催準備・調整	運営委員会2開催	開催結果とりまとめ→公開	
3	3-1	ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	富田、小松	月2回以上の更新を適宜実施										
	3-2	収集した情報の整理・蓄積・発信	小松	情報収集、メルマガ配信などを適宜実施										
	3-3	リーフレットの配布	富田	イベント等で配布、必要に応じて増刷										
	3-4	相談対応、対話の場づくり(交流・マッチングの場づくり、フォロー、資料等の閲覧対応、ESD関連支援・普及等)	原、富田、小松	適宜実施										
	3-5	グリーン社会実現に向けたSD連携促進業務: 座談会・フォーラム等主催【4回(半日)】、他団体主催勉強会等参加・協力【2回(半日)】	清本、原、富田	関係主体との調整	運営委員会に諮る	企画・準備	座談会1	座談会2	勉強会等参加・協力	座談会3	勉強会等参加・協力	フォーラム		
	3-6	全国GEOC主催会議に出席: 検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回】、情報交換会【1回】	清本、富田	適宜出席										
	3-7	施設の維持管理	富田、小松	適宜実施										
	3-8	得られた情報やネットワークの整理・提供	富田、小松	適宜実施										
4	4-1	中間支援をテーマにしたセミナー【1回(半日)】	富田	各連携主体にヒアリング↓企画案等を作成 → 関係地域・団体との調整、企画・準備・広報 → セミナー開催										
	4-2	地域主体との連携によるフォーラム【2回(半日)】	富田	連携する協働コーディネーターとの調整、企画・準備・広報 → フォーラム1開催 → 調整、企画・準備・広報 → フォーラム2開催										
	4-3	協働コーディネーターによる意見交換会【1回(半日)】	富田	運営委員会に諮る → 関係者調整 → 意見交換会 → バック → バック → 運営委員会に報告										
	4-4-1	有識者ワーキングGによる活動評価手法の検討【3回(半日)】	原	関係者調整、企画立案 → WKG1実施 → 参考 → WKG2実施 → バック → フィードバック資料作成 → WKG3実施 → バック → 成果まとめ作成										
	4-4-2	検討結果のフィードバック、成果まとめの作成・公表	原	関係者調整、企画立案 → WKG1実施 → 評価手法検討 → WKG2実施 → バック → フィードバック資料作成 → WKG3実施 → 成果まとめ作成 → WEBへの公開										
5	5-1	中間支援体制構築業務: 参加団体への助言、四半期フォローシート記入・報告、着手時打合せ、ミーティング出席等	富田	打合せ実施	各団体を適宜支援	フォローシート作成・提出	フォローシート作成・提出	フォローシート作成・提出	次年度展開の打合せ	フォローシート作成・提出				
	5-2	中間共有会【1回(2日)】	富田	日程調整 → 実施場所等を関係者と調整 → 企画 → 準備 → 中部中間共有会										
	5-3	GEOC主催会議等出席、キックオフM【1回】、中間支援ギャザリング【1回】、作業部会【2回】、事業検討会議【2回】	富田	適宜参加										
	5-4	審査委員会への運営協力	富田	ヒアリング → 審査委員会出席										
	5-5	身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回(半日)】	清本、原、富田	中部事務所との調整	運営委員会に諮る	関係者との協議・調整	企画案作成	準備	意見交換会等1	準備	意見交換会等2			
	5-6	地域循環共生圏創造の担い手への情報提供、つながり維持の関係構築	富田	適宜実施										

全業務の実施結果のとりまとめ/年間報告書の提出

### 2025年度業務スケジュール案

仕様業務項目	業務内容	担当	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
6 中部地方 ESD活動 支援セン ター運営 業務	6-1-1	原	企画案作成			活動計画 作成	有識者検討 会で検討	作業部会に 適宜出席						
	6-1-2	原	関係者との 調整				準備・広報	学び合い 1-2		実践活動		全国フォー ラムで報告		
	6-1-3	原	関係者との 調整				有識者検 討会1	有識者検 討会2	冊子・動画の 作成	有識者検 討会3		冊子・動画の 公表・配布		
	6-2	原	関係者との調整				ヒアリング 先の検討	ヒアリング 実施		研修参加、 事業立ち 合い、関 連会議出 席を適宜 実施				
	6-3	原	企画案作成				関係者との 調整・準備 広報(ポス ター等作 製・配布)		フォーラム 開催					
	6-4	原	企画案作成		運営委員 会に諮る		関係者との 調整・準備 ・広報			ESDダイ アログ 開催			運営委員 会に報告	
	6-5	原	企画案作成				関係機関 との調整		登壇学生 チームの 募集	準備・広 報		学生サミ ット 開催		
	6-6	小松	適宜対応											
	6-7	原	適宜出席・ 協力											
6-8	原							業務関係 者の専門 家・教育 関係者・ 中小企業 等への ヒアリン グ実施			とりまと め			
7	行動変容の把握:主催行事参加者へのヒアリング(3月中旬までに)【6事例】	原、富田									業務の連 携・協力 者6団体 へのヒア リング、 結果と りまとめ			
8 関係主体 との連携 及び協働 に関する 業務	8-1	清本、原、 富田	適宜出席											
	8-2	清本、原、 富田、小松	適宜実施(月1回以上の打合せ、月次報告)											
	8-3	清本、原、 富田								資料作成 等の対応			外部評価 委員会	
	8-4	富田				関係者 との調 整、 協力事 項確認	会場運 営準備 等	白書を読 む会 開催						
	8-5	清本、小松						審査委員 の推薦			中部大会 に参 加		参加団体 のWEB掲 載	
9	業務実施における旅費及び謝金等の支払い業務	小松、小栗	適宜実施											
10	外部資金を活用した事業:地球環境基金/愛知県環境学習コーディネート業務	清本、小松、小栗、服部	環境再生保全機構、愛知県環境学習プラザと連携して適宜実施											
	成果物の提出:第1~3四半期報告書、年間報告書(及び概要版)	富田				第1四半 期報告 書提出			第2四半 期報告 書提出			第3四半 期報告 書提出		年間報告 書提出

### ③定量的な達成目標（インプット・アウトプット）の設定

EPO中部令和7年度事業アウトプット目標一覧										
任務実施項目	業務内容(イベント・オンライン活用・併用)	担当	外部関係者との役割	インプット(仕訳書・計画書)		アウトプット(指標)		アウトカム(予想される成果)	備考	
				報章、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、配付	発信システム・知見など			
1	事業実施計画の作成	吉田	・外部関係者、必要に応じて助言	・令和7年度事業実施計画書の作成 ・アウトプット、アウトカム目標、指標の検討	・令和7年度事業実施計画書の作成 ・令和7年度アウトプット・アウトカム目標一覧表	・会議資料、議事録	・参加者(数)、対象者(数)など	・アウトカム指標(アウトプット詳細)に照らし、 ・報告書、運営委員会等関係者による前年度EPO中部ESDC計画ととの内容の十分な照合 ・各指標による評価の集約と整理による、担当、運営委員会等の把握	・令和7年度事業実施計画として、事業推進の内容の見える化 ・それぞれの業務についてのアウトプット、アウトカム詳細可能性確保	
2	運営会議	吉田	・外部関係者、運営委員として積極参加、助言	・ESD/EPO中部運営会議(2回)	・8名以上の運営委員(6-3組織編)で構成 ・年1回以上、委員の情報(役職、所属)に変更がないか確認 ・運営委員に業務参加を促すための進捗状況報告を適宜提供 ・HPの更新	・会議資料、議事録	・各回7名以上の参加	・業務に活用された運営委員による有用な意見(議事録) ・業務に運営委員の積極的な参加を促した知見(業務記録)	・令和7年度事業推進計画として、事業推進の内容の見える化 ・それぞれの業務についてのアウトプット、アウトカム詳細可能性確保	
3	3-1	ホームページ(EPO/ESD)の更新・維持管理	吉田、小松	・専門業者、依頼(管理代行含む)	・ホームページの更新(月2回以上)	・HPのページ更新(月2回以上)	・ページビュー数(昨年年度水準以上)	・更新されたHPに対するご意見(運営委員会委員ご意見など)	・HPによるEPO中部ESDCの認知の拡大と好感度の向上	
	3-2	収集した情報の発信・蓄積・発信	小松		・メールマガジンの作成・発行 ・SNSによる情報発信	・メールマガジン(月1回以上) ・SNS更新	・情報発信回数(昨年年度水準以上)	・情報発信回数の増加、拡大 ・SNSによるご意見(運営委員会委員ご意見など)	・EPO中部ESDCの認知の維持、拡大 ・好感度の向上、継続情報利用の促進	
	3-3	リーフレットの配布	吉田	・印刷・外注(必用に応じて)	・リーフレットの配布(印刷は必要に応じて)	・リーフレット(必用に応じて) ・複製用A4フルカラー必要部	・配布数(昨年年度水準以上)	・配布数の増加、リーフレットに対するご意見(運営委員会委員ご意見など)	・リーフレットによるEPO中部ESDCの認知の拡大と好感度の向上	
	3-4	懇話会、対話の場づくり(交流、マッチングの場づくり、フォロー、資料等の閲覧対話、ESD関連支援・普及等)	原、吉田、小松	・外部の様々な活動団体:活動等参加先	・懇話会・対話と助言、実施内容の記録 ・各協議会や地域活動等への参加と情報収集、マッチング支援や助言 ・ニーズに応じた講師等派遣 ・(他団体主体の)懇話会、委員会、検討会、会議等への参加	・懇話会、対話、支援等の参加記録 ・情報収集、マッチング支援や助言 ・講師派遣回数 ・(他団体主体の)懇話会、委員会、検討会、会議等の開催回数	・紹介・相談件数 ・資料取寄せ、参加件数 ・講師派遣回数 ・情報収集回数、対象人数 ・懇話会、委員会、検討会、会議等の開催回数	・紹介件数の増加、助言に対する有用な意見 ・資料取寄せ、参加件数の増加 ・講師派遣回数、対象人数の増加 ・懇話会、委員会、検討会、会議等の開催回数	・紹介・対話による連携促進活動等への貢献 ・収集した情報の集約、連携・協働体制の構築、ノウハウの蓄積の促進 ・連携の促進、委員会、検討会、会議等の開催回数、関係者への	
	3-5	グリーン社会実現に向けたSD連携促進業務、懇話会・フォーラム等主催(4回【平日】)、他団体主催勉強会等参加【協力】(2回【平日】)	清水、原、吉田	・各県地方都市部、経済団体、自治体、金融機関等 ・有識者、活動団体、企業、ユースなど ・名簿による連絡先(東海地域、北陸地域、長野県内各1回設定) ・有識者、活動団体、企業、ユースなど ・名簿を基に公開フォーラム1回(平日開催、30名程度) ・併催し他団体等が主催する勉強会等への参加、協力は同程度、平日開催、2名程度	・情報交換会やワーキング等の開催のための支援及び関係者業務、関係者との関係、情報の収集、当日の運営(会場の手配等)、講師への誘致・謝意の表达など ・有識者、活動団体、企業、ユースなど ・名簿による連絡先(東海地域、北陸地域、長野県内各1回設定) ・有識者、活動団体、企業、ユースなど ・名簿を基に公開フォーラム1回(平日開催、30名程度) ・併催し他団体等が主催する勉強会等への参加、協力は同程度、平日開催、2名程度	・座談会開催記録(3回) ・フォーラム開催記録(1回)	・共通化に関する議論の知見 ・座談会参加者数6名程度(3回) ・フォーラム参加者30名程度(1回) ・他団体主催勉強会参加、協力1名程度(2回)	・地域連携員生業に資する共通化に関する知見の集約、人的交流実績	・地域連携員生業の創造促進のための情報の共有、ネットワークの形成	
	3-6	全国GEOC主催会議に出席、検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回】、情報交換会【1回】	清水、吉田		・GEOC主催会議、検討会議【1回】、全国EPO連絡会【3回】、NW強化ミーティング【1回】に参加		・EPOネットワーク、全国情報交換の機会	・各会合への職員参加	・EPO中部に反映させるべき知見	・GEOC、EPOネットワークや協働関係の把握
	3-7	施設の維持管理	吉田、小松		・日常管理	・業務日報等の文書	・良好な施設設備の維持	・良好な施設設備の維持		
	3-8	集められた情報やネットワークの整理・提供	吉田、小松			・実態把握シート(活用でき、上記3-1-3-7で集められた情報やネットワークについての整理)	・良好な施設設備の維持	・良好な施設設備の維持		
4	4-1	中間支援をテーマにしたセミナー【1回(平日)】	吉田	・中間支援組織関係者、地域関係者による連携や中間支援推進活動	・勉強会(1回、3時間、30名程度)	・開催記録	・参加者30名程度	・参加者の意見(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加、きっかけとしての行動	
	4-2	地域主体との連携によるフォーラム【2回(平日)】	吉田	・協働コーディネーター、地域関係者との連携	・実践的勉強会(2回程度、平日開催、30名程度)	・開催記録	・参加者各30名程度 ・中間支援団体等との連携促進実績	・参加者の意見(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意識向上、認知の拡大、知見の増加	
	4-3	協働コーディネーターによる意見交換会【1回(平日)】	吉田	・協働コーディネーターの参加、積極的紹介	・情報・意見交換会(1回、2時間程度、30名程度、状況に応じてオンライン開催可)	・開催記録	・参加者各10名程度	・参加者の意見、意見(アンケート)	・意見交換による情報共有と動機づけによる活動推進の向上	
	4-4	実践者ワーキングGによる活動推進手法の検討【2回(平日)】	原	・関係する有識者等による検討	・有識者によるワーキング2回	・開催記録	・各会合有識者3名の参加	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用の実績	
4-5	検討結果のフィードバック、成果表のための作成・公表	原	・中間支援団体、活動団体、関係者、GEOC	・必要に応じて中間支援団体が活動団体に対して行う支援の場への出席、活動団体が開催するワークショップやミーティングへの参加など	・中間支援団体(1回、3時間、30名程度) ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼 ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・各会合有識者3名の参加	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・中間支援団体の活動団体への支援能力の向上と活動ネットワークの拡大 ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用の実績	
5	5-1	中間支援体制構築業務、参加団体への助言、半年別フォローシート記入・報告、様子確認等、ミーティング開催等	吉田	・必要に応じて中間支援団体が活動団体に対して行う支援の場への出席、活動団体が開催するワークショップやミーティングへの参加など	・中間支援団体(1回、3時間、30名程度) ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼 ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・各会合有識者3名の参加	・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用実績に関する専門業者への依頼	・中間支援団体の活動団体への支援能力の向上と活動ネットワークの拡大 ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用の実績	
	5-2	中間共有会【1回(2日)】	吉田	・中間支援団体、活動団体、関係者、全国支援事務局、GEOC	・中間共有会(1回程度、2日開催)	・中間共有会開催記録	・各団体代表、関係者での情報共有	・関係3中間支援団体、活動団体、関係者の参加	・各団体の構成員、担当、専門業者の関係者のご意見や感想 ・EPO担当職員、関係者の意見、感想を含む対象中間支援団体、活動団体の取組詳細	・中間支援団体の活動団体への支援能力の向上と活動ネットワークの拡大 ・地域SDGx評価メニュー、プログラム等の活用の実績

EPO中部令和7年度事業アウトプット目標等一覧

仕舞事業項目	業務内容(イベント:オンライン活用・併用)	担当	外部関係者との役割	インプット(仕様書、計画書)		アウトプット(指標)		備考
				提案、情報発信	調査、研究、作成、支援	コンテンツ等、情報の発信、記録	アウトカム(指標・知見など)	
5-3	GEOC主催会種等出席、キックオフ【1回】、中間支援カンファリング【1回】、作業部会【2回】、事業検討会議【2回】	真田	・中間支援団体、活動団体、関係者、GEOC	・キックオフミーティング(オンライン)を予定、1回、2日程度、5月開催を予定(注)、作業部会(部内予定、2日程度、1回)または3時間程度、部内、地方EPO等共有会(オンライン)を予定、1回、3時間程度、地域連携員生産づくり支援体制構築事業検討会議(オンライン)を予定、1回、3時間程度、成果共有会(部内)を予定、1回、2日程度、3月開催を	・調査、研究、作成、支援	・参加による情報共有 ・資料作成等文書と意見交換 ・新視座の提供	・参加者(数)、対象者(数)など ・各会合への職員参加 ・各団体の職員、担当者、専門家の関係者のご意見や感想 ・EPO担当職員、関係者の意見、感想を含む中間支援団体、活動団体の取組評価	・中間支援団体の活動体への支援力の向上と活動ネットワークの拡大 ・地域連携員生産の取組に対する中間支援方法とその効果についての知見の蓄積
	審査委員会への運営協力	真田	・審査委員会委員(有識者3名程度) ・新規応募団体、継続応募団体	・新視座の事前ヒアリング協力 ・継続審議委員参加(1名)	・新視座の提供	・新視座の提供	・次年度共生産づくり支援体制構築事業対象団体 ・地域連携員生産構築の促進	
	身近な自然資本の活用に関する意見交換会【2回(平日)】	清水、原、真田	・地域の自治体、企業、金融機関	・身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会の実施(2回を想定、各半日程度、各30名程度)	・身近な自然資本を活用した地域づくりに関する意見交換会開催記録	・参加者3名程度(2回) ・参加費30名程度(2回)	・参加者の意図、ご意見や感想(アンケート、ヒヤリング)	・自然資本を基盤とした地域づくりに関するパートナーシップの促進
	地域連携員生産創造の担い手への情報提供、つながり維持の関係構築	真田	・5-1-1-5の関係者	・地域連携員生産創造の担い手、育成での地域連携員生産に関する情報提供の必要性を維持しつづける	・地域連携員生産創造の担い手、育成情報及び活動状況について情報収集の必要性を維持しつづける	・地域連携員生産創造の担い手、育成情報及び活動状況についての情報、つながりを持ち続けるための関係性の構築	・地域連携員生産創造の担い手、育成情報及び活動状況についての情報、つながりを持ち続けるための関係性の構築	・EPO中部の地域連携員生産活動に関する知見の増加
	学び合いVP:①活動計画の作成、②ノウハウ共有(作業部会出席【2回】)、③全国フォーラムで報告【1回】	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点	・全国センターが開催作業部会出席【2回】 ・全国フォーラム結果報告【1回】	・活動計画の作成	・活動計画書 ・全国フォーラム参加記録		・ESDネットワークにおける中部ESDの活動の積極共有と情報の促進
学び合いVP:③-1学び合いの場【2回】、④実践活動	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター、地域ESD拠点、地域ESD拠点等、ESD活動推進センター等	・学び合いの場【2回】 ・実践活動【1回】開催	・学び合いの場【2回】開催記録 ・実践活動【1回】開催記録	・学び合いの場【2回】のべ15名 ・SDGs社会参画WG【3回】有識者2名事務員4名 ・実践活動【1回】30名	・参加者の意図(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・ワークショップの活用によるローカルのSDGsのためのESDの社会実装への貢献	
学び合いVP:②-2有識者検討会【1回】、ワークショップ及び母子・動画の作成・公表・配布	原	・有識者による検討	・有識者による検討会【1回】	・ワークショップ活用のための観覧、情報収集 ・ワークショップ活用方法の検討	・有識者による検討会開催記録 ・ワークショップ活用方法の取組まとめと動画 ・ヒアリング結果(2枚)	・関連する事例、知見 ・各会合有識者3名の参加	・検討内容についての運営委員など関係者のご意見 ・ワークショップの活用による社会ESDの促進	
異業種交流プログラムの実証事業、R8年度実施可能校の把握ヒアリング【2校】、研修参加【1回】、全国事業立ち上げ【1回】、関連会議出席【1回】	原	・異業種交流プログラムに関する関係者	・「異業種交流プログラム」に関する関係者とのヒアリング等による関係者の把握	・「異業種交流プログラム」に関する関係者の把握	・企業と関係者とのヒアリング等によるニーズ把握(2枚程度)	・R8年度事業実施に向けた準備	・ワークショップの活用によるローカルのSDGsのためのESDの社会実装への貢献	
ESD推進ネットワーク地域フォーラムの開催【1回(平日)】、ポスター作成	原	・地域ESD拠点、ESD関係者	・ESD推進ネットワーク地域フォーラム開催【1回、平日程度、30名程度】	・開催報告ポスター ・地域フォーラム開催記録	・ESD拠点、関係者等(30人程度)	・ESD拠点関係者の意見や感想(アンケート等)	・地域におけるESD活動の積極共有と情報の促進	
自然資源を活用した地域・人づくりESDアイデアログ【1回(2日)】	原	・SDGs、ESDに詳しい専門家、SDGs意思のある教育関係者、教育関係者、関係者の意見、関係者による講演、意見提供、質疑、ディスカッション	・「自然資源を活用した地域・人づくりESDアイデアログ」の開催【1回、2日、30人程度】	・アイデアログ開催記録	・参加者30名程度 ・有識者3名程度	・参加者の意図(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意図向上、認知の拡大、知見の増加	
SDGs学生サミット【1回(平日)】	原	・中部地方の大学研究、高校、地方自治体、NPO等 ・有識者によるファシリテーター、観覧	・ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム中部学生サミット【1回(平日)ノオンライン】	・活動分析へのSDGsチェックリストの概念活用	・会場参加10名程度 ・サミット参加、オンライン観覧100名程度 ・自治体、企業等参加3件程度 ・有識者2名程度	・参加者の意図(アンケート)、ご意見や感想(ヒヤリング、アンケート)	・参加した関係者の意図向上、認知の拡大、知見の増加	
地域ESD拠点等の活動支援	小松	・地域ESD拠点関係者	・ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会(部内予定、2回、各1日、各2名程度)参加 ・全国協力関係意見交換会(2回、半日程度、各2名程度)及び全国運営委員会(2回、2時間程度、2名程度)オンライン等参加	・地域ESD拠点情報交流、ESD拠点登録支援	・関係する情報、資料 ・継続の結果としての知見	・ESD拠点関係者の意見や感想(ヒヤリング)	・中部地方のESDネットワークの拡大	
全国センター主催への出席、連携協力:連絡会【2回】、協力関係意見交換会【2回】、活動状況調査等への協力	原	・全国ESD活動支援センター、地域ESD活動支援センター	・ESD活動支援センター(全国・地方)連絡会(部内予定、2回、各1日、各2名程度)参加 ・全国協力関係意見交換会(2回、半日程度、各2名程度)及び全国運営委員会(2回、2時間程度、2名程度)オンライン等参加	・ESDの考え方をベースに、「地域連携員生産」の人づくりのための実践支援を目的として活用 ・活動状況調査等に対する情報・資料の提供等の協力対応	・関係する情報、資料 ・継続の結果としての知見	・ESD拠点関係者の意見や感想(ヒヤリング)	・ESD全国センター等ネットワークとの連携	
教育現場の実践研修と連携強化:専門家【1名(2時間)】/教育関係者【2名(各2時間)】/中小企業経営者【2名(各2時間)】	原	・SDGs、ESDに詳しい専門家 ・SDGs意思のある教育関係者、教育関係者、関係者の意見、関係者による講演、意見提供、質疑、ディスカッション	・専門家への包括的ヒアリング(オンライン、2時間程度、1回、大学教授1名専任オンライン) ・教育関係者へのヒアリング(オンライン、2時間程度、2回程度) ・経営者等へのヒアリング(オンライン、2時間程度、2回程度)	・ヒヤリング結果	・ヒヤリング対象の感想 ・運営委員等の外部評価	・有識者による意見の入手 ・ESD/SDGs専門領域との連携強化		
行動実習の把握、主催行事参加等へのヒアリング【3月中旬まで】(【事業】)	原、真田	・4-6の関係者	・行動実習のためのコメンタリーに対する緊急的ヒアリング(電話、メール等)	・行動実習のためのコメンタリーに対する緊急的ヒアリング結果	・行動実習のためのコメンタリーに対する緊急的ヒアリング結果	・行動実習のためのコメンタリーに対する緊急的ヒアリング結果	・地域連携員生産構築行動など持続可能社会に貢献する行動実習	
6-1	EPO・GEOC・ESDセンターのネットワーク活用及び連携の構築・強化のための会合出席	清水、原、真田	・定期的打合せ(月1回以上)	・月次報告様式への記入作成	・様式記入の月次報告	・関係者の意見	・中部地方連携事務所との協働による円滑な運営	
	事務局担当者と定期的な打合せ、日々の意思交換と意見提供	清水、原、真田、小松	・外部評価委員会等での資料に関する説明(名古屋市内、1回程度、半日程度、3名程度)	・外部評価委員会等での資料に関する説明(名古屋市内、1回程度、半日程度、3名程度)	・外部評価委員会対応資料 ・令和7年度の達成状況の自己評価書	・関係者の意見、評価	・中部地方連携事務所との協働による円滑な運営	
	事務局関係会議(外部評価委員会等)の資料作成、説明【1回(平日)】	清水、原、真田	・外部評価委員会	・外部評価委員会等での資料に関する説明(名古屋市内、1回程度、半日程度、3名程度)	・外部評価委員会対応資料 ・令和7年度の達成状況の自己評価書	・関係者の意見	・EPO中部ESDに対する適正な評価 ・中部地方連携事務所との協働による円滑な運営	
	自費を課した企画、会場運営支援【1回(3時間)】	真田	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・関係者の意見	・中部地方連携事務所との協働による円滑な運営
	全国ユース大会に中部大会に参加【1回(平日)】、審査委員の選定、活動団体情報のWEB掲載	清水、小松	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・活動団体情報のWEB掲載	・関係者の意見	・中部地方連携事務所との協働による円滑な運営

## (イ) 業務実施計画の公表

- 作成した令和7年度業務実施計画案は、EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター運営委員会（第1回会議）に諮ったうえで、EPO 中部ウェブサイトに掲載、公開した。
- 中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイトについても、EPO 中部ウェブサイトへの直リンク見出し記事を掲載した。

### 【EPO 中部ウェブサイト】

各期事業計画と各年度の業務実施計画


今期・第7期（2024～2026年度）の計画


2025年度（令和7年度）業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
2024年度（令和6年度）業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
第7期3カ年度の事業計画	▶PDFファイルで閲覧

第6期（2021～2023年度）の計画


2023年度（令和5年度）業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
2022年度（令和4年度）業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
2021年度（令和3年度）業務実施計画	▶PDFファイルで閲覧
第6期3カ年度の事業計画	▶PDFファイルで閲覧

### 【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

 最新情報一覧

  
中部地方  
ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

2025.06.24 お知らせ  
**中部地方ESD活動支援センターの2025年度業務実施計画**  
2025年度（令和7年度）の当センター及びEPO中部の業務実施計画を掲載しました。  
（※ EPO中部ウェブサイトへリンク）

  
2025.06.23 イベント&ニュース  
**「きみも世界を変えられる!? 子どもSDGsセミナー ー未来のために今できることー」を開催**  
日時：2025年8月3日（日）13：30～15：30



## 2 EPO 中部・中部 ESD 支援センター運営委員会の設置・開催

### (ア) 運営委員について

- 令和7年度の「EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター運営委員会」を設置・開催するにあたり、次表の8名の委員に就任を依頼し、委嘱手続き等を行った。

#### 【委員名簿】委員：計8名

No.	分野等	地域	氏名	所属先・役職等
1	学識者／ESD	東海	伊藤 恭彦	名古屋市立大学理事・副学長
2	学識者／学校教育	北陸	加藤 隆弘	金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授 (北陸ESD推進コンソーシアム 事務局長)
3	学識者／地域整備計画	東海	加藤 義人	岐阜大学 客員教授 名古屋都市センター 特任アドバイザー
4	協働コーディネーター	北陸	堺 勇人	一般社団法人環境市民プラットフォームとやま (PEC とやま) 常務理事／事務局長
5	NPO／地域づくり	北陸	田辺 友也	NPO法人まちづくりスポットとやま 代表理事
6	自治体	東海	濱田一多朗	尾鷲市役所 商工観光課長
7	企業／環境学習	北陸	水上 聡子	アルマス・バイオコスモス研究所
8	学識者／自然生態系	信州	水谷 瑞希	信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授

### (イ) 第1回会議

#### ①日時

- 2025年5月28日(水) 13:00～16:00

#### ②開催方法

- オンライン会議 (Webex ミーティング)

#### ③出席者

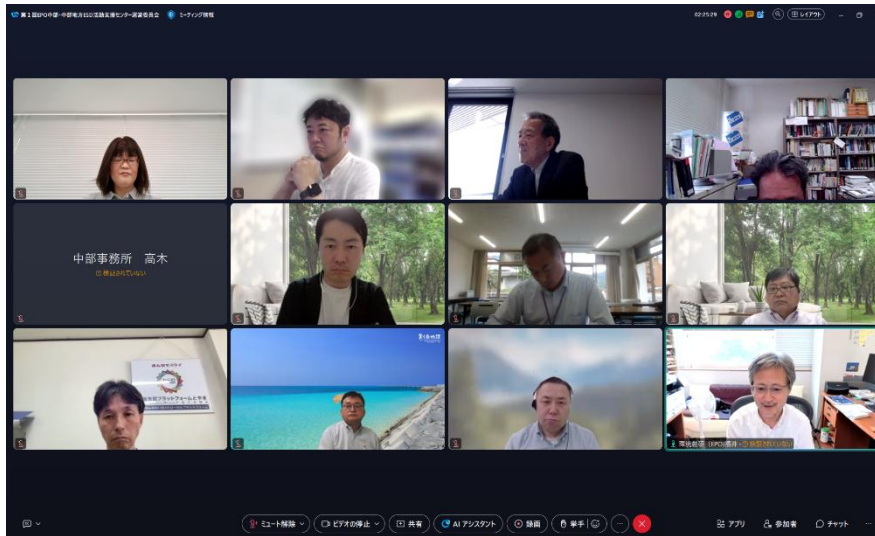
- 運営委員：7名 ※水上聡子委員 (アルマス・バイオコスモス研究所) が所用により欠席
- 中部地方環境事務所環境対策課：縄野課長補佐、高木里海づくり推進専門官
- 事務局 (EPO 中部)：福井理事長、清本、原、富田

#### ④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. 本委員会設置要領について／第2回運営委員会の日程調整
3. 令和7(2025)年度業務実施計画について
4. EPO 業務について
  - (1) EPO 業務事務局案の説明
  - (2) 意見交換
5. ESD 業務について
  - (1) ESD 業務事務局案の説明
  - (2) 意見交換
6. 閉会

## ⑤会議資料

資料1：EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター運営委員会設置要領  
資料2：令和7（2025）年度業務実施計画  
資料3：EPO 業務事務局説明資料  
資料4：ESD 業務事務局説明資料  
参考資料1：地域循環共生圏づくり支援セミナー2024 のまとめ冊子  
参考資料2：活動評価チェックリストの試行結果シート



## (ウ) 第2回会議

### ①日時

- 2026年2月19日（木）13：00～16：00

### ②開催方法

- オンライン（Webex ミーティング）

### ③出席者

- 運営委員：7名 ※濱田一多朗委員（尾鷲市役所 商工観光課長）が所用により欠席
- 環境省中部地方環境事務所環境対策課：縄野課長補佐 高木里海づくり推進専門官
- 事務局（EPO 中部）：福井理事長、清本、原、富田

### ④議事次第

1. ご挨拶 環境省中部地方環境事務所
2. EPO 業務について
  - (1) EPO 業務実施報告資料の説明
  - (2) 意見交換
3. ESD 業務について
  - (1) ESD 業務実施報告資料の説明
  - (2) 意見交換
4. その他
5. 閉会

## ⑤会議資料

資料1：EPO 業務実施報告 事務局説明資料  
資料2：ESD 業務実施報告 事務局説明資料  
参考資料：濱田委員へのヒアリング



## (エ) 会議実施結果（議事概要）の公開

- 第1回及び第2回運営委員会終了後に会議の議事概要を作成し、各委員に確認した上で、EPO中部ウェブサイト上で公開した。（中部地方ESD活動支援センターウェブサイトにもEPO中部ウェブサイトの該当ページへの直リンク見出しを設定した。）

## EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会

### 運営委員会の設置

EPO中部は、多様なステークホルダー及び有識者で構成される運営委員会を年2回開催し、EPO・ESD業務についての検討、協議、評価を行っています。

また、運営委員が提案する協働取組や、各地域で実施すべき協働取組を、EPO中部の機能を使って実施するスキームとなっています。

※第5期（2020年度）までは「EPO中部運営会議」「中部地方ESD活動支援センター企画運営会議」をそれぞれ設置していました。

### EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員（氏名五十音順、敬称略）

- 伊藤 恭彦（名古屋市立大学 理事・副学長）【委員長】
- 加藤 隆弘（金沢大学人間社会研究域学校教育系 准教授，北陸ESD推進コンソーシアム 事務局長）
- 加藤 義人（岐阜大学 客員教授，名古屋都市センター 特任アドバイザー）
- 堺 勇人（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま） 常務理事／事務局長）
- 田辺 友也（NPO法人まちづくりスポットとやま 代表理事）
- 濱田 一多朗（尾鷲市役所 商工観光課長）
- 水上 聡子（アルマス・バイオコスモス研究所 代表）
- 水谷 瑞希（信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設 准教授）

### 設置要領

📄 [第7期 EPO中部・中部ESD支援センター運営委員会 設置要領](#)

第6期（2023年度／令和5年度）以前の設置要領等

### 議事録

#### 第7期

- 【2025（令和7）年度】
- 📄 [2025年度（令和7年度）第2回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)
- 📄 [2025年度（令和7年度）第1回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)

- 【2024（令和6）年度】
- 📄 [2024年度（令和6年度）第2回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)
- 📄 [2024年度（令和6年度）第1回EPO中部・中部地方ESD活動支援センター運営委員会 議事録](#)

第6期以前に実施した会議の議事録

### 3 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センターの基本業務

#### (1) 情報の収集・蓄積・発信に関する業務

##### ア ホームページの更新及び維持管理

- EPO 中部では、環境保全、協働の推進、ESD、SDGs 等に関わる情報を収集・整理・蓄積し、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント情報等の発信を行っている。
- 収集した情報は、EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの各ウェブサイトにおいて、下表の通り、記事の投稿・掲載・更新を行った。

【EPO 中部 (<http://www.epo-chubu.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ						
		EPO 中部のお知らせ	皆さんのお知らせ	スタッフのあれこれ	EPO 中部とは	EPO 中部が お手伝い	お役立ち ツール	その他(メルマガ掲載等)
4月	119	1	112	1	1	1	2	1
5月	60	1	56	1	1	0	0	1
6月	137	2	127	1	5	1	0	1
7月	103	1	100	1	0	0	0	1
8月	58	4	52	1	0	0	0	1
9月	90	7	79	1	1	0	0	2
10月	109	2	103	1	0	0	1	2
11月	94	2	89	1	0	0	0	2
12月	100	4	92	1	0	1	0	2
1月	69	4	63	1	0	0	0	1
2月	84	5	77	1	0	0	0	1
3月	41	4	32	0	1	1	2	1
計	1,064	37	982	11	9	4	5	16

【中部地方 ESD 活動支援センター (<http://chubu.esdcenter.jp>) 更新実施表】

月	更新回数・計	更新コンテンツ					
		センター概要	事業報告	イベント&ニュース	コンテンツ紹介	地域 ESD 拠点 トピック	その他
4月	60	0	0	54	2	4	0
5月	34	0	0	33	0	1	0
6月	75	2	0	64	1	8	0
7月	41	0	0	39	0	2	0
8月	26	0	0	21	0	2	3
9月	33	1	0	30	0	1	1
10月	23	0	0	18	1	2	2
11月	28	0	0	23	0	4	1
12月	41	1	0	32	1	5	2
1月	31	0	0	26	0	4	1
2月	33	0	0	26	0	5	2
3月	15	1	1	11	0	0	2
計	440	5	1	377	5	38	14

※ いずれも「3月」の数値は3月18日時点で集計を行った。

(ア) ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数）

- EPO 中部及び中部地方ESD活動支援センターの各ウェブサイトのアクセス数（ページビュー数/Google アナリティクスにおける「表示回数」項目）は、下表の通りである。

【EPO 中部ウェブサイト】

※ 2020 年度に EPO 中部ウェブサイトをリニューアルした際、アクセス数の照会元を Google アナリティクスに移行したため、2021 年度以降は Google アナリティクスでアクセス数の把握を行っている。（従来の照会元であるサーバー会社によるアクセスレポートは特殊なシステムによるページビュー数集計を行っていたため、一般的なページビュー数を把握できる Google アナリティクスに変更した。）

照会元	Google アナリティクス					参考)2022 年度以前のサーバー会社アクセスレポート				
	2025	2024	2023	2022	2021	2022	2021	2020	2019	2018
4 月	2,611	2,504	2,440	2,133	3,310	59,189	24,015	66,930	59,319	19,311
5 月	1,983	2,155	2,374	2,197	2,965	75,304	16,148	56,664	30,280	18,382
6 月	3,070	2,474	2,942	1,983	3,574	79,962	21,314	61,297	29,150	20,060
7 月	2,427	2,358	2,324	2,125	2,579	78,408	29,566	52,720	34,314	18,763
8 月	1,928	2,130	1,808	2,387	2,203	49,173	25,428	43,742	38,479	17,688
9 月	2,850	2,115	1,752	1,883	1,923	68,449	24,902	43,419	72,087	14,795
10 月	2,604	1,896	2,029	2,413	4,015	92,734	34,750	42,768	75,127	16,176
11 月	4,574	2,013	2,474	2,873	2,791	64,309	48,487	38,630	102,551	16,289
12 月	2,400	2,416	2,745	2,852	2,271	97,461	45,615	35,352	182,209	31,808
1 月	2,507	3,110	3,077	3,911	2,132	100,899	65,535	23,878	107,374	39,694
2 月	3,260	2,632	3,114	3,075	2,800	97,007	65,552	14,677	61,384	21,378
3 月	1,643	3,153	5,064	3,302	1,622	101,586	74,440	21,593	67,883	44,972
計	31,857	28,956	32,143	31,134	32,185	964,481	475,752	501,670	860,157	279,316

【中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト】

照会元	Google アナリティクス							
年度	2025	2024	2023	2022	2021	2020	2019	2018
4 月	642	628	938	1,057	1,115	1,165	618	595
5 月	523	614	997	1,030	1,368	648	828	857
6 月	800	703	890	1,026	1,324	1,620	955	1,301
7 月	501	824	1,184	1,025	1,272	1,164	832	795
8 月	943	708	1,326	1,331	811	827	1,111	1,144
9 月	769	654	1,149	963	872	797	1,232	818
10 月	1,060	579	902	775	1,463	1,179	1,192	904
11 月	861	849	997	949	1,240	950	1,064	1,085
12 月	1,078	668	606	761	1,302	1,420	1,139	879
1 月	891	564	724	623	1,052	1,183	841	841
2 月	561	547	1,034	861	1,025	1,080	1,181	641
3 月	390	488	1,200	547	731	1,099	1,258	752
計	9,019	7,826	11,947	10,948	13,575	13,132	12,251	10,612

※ いずれも 2025 年度の「3 月」の数値は 3 月 18 日時点のデータで集計を行った。

※ ほかの年度の「3 月」は 3 月 31 日までのデータの集計となっている。

## イ 収集した情報の整理・蓄積・発信（メールマガジン発行）

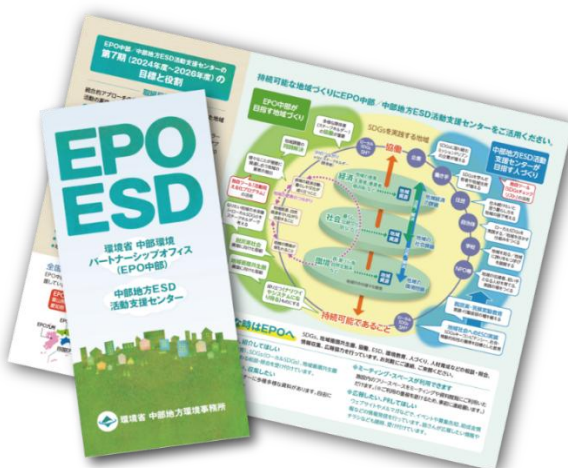
- 各事業の実施状況のほか、行政機関の動き、公募・助成金情報、イベント等の情報を収集、整理、蓄積し、それらの情報と中部地方環境事務所から広報依頼等のあった情報を発信するため、メールマガジンの定期配信（毎月第2火曜日発行）を行ったほか、前項のホームページ等にも随時掲載し、情報提供を行った。
- なお、発行済みメールマガジンのバックナンバーを、EPO 中部ウェブサイトに掲載し、公開している。（<https://www.epo-chubu.jp/mail-magazine>）

月	号	発行日	発行部数	記事数・計	掲載記事数					
					冒頭部	環境省関連	イベント関連	ツール・コンテンツ	助成金・表彰等	その他
4月	190号	4/8	617部	45	0	11	14	9	9	2
5月	191号	5/13	618部	58	2	11	19	8	15	3
6月	192号	6/10	618部	60	2	16	20	4	15	3
7月	193号	7/8	618部	74	2	17	27	2	23	3
8月	194号	8/12	617部	58	4	15	16	3	18	2
9月	195号	9/9	618部	50	3	12	25	1	7	2
10月	196号	10/14	619部	59	5	13	25	0	15	1
11月	197号	11/11	619部	52	7	13	20	0	10	2
12月	198号	12/9	619部	54	3	10	25	4	9	3
1月	199号	1/13	617部	50	4	13	24	4	3	2
2月	200号	2/10	618部	53	6	7	31	1	6	2
3月	201号	3/10	617部	39	4	6	18	2	7	2
計				652	42	144	264	38	137	27

※ 「冒頭部」の記事は、中部地方環境事務所及びEPO 中部の主催イベント等お知らせ記事となっている。

## ウ リーフレットの配布

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットについて、前年度に作成した第7期版を主催イベントや招聘された地域イベント等で配布を行った。
- 4月時点で約 100 部の前年度在庫があり、6月中旬に ESD 代表メールアドレスの変更修正を行ったうえで 300 部を増刷し（リーフレットに 2025 年 6 月発行と記載）、更に8月末に 500 部増刷した。
- 2025 年 4 月～2026 年 3 月 17 日までの間に計 800 部を増刷し、計 700 部を配布した。



## (2) 相談対応・対話の場づくり

- EPO 中部もしくは中部地方ESD活動支援センターへの相談対応や、それに伴う打合せ、マッチング作業、情報収集、地域主体からの招聘等を行った件数は、次表の通りである。

※ 以下、いずれも「3月」の数値は3月18日時点で集計を行った。

### 【照会・相談・打合せ対応件数】

区分	ア 照会・相談対応						イ 対話の体制の構築		ア+イ 対応件数 総計
	①相談に対し支援対応等を行った案件の事例件数※ <sub>1</sub>	照会・相談対応等の延べ件数※ <sub>2</sub> (左記①案件事例への対応延べ件数も含む)	※ <sub>2</sub> 来館件数 延べ件数	②相談・照会、資料配架依頼等	会議利用	③メール・電話による相談(広報依頼等)延べ件数※ <sub>2</sub>	(ア)会議・セミナー等 地域活動への招聘	(イ)その他打合せや地域主体との意見交換等	
4月	8	23	5	4	1	18	1	9	33
5月	2	14	7	4	3	7	1	8	23
6月	2	20	6	3	3	14	3	13	36
7月	4	17	7	5	2	10	1	6	24
8月	5	23	9	6	3	14	1	22	46
9月	6	28	16	8	9	12	1	10	39
10月	4	21	5	4	1	16	2	19	42
11月	1	10	3	1	2	7	1	6	17
12月	4	20	7	3	4	13	3	7	30
1月	1	15	4	2	2	11	3	10	28
2月	5	14	5	4	1	9	1	6	21
3月	2	7	3	1	2	4	1	1	9
計	44	212	77	45	33	135	19	117	348

※1) 事例件数:最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとにカウントした数となっている。

※2) 延べ件数:同じ案件・用件での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をカウントした数となっている。

### (ア) 照会・相談対応

#### ①相談に対し(広報協力以外の)支援対応等を行った案件

- 相談に対し、EPO 中部/中部地方 ESD 活動支援センターが何らかの支援対応等を行った案件数は下記の通りである。
- また、EPO が個別対応を行った照会、相談、支援要請等については、「相談対応票」に記録し、月次で中部地方環境事務所へ提出・報告を行った。

### 【相談件数の合計、相談方法別件数】

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
4月	8	3	4	0	1
5月	2	1	1	0	0
6月	2	0	1	0	1
7月	4	1	0	1	2
8月	5	1	3	0	1
9月	6	1	0	5	0

	相談件数・計	相談方法			
		電話	メール	来所	その他
10月	4	1	2	0	1
11月	1	1	0	0	0
12月	4	1	2	0	1
1月	1	0	0	0	1
2月	5	1	2	0	2
3月	2	2	0	0	0
計	44	13	15	6	10

### 【相談主体別の相談件数】

	相談主体の分類							
	学校・ 教育機関	大学関係	企業	自治体	NPO・NGO	その他 事業主体	業界団体 等	その他
4月	1	1	0	4	2	0	0	0
5月	0	0	0	1	0	1	0	0
6月	0	0	0	1	1	0	0	0
7月	1	2	1	0	0	0	0	0
8月	0	0	1	2	0	0	1	1
9月	0	2	0	1	1	1	1	0
10月	1	0	0	2	0	1	0	0
11月	0	0	0	0	0	1	0	0
12月	0	2	1	0	0	1	0	0
1月	0	0	0	0	0	0	0	1
2月	0	1	0	2	2	0	0	0
3月	0	0	1	0	1	0	0	0
計	3	8	4	13	7	5	2	2

### 【相談に対し EPO が行った支援内容の件数】

	EPO による支援内容分類										
	EPO スタッフの 登壇・招聘	講師等 人材紹介 (EPO スタッフ 以外)	活動団体 等の照会・ マッチング	教材・ツ ールの紹介・ 提供等	環境省事 業・EPO 業 務の情報 提供	SDGs の情 報提供	ESD・授業 等教育関 係の情報 提供	その他の 情報提供	イベント等 の事業企 画運営	後援等名 義使用	その他
4月	4	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1
5月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
7月	1	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0
8月	1	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0
9月	1	0	1	0	2	0	0	2	0	0	0
10月	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0	0
11月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1
1月	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
2月	2	0	0	1	1	0	0	1	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
計	14	3	4	2	3	0	2	6	3	3	4

【相談対応票；具体の相談内容と EPO による対応内容等の記録】

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
1	4月1日	自治体	・企画している ESD シリーズイベントについて後援を依頼したい。	・ESD センターの後援手続きについてメールで回答。 ・EPO 中部の後援について企画書で受け付け。 ・4/9 中部 REO の確認を経て EPO 中部の後援を承認する旨を先方に連絡。	
2	4月2日	自治体	・環境イベントの実行員会に委員として出席を依頼したい。	・2/13 までに事前電話・郵便で委員就任の依頼があり、承諾。 ・4/2 に改めて電話での依頼と、委員会を 4/14 に開催する旨の案内をメールでいただいた。 ※環境イベントを 9/13 開催。	・イベント開催後の 10/15 に開催結果資料をメール送付いただいた。
3	4月9日	NPO・NGO	・環境配慮行動変容のナッジについて、事例の話題提供してほしい。	・過去に COOL CHOICE のためのナッジの研究を行っていた職員で対応する旨返答。 ・5/21 の夜開催で調整。	
4	4月11日	NPO・NGO	・高校生インターンの受入依頼。	・4/11 に電話で依頼があり、依頼書をメールで送付いただいた。4/14 に現時点で回答はできないため、4 月末までに連絡する旨を伝えた。 ・4/17 にメールで受け入れ可能と連絡。 ・6/3 に電話とメールで受け入れ候補日について連絡あり。関係者との調整のうえ回答及び実施要領を送付することを返信。 ・6/13 に実施要領を提出。今回は3人のインターン生が EPO を希望しているとのこと。 ・6/19 先方事務局と打合せ。事前レポート用の参考資料として環境白書(令和6年版)と地域循環共生圏リーフレットを提供。 ・7/3 高校生インターン代表者からご挨拶の電話があり、持ち物、服装等についての質問に回答した。 ・8/26～8/28 に高校生インターンを受け入れ予定。(うち 8/27 は地域循環共生圏事業・半田を取材訪問。)	・9/1 高校生インターンが作成した取材レポート記事を WEB 等に公開。 ・9/24 依頼 NPO が来館し、高校生からの御礼状をいただいた。また、10/16 実施のインターンシップ学内発表会への参観を案内いただき、参加した。
5	4月11日	自治体	・SDGs まちづくり事業プロポ評価についての依頼。	・4/14 来所、SDGs まちづくり意見交換とともに評価方法についての説明を受ける。 ・4/15 評価表をメール送信。	
6	4月17日	自治体	・SDGs まちづくり事業イベントの後援申請依頼。	・4/17 にメールで依頼あり。中部事務所へ確認。 ・4/18 中部事務所の確認を得て、先方へ後援名義使用が可能である旨をメールにて連絡。	
7	4月21日	大学関係	・学会中部支部大会(6/21)のシンポジウムでの講演者に藤前干潟保全に関するいい人がいないかとの相談。	・内容の企画についてのメモの送付を依頼。そのメモを元に検討したいと返答。 ・講師として中部大学の専門家で藤前干潟のアセスメント関係者を推薦。 ・講師を依頼し了承を得る。 ・学会発表の形で ESD 事業の報告の機会を得る。 ・6/11 シンポジウムの打合せをオンラインで実施オブザーバー参加(参加者 9 名) ・当日 ESD 事業の報告を発表。	
8	4月23日	学校・教育機関	・ユネスコスクール支援会議に引き続き委員として参加してほしい。	・依頼を了承。6/17、12/9 会議出席。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
9	5月26日	その他事業主体	・1月ごろ開催の環境学習リーダー養成講座に講師を派遣してほしい。	・依頼を了承、6/4 時前打合せを実施。 ・打合せの結果、11/18 に実施決定。内容は学びの場づくりとし、ESD ワークブックを活用する少人数のワークショップとする。	
10	5月29日	自治体	・昨年に引き続きナツジに関する講座の講師をお願いしたい。	・依頼を了承、6/29 で日程を調整。	
11	6月10日	NPO・NGO	・大学生がESD・SDGsを活動するにあたり北陸地方でESD・SDGs活動の勉強ができる場所を教えてください。	・北陸地方の関係する組織、団体についてメールで返信。	
12	6月11日	自治体	・愛・地球博 20 周年に関わるシンポジウムにパネル発表をお願いできないか。	・8/11 の開催に対して対応を了承。 ・7/3 対面で打合せ。 ・8/11 ポスター展示、1 分アピール登壇、ポスターセッション参加	
13	7月15日	企業	・衣料リサイクルの会社が作成したカードゲームについてアドバイスいただけないか。	・対応を了承。8/25PM を仮日程として EPO 中部事務所に来ってもらう方向で調整を進める。 ・8/26EPO 中部来所、環境カウンセラー浅野氏同席でカードゲームについて意見交換、アドバイス	
14	7月23日	学校・教育機関	・中学校の総合学習(クラスごとにテーマを設定して研究する授業)で食品ロスをテーマにクラスで課題研究を行っており、その情報収集を行いたい。	・来館した学生と対面方式で、学生側が準備していた質問に回答しつつ、回答に該当する食品ロス関連の資料を提供/紹介した。 ・そのほか、環境白書(令和6年版)のダイジェスト版を提供し、あわせて最新版となる令和7年版の「食」の該当ページの出力資料を提供した。 ・愛知県と名古屋市の子ども向けの食品ロスのパンフレットを例示・提供しつつ、自治体の取組やイベントについては、県・市のウェブサイトで最新情報が確認できることを伝えた。加えて、イベントについては「なごや環境大学」の冊子を提供し、掲載されていた『おかえりやさい』プロジェクト(以前に「白書を読む会」に登壇)のイベントを紹介した。	
15	7月28日	大学関係	・都留市の高校教育での授業についてミステリーワークショップを取り入れられないか検討中、助言が欲しい。	・授業についていくつかのアドバイスを実施。 ・9/24 に都留市で実施する計画の授業に参加の可能性を示唆。 ・先方の都合で、今年度は中止。	
16	7月28日	大学関係	・飯田市で GIS を使った職員勉強会を企画している。ワークショップの企画運営に協力してほしい。	・対応を了承。飯田市を交えたオンライン打合せに参加することとする。 ・8/28 にオンライン打合せ。11/21、28、12/13 に市役所職員勉強会実施を計画することについて了解。 ・9/24 オンライン打合せ。各勉強会のプログラム案を作成し内容をすり合わせ。	
17	8月6日	業界団体等	・信州 ESD コンソーシアム令和 7 年度通常総会への出席要請	・9/5 開催のオンライン会議に出席する旨返答	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
18	8月8日	自治体	・中部地方 ESD 活動支援センターの連携ができないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8/22 に担当者が来所、お互いの活動について経緯を含めて意見交換</li> <li>・名古屋市立の保育園、小学校、中学校向けに年度当初作成配布している名古屋市環境学習プログラムガイドに当センターのコーナーを載せることについて連携することとする。</li> <li>・令和 8 年度の企画編集が 10 月から始まるため、ESD ワークブックの特設記事を検討したいとのこと。ワークブックのデザイン著作権について確認の上連絡する。</li> </ul>	
19	8月18日	その他	・学び合いの場①に参加して作成した ESD イベント企画が実現しそうなので、後援をいただけないか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントの主催や日時会場などの情報が必要であることを説明し、できれば書類で見せて欲しい旨説明。</li> <li>・8/19 にメールで書類の写真を受領、中身を確認し、REO と相談。</li> <li>・8/20 メールと電話で連絡、問題点として主催が企業である点と販売を伴う可能性があることについて相談者に説明、豊田市の後援がどうなっているのかについて確認。</li> <li>・8/21 に相談者より、後援依頼の趣旨に沿わない事を理解の上、後援依頼を取り下げる旨連絡あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10/23 にメールでお礼と報告あり。10/12 に無事イベントが実施できたとのこと。72 に対して珈琲から気候変動を考えるフリップボードによる情報発信を実施。</li> </ul>
20	8月29日	企業	・自然共生サイト申請を目指す長野県内の自社工場で、モニタリング指導等の協力をいただける団体・有識者を紹介してほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・8/28 メールで ERCA(自然共生サイト事務局)からの紹介とすることでメールで相談があった。</li> <li>・8/29 長野県の「人と生きものパートナーシップ推進事業」によるマッチング支援、民間の生物多様性ネットワーク支援団体を紹介。相談・マッチング等がうまくいかなかった場合には、再度 EPO が対応するため連絡いただきたい旨を伝えた。</li> <li>・同日、企業側から、県・ネットワーク支援団体に打診してみることに、うまくいかなかった場合は再度 EPO に相談したい旨の返信メールが同日届いた。</li> </ul>	
21	8月29日	自治体	・職員研修のワークショップ手法について相談したい・	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/3 に来所して相談。</li> <li>・SDGs チェックリストワークショップと SDGs 指標物語を合わせた研修とする。</li> <li>・開発に係わった専門家を業界マッチング</li> </ul>	
22	9月4日	大学関係	・環境省から出向で環境教育等に関わるが、中部地方の ESD 状況について知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電話で中部地方の ESD の状況を当センターの立場から説明、意見交換。</li> <li>・相談者は環境マインド推進センターにも関わっており、お互い今後は是非連携したいとの所管を共有。</li> <li>・その後挨拶メールを交換</li> </ul>	
23	9月9日	自治体	・EPO について紹介してほしい。 ・脱炭素のプラットフォームづくりを行っているため、今後協力いただきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/4 に電話・メールで EPO 来館の依頼があり、名古屋へ来られた際に立ち寄りいただくことになった。</li> <li>・9/9EPO 来館。EPO の役割・業務内容、長野県内で実施した地域支援業務、自治体と協働実施した業務などを紹介した。広報協力が可能であること、プラットフォームづくりの企画等で課題がある場合にも、壁打ちして現状整理等の協力が可能であることをお伝えした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/16 御礼メールをいただき、今後、EPO と連携していきたいとの付記もいただいた。</li> <li>・2/24 主催イベントの案内をメールでいただき、参加はできないが、広報協力を申し出た。今後、相互に広報協力していきたい旨の返信をいただいた。</li> </ul>

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
24	9月10日	業界団体等	・12/13に計画しているセミナーでワークショップを頼めないか	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップの実施で職員派遣を了承。</li> <li>・内容は参加者自身の活動を CE、CN、NP 及び環境社会経済の中で位置づけ関連性を議論する内容を提案。</li> <li>・10/16 電話連絡あり、企画内容を大幅に変更し、パネルディスカッションのコーディネーターをおねがいがしたいとの依頼あり、これを了承。</li> <li>・10/23EPO に来所、打合せ、当日企画の打合せ。</li> <li>・その他地域経済を地域循環共生圏に活かす勉強会についての企画意見交換、フォーレさんろくら主催で、かしの協議会とダイアログをしたらどうかと提案。</li> <li>・12/10 打合せ、環境カウンセラー全国からの要請でコンセプトが変更になり、パネルディスカッションのコーディネーターを依頼したいとのこと。この件について了承。</li> </ul>	
25	9月11日	大学関係	・大学で「地域資源を活用した地域間連携に関する研究」に取り組んでおり、実際の取組や課題について学ばせてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9/11 にメールにて連絡があり、日程調整のうえ、10/9 に EPO へ来館のうえ、ヒアリングしていただくことになった。(大学が所在する近畿地方の事例であれば「きんき環境館」に相談されることを勧めたところ、近畿と中部の両方をヒアリングしたいとのことだった。)</li> <li>・10/9 ヒアリングのため来館。地域循環共生圏づくり事業の事例紹介等を行った。補足ヒアリングとして再来館する可能性もあるとのこと。</li> </ul>	
26	9月26日	その他事業主体	・来年度パラリンピックの関係で、展示施設を閉める必要があり、その間何か出前的なコンテンツを展開していきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・船の交通に関する脱炭素的な内容や、南極観測船ふじの内容から極地観測での温暖化問題など地球環境コンテンツが有効では。</li> <li>・実際のコンテンツ企画があれば、名古屋環境大学などプラットフォームを紹介できることを情報提供。</li> </ul>	
27	9月30日	NPO・NGO	・探究学習の状況について意見交換したい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校に対してヒアリングなどの調査を行っていることを紹介。</li> <li>・その他の意見交換で六つの資本による活動評価について紹介。</li> </ul>	
28	10月1日	その他事業主体	・JICA 研修生に地域循環共生圏の話をしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EPO 中部からの派遣を了承。</li> <li>・10/24 に富山県上市町にて、フィジー、ガボン、ソロモンからの 6 人の研修生相手に、通訳を入れて講義を実施。</li> <li>・その他現場視察や、2 者による話題提供を含めてディスカッション。</li> <li>・翌日 10/25 には研修生の柿取り体験に同行参加。</li> </ul>	
29	10月14日	学校・教育機関	・総合学習について企画のアドバイスが欲しい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における探求的な学習のキックオフをどのように行うかをオンライン会議で意見交換。</li> <li>・クイズ形式の気づきを与えるプログラムを持つ講師を紹介。</li> <li>・10/29 来所 11/18 出前授業実施について EPO にて講師と打ちあわせ。</li> </ul>	
30	10月21日	自治体	・昨年度講師を派遣した中学校の授業記録について Web 掲載したいので許可いただきたい。また原稿をチェックしてほしい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原稿をチェック。Web 掲載を了承。</li> </ul>	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
31	10月28日	自治体	・協働に取り組んでいる中小企業の人に講演をお願いしたいため、紹介してほしい。	・具体的な名前等は紹介できないが、商店街店主やまちづくりコンサルタントなどを検索されること提案した。 ・中小事業者による資金獲得方法について質問されたため、営利団体は助成金等への応募不可であることが多いため、クラウドファンディングの方法があること、企業を経営しつつ別団体を設立して活動を展開しているケースなどをお伝えした。 ・一般社団法人であれば、具体的に EPO 中部・協働コーディネーターなどがあること、EPO 中部ウェブサイトの協働コーディネーター紹介ページをヒントにさせていただくことなどをお伝えした。	・1/14に再度電話連絡があり、協働の相談先として EPO を主催会合で紹介したいとのこと。EPO のほかに、協働コーディネーターの取組を紹介し、そのほか相談・照会対応等を行っている主体・事業について情報提供を行った。
32	11月19日	その他事業主体	・地元 FM 局の SDGs カフェの番組に出演してほしい。	・1時間のトーク番組を相談者が主催しており、ゲストとして2人出演することを了承。 ・11/26 富山市への出張を機会にお昼に事前打合せ、夕方収録。 ・12月に収録した内容を数回放送。	
33	12月4日	企業	・EPO 主催イベントと一緒に登壇した有識者に講演をお願いしたいが、どのような方法で連絡するのがよいか。	・すでに名刺交換しているので、ご連絡をお願いすればよいと返答。電話では捕まりにくいので、メールで必要情報を添えてお願いしてみたらどうかと助言。	
34	12月12日	その他事業主体	・来年3月までに名古屋でビーチクリーンの実施を検討している。企業と一緒に活動していただけるパートナー団体を紹介してほしい。	・12/15名古屋および愛知県内で定期的にクリーンアップ活動を実施している団体を回答。	
35	12月18日	大学関係	・SDGs 学生サミットについて一般参加者の申込について教えて欲しい。	・一般参加者については動画視聴できるようにし、Web上にURLを公開することを回答。	
36	12月25日	大学関係	・2/28に行う水と緑のフォーラムで、九州博多湾沿岸のコメンテーターを探している。九州 EPO につないでもらえないか。	・九州 EPO に電話してスピーカーフォンで相談。九州の心当たりについて情報をメールで知らせていただくこととなった。	
37	1月21日	その他	・次年度本格化する文科省プロジェクトのインタビュー調査で、大学生のつてはないか。	・SDGs学生サミットなどで大学の研究室ともお付き合いがあるのでご紹介できると思うと応対。 ・詳細が決まってきたらまたご連絡をいただけることとなった。	
38	2月3日	自治体	・11月～12月に実施した職員勉強会と1月の学輪について記者発表ができないか。協力いただけないか。	・中部大学、都留文化大学担当教員とともにメール相談。 ・2/20オンライン打合せ。4/20または5/1の定例記者会見に対応する方向で調整。	
39	2月4日	自治体	・名古屋市 SDGs まちづくり事業について事業者採択評価委員会をお願いしたい。	・依頼について承諾。その旨をメールで返答。 ・2/12に来所、内容を説明いただき、評価基準について助言。 ・3/31来所、提案書を説明。	
40	2月6日	NPO・NGO	・水と流域フォーラム(2/23開催)について以前作成した EPO 中部のポスターを掲示してほしい。また是非当日参加してほしい。	・ポスター提供について了承。 ・スタッフ2名の当日参加を登録。 ・2/23 掲示ポスターをメール送付で確認。 ・2/28 開催に参加。	

No.	受付日	相談者区分	相談内容	対応内容	事後報告
41	2月9日	大学関係	・ファシリテーションを支援した飯田市のワークショップ等について総括勉強会で情報提供してほしい。	・依頼について承諾。3/25～27の総括勉強会に参加を予定。 ・2/24連絡があり、勉強会が延期との連絡を受ける。これを了解。	
42	2月12日	NPO・NGO	・交流会でSDGsの取組を可視化したい。 SDGs学生サミットの学生グループ発表で用いた様式を使わせて欲しい。	・依頼を承諾。メールにて対象様式を送付。	
43	3月5日	企業	・関東ESDセンターの紹介でコンタクトしたい。現在実施中の養老高校を含めて連携できないか。ESD拠点登録も視野に相談したい。	・3/5に関東ESDセンターより相談者の紹介あり。すでに関東地方として地域ESD拠점에登録しており、高校探究関係で連携できる可能性の示唆あり。 ・3/6に相談者からの電話連絡あり。名古屋支店が岐阜県立養老高校と授業連携をはじめており、連携の可能性を探りたい。また中部地方の拠点登録も考えたいとのこと。3/18に来所し、相談意見交換。	
44	3月9日	NPO・NGO	・来年度も引き続き、高校生インターンの受入を依頼したい。	・EPOは受託している立場にあることを説明し、新年度に入ってからご連絡いただくようお願いした。4月に改めてご連絡いただけることになった。	

## ②来館による相談・照会、資料配架依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	4件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他地方EPOと意見交換</li> <li>・自治体からSDGsまちづくり推進事業に関する相談</li> <li>・引越し業者による下見</li> <li>・自治体と意見交換</li> </ul>
5月	4件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者（過去主催行事登壇者）がご挨拶と資料のお届け</li> <li>・資料閲覧、情報収集（3件）</li> </ul>
6月	3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GEOC意見交換</li> <li>・高校生インターン受入にかかる書類受け渡し、打合せ</li> <li>・閲覧・配架用資料の持参</li> </ul>
7月	5件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県職員がSDGsチェックシートの活用報告</li> <li>・中学生が授業課題となっている食品ロスに関する情報・資料の収集</li> <li>・防火防災点検</li> <li>・共生圏事業のヒアリング</li> <li>・挨拶立寄り</li> </ul>
8月	6件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり事業、共進化業務についての打合せ</li> <li>・情報収集</li> <li>・自治体の環境施設の方と意見交換</li> <li>・高校生による課題学習のための情報収集（プラスチック問題、絶滅危惧種）</li> <li>・高校生インターン受入（オリエンテーション、環境白書ディスカッション）</li> <li>・高校生インターン受入（レポート作成）、主催NPO視察</li> </ul>
9月	8件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の相談対応</li> <li>・自治体の方が来館（EPO取組説明）</li> <li>・情報収集（3件）</li> <li>・環境カウンセラーからの相談対応</li> <li>・NPO法人（インターンシップ主催者）の挨拶立寄りとヒアリング実施</li> <li>・地方ESDセンターと意見交換</li> </ul>
10月	4件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生のヒアリング（環境施策等説明）</li> <li>・環境活動についての紹介・相談</li> <li>・環境カウンセラーからの相談対応</li> <li>・中学校から探究学習についての相談</li> </ul>
11月	1件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主催イベントの関係者が登壇資料お届けのため来館</li> </ul>
12月	3件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登壇するセミナーについての相談</li> <li>・引越し業者下見</li> <li>・催事登壇者が資料お届け</li> </ul>
1月	2件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集</li> <li>・環境省事業について意見交換</li> </ul>
2月	4件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビル管理業者等の視察</li> <li>・自治体と評価委員依頼説明に関する相談</li> <li>・ネット関係設営等の打合せ（2件）</li> </ul>
3月	1件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・EPOの備品確認打合せ</li> </ul>
<b>計</b>	<b>45件</b>	

## ③メール・電話による相談、問合せ、広報依頼等

月	件数	相談・問合せ内容
4月	18件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体から環境イベント実行委員会開催についての電話・メール（3件）</li> <li>・自治体から学習情報システムの登録内容について確認のメール</li> <li>・他地方EPOから来館予定のメール</li> <li>・NPOからイベント情報の広報協力依頼のメール</li> <li>・自治体から環境イベント会議資料の送付</li> <li>・NPOから助成事業について周知依頼のメール</li> <li>・NPOから高校生の夏休みのインターンシップ受入の可否について問合せの電話</li> <li>・一般社団からごみ拾いイベントについて案内のメール</li> <li>・自治体から相談依頼の電話</li> <li>・自治体からまちづくり事業へのEPO後援名義について問合せの電話</li> <li>・自治体から企画提案の書類に関する電話</li> <li>・NPOから環境関連セミナーについて開催案内のメール</li> </ul>

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人から助成事業について募集案内のメール</li> <li>・中部事務所から SDGs 関連フォーラムについて web 掲載依頼のメール</li> <li>・中部事務所から公益財団法人主催の助成事業について web 掲載依頼のメール</li> <li>・外来魚防除団体からイベント案内のメール</li> </ul>
5月	7件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人から助成事業公募について広報協力依頼のメール</li> <li>・任意団体から共生圏事業についての問合せ電話</li> <li>・企業から環境省主催事業について広報協力依頼のメール</li> <li>・NPO から助成事業について広報協力依頼のメール</li> <li>・銀行から助成金の広報協力依頼のメール</li> <li>・公益財団法人から助成金の広報依頼メール</li> <li>・環境教育の研修について広報協力依頼のメール</li> </ul>
6月	14件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO 法人から高校生インターン受入実施について電話及びメール（3件）</li> <li>・企業から視察・見学の受入について照会のメール</li> <li>・NPO 法人からオンライン学習会開催についてメール</li> <li>・NPO 法人から助成事業について周知依頼のメール</li> <li>・市民参加型昆虫調査について web 掲載依頼のメール</li> <li>・学生インターンの催事参加について照会のメール</li> <li>・企業から環境助成金の広報協力依頼のメール</li> <li>・自治体から SDGs 関連の講演会について広報協力依頼のメール</li> <li>・自治体の水素関連事業について広報協力依頼のメールと電話</li> <li>・自治体から環境学習関連催事にかかる広報協力依頼の電話</li> <li>・河川事務所から流域治水の作品・研究募集にかかる web 掲載について照会のメール</li> <li>・NPO 法人から森づくり事業について広報協力依頼のメール</li> </ul>
7月	10件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン予定の学生から挨拶の電話</li> <li>・一般財団法人から起業家マインドを育むプログラム（子ども向け）についての案内メール</li> <li>・研究機関から SDGs シンポジウム開催案内のメール</li> <li>・自然保護管事務所から写真展の案内メール</li> <li>・自治体から SDGs 支援ツール使用時の活動報告のメール送付</li> <li>・団体から助成事業について広報協力依頼のメール</li> <li>・一般社団法人/地域 ESD 拠点登録団体から EPO に関する掲載情報提供依頼のメール</li> <li>・中学生から施設訪問について問合せの電話</li> <li>・公益財団法人主催の資源循環セミナーについて web 掲載依頼</li> <li>・主催催事の受講者からその後の報告と御礼の電話</li> </ul>
8月	14件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体から環境関連催事のチラシ設置依頼の電話</li> <li>・協働コーディネーターから新しいコーディネーターの推薦の電話連絡</li> <li>・企業から SDGs 関連催事の案内</li> <li>・NPO 法人から助成事業について広報依頼のメール</li> <li>・インターン高校生から事前課題レポート送付のメール</li> <li>・一般の方から環境省の電話番号について照会の電話</li> <li>・企業から SDGs 関連催事について案内及びチラシ完成版提供のメール</li> <li>・催事参加者からその後の報告と後援申請の可否に関する照会の電話</li> <li>・NPO からインターン受入と視察に関する電話</li> <li>・一般の方から地下街店舗の管理者に関する問合せの電話</li> <li>・市民団体の方から外来生物対策関連シンポジウムについて案内のメール</li> <li>・企業から生き物モニタリングの指導に対応できる地元団体/有識者の紹介希望のメール</li> <li>・NPO からオンライン学習会について案内のメール</li> <li>・企業から情報提供に対するお礼のメール</li> </ul>
9月	12件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育機関から挨拶のメール</li> <li>・自治体から EPO 来館（EPO 紹介依頼）の日時調整メール</li> <li>・大学生から取材依頼のメール</li> <li>・中部事務所から web 掲載依頼のメール</li> <li>・NPO からオンライン学習会について案内のメール</li> <li>・NPO からインターン受入の御礼と発表会のご案内メール</li> <li>・NPO からイベント広報協力依頼のメール</li> <li>・原発関連施設等の視察ツアーの案内メール</li> <li>・ESD 拠点から SDGs 関連催事の案内メール</li> <li>・地方センターから広報協力依頼のメール</li> <li>・脱炭素セミナーについて web・メルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・ゼロカーボン関連セミナーについて web メルマガ掲載依頼のメール</li> </ul>
10月	16件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NPO からオンライン学習会案内のメール</li> </ul>

月	件数	相談・問合せ内容
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境関係団体から催事広報依頼のメール</li> <li>・カーボンニュートラル関連行事について広報依頼のメール</li> <li>・大学生からヒアリング御礼のメール</li> <li>・自治体から環境関連行事の報告にかかる連絡の電話</li> <li>・高校から過去の web 掲載記事についての照会</li> <li>・新聞社から ESD ダイアログについての問合せ電話（2 件）</li> <li>・ほかの地方 ESD センターからネットワーク推進フォーラムの開催内容等について問合せ電話</li> <li>・大学研究室から学生サミットへの参加希望メール</li> <li>・省庁合同説明会について web 掲載依頼のメール</li> <li>・公益財団法人主催フォーラムについて広報協力依頼のメール</li> <li>・公益財団法人から掲載内容について要望のメール</li> <li>・研究機関から SDGs 体験型学習プログラム見学について案内のメール</li> <li>・自治体から「協働」に取り組む中小企業紹介の相談の電話</li> <li>・自治体から学習情報掲載システム移行について案内のメール</li> </ul>
11 月	7 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体環境施設のイベントチラシについて印刷配架依頼のメール</li> <li>・市民団体から外来魚情報交換会について案内のメール</li> <li>・新聞社から催事について取材可否の照会の電話とメール</li> <li>・協働コーディネーターから 12/6 主催フォーラムについての問合せ電話</li> <li>・協働コーディネーター所属先から WEB サイトのリンク依頼・御礼のメール</li> <li>・公益財団法人から環境技術関連セミナーの広報協力依頼のメール</li> <li>・自治体・大学主催のシンポジウムについてメルマガ・web 掲載依頼のメール</li> </ul>
12 月	13 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体主催・若者向けシンポジウムの周知依頼のメール</li> <li>・CO2 排出関連勉強会の web メルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・民間団体から SDGs 関連の講座プログラムのご案内メール</li> <li>・自治体から実行委員をつとめている催事について意見照会の電話とメール</li> <li>・一般社団法人から助成事業について案内のメール</li> <li>・公益社団法人から活動協力団体の照会依頼メール</li> <li>・自治会から会合の開催方法について質問の電話</li> <li>・一般社団法人から寄付キャンペーンについて情報拡散依頼のメール</li> <li>・過去催事登壇者からワークショップご案内のメール</li> <li>・大学から主催催事について申込・配信方法等に関する問合せのメール</li> <li>・NPO から広報協力依頼メール</li> <li>・自治体から環境学習関連催事について広報協力依頼の電話とメール</li> <li>・環境事務所から職員募集について広報協力依頼のメール</li> </ul>
1 月	11 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協議会の脱炭素関連催事についてメルマガ・web 掲載依頼のメール</li> <li>・主催イベントについて問合せの電話</li> <li>・自治体主催催事についてメルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・自治体から協働コーディネーターの活用等について照会の電話</li> <li>・環境事務所から人材育成プログラムについてメルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・独立行政法人から研修事業について広報協力依頼のメール</li> <li>・動物園からフォーラムの web 掲載依頼の電話</li> <li>・公益財団法人から教育機関への寄贈プログラムについてメルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・他 ESD センターから催事広報協力依頼のメール</li> <li>・補助金・行政情報等のセミナーについてメルマガ及び web 掲載依頼のメール</li> <li>・公益財団法人から CN 関連セミナーについてメルマガ掲載依頼のメール</li> </ul>
2 月	9 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般社団法人からオンライン相談・資料提供について問合せのメール</li> <li>・公益財団法人からメルマガ掲載の確認と御礼のメール</li> <li>・地域 ESD 拠点からイベント広報の協力依頼メール</li> <li>・他 EPO・全国センターから催事周知依頼のメール（2 件）</li> <li>・自治体から脱炭素関連催事の案内及び広報協力依頼のメール</li> <li>・他地方センターからイベントの案内メール</li> <li>・自治体から主催催事の申込確認等について照会の電話</li> <li>・環境関連協議会から催事について情報発信依頼のメール</li> </ul>
3 月	4 件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公益財団法人から資源循環関連催事についてメルマガ掲載依頼のメール</li> <li>・自治体から EPO 催事の登壇者資料について問合せのメール</li> <li>・企業から ESD に関する相談の電話</li> <li>・自治体から掲載ページのリンク先修正依頼のメール</li> </ul>
<b>計</b>	<b>135 件</b>	

## (イ) 会議・セミナー等地域活動への招聘

- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターが自治体・団体等から招聘された会議等は次表の通りである。
- 会議出席のほか、講師としての登壇など、関係主体の依頼に対し適宜対応した。
- これらの会議等への出席を通じて、地域での協働体制の構築及びノウハウの蓄積を行った。なお、開催地域については事務所担当官に報告し、調整を行った。

No.	県区分	開催日	依頼主体等	依頼事業等の名称	依頼内容	方法	謝金
1	愛知	4月14日	名古屋市環境企画課	環境デーなごや実行委員会	委員	対面	なし
2	その他	5月21日	気候変動・省エネルギー行動会議 (BECC JAPAN)	オンライン交流会	話題提供者	オンライン	なし
3	愛知	6月17日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
4	愛知	6月21日	環境教育学会中部支部	環境教育学会第5回中部支部大会	発表	対面	なし
5	愛知	6月29日	愛知県環境政策課	サスティナ研究所 基礎講座	講師	対面	あり
6	その他	7月28日	早稲田大学 環境研究総合推進費 担当教授・学生	環境研究総合推進費「地域を主体とするサスティナブル社会への移行方法論の構築 ー地域循環共生圏事業の発展的な拡大にむけてー」	ヒアリング	対面	あり
7	愛知	8月11日	愛知県	愛・地球リレーションポジウム 2025 第2回	ポスター展示、発表	対面	なし
8	長野	9月5日	信州 ESD コンソーシアム	信州 ESD コンソーシアム令和7年度 通常総会案内	メンバー	オンライン	なし
9	愛知	10月16日	アスクネット	南山高校女子部インターン学習発表会	参観	対面	なし
10	富山	10月24日	JICA 北陸	JICA 研修 in 上市町	講師	対面	あり
11	富山	11月26日	富山シティエフエム	堺勇人の「SDGs カフェ」の収録	ラジオ番組ゲスト出演	対面	なし
12	愛知	12月9日	愛知県教育委員会	ユネスコスクール支援会議	委員	対面	あり
13	愛知	12月9日	名古屋市環境企画課	「環境デーなごや」実行委員会	委員(書面回答依頼)	その他	なし
14	岐阜	12月13日	岐阜県カウンセラー協会	レジリエンスカフェ環境カウンセラー 交流会	パネルディスカッション コーディネーター	対面	あり
15	愛知	1月10日	「なごや環境大学」実行委員会、 (一社) 環境政策対話研究所	どうする?なごやの脱炭素 神奈川 県における「気候市民会議」報告	参加	対面	なし
16	石川	1月21日	北陸ESD推進コンソーシアム	令和7年度北陸ESD推進連絡協議会	委員	オンライン	なし
17	愛知	1月22日	愛知県地球温暖化防止活動推進 センター	気候危機フォーラム	トークセッションコーディネーター	対面	なし
18	愛知	2月28日	中部 ESD 拠点協議会(REC 中部)	地球市民フォーラム	参加	対面	なし
19	愛知	3月14日	名古屋市立大学、名古屋市教育委 員会	高大連携探究活動成果発表会	参加	対面	なし

## (ウ) そのほか打合せや地域主体との意見交換会等の実施

- 本業務に関連する地域の会合や地域活動等への参加・出席状況は下記の通りである。
- また、EPO 中部主催のセミナー・フォーラム等開催のため、地域(開催地)を訪問した際には、関係自治体や関係団体等をあわせて訪問し、意見交換・情報交換、及び相談対応等を行っている。

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
1	その他	4月3日	九州 EPO	面談	EPO 事業に関する意見交換
2	愛知	4月14日	名古屋市環境企画課	面談	SDGs まちづくりに関する意見交換
3	愛知	4月14日	中部大学有識者(福井先生、古澤先生)	面談	グリーン社会の実現に向けた SH 連携促進業務の相談、検討
4	中部	4月16日	学び合い P 有識者検討会、活動評価検討 WKG メンバー	オンライン	学び合い P 有識者検討会、活動評価検討 WKG 事前 打合せ
5	愛知	4月17日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
6	愛知	4月22日	名古屋市環境局環境企画課	面談	意見交換
7	福井	4月24日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会 社ローカル SD クリエーション	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ

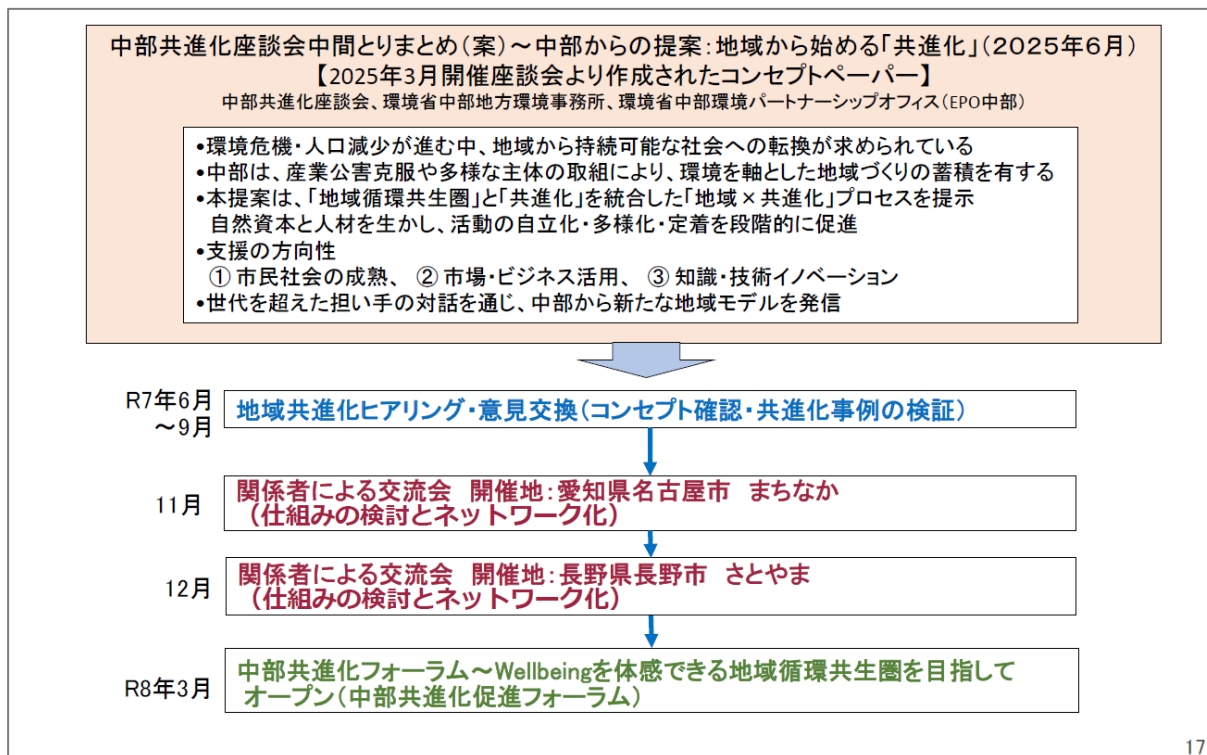
No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
8	愛知	4月28日	中部圏社会経済研究所	面談	中部共進化意見交換
9	長野	4月30日	長野県 NPO センター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ、実施計画書ディスカッション
10	三重	5月1日	尾鷲市	面談	ESD ダイアログ企画に関する意見交換
11	中部	5月9日	運営委員・伊藤座長	オンライン	第1回運営委員会の事前(座長)打合せ
12	福井	5月12日	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、合同会社ローカル SD クリエーション、(株)ドマノマド	オンライン	地域ブランディングの取組の打合せにオブザーバー参加
13	愛知	5月13日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業・実施計画書ディスカッション、中間共有会についての打合せ
14	福井	5月14日	合同会社ローカル SD クリエーション	面談	地域循環共生圏事業・実施計画書ディスカッション
15	愛知	5月16日	豊田市環境政策課	面談	学び合いP 実践セミナー開催打診
16	愛知	5月21日	名古屋市立大学	面談	専門家ヒアリング
17	富山	5月23日	PEC とやま	オンライン	学び合いの場①打合せ
18	愛知	6月4日	おかげぎ自然体験の森	面談	企画運営支援の打合せ
19	愛知	6月4日	豊田市環境学習施設	面談	学び合いP 実践セミナー→学び合いの場①打合せ
20	愛知	6月11日	環境教育学会中部支部	オンライン	稲永ビジターセンター開催の支部大会講演等プログラム打合せ参加
21	愛知	6月19日	アスクネット	面談	南山女子高校インターンシップ受け入れ打合せ
22	富山	6月20日	協働コーディネーター:(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	上市プロジェクトの打合せ
23	富山	6月23日	富山市教育委員会、PEC とやま	面談	学び合いP 実践セミナー打合せ
24	富山	6月23日	PEC とやま	面談	地域連携フォーラム打合せ
25	富山	6月23日	まちづくりスポットとやま	面談	ESD 地域フォーラム登壇依頼
26	愛知	6月25日	中部大学有識者(福井先生、古澤先生)	面談	中部共進化意見交換
27	愛知	6月26日	中部大学有識者(古澤先生)	面談	学び合いP 日程調整、意見交換
28	富山	6月30日	協働コーディネーター:PEC とやま、(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	上市プロジェクトの打合せ
29	愛知	6月30日	中部社研	面談	中部共進化意見交換
30	三重	6月30日	尾鷲市商工観光課	オンライン	ESD ダイアログ尾鷲打合せ
31	愛知	7月3日	愛知万博20周年記念事業実行委員会	面談	8/11 ポスター発表についての打合せ
32	その他	7月9日	中部地方環境事務所地域生物多様性増進室	面談	自然資本活用業務の打合せ
33	愛知	7月10日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業、中間共有会についての打合せ
34	愛知	7月14日	公益財団法人 SOMPO 環境財団	面談	財団のCSO ラーニングの学生インターン受け入れ団体等についての情報提供
35	愛知	7月22日	名古屋市立桜台高等学校	面談	探究学習、ESD ヒアリング
36	長野	7月27日	飯田市大学連携推進室、フィールドスタディ関係者・参加者	面談	飯田市エコ・ジオパークフィールドスタディ見学
37	岐阜	8月1日	岐阜県立斐太高等学校	面談	探究学習、ESD ヒアリング
38	愛知	8月4日	錦二丁目エリアマネジメント(株)	面談	意見交換、共進化意見交換会打診
39	福井	8月6日	合同会社ローカル SD クリエーション	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
40	長野	8月7日	長野県 NPO センター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
41	愛知	8月11日	名古屋大学大学院環境学研究科	面談	共進化有識者ヒアリング
42	富山	8月18日	協働コーディネーター:PEC とやま、(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ	オンライン	上市プロジェクトの打合せ
43	その他	8月19日	中部地方環境事務所地域生物多様性増進室	面談	自然資本活用業務の打合せ
44	三重	8月20日	尾鷲市役所	面談	ESD ダイアログ登壇者打合せ
45	三重	8月20日	三重県立熊野古道センター	面談	ESD ダイアログ登壇者打合せ
46	三重	8月20日	大杉谷自然学校	面談	ESD ダイアログ登壇者打合せ
47	愛知	8月22日	エコバルなごや	面談	意見交換
48	愛知	8月22日	名古屋市立大学	オンライン	ESD フォーラム登壇者打合せ
49	長野	8月25日	飯田市役所、都留文科大学、中部大学	オンライン	飯田市 ESDWS 相談打合せ
50	愛知	8月26日	南山高等学校女子部インターン、岐阜大学インターン	面談	インターン受け入れ相談対応
51	愛知	8月26日	(株)鈴六	面談	カードゲームアドバイス相談対応

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
52	愛知	8月26日	(株)鈴六	面談	中小企業 ESD・SDGs ヒアリング
53	愛知	8月27日	南山高等学校女子部インターン、岐阜大学インターン、半田市の再エネ発電施設等	面談	インターン受け入れ相談対応
54	愛知	8月27日	名古屋大学大学院環境学研究所	面談	共進化有識者ヒアリング
55	愛知	8月28日	南山高等学校女子部インターン	面談	インターン受け入れ相談対応
56	愛知	8月28日	名古屋市立大学	面談	共進化有識者ヒアリング
57	愛知	8月28日	中部大学	面談	共進化意見交換、ESD フォーラム打合せ
58	愛知	8月29日	豊田市自然観察の森	面談	ESD ダイアログ登壇者打合せ
59	愛知	9月3日	大府市役所環境課	面談	相談対応
60	愛知	9月4日	元愛知県環境部職員	面談	共進化意見交換
61	愛知	9月8日	社団法人環境創造研究センター	面談	共進化意見交換
62	その他	9月9日	中部地方環境事務所地域生物多様性増進室	面談	自然資本活用業務の打合せ
63	岐阜	9月10日	岐阜県カウンセラー協会	面談	相談対応
64	その他	9月12日	中部地方環境事務所地域生物多様性増進室	面談	自然資本活用業務の打合せ
65	愛知	9月19日	名古屋大学、愛知学院大学	面談	共進化ヒアリング
66	長野	9月24日	飯田市、都留文科大学、中部大学	オンライン	相談対応、WS 打合せ
67	愛知	9月24日	NPO アスクネット	面談	SDGs ヒアリング
68	その他	9月30日	東北地方 ESD 活動支援センター	面談	意見交換
69	愛知	10月1日	おかざき自然体験の森	オンライン	ワークショップ開催の打合せ
70	三重	10月1日	ESD ダイアログ登壇者関係者	オンライン	ESD ダイアログ事前打合せ
71	愛知	10月7日	名古屋市立大学	面談	環境白書を読む会の会場確認、打合せ
72	愛知	10月10日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業、中間共有会についての打合せ
73	その他	10月11日	全国 ESDC、北海道 ESDC	面談	探究学習についての意見交換
74	愛知	10月14日	元愛知県職員	面談	愛知県地球温暖化防止活動推進センターの活動経緯についての情報交換
75	愛知	10月15日	名古屋市立日比津中学校	オンライン	総合の時間についての企画相談
76	愛知	10月16日	一般社団法人BUN-KAI(新しい協働コーディネーター)	面談	EPO 中部・協働コーディネーターになっていただけないかについて打合せ
77	愛知	10月20日	愛知県立商業高校	面談	ヒアリング調査
78	愛知	10月21日	中部第一高等学校	面談	ヒアリング調査
79	岐阜	10月23日	岐阜県カウンセラー協会	面談	12/13 カウンセラー交流会登壇の打合せ
80	富山	10月24日	JICA 北陸(2025 年度課題別研修 in 上市町研修生)、PEC とやま、(株)ティー・ツリー・コミュニケーションズほか	面談	JICA2025 年度課題別研修 in 上市町に同行・同席(地域循環共生圏フォーラム in 上市町関連行事への同席・打合せ等)
81	富山	10月25日	かみいち柿取物語イベントの関係者(地域循環共生圏フォーラム in 上市町の登壇者等)	面談	地域循環共生圏フォーラム in 上市町関連イベントへの参加・打合せ等
82	愛知	10月28日	共進化まちなか交流会参加者	オンライン	共進化まちなか交流会事前打合せ
83	長野	10月29日	長野県 NPO センター、芋井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
84	愛知	10月29日	名古屋市立日比津中学校	面談	総合の時間についての登壇の打合せ
85	愛知	10月29日	共進化まちなか交流会参加者	オンライン	共進化まちなか交流会事前打合せ
86	福井	10月30日	合同会社ローカル SD クリエーション、エコ・グリーン・ツーリズム水の里しらやま	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
87	愛知	10月30日	共進化まちなか交流会参加者	オンライン	共進化まちなか交流会事前打合せ
88	愛知	11月6日	共進化まちなか交流会参加者	オンライン	共進化まちなか交流会事前打合せ
89	富山	11月17日	学び合いの場実践セミナー(富山)関係者	オンライン	実践セミナー事前打合せ
90	中部	11月17日	共進化さとやま交流会参加者	オンライン	共進化さとやま交流会事前打合せ
91	福井	11月21日	合同会社ローカル SD クリエーション	オンライン	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
92	富山	11月26日	PEC とやま	面談	富山シティエフエムの番組出演の下打ち合わせ

No.	県区分	実施日	打合せ主体(担当組織・部署)	方法	実施内容
93	福井	11月28日	合同会社ローカルSDクリエイション、エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
94	愛知	12月2日	REC 中部	面談	動画編集打合せ
95	その他	12月8日	ESD 全国センター、地方センター	面談	探究学習と気候変動教育に関する意見交換
96	長野	12月9日	長野県 NPO センター、茅井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
97	愛知	12月10日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業、中間共有会についての打合せ
98	岐阜	12月10日	岐阜県環境カウンセラー協会	面談	12/13 交流会事前打合せ
99	その他	12月19日	ESD 全国センター、地方センター	オンライン	探究学習と気候変動教育意見交換
100	その他	12月26日	九州 ESD センター	オンライン	探究学習と気候変動教育意見交換
101	愛知	1月9日	中部大学ESDエコマネーチーム	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
102	愛知	1月9日	中部 ESD拠点協議会(RCE中部)	面談	実践セミナー動画編集打合せ
103	愛知	1月15日	中部 ESD拠点協議会(RCE中部)	面談	実践セミナー動画編集打合せ
104	長野	1月18日	長野県 NPO センター、茅井地区住民自治協議会	面談	SHミーティング
105	石川	1月19日	金沢星稜大学	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
106	岐阜	1月20日	岐阜県立斐太高等学校	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
107	愛知	1月28日	愛知商業高校	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
108	愛知	1月29日	中部大学第一高校	オンライン	SDGs学生サミット事前会合
109	愛知	1月30日	中部 ESD拠点協議会(RCE中部)	面談	実践セミナー動画編集打合せ
110	愛知	1月31日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	SHミーティング
111	愛知	2月2日	半田市地域循環共生圏推進協議会、半田市	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
112	福井	2月3日	合同会社ローカルSDクリエイション、エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
113	長野	2月4日	長野県 NPO センター、茅井地区住民自治協議会	面談	地域循環共生圏事業支援についての打合せ
114	愛知	2月12日	名古屋市環境局環境企画課	面談	名古屋市 SDGs まちづくり事業について事業者採択評価の説明打合せ
115	長野	2月20日	飯田市デジタル推進課	オンライン	相談案件での成果に対する記者会見打合せ
116	福井	2月27日	合同会社ローカルSDクリエイション、エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま	面談	SHミーティング
117	長野	3月11日	長野県 NPO センター、茅井地区住民自治協議会	オンライン	地域循環共生圏事業支援についての打合せ

### (3) グリーン社会の実現に向けたステークホルダー連携促進業務

#### ア 今年度の実施内容



#### イ 地域共進化ヒアリング（意見交換）の実施

日時：2025年6月25日14：00～16：00

場所：中部大学リサーチセンター中部高等学術研究所デジタルアースルーム

意見交換参加者：

中部大学 福井弘道教授 古澤礼太教授

環境省中部地方環境事務所 小森繁所長、縄野正衡環境対策課課長補佐

中部環境パートナーシップオフィス 清本三郎統括、原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

##### ■福井弘道教授・古澤礼太教授との意見交換要旨（2025年6月25日）

福井氏と古澤氏は、国際情勢の緊迫化や国内の人口減少に伴い、地域コミュニティの成熟が鈍化しており、地域環境保全にも影響を与えかねないと指摘した。その中で、人づくりを中心とした地域の関係者間の相互成長、すなわち「共進化」の概念が重要であると述べた。

地域共進化を支える基盤として、自然資本の活用が不可欠であり、藤前干潟などの事例のように保全と活用の価値を具体的に可視化する方法論の整備が必要であると強調した。また、農業・林業・食料生産などの社会経済活動も自然資本の価値と結びつけて評価することが求められると述べた。

さらに、共進化には小さな共進化（社会レベルでの関係者間の相互作用）と大きな共進化（人・社会・自然・多分野を横断する広義の相互作用）があり、地球規模のワンヘルスの視点を含めたエビデンスに基づく評価が重要であるとした。今後は、環境白書や既存の取組を参照しつつ、具体的な共進化の推進策を議論していくことが必要である。

日時：2025年6月30日10:00～12:00

場所：中部圏社会経済研究所

意見交換参加者：

中部圏社会経済研究所 松田直己企画調査部長

環境省中部地方環境事務所 小森繁所長、縄野正衡環境対策課課長補佐

中部環境パートナーシップオフィス 清本三郎統括、原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

■松田直己部長との意見交換要旨（2025年6月30日）

松田氏は、共進化を関係する主体が自らの価値観を持ちながら相違を乗り越え、主体的に変化を進めるプロセスと位置づけ、地域における葛藤や対話の過程自体が学びと成長の場であると述べた。

人レベルの共進化は意識や行動の変容として、社会レベルの共進化は起業や地域経済の変化として現れるとし、ESDを通じた人づくりが個人の共進化を促し、社会全体の共進化につながると指摘した。

地域共進化の推進には、成果（所産）の実感が重要であり、それを具体的に記録・評価することが持続可能性の確保に資すると述べた。

さらに、自治体や中間支援組織など多様な主体をつなぐ「真ん中にいる人」の役割が不可欠であり、経済的な持続性の確保が今後の課題であると強調した。

日時：2025年8月11日10:00～11:00

場所：愛・地球博記念公園

意見交換参加者：

名古屋大学大学院環境学研究科特任教授 東海学園大学教授 杉山範子

中部環境パートナーシップオフィス 清本三郎統括、原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

■杉山範子教授との意見交換要旨（2025年8月11日）

杉山氏は、「共進化」を多様な主体が交流しながら互いを高め合うプロセスと捉え、名古屋大学の持続的共発展教育研究センターの理念「共に創る持続可能な社会」にも通じる考え方と述べた。特に、世界首長誓約（GCoM）では自治体間や関係主体が刺激し合いながら気候変動対策を進めており、これは共進化の実例であるとした。

また、共進化のスケール感の不明確さを課題として指摘し、個人から自治体、地球規模まで多層的に連携する仕組みを具体化する必要があると述べた。

さらに、気候変動対策は全主体が取り組むべき基盤的課題であり、日本ではその優先度が低いと懸念を示した。あらゆるスケールでの取組の底上げと、リーダーシップを発揮する自治体を核とした共進化の推進体制の重要性を強調した。

日時：2025年8月27日9:30～10:30

場所：名古屋大学環境総合館

意見交換参加者：

名古屋大学 附属持続的共発展教育研究センター教授 高野雅夫

中部環境パートナーシップオフィス 清本三郎統括、原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

■高野雅夫教授との意見交換要旨（2025年8月27日）

高野氏は、地域共進化を考える上で「ネットゼロとネイチャーポジティブの両立」を課題として挙げ、再エネ導入が地域の自然環境を損ねるなど、地域循環共生圏の実践に内在する矛盾を指摘した。

また、持続可能な地域づくりには環境省のみならず農水省の農村RMOなど他制度との連携が重要で

あり、経済的・社会的に強い地域が地域循環共生圏として存続すると述べた。  
中山間地域の担い手としては、地域住民と関係人口の協働が鍵であり、都市住民の主体的関与を促す仕組み（補助金や交流制度）の整備が求められるとした。さらに、人材継承とノウハウ伝達が今後の大きな課題であると強調した。

最後に、地域の多様な主体が制度を横断的に活用しながら課題対応を進める場こそが共進化の現場であり、既存行政を補完する「第二の役所機能をもつプラットフォーム」の存在が重要であると述べた。

日時：2025年8月27日10:00～11:30

場所：名古屋市立大学滝子キャンパス3号館

意見交換参加者：

名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部教授 地域活性学会 鶴飼宏成

中部環境パートナーシップオフィス 清本三郎統括、原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

■鶴飼宏成教授との意見交換要旨（2025年8月27日）

鶴飼氏は、地域共進化を進める上で、行政・企業・学術・市民が協働するクワトロヘリックモデルの重要性を強調した。地域課題の解決には生活者視点が不可欠であり、大学は助言にとどまらず地域への実践的関与が求められるとした。

また、単なるネットワークではなく課題解決型のプラットフォームが必要であり、市民や専門家を交えた新しい枠組みが地域商業などの再生に寄与すると指摘した。

さらに、共進化の前提として成熟した市民社会の形成を挙げ、市民の課題意識や学び直しの機会（リカレント教育）の整備、市民起業家の育成と支援体制づくりが重要であると述べた。

日時：2025年9月19日12:00～13:00

場所：拓殖大学王子国際キャンパス 第28回（2025年度）日本環境共生学会学術大会会場

意見交換参加者：

愛知学院大学 総合政策学部総合政策学科 教授 森下英治（日本環境共生学会副会長・常務理事）

名古屋大学 未来材料・システム研究所 教授 林希一郎（日本環境共生学会常務理事）

中部環境パートナーシップオフィス 原理史中部地方ESD活動支援センター責任者

■森下英治教授・林希一郎教授との意見交換要旨（2025年9月19日）

森下氏および林氏は、地域循環共生圏が自然資本や人的資本を基盤とする概念である一方、自治体では人口増加や経済活性化が優先され、環境課題の認識が十分でない現状を指摘した。自然環境は農業や地域産業の基盤であるが、その価値が無意識のうちに利用されている点が課題であると述べた。また、環境問題を社会に内在化させるには、地域の活力と環境を結びつけ、地域特性を踏まえた共感形成が重要であるとした。成功事例の単純な横展開には限界があると指摘した。

共進化については、多様な主体の協働を促す意義は認めつつも、概念が抽象的であり、実質的な取組につなげる工夫が必要であると述べた。あわせて、自然資本全体を捉えた統合的な意思決定の必要性を強調した。さらに、自然資本を基盤とする地域づくりには、便益と負担の関係を意識し、将来世代への継承を見据えた方向性の共有が重要であると述べた。

## ウ 地域共進化・まちなかローカルSDGs 交流会の開催

### ①日時

- 2025年11月27日(木) 13:30~16:30

### ②会場

- ウィンクあいち11階・会議室1109(愛知県名古屋市中区)

### ③出席者

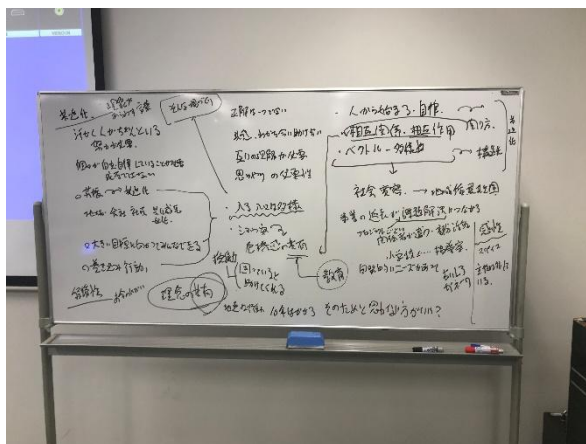
- 6名(リスト以外にその他2名)

鵜飼 宏成	名古屋市立大学大学院 経済学研究科・経済学部 教授
名畑 恵	錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役 CEO
星野 博	NPO 法人志民連いちのみや 代表
鳥原 久資	株式会社マルワ 代表取締役
石川 麻利江	株式会社おとうふ工房いしかわ 社長室
鈴木 和人	株式会社鈴六 代表取締役

- 中部地方環境事務所環境対策課長補佐 縄野
- EPO 中部 清本、原

### ④協議項目

- (1) 趣旨説明 地域から始める共進化の意義  
環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長補佐 縄野 正衡  
EPO 中部 原 理史
- (2) 話題提供 1 まちなかにおける共進化の可能性と広がり  
名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部 教授 鵜飼 宏成
- (3) 話題提供 2 現場からの声:暮らし・なりわい・まちづくりの挑戦  
錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役 CEO 名畑 恵  
NPO 法人志民連いちのみや 代表 星野 博  
株式会社マルワ 代表取締役 鳥原 久資  
株式会社おとうふ工房いしかわ 社長室 石川 麻利江  
株式会社鈴六 代表取締役 鈴木 和人
- (4) ディスカッション「実践者のつながり・共進化でWellbeingな地域をどう育むか」  
コーディネーター: EPO 中部 原 理史



## エ 地域共進化・さとやまローカルSDGs 交流会の開催

### ①日時

- 2025年12月15日(月) 13:30~16:30

### ②会場

- 長野市生涯学習センター第3学習室(長野県長野市)

### ③出席者

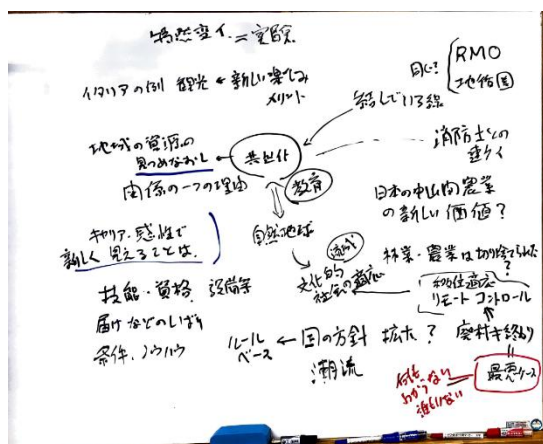
- 6名

高野雅夫	名古屋大学 附属持続的共発展教育研究センター教授
吉田喜美夫	長野県NPOセンター コーディネーター
岸 豊	茅井地区住民自治協議会 地域活性化推進員
余頃友康	NPO法人フォレスト工房もくり副理事長 フォレストデザイン代表
浅輪剛博	一般社団法人 自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO)
中畷 阿児	NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎

- 中部地方環境事務所環境対策課長補佐 縄野
- EPO 中部 清本、原

### ④協議項目

- (1) オープニング/趣旨説明 地域から始める共進化の意義  
中部地方環境事務所 環境対策課長補佐 縄野正衡  
EPO 中部 原 理史
- (2) 話題提供1 さとやまにおける共進化の可能性と広がり  
名古屋大学 附属持続的共発展教育研究センター教授 高野雅夫
- (3) 話題提供2 現場からの声:暮らし・なりわい・さとづくりの挑戦  
長野県NPOセンター コーディネーター 吉田喜美夫  
茅井地区住民自治協議会 地域活性化推進員 岸 豊  
NPO法人フォレスト工房もくり副理事長 フォレストデザイン代表 余頃友康  
一般社団法人 自然エネルギー共同設置推進機構 (NECO) 浅輪剛博  
NPO法人 WACおばま、NPO法人 若狭くらしに水舎 中畷 阿児
- (4) ディスカッション「実践者のつながり・共進化でWellbeingな地域をどう育むか」  
コーディネーター: EPO 中部 原 理史



## オ 中部共進化フォーラムの開催

### ①イベント名

中部「共進化」フォーラム～ウェルビーイングを体感できる地域循環共生圏を目指して～

### ②日時

- 2026年3月3日（火）13：00～16：30

### ③会場

- ウィンクあいち 会議室 1101(愛知県名古屋市)

### ④参加者

- 83名（登壇者11名、会場参加20名、zoom参加52名）

### ⑤プログラム

- あいさつ 中部地方環境事務所 所長 松下雄介
- 趣旨説明・経緯説明「地域から始める共進化の意義」  
環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス
- 基調講演「環境基本計画における共進化」  
環境省大臣官房総合政策課環境計画室 室長 黒部一隆
- 話題提供 現場からの声：暮らし・なりわい・地域づくりの挑戦  
錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役 CEO 名畑 恵  
株式会社おとうふ工房いしかわ社長室 室長 石川麻利江  
NPO 法人フォレスト工房もくり副理事長、フォレストデザイン代表 余頃友康  
一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構（NECO） 浅輪剛博  
福井県坂井市役所生活環境部環境推進課 課長 北川直規  
愛知県大府市役所市民協働部環境課 環境政策係長 植木 孝
- パネルディスカッション「ウェルビーイングのための共進化とは」  
パネリスト  
環境省大臣官房総合政策課環境計画室 室長 黒部一隆  
名古屋大学附属持続的共発展教育研究センター 教授 高野雅夫  
名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部 教授 鶴飼宏成  
東海学園大学教授、世界首長誓約/日本事務局長 杉山範子  
コーディネーター：中部環境パートナーシップオフィス
- 講評 中部大学中部高等学術研究所長、国際GISセンター長・教授 福井弘道

### ⑥アーカイブ配信

- <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/35796.html>



⑦開催案内チラシ

# 中部 「共進化」 フォーラム

～ウェルビーイングを体感できる地域循環共生圏を目指して～

環境基本計画が示す「共進化」を、地域の実践から読み解く。次の一步を考えるフォーラムです。

第六次環境基本計画で示された「共進化」をテーマに、中部地域における地域循環共生圏の取組や多様な実践事例を共有し、ウェルビーイング (Well-being) につながる地域づくりの可能性を考えるフォーラムを開催します。

日 時

2026年 3月3日 火 13:00-16:30

場 所

ウイングあいち 1101 会議室 (定員 60名) / オンライン併用 (定員 80名・ZOOM 使用)

対 象

行政・企業・一般市民 等

申 込

会場参加

右の QR コード、下の URL から  
お申し込みください。

<https://forms.gle/GVLBm8DUAWtgRGr7>



オンライン (zoom) 参加

右の QR コード、下の URL から  
zoom の参加登録をお願いいたします。

<https://us02web.zoom.us/join/1234567890>



★登録すると @zoom.us または @epo-chubu.jp の  
アドレスから招待メールが届きます。

## プログラム

- |             |                                |
|-------------|--------------------------------|
| 趣旨説明と経緯説明   | 地域から始める共進化の意義                  |
| 基調講演        | 環境基本計画における共進化                  |
| 話題提供        | 現場からの声：暮らし・なりわい・地域づくりの挑戦 (6 題) |
| パネルディスカッション | 「ウェルビーイングのための共進化とは」            |

主 催：環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)



## 中部「共進化」フォーラム

～ウェルビーイングを体感できる地域循環共生圏を目指して～

令和6年5月に策定された第六次環境基本計画では、環境保全を通じて現在及び将来の国民一人ひとりのウェルビーイング（Well-being、高い生活の質）を実現することを目的とし、環境政策と経済・社会的課題を統合的に解決していく方向性が示されました。その中で、「政府・市場・国民（市民社会・地域コミュニティ）の共進化」が政策展開の重要な考え方として位置づけられています。

本フォーラムでは、地域循環共生圏の取組を基盤として進められてきた中部地域の実践や議論を共有し、地域における共進化の可能性と、ウェルビーイングにつながる地域づくりの今後の方向性について考えます。

【日時】 2026年3月3日（火）13:00～16:30（休憩あり）

【主催】 環境省中部地方環境事務所 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### 【開催形式・会場】

会場参加 ウィンクあいち 1101 会議室（定員 60 名）

オンライン参加 Zoom 併用（定員 80 名）

現地参加申込 <https://forms.gle/GVLBm8DUAWtqgRGr7>

オンライン参加申込 <https://us02web.zoom.us/meeting/register/ianR8egCR3KzLACaJI2nIA>

参加費無料（要事前申込）

### 【プログラム（予定、敬称略）】

- あいさつ 環境省中部地方環境事務所 所長 松下雄介
- 趣旨説明・経緯説明「地域から始める共進化の意義」  
環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス
- 基調講演「環境基本計画における共進化」  
環境省大臣官房総合政策課環境計画室 室長 黒部一隆
- 話題提供「現場からの声：暮らし・なりわい・地域づくりの挑戦」  
錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役 CEO 名畑 恵  
株式会社おとうふ工房いしかわ社長室 室長 石川麻利江  
NPO 法人フォレスト工房もくり副理事長、フォレストデザイン代表 余頃友康  
一般社団法人自然エネルギー共同設置推進機構（NECO） 浅輪剛博  
福井県坂井市役所生活環境部環境推進課 課長 北川直規  
愛知県大府市役所市民協働部環境課 環境政策係長 植木 孝
- パネルディスカッション「ウェルビーイングのための共進化とは」  
パネリスト  
環境省大臣官房総合政策課環境計画室 室長 黒部一隆  
名古屋大学附属持続的共発展教育研究センター 教授 高野雅夫  
名古屋市立大学大学院経済学研究科・経済学部 教授 鶴飼宏成  
東海学園大学教授、世界首長誓約/日本事務局長 杉山範子  
コーディネーター  
中部環境パートナーシップオフィス
- 講 評 中部大学中部高等学術研究所長、国際 GIS センター長・教授 福井弘道

## カ 他主催による勉強会等への協力・参加

- 他主体が主催する次の2つの勉強会開催に協力し、当日出席した。

会合	主催	開催日	開催場所	会合の内容	協力内容・当日の役割等
北陸 JICA 研修会	独立行政法人 国際協力機構 北陸センター	10月24日	富山県 上市町	<ul style="list-style-type: none"> <li>3カ国6名の外国人研修生を対象にした、自然共生社会づくりの取組事例から学ぶ研修</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域循環共生圏の概念と活動評価検討業務について紹介(講師登壇)</li> </ul>
いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム 2026 in Aichi	「いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話プロジェクト」推進委員会	2月28日	愛知県 長久手市	<ul style="list-style-type: none"> <li>4つの流域圏を取り上げ、それぞれの地域で持続可能な社会づくりに関わる団体の取組の発表共有。関係者の交流の場づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組の関係者としての参加</li> <li>ポスターセッションの参加と説明</li> <li>交流会への参加</li> </ul>

## (4) 全国事業に関わる業務

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター等のネットワーク活用と連携の確保・強化を図るため、次表の GEOC 等が実施する会議へ出席した。

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等
(協働取組の効果最大化に関する検討を行う会議) 基本業務の方向性 検討会議	2月5日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【議題1】共生圏 PF 事業における地方 EPO の役割と成果(早稲田大学・野津先生の調査報告)</li> <li>【議題2】基本業務における地方 EPO の役割と成果</li> <li>【議題3】R8 年度以降の成果収集の仕組み検討</li> </ul>
全国 EPO 連絡会議	第1回 6月12日 -13日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【議題1】EPO ネットワーク全体・各地方 EPO の年間計画案について</li> <li>【議題2】EPO プロジェクト業務について</li> <li>【議題3】令和8年度 GEOC30周年に向けて EPO 受託者会議</li> </ul>
	第2回 11月4日 -5日	ハイブリッド	長浜商工 会議所 (滋賀県 長浜市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【議題1】基本業務のこれまで</li> <li>【議題2】基本業務のこれから</li> <li>【議題3】GEOC30周年の概要</li> <li>EPO 受託者会議</li> <li>エネシフ湖北による地域循環共生圏の西浅井町での取組を視察</li> </ul>
	第3回 1月15日 -16日	リアル	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>【議題1】EPO ネットワークの基盤整備</li> <li>【議題2】来年度に実施業務について</li> <li>【議題3】来年度以降を見据えた企画概要について</li> <li>EPO 受託者会議</li> </ul>

## (5) EPO ネットワークとの情報交換

- GEOC が開催する、EPO ネットワークの強化等に関するミーティングへ出席した。




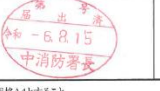
区分	開催日	開催方法	実施内容等(次第等から抜粋)
EPO ネットワーク強化に関する勉強会 (EPO ネットワーク情報交換会合)	9月30日	オンライン	<ul style="list-style-type: none"> <li>趣旨説明</li> <li>話題提供「ヨーロッパの LEADER 事業における地域での取組において、中核的担い手が果たしている中間支援機能」飯田 恭子氏(農林水産省 農林水産政策研究所 上席主任研究官)</li> <li>意見交換「飯田先生の話題提供を受けて」平岡 俊一氏(滋賀県立大学環境政策・計画学科 准教授)×GEOC 江口</li> <li>質疑応答・感想共有</li> </ul>

## (6) 施設の維持・管理

### (ア) オフィスの防火・防災管理及び解錠・施錠管理

- 防火・防災管理については、消防法に則り、EPO 中部の常勤スタッフが 2018 年度に「防火・防災管理者」講習を受講した上で消防計画書等を作成、管轄消防署への届出を行い、防火・防災管理者講習から 5 年度目にあたる 2023 年度に、名古屋市の防火・防災管理再講習を同スタッフが受講し、防火・防災管理者を継続して務めている。
- 日常的な防火・防災対応として、身のまわりの防火・防災に関わるチェックを定期的に（週 2 回程度）実施し、関係書類等を「防火管理台帳」で保管している。
- 入居ビル内全テナントを対象にした防火・防災検査が 7 月 28 日に実施され、消防署に提出した防火・防災点検結果報告書を中部地方環境事務所とも共有した。
- 11 月 26 日に、入居ビルの総合防災訓練があり、スタッフが参加した。

### 【防火・防災管理点検結果報告書】

別添様式第1		防火対象物点検結果報告書	
名古屋市中消防署長 殿		令和 6 年 8 月 15 日	
管理権原者 住 所 名古屋市中区三の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 内田 正明 電話番号 052-955-2130		管理権原者 住 所 名古屋市中区三の丸2-5-2 中部地方環境事務所 氏 名 総務課長 内田 正明 電話番号 052-955-2130	
下記のとおり防火対象物の点検を実施したので、消防法第8条の2の2第1項の規定に基づき報告します。			
記			
防 火 対 象 物	所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号	所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号	所在地 名古屋市中区錦二丁目4番3号
	名 称 錦パークビル	名 称 錦パークビル	名 称 錦パークビル
	4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス	4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス	4階 環境省中部環境パートナーシップオフィス
	用途※1 事務所	用途※1 事務所	用途※1 事務所
	構造・規模 耐火造 地上 22層 地下 4階	耐火造 地上 22層 地下 4階 PFI 2階	耐火造 地上 22層 地下 4階 PFI 2階
	床面積 3,335.78㎡ 延べ面積 27,227.54㎡	床面積 3,335.78㎡ 延べ面積 27,227.54㎡	床面積 3,335.78㎡ 延べ面積 27,227.54㎡
	点検実施日 令和 6 年 7 月 23 日	点検実施日 令和 6 年 7 月 23 日	点検実施日 令和 6 年 7 月 23 日
	消防法施行規則4条の2の6第2項の適用 <input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号	消防法施行規則4条の2の6第2項の適用 <input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号	消防法施行規則4条の2の6第2項の適用 <input type="checkbox"/> 第1号 <input type="checkbox"/> 第2号 <input type="checkbox"/> 第3号
点 検 者	住 所 名古屋市中区秋葉二丁目90番地 電話番号 052-589-3249	住 所 名古屋市中区秋葉二丁目90番地 電話番号 052-589-3249	住 所 名古屋市中区秋葉二丁目90番地 電話番号 052-589-3249
	氏 名 渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)	氏 名 渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)	氏 名 渡邊 岳成 (能美防災株式会社 中部支社)
	講習機関名 免状交付年月日 免状交付番号 有効期限	講習機関名 免状交付年月日 免状交付番号 有効期限	講習機関名 免状交付年月日 免状交付番号 有効期限
	(財)日本消防協会 令和5年12月13日 第441600203号 令和11年3月31日	(財)日本消防協会 令和5年12月13日 第441600203号 令和11年3月31日	(財)日本消防協会 令和5年12月13日 第441600203号 令和11年3月31日
	交付欄※2 経過欄※2 備考※2	交付欄※2 経過欄※2 備考※2	交付欄※2 経過欄※2 備考※2
 		 	
備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。 2 ※1欄は、建築物等の場合によっては空欄欄に属する部分の情報も記入すること。 3 消防法施行規則4条の2の6第2項の適用の際は、適用される規定がある場合、該当する規定の□にレ点を入記すること。 4 ※2欄は、記入しないこと。			

### (イ) 施設・設備の維持管理

- 来館者が快適に利用できるよう、オフィス内を常に整頓・整理し、施設・設備の維持管理を行っている。

### (ウ) その他オフィス運営に係る事務等

- オフィスの運営に必要な機材等を揃え、その使用料の支払等の維持管理に必要な事務を行っている。

## (7) ネットワークの維持活用

- 業務を通して把握した情報（EPO 業務に協力いただいた関係者等のリストや情報等）については、中部地方環境事務所から提示指示があった場合に、都度、整理した情報提供を行った。



## 4 協働取組の促進のための業務

### (1) 自治体・協働コーディネーターのネットワークを活用した環境教育の推進

#### ア 中間支援をテーマにしたセミナーの開催

##### ① イベント名

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025

「ローカルSDGsの実践とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりに必要なこと・大切なこと～」

##### ② 日時

- 2025年12月5日（金）13:45～16:15

##### ③ 開催方法・配信会場

- 開催方法：オンライン（zoom参加、YouTube視聴）
- 配信会場：ウインクあいち 会議室1308（愛知県名古屋市）

##### ④ 参加者数

- 25人（ライブ配信視聴20、zoom参加1、会場4）

##### ⑤ プログラム

1. 環境省の地域循環共生圏事業と中間支援 環境省中部地方環境事務所
2. 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおける中間支援とは 島岡 未来子 氏（早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授／ 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授）
3. 【取組紹介】地域の財産“情報”を活かす中間支援の取組 吉田 喜美夫 氏（認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター）
4. 【トークセッション】地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは パネリスト： 島岡 未来子 氏（早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授／ 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授） 吉田 喜美夫 氏（認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター） 堺 勇人 氏（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長） 水上 聡子 氏（アルマス・バイオコスモス研究所 代表） コーディネーター： 原 理史（EPO 中部）



## ⑥アーカイブ配信

- <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>

## ⑦開催案内チラシ

地域循環共生圏づくり支援セミナー 2025

# ローカル SDGs の実践とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりで必要なこと・大切なこと～

ライブ配信：2025年 12月5日 (金) 13:45～ (16:15頃終了)

- YouTube 配信を自由に視聴できます。  
→EPO 中部ウェブサイトから視聴  
<http://www.epo-chubu.jp>
- ライブ配信終了後もアーカイブ配信します。
- 前回セミナー 2024 も公開中です。
- 質問等されたい方は zoom 参加が可能です。  
→zoom 参加登録：  
<https://us02web.zoom.us/join/6AgLYDkkQEiXfJKHcsRWdQ>  
※EPO 中部ウェブサイトからも登録可能です。  
※登録すると @zoom.us または @epo-chubu.jp  
アドレスから招待メールが届きます。



1. 【ご挨拶／はじめに】環境省の地域循環共生圏事業と中間支援  
環境省中部地方環境事務所環境対策課
2. 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおける中間支援とは  
島岡 未来子 氏 (早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター教授/  
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)
3. 【取組紹介】地域の財産“情報”を活かす中間支援の取組  
吉田 喜美夫 氏 (認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター コーディネーター)
4. 【トークセッション】地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは  
パネリスト： 島岡 未来子 氏 (早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授/  
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)  
吉田 喜美夫 氏 (認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター コーディネーター)  
堺 勇人 氏 (一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長)  
水上 聡子 氏 (アルマス・バイオコスモス研究所 代表)

コーディネーター：原 理史 (EPO 中部)

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス



## イ 協働コーディネーターによる意見交換会の開催

### ①日時

2025年9月3日（水）13:15～16:15

### ②会場

- ウィンクあいち 会議室 1307（愛知県名古屋市中区）



### ③出席者

- 協働コーディネーター 9名

堺 勇人	（一社）環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長
茶木 勝	株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ 代表取締役 白萩地域山村活性化協議会 純国産メンマプロジェクトリーダー
寺田卓二	一般社団法人ネクストステップ研究会 代表
谷崎仁美	一般社団法人ネクストステップ研究会
中里 茂	環境カウンセラー
中嶋阿児	NPO 法人WACおばま 理事／NPO 法人若狭くらしに水舎 代表理事
三田村佳政	合同会社ローカルSDクリエーション 社長
山田 勇	特定非営利活動法人わおん
吉田喜美夫	認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター コーディネーター

- 事務局 5名

縄野正衡	環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
高木美里	環境省中部地方環境事務所 環境対策課 里海づくり推進専門官
清本三郎	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
原 理史	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
富田夏子	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

### ④実施内容

	プログラム	時間	内容 協働コーディネーターからの報告など
1	近況報告／新しい協働コーディネーターさんの紹介	40分 (3-5分×8人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【全員】活動の近況報告など</li> <li>● 新しい協働コーディネーターさんのご紹介：谷崎さん</li> </ul>
2	《話題提供1》 中部地方環境事務所からの情報提供・共有等	15分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 環境省施策・事業の紹介</li> <li>● 地域循環共生圏づくりにおける中間支援主体への期待 など</li> </ul>
3	《話題提供2》 協働コーディネーターと環境省(及びEPO)との関連事例 地域循環共生圏事業ほか、環境省及びEPO関連事業等の紹介	25分 (5分×5人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【三田村さん・吉田さん】地域循環共生圏事業による中間支援主体としての取組紹介</li> <li>● 【寺田さん】「令和の里海づくり」モデル事業(2024)による取組の紹介</li> <li>● 【塚さん・茶木さん】地域循環共生圏フォーラムin上市(2024)と今年度の企画</li> </ul>
4	《話題提供3》 EPO中部からお知らせ等	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>● EPO中部主催イベントのお知らせ、地域循環共生圏づくり支援セミナー、活動評価検討 など</li> </ul>
	休憩	10分	
5	上記1～4への 質問タイム & 意見交換	80分 ※残りの時間で	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域活動における課題感、課題解決方法、支援ニーズ</li> <li>● 中間支援(中間支援機能)のあり方</li> <li>● 新しい協働コーディネーターの候補・推薦 など</li> </ul>
終了後 16:15～ 事務局は撤収作業、その間、協働コーディネーターの皆さんは意見交換の続きのフリートークタイム 16:45頃 懇親会会場へ移動			



定例開催の地域循環共生圏フォーラムin富山県上市町2025

### 地域課題を地域資源にする ローカルSDGsの共創へ

12月6日(土) 13:30～16:00

1. 地域課題を地域資源にする  
2. 地域課題を地域資源にする  
3. 地域課題を地域資源にする  
4. 地域課題を地域資源にする  
5. 地域課題を地域資源にする  
6. 地域課題を地域資源にする

- 2025年12月6日(土) 13:00～16:00に、富山県上市町で開催。
- 参加は会場・カミールホールでの参加のみ。
- 昨年度開催時から、協働コーディネーターの**茶木さん**が開催協力、**琴氏**がコーディネーター・司会等として登壇。

**プログラム**

1. ごあいさつ  
環境省中部地方環境事務所
2. はじめに：昨年度フォーラムをふりかえる  
塚 勇人さん(PEGとやま 常務理事/事務局長)
3. 先進事例の紹介：クラフトジンを能登の魅力づくり(仮)  
松田 行正さん(NTG代表)
4. 実践報告：放置された木の活用(仮)  
高井 昭博さん(カミチノラジオ「カミラジ」)局長)
5. ディスカッション！  
～市ローカルSDGs共創ワークショップ～  
～かみいち採取物語を題材に～  
ファシリテーター：EPO中部
6. 終わりにあたり／これからに向けて

5. そのほかのお知らせ事項

**令和7年版 環境白書を読む会(中部地方環境事務所主催/EPO中部運営)**

- 2025年10月22日(水) 16:20～17:10頃 オンライン開催
  - 近日中に、中部地方環境事務所・EPOのウェブサイトで開催募集広報を展開予定。

**新しい協働コーディネーターさん**

- 谷崎(小淵)仁美さん(一般社団法人ネクストステップ研究会)
  - 本日出席⇒ご本人から自己紹介
- 箕浦希奈さん(一般社団法人BUN-KAI)
  - 寺田さんからのご推薦。
  - 9月中旬に直接お会いしてご意向等確認したうえで、協働コーディネーターに加わっていただく予定です。

おおむね林整備プロジェクト  
未利用資材の活用  
市民協働の場づくり  
カーボンガティブ

⑥意見交換会で提示された意見等

参考) 2026年9月実施・協働コーディネーター意見交換会で提示された主な意見等

**行政との連携、中間支援のあり方に関する課題に関する意見**

- 多くの自治体において、職員は業務過多で、若手職員は現場経験や知識が不足しており、地域課題解決に対するビジョンを持ってない状況がうかがえる。また、行政側担当者が変わるたびに過去の積み上げがリセットされ、活動がゼロベースに戻ってしまうことが多い。
- 行政内同士や、他地域行政機関との連携が不十分であり、施策が進められる際に市民活動団体への相談や根回しがなされないこともある。
- 行政職員の中から、新しい価値観や活動に対する「感度のよい人」を見極めて進めることも重要となる。
- 行政が中間支援の役割を外部的化する際、その価値を適切に評価し、コンサルタントと同等の予算や権限での委託が必要である。地域の取組に関するノウハウは、外部のコンサルタントではなく、地域の中に蓄積されるべきである。

**事業者との連携、非経済的価値の評価の必要性に関する意見**

- 企業評価では、財務評価だけでなく、SDGsや環境への取組等の非財務情報(非市場的価値)でも評価されつつある。単なるCSRでなく、本業維持と資金調達のために地域貢献等に取り組む潮流がみられる。また、地域金融機関は企業の経営状況や関心事項の「情報集積地」であり、企業の非財務情報の格付けも行っている。地域金融機関を通じて、環境に関心を持つ企業を巻き込み、企業と本業レベルで地域活動との連携を構築することが有効となる。
- 地域資源を活用した活動(例：アブラガリの活用等)は、量産化やコスト面で安価な外国産などの競合相手に勝つことは難しい。競争に勝つためには、社会的価値(例：トレーサビリティ、ストーリー性)や環境的価値(例：若狭湾の環境改善)といった非経済的な側面で差別化を図ることも重要である。

## (2) 自治体・協働コーディネーターとの連携による実践的な取組

### ア フォーラム開催にあたっての地域側との調整等

- 富山県上市町で地域循環共生圏フォーラムを開催する企画検討を進めるにあたり、4月～6月にかけて、富山県在住の協働コーディネーターと計3回の企画打合せを実施した。
- 7月には協働コーディネーター、「放置された柿の活用」プロジェクトの中心メンバーを交えた作戦会議を行った。
- その後、8月、10月にも協働コーディネーターとの打合せを実施し、フォーラムの企画概要（プログラムや登壇者、参加者ディスカッションの方法・内容等）を確定させた。
- 10月24日に、JICA北陸が主催する自然共生研修が上市町で実施されることになり、外国人研修生が聴講する講座で、本フォーラム登壇者が取組発表を行い、翌25日に「放置された柿の活用」改め、「かみいち柿取物語」プロジェクトの柿の収穫体験イベントが試行的に実施されることになり、一連の催事に関係者も参加し、情報共有を行った。また、これらの取組をEPO中部主催フォーラムの場でも報告いただくことになった。

### 参考) 富山県上市町におけるローカルSDGs展開支援の背景・経緯

#### 2024年に「地域循環共生圏フォーラムin上市町」(全2回)を開催

- ・ 協働コーディネーターの堺氏と茶木氏が企画、登壇、ファシリテーターとして協力
- ・ 第1回フォーラムのワークショップで地域課題解決/地域資源活用のローカルSDGsアイデアの提案
- ・ 第2回フォーラムでローカルSDGsアイデアの発表と実現に向けたディスカッション

#### フォーラム参加者から提案があった4つのアイデア

- 放置された柿の活用
- KAMIICHIハーブティーストーリー ～健康で美しく～
- ヘチマ×和スタイル＝ヘチ和(ヘチ和スタイル)
- 放置竹林対策(竹の資源化と循環型農業を目指して)

#### 今年度「放置された柿の活用」の試行実施

- 10月24日に、堺氏(PECとやま)が事務局を務めたJICA研修プログラム参加者(3カ国6名)や上市町住民(飛び入り参加)が参加して、柿の収穫体験イベントを試行的に実施。
- プロジェクト名「かみいち柿取物語」として、有志で取組が進められる予定。
- プロジェクトに対し、協働コーディネーター・堺氏による中間支援を、同・茶木氏(特産品の開発・販売の経営者)による共創を期待。



昨年度フォーラム第2回での発表資料より(アイデア①の資料)

取り組み  
・ 地域との連携  
・ 人の流れをつくる



2025年10月にJICA研修生や地域住民が参加する柿の収穫体験イベントを試行



## イ 上市ローカル SDGs アイデア実践報告フォーラム

### ①イベント名

地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025  
「地域課題を地域資源にするローカル SDGs の共創へ～」

### ②日時

- 2025年12月6日(土) 13:30~16:00

### ③会場

- 上市町まちなか交流プラザ 4階・カミールホール(富山県上市町)

### ④参加者数

- 12人

### ⑤プログラム

1. ごあいさつ：地域循環共生圏とローカル SDGs 環境省中部地方環境事務所
2. はじめに：昨年度開催したフォーラムをふりかえって 堺 勇人 さん(一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事/事務局長)
3. 先進事例の紹介：クラフトジンで能登の魅力発信 松田 行正 さん(NTG 代表)
4. 実践報告：放置された柿の活用 高井 昭博 さん(かみいち柿取物語 代表/カミイチノラジオ「カミラジ!」局長)
5. ディスカッション：上市ローカル SDGs 共創ワークショップ ファシリテーター：EPO 中部
6. 終わりにあたり/これからに向けて



## ⑥開催案内チラシ

地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025

# 地域課題を地域資源にする ローカル SDGs の共創へ

2024 年度から続いて第3回目となる地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町を今年度も開催します。前回提案いただいた地域課題解決型ローカル SDGs のアイデア「放置柿の活用；かみいち柿取物語」の実践報告や、ローカルSDGs共創ディスカッションを行います。お初の方もどなたも、お気軽にご参加ください。

開催日時：2025年 12月6日（土）13:30～（16:00 終了）

会場：上市町まちなか交流プラザ 4階・カミールホール

富山県上市町西中町 11 <http://www.comeal.com/access/>

参加方法：下記 URL または QR コードの申込フォーム、EPO 中部ウェブサイトからどうぞ。

申込フォーム <https://forms.gle/QP73nZl7p6kCGVPr9>



EPO 中部 検索



1. ごあいさつ：地域循環共生圏とローカル SDGs  
環境省中部地方環境事務所
2. はじめに：昨年度開催したフォーラムをふりかえって  
堺 勇人 さん（一般社団法人環境市民プラットフォームとやま 常務理事／事務局長）
3. 先進事例の紹介：クラフトジンで能登の魅力発信  
松田 行正 さん（NTG 代表）
4. 実践報告：放置された柿の活用  
高井 昭博 さん（かみいち柿取物語 代表／カミイチノラジオ「カミラジ！」局長）
5. ディスカッション：上市ローカル SDGs 共創ワークショップ  
ファシリテーター：EPO 中部
6. 終わりにあたり／これからに向けて

主催：環境省中部環境パートナーシップオフィス

協力（EPO 中部・協働コーディネーター）：

株式会社ティー・ツリー・コミュニケーションズ、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PEC とやま）



## ウ 地域循環共生圏づくり（ローカル SDGs 実践）事例集の作成・公開

### ①実施内容

- 協働コーディネーターによるローカル SDGs 実践（地域循環共生圏づくり、及びその中間支援、地域課題解決、地域資源活用等）の取組事例集として、協働コーディネーターが取組紹介を行う動画コンテンツを作成し、EPO 中部ウェブサイトに掲載した。

### ②収録日時

- 2026年3月11日（水）13:00～15:00

### ③配信方法

- YouTube 配信（録画を YouTube アーカイブ配信）

### ④紹介事例／登壇者

草刈りをもっと楽しく！ いもいりビングらぼの取組と中山間地活用のススメ	・ 認定特定非営利活動法人長野県 NPO センター 吉田喜美夫氏
山・海・里・食・農から生まれるサステナブル・ツーリズム・ビレッジしらやま	・ [活動団体]エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 森和恵氏 ・ [中間支援主体]合同会社ローカル SD クリエーション 三田村佳政氏
こどもたちがもっと元気に輝く地域に	・ 特定非営利活動法人わおん 山田勇氏

### ⑤掲載 URL（※EPO 中部ウェブサイトにも動画等を掲載）

- <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/35857.html>

**中部のローカルSDGs実践事例集【第1弾】を公開中！**  
2026.03.16

お知らせ **アーカイブコンテンツ**

ローカルSDGsを実践しているEPO中部・協働コーディネーターに、取組事例をご紹介いただきました。その第1弾動画を公開しておりますので、ぜひご覧ください！  
※取組事例動画は、今後順次、追加していく予定です。

掲載者は地域循環共生圏づくりを進めるにあたり、中間支援主体の役割を重視しています。中間支援を実際に展開、もしくはそれに近い機能を果たしているEPO中部・協働コーディネーターの皆さんからの、「活動事例」や「中間支援（主体）」、そして「ローカルSDGsの実践」とは何かをご理解いただけましたら幸いです。  
中部エリアで、協働コーディネーターへの依頼、査閲を依頼したい、地域循環共生圏づくりやローカルSDGs実践について知りたい場合には、EPO中部へご連絡ください！

**掲載事例【第1弾】**

- ・ ①マークをクリックすると、その事例の動画画面へと遷ります。
- ・ [資料DL]をクリックすると、取組紹介のPDF資料が開きます。

※はじめに（この事例集の言語・音楽など）：  
ローカルSDGs実践事例の前提として  
～自立・分断型の持続可能な社会であるために～  
環境省中部地方環境事務所

事例1：  
草刈りをもっと楽しく！ いもいりビングらぼの取組と中山間地活用のススメ **[資料DL]**  
認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター 吉田 喜美夫氏 **[自己紹介2分]**

事例2：  
山・海・里・食・農から生まれるサステナブル・ツーリズム水の里しらやま **[資料DL]**  
[活動団体]エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま 森和恵氏  
[中間支援主体]合同会社ローカルSDクリエイション 三田村 佳政氏 **[自己紹介3分]**

事例3：  
こどもたちがもっと元気に輝く地域に **[資料DL]**  
特定非営利活動法人わおん/特定非営利活動法人えんのわ 山田 勇氏 **[自己紹介2分]**

お問い合わせ：  
Q&Aとおしゃべりコーナー

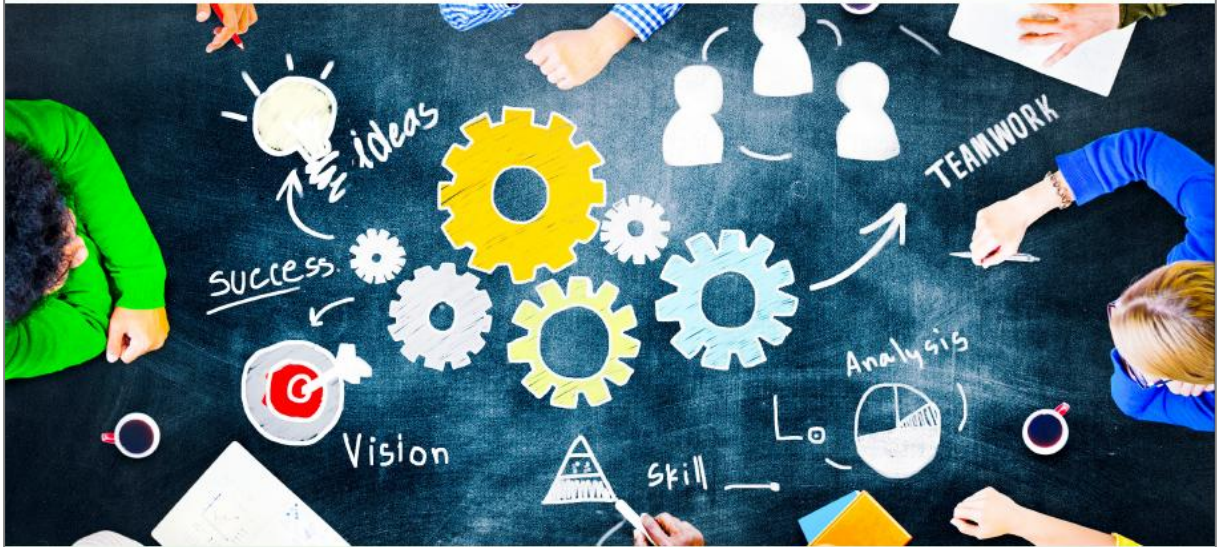
YouTubeで動画を視聴




**掲載事例【第1弾】** 今後も、EPO 中部・協働コーディネーターや、中部の中間支援主体による取組動画を追加してまいります！

⑥広報用チラシ

EPO 中部・協働コーディネーターによる  
ローカル SDGs 実践事例と中間支援の取組事例を紹介！  
中部のローカル SDGs 実践事例集 2025



掲載事例【第1弾】

<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/35857.html>

今後も、EPO 中部・協働コーディネーターや、中部の中間支援主体による取組動画を追加してまいります！

活動地域	取組事例／演題	団体	登壇者	取組紹介
長野県	<u>草刈りをもっと楽しく！</u> <u>いもいりビングらほの取組と</u> <u>中山間地活用のススメ</u>	認定特定非営利活動法人 長野県 NPO センター	吉田 喜美夫	
福井県 丹南 エリア	<u>山・海・里・食・農から生まれる</u> <u>サステイナブル・ツーリズム・</u> <u>ピレッジしらやま</u>	[活動団体] エコ・グリーンツーリズム 水の里しらやま [中間支援主体] 合同会社 ローカル SD クリエーション	森 和恵 三田村 佳政	
長野県 松本エリア	<u>こどもたちをもっと元気に</u> <u>輝く地域に</u>	特定非営利活動法人わおん 特定非営利活動法人えんのわ	山田 勇	

ローカル SDGs、地域循環共生圏づくり、中間支援について概説したセミナー動画も公開しています。



ローカル SDGs、地域循環共生圏づくり、中間支援について  
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>

EPO 中部・協働コーディネーターについて  
<https://www.epo-chubu.jp/tool/coordinator>



製作・配信・発行：



### (3) 自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

#### ア 今年度の実施事項

2025年度EPO中部 活動評価手法検討WKGと中間支援セミナー

区分	エリア	設営	時期	参加者数	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
活動評価手法検討WKG (全3回)	名古屋	リアル	6/2	3名	「6つの資本」など活動評価に関するR6成果の検証とバージョンアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター長 教授、中部ESD拠点協議会事務局長</li> <li>水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表</li> <li>堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長</li> </ul>
	富山		7/23 (or24)		中間支援に関する評価手法の検討と活動評価との連携	
	名古屋		9~10月頃		とりまとめ方針の検討、事例検証方法についての検討	
中間支援セミナー	配信会場:名古屋市内	オンライン配信 登壇者:会場集合	9-12月	オンライン無制限	共生圏づくりにおける中間支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>活動主体…長野県NPOセンター、茶木氏(下記②より)</li> <li>有識者…早稲田大学・島岡先生、有識者WKGメンバー(下記④より) など</li> </ul>

#### 事業計画内容(仕様書)

自治体や協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、活動の地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック

第6期までの成果を踏襲し、有識者(大学教授級、3名程度)によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討するとともに、検討結果を「①自治体や協働コーディネーターが持つネットワークを活用した環境教育の推進」、「②自治体や協働コーディネーターとの連携による実践的な取組み」にフィードバックする。また、本成果をまとめ公表する。



中間支援をテーマにしたセミナーの開催

地域循環共生圏づくりにおける中間支援主体・機能の発掘と育成、ネットワーク構築を支援するため、中間支援に焦点をあてた勉強会を開催する。令和6年度を初級編と位置づけ、ステップアップした企画とする。

3

### 環境省EPO中部 活動評価手法検討WKG

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター教授、中部ESD拠点協議会事務局長  
 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモス研究所代表  
 堺 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長  
 原 理史 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員  
 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務所環境対策課  
 【事務局】清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部) 統括

名古屋	6月5日	前年度評価手法検討実績共有、中間支援評価手法検討
富山	7月23日 (or24日)	中間支援評価の実践について
名古屋	11月12日	評価の実践結果のとりまとめ

有識者によるワーキンググループにより、地域循環共生圏づくりの活動の評価手法を検討する

4

## イ 第1回活動評価手法検討 WKG の実施

### ①日時

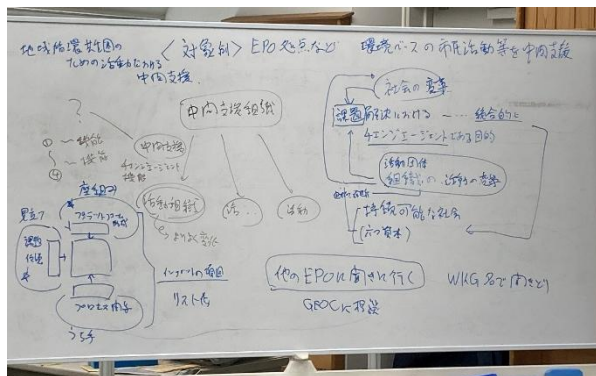
- 2025年6月2日（月）13:00～15:30

### ②会場

- EPO 中部（愛知県名古屋市）

### ③議事内容

- 活動評価の枠組みなど昨年度の成果について
- 中間支援活動の評価について
- ローカル SDGs 活動の評価の実践について



## ウ 第2回活動評価手法検討 WKG の実施

### ①日時

- 2025年7月23日（水）13:00～15:00

### ②会場

- 富山県民会館（富山県富山市）

### ③協議項目

- これまでの検討会の議論と GEOC との議論の紹介
- 中間支援活動の評価手法の枠組みと実践のありかたについて
- 六つの資本に基づくローカル SDGs 活動の評価の実践について



## エ 第3回活動評価手法検討 WKG の実施

### ①日時

- 2025年12月4日（木）13:00～15:00

### ②会場

- EPO 中部（愛知県名古屋市）

### ③協議項目

- 6つの資本に基づくローカルSDGs活動の評価の実践の実績
- 地域循環共生圏づくりに必要とされる中間支援について
- 中間支援活動の評価手法の枠組みと実践のありかたについて

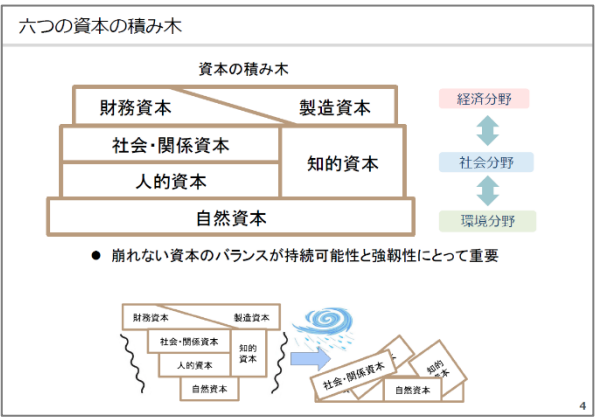
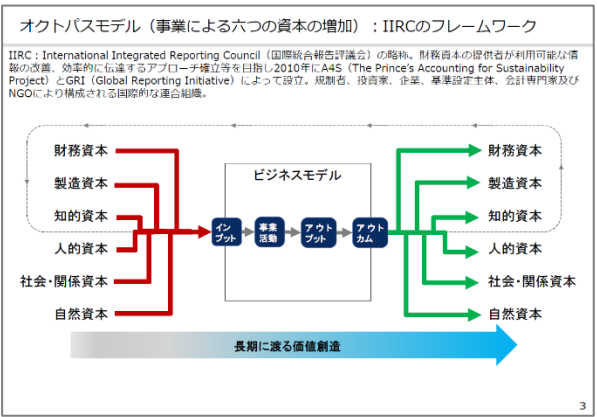


## オ 検討結果のフィードバック

- 活動評価手法検討 WKG の今年度の検討結果である評価チェックリスト記入を、①「QRUWA 戦略」自治会の連合体が支える公民連携まちづくり（愛知県岡崎市）、②若狭コロビプロジェクト（福井県小浜市）の取組主体に実施してもらい、その結果を2月7日開催・中部地方 ESD 活動支援センター主催の「SDGs 学生サミット」[🔗](#)で紹介した。

### ①検討結果まとめ

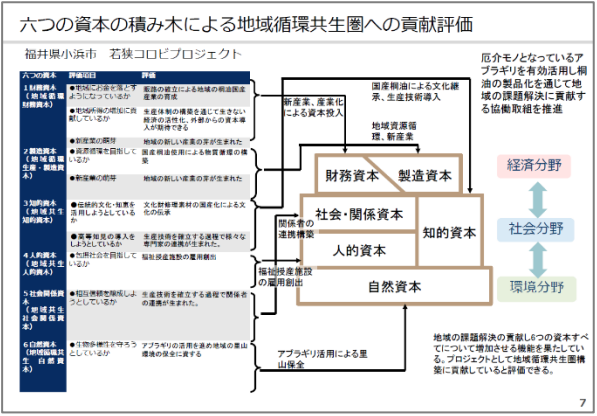
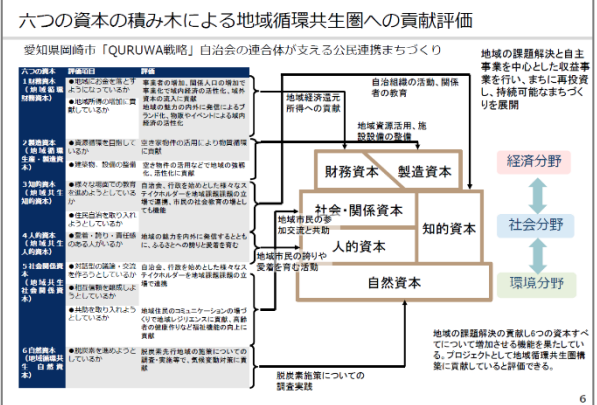
<p>“地域循環共生圏”が産み出し“地域循環共生圏”を支える「ローカルSDGs事業」</p> <p>○自立した地域をつくるため生み出す「地域資源を持続的に活用して環境・経済・社会を統合的に向上していく事業」で地域課題を解決し続ける</p> <p>環境省の【ローカルSDGs 事業の条件】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>① 地域資源（人・モノ・金・情報）を持続可能な形で活用している</li><li>② 地域の環境・社会・経済課題の同時解決をする</li><li>③ 採算性が考慮され、一定の継続性が見込まれる</li></ul> <p>※ローカルSDGs 事業は営利事業だけでなく、行政機関の政策に基づく各種施策、企業のCSR活動、ボランティア活動など様々な形態の取組を含みます。＝「ローカルSDGs活動」（地域循環共生圏づくりの手引き 2024年4月環境省地域循環共生圏推進室）</p> <p>1</p>	<p>「ローカルSDGs活動」評価の価値基準</p> <p>地域循環共生圏の価値観を基準とし、地域に存在する「<b>資本</b>」に着目する</p> <p>ローカルSDGs活動の効果が環境、社会、経済の各分野に波及し、それぞれの分野に関わる地域の資本が蓄積されること、その際に地域に関わらず自然資本の維持・回復・充実が図られること</p> <p>2</p>
--	--



### 地域循環共生圏取組チェック（評価）

● その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのかチェックリスト

六つの資本	詳細項目の例
1 財務資本 (地域循環 財務資本)：地域内での経済循環になっているか	● 地域にお金を落とすようになっているか ● 地域への投資になっているか
2 製造資本 (地域循環 生産・製造資本)：地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	● 地産地消を目指しているか ● 資源循環を目指しているか ● 再生可能エネルギーを使おうとしているか ● 防災・減災に役立っているか
3 知的資本 (地域共生 知的資本)：地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	● 様々な場面での教育を進めようとしているか ● 住民自治を取り入れようとしているか ● 伝統的文化・知恵を活用しようとしているか ● 高等知見の導入をしようとしているか ● ICT活用を進めようとしているか
4 人的資本 (地域共生 人的資本)：地域の多様な人々が共生できているか	● 主体的・意欲的な人がいるか ● 意欲・誇り・責任感のある人がいるか ● 包括社会を目指しているか
5 社会関係資本 (地域共生 社会関係資本)：地域の繋がりが・コミュニティがくりになっているか	● 対話型の議論・交流を作ろうとしているか ● 相互信頼を醸成しようとしているか ● 公正さに重きを置いているか ● 共助を取り入れようとしているか
6 自然資本 (地域循環共生 自然資本)：地域の自然・生物多様性が守られているか	● 生物多様性を守ろうとしているか ● グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか ● 観光業を推進しようとしているか ● 自然資源の保全活用を進めようとしているか ● 農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか



②活動主体へのフィードバック（試行した評価チェックリストのフィードバック）

■「QRUWA 戦略」自治会の連合体が支える公民連携まちづくり（愛知県岡崎市）

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト(試行) 作成 260128

テーマ	「QRUWA 戦略」自治会の連合体が支える公民連携まちづくり	概要	地域の課題解決と自主事業を中心とした収益事業を行い、まちに再投資し、持続可能なまちづくりを展開	
活動状況	愛知県岡崎市の QURUWA エリアを拠点に、「QRUWA 7町・広域連合会 次世代の会」という組織から派生して 2022 年 11 月に設立。地域の知識・信頼・ネットワークを活かし、行政や企業と連携し、地域内外の多世代の仲間とともに活動している。地域の課題解決と自主事業を中心とした収益事業を行い、まちに再投資し、持続可能なまちづくりを展開。エリアとそこで暮らす人々を想い、地域に根付き、常に自らもアップデートし続ける地域のみなさまから愛される企業目指して活動中。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	事業者の増加、関係人口の増加で事業化で域内経済の活性化、域外資本の流入に貢献	
	●地域への投資になっているか	○	地域の魅力の内外に発信によるブランド化、物販やイベントによる域内経済の活性化	
	●その他(地域所得の増加に貢献している)			
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか			
	●資源循環を目指しているか	○	空き家物件の活用により物質循環に貢献	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか			
3知的資本 (地域共生 知的資本): 地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●その他(建築物、設備の整備)	○	空き物件の活用などで地域の強靱化、活性化に貢献	
	●様々な場面での教育を進めようとしているか	○	自治会、行政を始めとした様々なステイクホルダーを地域課題課題の立場で連携、市民の社会教育の場としても機能	
	●住民自治を取り入れようとしているか	○		
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか			
	●高等知見の導入をしようとしているか			
	●IGT活用を進めようとしているか			
4人的資本 (地域共生 人的資本): 地域の多様な人々が共生できている	●その他( )			
	●主体的・意欲的な人がいるか			
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか	○	地域の魅力を内外に発信するとともに、ふるさとへの誇りと愛着を育む	
	●包摂社会を目指しているか			
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本): 地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●その他( )			
	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか	○	自治会、行政を始めとした様々なステイクホルダーを地域課題課題の立場で連携	
	●相互信頼を醸成しようとしているか	○		
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか	○	地域住民のコミュニケーションの場づくりで地域レジリエンスに貢献、高齢者の健康作りなど福祉機能の向上に貢献	
6自然資本 (地域循環共生 自然資本): 地域の自然・生物多様性が守られているか	●その他( )			
	●生物多様性を守ろうとしているか			
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか	○	脱炭素先行地域の施策についての調査・実施等で、気候変動対策に貢献	
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか			
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

■若狭コロビプロジェクト（福井県小浜市）

その取組は地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト 作成 260123

テーマ	若狭コロビプロジェクト	概要	厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し桐油の製品化を通じて地域の課題解決に貢献する協働取組を推進	
活動状況	ニホンアブラギリはトウダイグサ科の落葉高木であり、種子から「桐油」と呼ばれる油を採取して塗料などに用いられていた。若狭地方では「コロビ」と呼び、江戸時代から盛んに栽培され、全国一の生産量を誇っていた。昭和半ば頃の“燃料革命”を機に国内の桐油産業は衰退。繁殖・成長力が高く野生化が進み、現代では生態の単一植生化などの環境問題の様相が見られる。若狭地方一帯にこの状況が広がっていることから、この厄介モノとなっているアブラギリを有効活用し、桐油の製品化を通じて地域資源として地域の課題解決に貢献する協働取組を推進している。			
六つの資本	評価項目	チェック	チェックの判断理由	
1財務資本 (地域循環 財務資本) 地域内での経済循環になっているか	●地域にお金を落とすようになっているか	○	販路の確立による地域の桐油国産産業の育成	
	●地域への投資になっているか	○	生産体制の構築を通じて生きない経済の活性化、外部からの資本導入が期待できる	
	●その他(新産業の萌芽)	○	地域の新しい産業の芽が生まれた	
2製造資本 (地域循環 生産・製造資本) 地域資源・エネルギーが持続可能な形で使えるようになっているか	●地産地消を目指しているか			
	●資源循環を目指しているか	○	国産桐油使用による物質循環の構築	
	●再生可能エネルギーを使おうとしているか			
	●防災・減災に役に立つか			
	●その他(新産業の萌芽)	○	地域の新しい産業の芽が生まれた	
3知的資本 (地域共生 知的資本):地域の文化、知恵などが生かされているのか、水準の高い知見が用いられているか	●様々な場面での教育を進めようとしているか			
	●住民自治を取り入れようとしているか			
	●伝統的文化・知恵を活用しようとしているか	○	文化財修理素材の国産化による文化の伝承	
	●高等知見の導入をしようとしているか	○	生産技術を確立する過程で様々な専門家の連携が生まれた。	
	●ICT活用を進めようとしているか			
	●その他( )			
4人的資本 (地域共生 人的資本):地域の多様な人々が共生できている	●主体的・意欲的な人がいるか			
	●愛着・誇り・責任感のある人がいるか			
	●包摂社会を目指しているか	○	福祉授産施設の雇用創出	
5社会関係資本 (地域共生 社会関係資本):地域の繋がり・コミュニティづくりにつながっているか	●対話型の議論・交流を作ろうとしているか			
	●相互信頼を醸成しようとしているか	○	生産技術を確立する過程で関係者の連携が生まれた。	
	●公正さに重きをおいているか			
	●共助を取り入れようとしているか			
	●その他( )			
6自然資本 (地域循環共生 自然資本):地域の自然・生物多様性が守られているか	●生物多様性を守ろうとしているか	○	アブラギリの活用を進め地域の里山環境の保全に資する	
	●グリーンインフラ・景観の向上に配慮しているか			
	●脱炭素を進めようとしているか			
	●自然資源の保全活用を進めようとしているか			
	●農地・漁場を持続可能な形で使おうとしているか			
	●その他( )			
ローカル SDGs 活動としての総合評価	地域の課題解決の貢献し 6 つの資本すべてについて増加させる機能を果たしている。プロジェクトとして地域循環共生圏構築に貢献していると評価できる。			

# カ 成果まとめの公表

- 活動評価手法検討 WKG の委員 3 名が「[地域循環共生圏づくり支援セミナー2025](#)」のトークセッションに登壇した内容を冊子にまとめた。
- 冊子は EPO 中部ウェブサイトにて公開・掲載した。掲載 URL : <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>

## 【作成・公開した冊子】



Environmental Partnership Office Chubu  
**EPO中部**  
環境省 中部環境パートナーシップオフィス

中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部)  
〒460-0003 名古屋市中区錦2-4-3 錦パークビル4F  
TEL: 052-218-8605 / FAX: 052-218-8606  
<http://www.epo-chubu.jp>  
発行：2024年3月

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
「ローカルSDGsの実践とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりで必要なこと・大切なこと～」  
トークセッションより

## 地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは？




### 地域循環共生圏づくりにおける中間支援で大切なことをテーマにトークセッションを行いました

2025年12月、中部環境パートナーシップオフィス (EPO中部) は「地域循環共生圏づくり支援セミナー2025」をオンライン開催しました。昨年度の同セミナー2024では「地域循環共生圏になっている」とはどういうことか」がテーマでしたが、今回は「中間支援」に焦点をあて、地域課題解決や地域資源活用によるローカルSDGsを実現する地域、あるいはそれに取り組み主体への中間支援の必要性・重要性をテーマに開催しました。中間支援はどのような役割を担うのか、何を大切にすべきかなどについて、トークセッションで4人のパネリストにお話ししていただきました。

### 地域循環共生圏づくり支援セミナー2025について

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
**ローカルSDGsの実践とその中間支援  
～地域循環共生圏づくりで必要なこと・大切なこと～**

- ・ライブ配信 (録画) 日：2025年12月5日
- ・セミナー録画をEPO中部ウェブサイトでご公開中 ⇒自由に視聴できます。  
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34087.html>



#### ■ プログラム・ご登壇者

- 【ごあいさつ】環境省の地域循環共生圏事業と中間支援  
環境省中部地方環境事務所
- 【基調講演】地域循環共生圏づくりにおける中間支援とは  
島岡 未来子 氏 (早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授 / 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)
- 【取組紹介】地域の財産“情報”を活かす中間支援の取組  
吉田 喜美夫 氏 (認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター)
- 【トークセッション】地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは  
パネリスト：  
島岡 未来子 氏 (早稲田大学リサーチ・イノベーション・センター 教授 / 神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科 教授)  
吉田 喜美夫 氏 (認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター コーディネーター)  
現 勇人 氏 (一般社団法人環境市民プラットフォーム やま 常務理事 / 事務局長)  
水上 陽子 氏 (アルマス・バイオコスモス研究所 代表)  
コーディネーター：  
原理史 (EPO中部)

次ページ以降に【トークセッション】のテキスト記事を掲載しています  
島岡氏の基調講演と、吉田氏による取組紹介を含めたセミナー全体を録画した動画や、環境省中部地方環境事務所による地域循環共生圏と中間支援の解説資料、ここに掲載したトークセッションの資料、そして前回・2024年度フォーラムの動画、資料等をEPO中部ウェブサイトでご公開しています。そちらもぜひご覧ください。

### トークセッション 「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」


## 地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは

原理史 (以下、原) 皆さん、こんにちは。今日は、「地域循環共生圏づくりに必要とされている中間支援とは」をテーマに議論をしていきたいと思います。

「地域循環共生圏」は、第五次環境基本計画で示された、日本が目指すべき自立・分散型の持続可能な社会の姿です。そして、地域資源を活用しながら環境、経済、社会を統合的に向上させていく「ローカルSDGs事業」によってこれを支えると考えられています。

国際統合報告評議会という国際組織は、持続可能な社会を構築するためには、6つの資本を使つて事業を行い、その事業のアウトカム、アウトプットを6つの資本の増加・蓄積につなげることが重要であると考えています。EPO中部では、これら6つの資本の関係性について、SDGsウェディングケーキモデルを参考に、環境を一番下にしてその上に社会、経済がある位置づけに整理したうえで、6つの資本に着目した「地域循環共生圏づくりの取組事前チェックリスト」を作成しました (※前回・2024年度フォーラムにて紹介)。

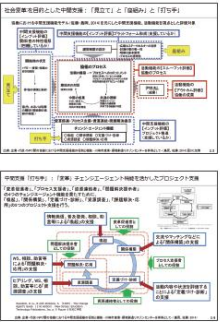
また、本フォーラムの基調講演で講師の島岡先生がお話されたように、地域循環共生圏づくりでは、チェンジ・エージェント機能を発揮し、協働取組を促進する中間支援も重要とされています。そこでEPO中部では、本日のパネリストである原氏、水上氏にも検討委員に加わっていただき、活動評価検討ワーキングを立ち上げ、前述の《取組事前チェックリスト》に続き、《中間支援組織の機能評価リスト》も作成しているところです。



地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
トークセッション  
『地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは』

中間支援では、協働取組の開始時における「見立て」と、運営制度の設計段階における「座組み」、活動に対する「打ち手」としての関与をしっかりと行う必要があります。そのため、『中間支援組織の機能評価リスト』では、インプット評価、プロセスに対するスループット評価、アウトカム評価を行うとした整理を行っています。

また、中間支援主体は、「打ち手」において、チェンジ・エージェントとしての4つの機能（変革促進、プロセス支援、資源連携、問題解決提示）を果たすことが求められます。そのために、喚起、関係構築、定義付け、診断、資源調査、問題解決・応用などを行うことになると考えられています。『機能評価リスト』は「見立て」「打ち手」「座組み」に関する評価項目となっていますが、特に中間支援の場合には、「打ち手」への評価が中心になると考えています。



※上記スライド資料はEPOH部のウェブサイト掲載できます。

地域循環共生圏づくりにおける中間支援の位置づけ

原 ここからはディスカッショントークに入ります。中間支援に求められることについてコメントいただけますか。

島岡 未来子 (以下、島岡) 協働がうまくいかないところこそ中間支援の力の発揮しどころと捉えるべきです。一歩引いてみることでできる人こそが問題に気づくことができ、利害関係のない人こそが信頼を得やすいと言えます。

吉田 善美夫 (以下、吉田) 中間支援というよそ者が間に入ることで、発言しづらい立場にある若者や女性の思いを代弁したり、共通の理解が不足している部分を上手につないで残すことができます。

水上 聡子 (以下、水上) 有識者などが正論だけを押し付けても問題解決につながりません。当事者が初歩的に問題を捉え、話し合いのなかで自然に考えが導きだされるようなファシリテーションが中間支援では大切だと考えています。

堺 勇人 (以下、堺) 中間支援は組織の外側のポジションにあることが基本ですが、信頼が大切な中で間に入ることも必要です。

水上 みんなが笑顔をなくなく自由に発言できるよう、最初に話し合いのルールを決めたり、議論が極端に逸れていかないようにゴールをみんなで確認したりしておくよよいと思います。中間支援者にはファシリテーターとしての毅然とした態度が求められます。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
トークセッション  
『地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは』

吉田 さまざまな意見が出されるなかで、それらの共通する事項を整理し、たどりつくべきゴールへと導いていくハンドリングが中間支援者には求められます。

堺 やはり、変革を起こそうとする心算や、それをもつことのできる高観性やバランス感覚が求められるのではないのでしょうか。

島岡 中間支援者は組織の外というよりも俯瞰する立場から関与できる存在だと考えます。ですから、活動主体自らが中間支援の役割を担うこともあると思います。

水上 確かに、当事者として共感できるうえに俯瞰した視点も持てる人がいることで、うまくいったケースが多いように感じます。

吉田 内側の情報だけでは議論が狭まってしまう。中間支援には情報だけでなく、さらに外の情報を取り入れる働きも求められます。

原 中間支援機能は、内外といった所属や立場・立ち位置に関係なく、俯瞰的な視点でチェンジ・エージェント機能を発揮できることが重要であるということです。

中間支援として何をやるのか

原 次に、中間支援は何を行うものなのかという話をしていきたいと思います。皆さん、中間支援として何を行っていますか。

吉田 協働がうまくいかない背景にはお互いの思いの違い、考えの違いがあります。そのため、お互いの理解を深めてもらえるよう、

根拠にあるそれぞれの思いは、中間支援の役割としてできるだけ言語化するように努めています。また、解決すべき課題があっても、楽しくなければ活動は続かないので、みんなが楽しんで取り組めるような動機づけにも工夫を行うようにしています。

水上 動機づけとして、インセンティブを明確に示すことが重要だと思っています。課題を示すだけでは皆さんついてきてくれません。誰に、どんなウェルビーイングをもたらすことができるのかということまで、みんなが考えられるようなプログラムをつくり、内発性を引き出すことも大切です。中間支援に求められるチェンジ・エージェント機能のなかでも、特に喚起が重要であり、また難しき部分であると感じています。

吉田 芋井地区住民自治協議会（長野県長野市）が実施している『暮らしバスターズ』では、地域の課題とそれに対する地域の皆さんの思いを汲み取って、みんなで一緒に楽しくやるにはどうしたらいいかを考えていったことが喚起につながりました。しかし、多くの場合、アイデアが出ても誰かがやるのか、お金はどうするかという話になって議論が止まってしまう。一人で手を挙げる人がいると聞いて質問する人も出てきますから、楽しくあることは、一歩進めるための原動力にもなると考えています。

原 潜在的なニーズの掘り起こしや新しい視点の導入により、当事者を前向きにさせることも中間支援の大事な役割なのですね。

堺 手を挙げるやすい環境を作ることも中間支援の役割だと思います。取組を継続させるためには、当事者が能動的になれる理由を語り下げてそれを解消させることも重要です。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
トークセッション  
『地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは』

吉田 行き詰まったら、楽しい、美味しい、嬉しいと感じられることをするといいたいですね。そうすると、自然と新しいアイデアも出てきます。人が集まる機会を作ることでも一歩進みます。

堺 義務感、責任感だけでは楽しくないので続きませんし、いいアイデアも出てこないのではないのでしょうか。

水上 地域防災の取組も実際にやってみると必要性和ともに、楽しさややり甲斐を感じてもらえるので、そこに近づけるまでのプロセスをいかに構築するかが重要だと思っています。自助、共助でやらなくてはいけないことがあることを知ってもらい、楽しんでそれに取り組んでもらえるよう、中間支援主体には細かな配慮をしながら伴走していくことが求められます。

堺 中間支援主体などは俯瞰的な視点もつからこそ、地域の課題を楽しくすることもつなげるという発想が生まれやすいのではないのでしょうか。

吉田 中間支援は、非日常というよりもチェンジ・エージェント機能の変革促進として、楽しい、面白い、美味しいを用意することが求められます。その人が自覚していなかったことを自覚させるような環境を作ったり、今までなかったことをつないで残すことによって変化が起きます。中間支援の役割は人的資本や知的資本、社会・関係資本を太くすることであるというお話もありましたが、自身も、そのためにもどのように進めながら、変革するかのスタンスで取り組んでいます。

水上 暮らしは農村では極めて日常のことであり、決して楽しいにはなりません。芋井

地区住民自治協議会のように、農村が持つ大きな可能性に対する誇りやプライドを育てていくことが重要だと思っています。そのため、地方と都会のアンバランスな構造を俯瞰して理解できるように示していくことも中間支援の役割だと考えています。

吉田 田舎の人にとって暮らしは義務であり面白いことにはなりません。人に教えるのであれば楽しいことになりません。人に喜んでもらったり、人の役に立てたりする出番を作り、義務を楽しく変換することは中間支援主体の役割です。そうすることで地域に新しい気風が生まれます。

島岡 皆さんは中間支援主体として、変えていくというよりも、地域がもともと持っているものをうまく引き出しているのだと感じました。引き出してもらえらることは地域にとって嬉しいことであり、頑張ろうという気持ちにもつながるのではないのでしょうか。

中間支援主体への期待

原 中間支援の「打ち手」のなかでも一番難しいと思われる喚起についてのお話をいろいろとかがうことができました。最後に、中間支援主体はどのような存在となるべきでしょうか。

吉田 常にアンテナを立てておき、被支援団体・地域の外にいなから、必要とされる情報をきちんと把握するよう努めています。また、その前提として、地域の情報が集まる仕組みづくりや、我々を認知してもらうための取組も必要になります。

堺 民政の中間支援組織は社会的認知が薄く、資金の確保が難しく、なかなか思うようになり取組めないという課題もあります。

地域循環共生圏づくり支援セミナー2025  
トークセッション  
『地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは』

原 本日は『地域循環共生圏づくりが必要とされている中間支援とは』をテーマに議論してきましたが、中間支援とは、地域が有する潜在的なニーズや内発性を引き出し、みんなで目標を共有しながら事業を前に進めていくためのプロセス支援であり、それが今、地域に特に必要とされているのだと感じました。最後に、中部地方環境事務所の堀野さんに今日の感想をお願いしたいと思います。

中部地方環境事務所 皆さんは中間支援主体として、俯瞰的な視点を持ちながら地域と向き合い、地域から信頼されているからこそ発言もできる状況を努力してつくっておられるのではないかと思います。また、楽しいというキーワードが出てきましたが、嬉しさではないことにも楽しさを見いだしてもらうことが重要であり、またそこに苦労をされているのではないかと感じました。さらに、引き出すというキーワードも出てきましたが、引き出すことによって地域側も前向きな気持ちになり、次の取組、次のステップへとつながっていくのでしょうか。これらのキーワードを、今後、地域循環共生圏づくりの支援に取り組みに際して、心にとめておきたいと思いました。

原 地域循環共生圏づくりが必要とされる中間支援について、実例や現場の感覚も含め、いろいろ興味深いお話をうかがい、議論を深めることができました。パネリストの皆さんのご協力に感謝いたします。ありがとうございました。



ローカルSDGsを実現する活動主体と、地域や主体の様々な可能性を引き出し、初歩的かつ幅広い視点から地域循環共生圏づくりを推進する中間支援を、EPOH部は支援・応援しています。トークセッションの中で紹介した『取組事前チェックリスト』や『中間支援組織の機能評価リスト』にご関心がありましたら、ぜひEPOH部へご連絡ください！

## 5 地域循環共生圏の創造に資するための推進業務

### (1) 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業

#### ア 中間支援体制構築業務

##### (ア) 中間支援主体への助言・支援等

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に選定された中部3地域の3中間支援主体に対し、地域循環共生圏づくりに関わる活動の加速化を支援するための助言等を行った。

	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>4月着手時打合せ等の日程調整</li> <li>連絡先の追加方法について問合せあり。</li> <li>4/24 着手時打合せ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/30 着手時打合せと実施計画書のディスカッション実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>4/17 着手時打合せ。</li> <li>中間共有会の開催日の日程調整について連絡あり。</li> <li>高校生インターン受け入れについて調整。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>プラットフォームクローバー登録方法について質問対応。</li> <li>5/14 実施計画書のディスカッション実施。</li> <li>5/19 実施計画書提出の連絡:活動団体へ広報手法について意見し、打合せ時から計画書を修正。</li> <li>イベント「ほたるカフェ」6/14 の広報協力として SNS 記事作成・投稿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いもいりビングらぼ 5/16 への出欠について中間支援主体に連絡。</li> <li>芋井リビングらぼ 5/16、草刈りバスターズ養成講座 6/7 について web・SNS で広報協力。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>5/13 実施計画書のディスカッション実施。</li> <li>中間共有会、高校生インターン受け入れについて打合せ、日程調整連絡。</li> <li>5/16 パネルに事業名記載の可否の問合せ連絡があり、回答対応。</li> </ul>
5/29 キックオフ(全国)			
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>サイクリングコースの広報協力として SNS 記事を作成・投稿。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援セミナー登壇依頼の連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会視察行程について調整</li> <li>高校生インターン取材訪問について調整</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せの日時・場所についての連絡調整。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せの日時・場所についての連絡調整。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 7/10 の実施:活動・支援レポートで取組状況を共有。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 8/6 の実施:活動・支援レポートで取組状況を共有。</li> <li>活動・支援レポートの受け取り。</li> <li>中間共有会 11/13-14 の開催案内送付、出席者リストの返送と発表資料の作成依頼を送付。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 8/7 の実施:活動・支援レポートで取組状況を共有。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生インターンによる取材訪問を実施。</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>協働コーディネーター会合 9/3 での取組紹介資料を受け取り。</li> <li>12月打合せの日時調整、今後の進め方等について電話打合せ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援を行っている別地域・七二会地域での共生サイト登録に関する問合せ対応。</li> <li>協働コーディネーター会合 9/3 での取組紹介資料を受け取り。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校生インターンによる取材記事を EPO ウェブサイト、SNS に掲載。</li> <li>記事ファイルを活用可能な資料として PF 側へ提供。</li> <li>中間共有会の視察エクササイズについてメール打合せ等。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 10/27 実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 10/29 実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 10/10 実施</li> <li>中間共有会について連絡調整(メール・電話)</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会について連絡調整(メール・電話)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会について連絡調整(メール・電話)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間共有会について連絡調整(メール・電話)</li> </ul>
11/13-14 中間共有会(中部ブロック)			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 11/28 実施</li> </ul>		
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ベストツーリズムビレッジ」への応募申請に係る問合せ電話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 12/8 実施</li> <li>企業向けの参画呼びかけチラシを SNS 投稿</li> <li>SH ミーティングの開催方法について問合せ電話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>打合せ 12/10 実施</li> <li>SH ミーティングの日程、地域循環共生圏の概説依頼、出席者等について連絡調整</li> </ul>

	丹南 (ローカル SD クリエーション/エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま)	長野 (長野県 NPO センター/芋井地区住民自治協議会)	半田 (半田市/半田市地域循環共生圏推進協議会)
	12/25 継続審査		
1月	SH ミーティングの開催について問合せ電話	SH ミーティングの開催案内配信、出席者について連絡 1/18SH ミーティング実施	1/31SH ミーティング実施
2月	打合せ 2/3 実施 2/27SH ミーティング実施	打合せ 2/4 実施	打合せ 2/2 実施
	3/5-6 中間支援ギャザリング/成果共有会(全国)		
3月	EPO 中部制作のローカル SDGs 実践事例集 3/11 収録に登壇	EPO 中部制作のローカル SDGs 実践事例集 3/11 収録に登壇	EPO 中部主催「共進化」フォーラム(3/3 開催)に聴講参加。後日フォーラム資料提供の相談依頼あり

## (イ) 実施計画打合せ

- 年度初めにあたり、3地域の活動団体、中間支援主体が作成した「実施計画書」をもとに、今年度の取組について確認する打合せを各地域別に実施した。
- 地域側は、打合せ内容を反映した内容の「実施計画書」を全国事務局へ提出した。

選定団体名 ①:活動団体、②:中間支援主体	地域側出席者数	実施日	場所
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま ②合同会社ローカルSDクリエーション	①-人 ②1人	5月14日	しらやまいこい館 (福井県越前市)
①芋井地区住民自治協議会 ②認定特定非営利活動法人 長野県NPOセンター	①1人 ②2人	4月30日	芋井地区住民自治協議会事務所 (長野県長野市)
①半田市地域循環共生圏推進協議会 ②半田市	①3人 ②3人	5月13日	半田市リサイクルセンター (愛知県半田市)

## 【作成・提示した打合せ資料】

### 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 2025年度着手時打合せ

I. 共生圏事業についての確認事項

- 定期報告
  - 【前年度】月次報告書→【今年度】四半期(7-11-3月予定) 支援レポート/活動レポート ※書式:未
- 提出物 →「事業概要説明資料」jp11、18参照
  - 年度末提出の成果物に大きな変更なし
- スケジュール →「事業概要説明資料」jp16、17参照
  - 日付確定行事あり
    - 5/29キックオフ(オンライン/中間支援主体・活動団体の両方参加)
    - 3/5-6中間支援ギャザリング(都内/中間支援のみ参加)
- ステークホルダーミーティング …全国・地方事務局出席 →「事業概要説明資料」jp11、17参照
  - 及び、そのほかミーティング会合/イベント等 …できるだけ地方事務局参加(開催日等連絡をメールする際に、REO・EPOもccに入れてください。)
  - 地方事務局(REO・EPO)との連絡体制 …地方事務局は原則、直接的に活動団体を支援しない(活動団体の支援は中間支援主体が担う。)
- プラットフォームクローバー →「事業概要説明資料」jp12、20参照
  - 取組記事を1回以上投稿

II. EPO中部からの確認事項/お願い事項

■ 中間共有会(中部ブロック)について

- 実施地域:愛知県半田市を予定
  - 名鉄「知多半田」駅周辺での開催を予定
    - 名古屋駅から名鉄電車で約30分
- 時期:9月~11月 ※過去開催から10月後半~11月??
  - 避けたい日程・時期の有無
  - 発表用資料:フォーマット+自由書式
    - 発表は録画する予定 →継続審査の委員へ提示
    - 発表資料は必ずEPOへ送付願います。録画はEPOのPCの画面録画機能を使用するため、発表時にはEPOのPCを使用していただきます。
  - 実施したいワークショップ等 ※前年は営め合いワーキングを実施。

III. 近々で対応をお願いしたい事項

① 実施計画書の作成 別紙「実施計画書」参照

- 5/中旬に全国事務局へ「予算書」と一緒に提出、5/29キックオフで発表(オンライン)

② 実施計画書の各地域・REO・EPOでの共有ディスカッション

- 作成した「実施計画書」をもとに、REO・EPOとのディスカッション実施のお願い ~3年度目の展開、事業終了後の展開の具体化を念頭に

【確認・依頼事項】

- ディスカッション実施のタイミングについて(4月~6月)
  - 「実施計画書」(マダラ(コンセプトペーパー))等は提出/発表後も変更が重ねられるものとして位置づけ
- 日程調整のお願い、出席者への呼びかけ →REO・EPO側との候補日の調整 日程のお願い

## (ウ) フォローシートの作成・提出

- 地方事務局として、四半期に1度、中間支援主体に対する支援内容や課題等を整理・記入するフォローシート（GEOC 提示のフォーマット）を作成し、4月～7月期シートを8月に、8月～10月期シートを11月に、11月～2月期シートを3月に、それぞれ作成して全国事務局へ提出した。

## (エ) その他の支援（ステークホルダーミーティングへの参加）

- 3地域それぞれが実施したステークホルダーミーティングに下記の通り参加した。

選定団体名 ①:活動団体、②中間支援主体	実施日/場所	EPOスタッフ 参加方法	実施内容
①エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま、②合同会社ローカルSDクリエーション	2月27日 越前市白山公民館 (福井県越前市)	会場参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域資源を活用した活動取組みの現状及び連携構築に向けた意見交換</li> </ul>
①芋井地区住民自治協議会、②認定特定非営利活動法人長野県NPOセンター	1月18日 アソビーバ (長野県長野市 芋井地区)	会場参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 令和7年度事業報告等:草刈りバスターズ、Y O S A K U 隊、いもいりピングらぼ</li> <li>■ 地域循環共生圏づくり事業と芋井地区への提言:中部地方環境事務所</li> <li>■ 意見交換(テーマ:令和7年度の感想と次年度に向けて)</li> <li>■ 感想シェアと意見交換</li> <li>■ 講評:EPO中部</li> </ul>
①半田市地域循環共生圏推進協議会、②半田市	1月31日 クラシティ 市民交流プラザ (愛知県半田市)	会場参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 各取組の発表:八洲建設株式会社、半田・知多地域エネルギー株式会社、株式会社ビオクラシックス半田、株式会社おいしい村、愛知県立半田農業高等学校 施設園芸科2年野菜研修班、愛知県立半田高等学校</li> <li>■ グループワーク</li> <li>■ 行政・専門機関からのコメント:半田市環境課、環境省</li> </ul>



エコ・グリーンツーリズム水の里  
しらやま主催ミーティング



芋井地区住民自治協議会  
主催ミーティング



半田市地域循環共生圏推進協議会  
主催ミーティング

## イ 中間共有会の開催

### ①日時

- 1日目 中間共有会：2025年11月13日（木）13：00～16：00
- 2日目 エクスカーション：2025年11月14日（金）9：30～14：00

### ②会場

- 1日目：市民交流プラザホール（愛知県半田市）
- 2日目視察地：半田市地域循環共生圏推進協議会の取組の関係施設等

### ③出席者

- 26名

丹南	中間支援	三田村 佳政	合同会社ローカルSDクリエイション
	活動団体	森 和恵	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
		堀江 浩美	エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
長野	中間支援	吉田 喜美夫	長野県NPOセンター
	活動団体	西澤 一幸	芋井地区住民自治協議会
		羽田 一郎	芋井地区住民自治協議会
		岸 豊	芋井地区住民自治協議会
半田	中間支援	山田 隆康	半田市環境課
		片山 高也	半田市環境課
		広瀬 美帆	半田市環境課
	活動団体	猪飼 幸輝	株式会社ビオクラシックス半田
		宮澤 賢治	半田・知多地域エネルギー株式会社
		服部 亜紀	八洲建設株式会社
		白羽 佐千子	半田・知多地域エネルギー株式会社
		松浦 猛	半田・知多地域エネルギー株式会社
有識者・委員	佐藤 真久	東京都市大学教授 全国有識者会議委員	
	千頭 聡	日本福祉大学教授 中部審査委員	
全国事務局	菅谷 真実	環境省 地域政策課 地域循環共生圏推進室	
	河合 潤	環境省 地域政策課 地域循環共生圏推進室	
	鶴沼 幸恵	環境再生保全機構（ERCA）	
	木下 英治	環境再生保全機構（ERCA）	
	江口 健介	GEOC	
地方事務局	運営	縄野 正衡	環境省 中部地方環境事務所 環境対策課長補佐
		清本 三郎	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）
		原 理史	中部地方ESD活動支援センター
		富田 夏子	中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）



#### ④ 1日目・中間共有会の実施内容

### 1日目・中間共有会の実施内容／プログラム

**日時**：2025年11月13日（木） 13:00 ～ 16:00／事務局説明含め16:10頃終了予定

**会場**：市民交流プラザ ホール （クラシティ3階・市民交流センター内）

#### プログラム

1. ごあいさつ （10分）
2. 参加団体の取組報告・発表 （計60分）
  - 1地域20分以内（例：中間支援主体5分＋活動団体15分）×3地域
3. 地方事務局からの情報提供／話題提供 （20分）
  - ① 中部地方環境事務所から情報提供
  - ② EP0中部から話題提供（地域循環共生圏の高校生による見聞録の紹介）
4. 休憩&交流タイム （20分）
5. グループワーク・ディスカッション （70分）
  - ① 【前半：地域別グループワーク】『これまで』のふりかえり&『これから』の共有
  - ② 【後半：地域混合グループワーク】共生圏事業と中部3地域各々の取組がもたらすものとは

**終了後** 事務局より、懇親会と翌日・視察エクスカージョンの案内（10分程度）を予定

2

#### ⑤ 2日目・視察エクスカージョン

### 2日目・視察エクスカージョンの行程

**日時**：2025年11月14日（金）09:30～14:00頃

予定時刻	行程
09:30	名鉄「知多半田駅」ロータリー 三菱UFJ銀行ATM前 集合・出発 ※ ロータリーに長時間駐車ができないため、バスは9:30少し前の到着となります。
	貸切バス 約15分
09:45～11:25	ピオクラシックス半田・にじまち半田農場 ➢ 工場施設見学
	約15分
(途中)	小栗牧場／小栗和牛を車窓から見学
11:40～13:40	半田赤レンガ建物 ➢ 半田市観光協会による地域の概説や、地元企業「キッコウトミ(たまり)」「中埜酒造(酒粕)」による資源循環の取組など紹介(約30分) ➢ 昼食：バイオ肥料で育てたお米と知多和牛のハヤシライスとローストビーフ (昼食代金：2,000円…会場カフェのレジにてそれぞれ支払) ➢ 施設内の見学、休憩など自由行動
	約10分
14:00までに	名鉄「知多半田駅」到着・解散

4



## ウ GEOC が主催する事業関連会議等への参加

- 環境省、GEOC が主催する地域循環共生圏づくり支援体制構築事業に関連する次表の会議・会合等に出席した。
- キックオフミーティング（オンライン）では、ブレイクアウトルームでのグループディスカッションのファシリテーターをEPOが務めた。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容等
キックオフミーティング	5月29日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域循環共生圏事業のポイント説明</li> <li>● 地域循環共生圏づくりの事例紹介：R6年度卒業団体株式会社山都竹琉</li> <li>● 今年度の取組発表</li> <li>● 振り返り、今後の予定共有</li> </ul>
中間支援ギャザリング	3月5日～6日	リアル	御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター（東京）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● トークセッション（3テーマ×2主体）</li> <li>● 成果取りまとめ・R9-10 設計に関係する動き等の共有</li> <li>● グループワーク①中間支援機能について振り返り</li> <li>● グループワーク②今後必要な中間支援機能、体制について未実施</li> </ul>
作業部会	第1回 7月18日	ハイブリッド	GEOC（東京）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● チェンジ・エージェントの4機能で成果を整理する意図</li> <li>● 財務・非財務資本の統合（6資本）と好循環の視点で整理する意図</li> <li>● ロジックモデルのアウトプットに沿った整理</li> <li>● 中間支援座談会②の企画について</li> </ul>
	第2回 12月18日	ハイブリッド	GEOC（東京）	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 成果とりまとめの方向性について共有</li> <li>● 成果物Ⅱ 中間支援機能についてディスカッション（全体）</li> <li>● 成果物Ⅱ 中間支援機能についてディスカッション（グループ）</li> <li>● 全体共有・まとめ</li> </ul>
事業検討会議	12月11日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 【議題1】令和7年度中の予定</li> <li>● 【議題2】令和9～10年度の事業設計について</li> <li>● 【議題3】令和8年度（次年度）の実施内容について</li> </ul>

## エ 審査委員会運営に係る協力

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加団体の次年度以降の継続の可否に関する審査委員会において、参加団体との連絡調整や中間共有会の発表資料の提出、発表時の撮影動画の提供などの協力を行った。
- 審査は12月25日に中部地方環境事務所が実施し、EPO 中部担当者も審査委員会（オンライン）に傍聴同席した。

## (2) 身近な自然資本活用に関する意見交換会等の開催

事務所担当官と協議を行い、今年度の本業務については、地域生物多様性増進室との連携による「SDGs AICHI EXPO ～SDGs 子ども・ユースフェア～」への出展運営と、白山自然保護官事務所との連携による子ども向け白山イベント「はくさん大発見！～白山の自然や動物を見て・さわって・学んで、自分だけの白山づくり体験～」の開催運営支援を実施した。

### ア SDGs AICHI EXPO ～SDGs 子ども・ユースフェア～への出展

#### ① イベント名

SDGs AICHI EXPO ～SDGs 子ども・ユースフェア～（主催：SDGs AICHI EXPO 実行委員会）

#### ② 日時

- ブース：2025年10月3日（金）・4日（土）10:00～17:00
- ワークショップ：2025年10月3日（金）14:00～14:45

#### ③ 会場

- 愛知県国際展示場（愛知県常滑市）

#### ④ 実施内容

- ブース出展：パネル展示、クイズ・ゲーム、レンジャー服で記念撮影、だいだらポーズ（着ぐるみ）
- ワークショップ：「ヨシストローをつくろう！ヨシ刈り継続でネイチャーポジティブもヨシ！」

#### ⑤ 作成したパネル（A1サイズ）計14点

**環境省  
中部地方環境事務所ブースへ  
ようこそ！**

だいだらポーズ  
ネイチャーポジティブ  
イメジャングッズ

**[開催中]**

**レンジャー服を着て記念撮影**

**いきものゲーム・いきものクイズ**

- ① いきものゲーム「天敵かくれんぼ」
- ② いきものゲーム「あの鳥の群れは何羽？」
- ③ いきものクイズ「外来種はどっち？」

### 生物多様性って何？

「生物多様性」とは、全ての生きものが持つ多様な違いやそれらの関わりのこと。生物多様性は、3つのレベルの多様性で捉えることができます。

遺伝子の多様性

種の多様性

生態系の多様性

**① 遺伝子の多様性**

アサリの貝殻の模様が千差万別なように、同じ種でも遺伝子の違いによる多様な個性があること。この違いがあることで、病気や環境の変化に対応しやすくなり、種全体の生き残る力が強くなる。

**② 種の多様性**

動植物から細菌などの微生物に至るまで、いろいろな生きものがいること。地球上には3,000万種が存在し、多様な生きものがいることで、生態系がバランスを保ち、安定した環境が維持される。

**③ 生態系の多様性**

森林、灌原、里地里山、河川、干潟、サンゴ礁など、いろいろなタイプの自然があることで、地球全体の環境が健全に保たれ、気候調整や水浄化など自然の機能が維持される。

**● 生物多様性と私達の暮らし**

野菜や果物は、野生の種で球や形のよい性質をもつものが選ばれて品種改良されたものです。野菜も果物もハチなどの昆虫や鳥が受粉を助けることで実がなります。土の中の微生物なども含め、様々な生物のつながりが私達の暮らしを支えています。魚や貝なども私達の食を豊かにしてくれています。

生物は、食以外に私達の暮らしにどう役立っていますか？きれいな水や空気、安定した気候、自然災害の緩和、様々な文化の源。生物多様性が自然が私達の暮らしを支える基盤であることに気がつくことができましたか？

もし、生物多様性からたらされるめぐみ（生態系サービス）がなくなったらどうなるか、想像してみてください。

**● 生物多様性の価値は“人の役に立つこと”だけか？**

世界には知られているだけで約175万種、未知の種を含めると約3000万種の生物がいるだろうと言われています。日本にも知られているだけでも9万種以上の生物が生息・生育していると言われています。大陸との接続・分断の歴史、南北に長く3000m級の皇親な山のある国土、噴火や地震、人の営みとの関わり等により、長い時間をかけて様々な生物が存在するようになり、それらの生物たちが関わり合いバランスを保ちながら生態系を形作ってきました。

現在、存在する生物や生態系は、生命の長い歴史が作り出した、それ自然にかけがえのない価値があります。

しかし、人間活動が拡大したここ最近の100年で生物たちが急速に絶滅に追い込まれていると言われています。

# なぜ生物を絶滅させてはダメなの？

約40億年かけて創り出された生命の豊かさが失われ、生物たちの複雑なつながりがなくなれば人間にも悪影響が及びます。

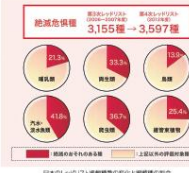
## ●生物多様性と社会経済

生物多様性から得られるめぐみ（生態系サービス）と空気や水、鉱物など合わせて「自然資本」と呼ばれていますが、**自然資源の劣化は世界のGDPの半分（約44兆米ドル）以上に影響を与えると予測されています（2020年世界経済フォーラム）。**



## ●何が生物を絶滅に追い込んでいるのか？

日本では、絶滅のおそれがあると考えられた種が掲載される「レッドリスト」に掲載される種が増えていますが、種が減少した主な直接要因は、開発・捕獲・採集・管理放棄・遷移進行、水質汚濁・農業汚染、過剰利用等、捕食者侵入となつています。



## ●生物多様性を脅かしている要因は？

- 【直接要因】**
- 開発や乱獲等による種の絶滅、絶滅地生育地破壊
  - 単地単山など管理不足による自然の質の低下
  - 外来種による生態系の攪乱
  - 気候変動による影響
- 【間接要因】**
- 人間の活動や意思決定を含む**社会経済のあり方**
  - これらの背景にある**人間の価値観や行動のあり方**

## ●外来種とは？

ある地域に人為的（意図的又は非意図的）に導入されることにより、本来の自然分佈域を超えて生息・生育する生物のことです。外国から国内に流入してくる種だけでなく、国内でも本来の生息域を超えて別の地域へ持ち込まれたものも外来種です。



## ●外来種がなぜダメなの？

外来種の中には、もともとの生態系、人の身体・生命、農林水産業に悪い影響を及ぼすものもあり、そのような種を**侵略的外来種**とします。外来種による被害を防止するためには、「**入れない、捨てない、広げない**」こと（**外来種被害防止三原則**）が必要です。

# 保護増殖事業ってなに？

個体の繁殖の促進、生息地等の整備等の事業の推進をする必要があると認める場合は、「保護増殖事業計画」を策定して、保護増殖のための取組を行っています。

## ●国内希少野生動物種とは

絶滅のおそれのある野生動物種の保存に関する法律（種の保存法）に基づき、日本国内に生息・生育する、レッドリストに掲載されている絶滅のおそれのある種（絶滅危惧I類、II類）のうち、**人の行為の影響により存続に支障をきたす事情が生じていると判断される種（または亜種・変種）を「国内希少野生動物種」に指定しています。**令和7年2月現在、国内希少野生動物種は458種です。



## ●国内希少野生動物種を守るために

国内希少野生動物種に指定されている種のうち、その個体の繁殖の促進、生息地等の整備等の事業を推進する必要がある場合は、**保護増殖事業計画**を策定して、保護増殖事業を実施しています。令和7年3月末現在、79種・亜種について56計画が策定されています。

## ●具体的に何をしていますの？

環境省の各出先事務所では、管内に生息している国内希少野生動物種の保護増殖事業を実施しています。中部地方環境事務所では、現在**イタセンパラ**、**アハサンショウウオ**、**ヤシヤンゴロウ**の3種の保護増殖事業を実施しています。具体的には、それぞれの種の**生息状況調査**や生息地の外で**飼育繁殖**、いろいろな人に「身近にも希少な野生動物種がいる」ということを知ってもらうための**普及啓発**を実施しています。特に**イタセンパラ**は愛知県内でも生息が確認されています。（※実際に環境省の中で飼育するのはなく、きちんと飼育できる水族館等に飼育繁殖を依頼しています。）

## ●イタセンパラ保護増殖事業

中部地方環境事務所では、イタセンパラの保護増殖事業で、**生息状況調査**、**生息域外保全（飼育繁殖、飼育繁殖個体の試験放流）**、**普及啓発**を実施しています。

イタセンパラ 学名 *Acheilognathus longipinnis*  
絶滅危惧I類（環境省4次レッドリスト） 準絶滅危惧種  
河川内の流れの緩やかなワンドやたまりに生息し、秋季にタデショウガイ等の二枚貝に産卵する。孵化仔魚はそのまま貝内で越冬し、翌春水中に泳ぎ出る。生まれた年に成熟し、寿命は約1年。早くとびし形の体形と大きな目が特徴。産卵期（秋）になると雄の体には鮮やかな赤色の着色が見られる。稚魚は動物プランクトンを捕食するが、成魚は付着藻類を餌とする。

# 環境省が行う外来種の防除

外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）に基づき、国も含め様々な主体が計画的に、関係者と連携して科学的知見に基づいて特定外来生物の防除（捕獲、採取、殺処分、被害防止措置の実施等）を行える仕組みや制度を設けたり、目標を定めたり、種を指定したりしています。

## ●特定外来生物とは

海外起源の外来生物であって、**生態系、人の生命・身体、農林水産業**に被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものから指定されます。指定された生物の取り扱いについては、**輸入、放出、飼養等、譲渡等の禁止**といった厳しい規制がかかります。特定外来生物は、生きているものに限り、個体だけではなく、**卵、種子、胚嚢なども含まれます。**

## ●環境省としての関わり

外来種防除は環境省だけではなく、様々な主体が協力して初めて成立します。令和5年4月1日から外来生物法が新しくなり、それに基づいて**特定外来生物被害防止基本方針**や**外来種被害防止計画 第2版**が定められました。これにより各主体に求められる行動が整理され、環境省では総合的に外来種対策を推進する取り組みを実施しています。



## ●環境省で実施している取り組み

環境省ではヒアリ防除についてのマニュアルを作成・頒布したり、出先機関でポスターの調査を実施したりしています。ヒアリは本来南米中部に生息するアリの一種で、日本では2017年に初めて確認されました。船や飛行機などで運ばれる国際貨物に紛れ込んで入ってきたものと考えられています。取除が、ほかの虫や小型の哺乳類、鳥類を捕食する事例もあるほか、人間が刺されると強い痛みが生じ、アレルギー反応（アナフィラキシーショック）を起こすおそれがあります。**要緊急対応特定外来生物**に指定されており、まん延した場合には著しく重大な被害が起ることが懸念される生物で、見つけた場合に、検査、防除などの拡散を防止するための措置を緊急に行う必要があります。



# ネイチャーポジティブとは？

2050年ビジョン「自然と共生する社会」を実現するため、「2030年までに生物多様性の損失を止め、反転させる行動をとること」

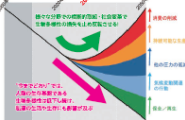
## 生物多様性をめぐる世界の動き

### 2010年 COP10名古屋（第10回生物多様性条約締約国会議）

- ▶2050年に「**自然と共生する世界**」を実現することを目指す決定
- ▶2050年までに、生物多様性が評価され、保全され、回復され、賢明に利用され、生態系サービスが維持され、健全な地球が維持され、全ての人々にとって不可欠な利益がもたらされる社会
- ▶2011-2020年戦略計画、20の個別目標（愛知目標）

### 2019年 地球全体の生物多様性を科学的に評価（Global Biodiversity Outlook5）

- ▶自然に変化を引き起こす要因は**過去50年間に加速**
- ▶愛知目標についてかなりの進捗が見られたが、20の個別目標で完全に達成できたものはない
- ▶**気候変動や土地利用変化等の生物多様性損失の直接的な要因への対応に加え、損失の根拠となる社会経済活動への対応が重要**
- ▶**生物多様性と多様な分野との連携強化が重要**



結論 **「今までどおりから脱却し、横断的な社会変革が必要」**

### 2021年 G7サミットで声明文「2030年自然協約」

- ▶2030年までに**生物多様性の損失を止め反転させる（ネイチャーポジティブ）**使命にコミットする（責任をもって取り組む）ことを声明
- ①**自然資源の持続可能な合法的な利用への移行**  
・森林減少や海洋への悪影響に反対 etc.
- ②**自然に投資、ネイチャーポジティブ経済を促進**  
・自然のための資金を増加させる、金融/産業/ビジネス界のリーダーとともに取り組む etc.
- ③**自然を保護、保全、回復させる**  
・2030年までに世界の陸地の30%以上、海洋の30%以上を保護地域や「その他の効果的な保全方法」により保護保全（30by30）  
・全体的な種絶滅リスクを大幅に減らし、人為的絶滅を止めるとを目指す
- ④**自然に対する説明責任、責任ある取り組み**

### 2022年 COP15モントリオール（第15回生物多様性条約締約国会議）

- ▶2050年ビジョン「自然と共生する世界」実現とともに、**生物多様性の損失を止め、反転させ、回復軌道に乗せるための緊急の行動をとる** 2030年ミッションと、そのための23の目標（グローバルターゲット）が決演
- ▶**グローバルターゲットの概要**
- ①**生物多様性への脅威を減らす**  
・生物多様性に脅かされた生態系と管理、劣化した生態系の回復、人類による脅威の削減と回復、侵略的外来種の導入・定着防止 陸と海の30%以上を保護地域やその他の方法により保全（30by30目標）、プラ・農業等汚染対策 etc.
- ②**人々のニーズを満たす**  
・持続可能な森林農業推進、自然の恵みの回復・維持・増大、都市の緑地空間の確保 etc.
- ③**実施と主流化のためのツールと解決策**  
・ビジネスによる影響改善と情報開示、持続可能な消費、農薬削減、有害補助金見直し etc.



## ネイチャーポジティブの実現に向けて

### ● 生物多様性国家戦略2023-2030

日本もネイチャーポジティブ実現のための考え方や目標を定め、国全体で取り組みを進めています。

- 基本戦略1：生態系の健全性の回復
- 基本戦略2：自然を活用した社会課題解決
- 基本戦略3：ネイチャーポジティブ経済の実現
- 基本戦略4：生活・消費活動での生物多様性の価値の認識と行動
- 基本戦略5：取組を支える基盤整備と国際連携

### ▶ 自然共生サイト

身近な自然を維持・回復・創出する活動と場所を「自然共生サイト」として認定し、30by30目標への貢献や国民による保全活動の活性化を進めています。現在、全国で328ヶ所約9.3万haの自然共生サイトが認定（R7.3時点）され、地域住民や企業等による保全活動が行われています。

### ▶ ネイチャーポジティブ経済への移行

生物多様性保全に配慮した企業活動や投資、持続可能な農林水産業を拡大させることを目指しています。

### ▶ 一人一人の行動変容

生物多様性や人と自然のつながりを大切にする価値観が広まり、人々が保全活動に参加したり、消費活動において生物多様性に配慮されたものとなることを目指しています。



### ネイチャーポジティブに関わる私達の仕事

環境省中部地方環境事務所では、2050年自然と共生する世界（社会）とネイチャーポジティブの実現のため、

- 生物多様性、ネイチャーポジティブ、自然共生サイト等の普及啓発（広めること）
- 自然共生サイトを目指す団体・保全活動に取り組む団体の伴走支援（サポート）
- 企業との情報交換・意見交換や勉強会（共に学び、よりよくなることを目指す）等を行っています。

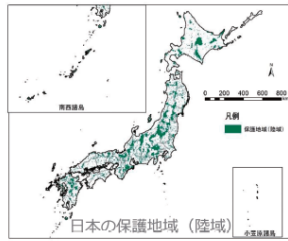
ネイチャーポジティブの仕事は、今後、ますます重要になっていくことが期待されます。

## 保護地域って何？

「保護地域」とは、国の法律や都道府県の条例等に基づいて指定された場所で、自然環境、野生生物（天然記念物・鳥獣・絶滅危惧種）、自然景観、都市の緑地などを保護・保全しています。

### ● どんな保護地域（目的）があるの？

- ▶ 国立公園・国立公園（自然景観保護・自然体験の提供）
- ▶ 自然環境保全地域（自然環境の保護と継承）
- ▶ 鳥獣保護区（鳥獣の保護・管理、狩猟の適正化）
- ▶ 生息地等保護区（希少野生動物種の保存）
- ▶ 天然記念物（学術価値の高い動植物・自生地の保護）
- ▶ 保護林（国有林内の原生的天然林の保護・管理など）
- ▶ 緑の回廊（国有林内の保護林帯の連絡）
- ▶ 特別緑地保全地区（都市の良好な自然環境の保全）などがあります。これらの保護地域では、建物を建てたり、木を切ったり、地形を変えたり、動植物を捕ったりすることを規制して、自然を守っています。



### ● 日本にはどのくらいの保護地域があるの？

広い面積を指定する国立公園（35ヶ所）や国立公園（57ヶ所）をはじめ、

日本の面積の **陸域では 20.5%**

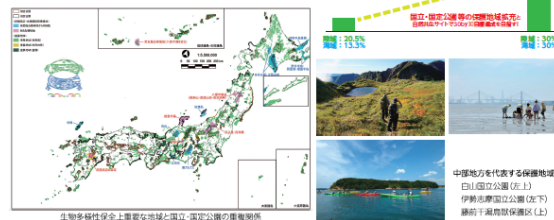
**海域では 13.3%**

が保護地域に指定され、生物多様性の保全に貢献しています。



### ● ネイチャーポジティブ（30by30目標）実現に向けた取り組み

自然共生サイトの認定だけでなく、国立公園や国立公園などを拡大・充実することで30by30目標はじめとするグローバルターゲットの達成を目指しています。



## 伊勢志摩国立公園

表情豊かな海岸地形と常緑広葉樹の森、そして、自然とともに生きる文化が根付く。



伊勢志摩国立公園は私有地の割合が非常に高く（96%以上）、公園内の居住人口が多い国立公園です。その範囲は伊勢市や南伊勢町の一部と、鳥羽市と志摩市全域にわたります。

海岸線の大部分は岬や入り江が多く、複雑に入り組んでいる「リアス海岸」です。英虞湾は穏やかな海に島々が浮かぶ多島海で、平坦な陸地が常緑広葉樹に覆われ、モコモコとした形をした全国でも珍しい景観となっています。栄養豊かな海は漁業が盛んで、新鮮な海の幸を味わえます。海女は日本中で減っていますが、ここは最も多い地域です。世界における真珠養殖発祥の地としても知られています。



日本では古代から人々は太陽を神として仰いできましたが、その信仰にある「伊勢神宮（神宮）」も国立公園の中にあります。日本の神々は自然に由来するものが多く、神宮も伊勢志摩国立公園の自然と密接に関わっています。神宮が所有する広大な森は、様々な種類の植物や動物の住処になっています。



## 伊勢志摩国立公園管理事務所はこんな仕事をしています！

### 自然公園法に関わる許可や公園管理



伊勢志摩国立公園は約96%が私有地で自然のそばに人々の暮らしがあります。公園内の生き物の調査や保護のほか景観を守るために建物や看板を景色になじむ形や色にするよう地元の人々にはたけがけのことも大事な仕事のひとつです。

### 湿地帯希少植物のモニタリングとアンパライ等の刈取作業とわらじ作り



湿地帯の希少植物のモニタリングを行うと同時に地域のみさんご協力をいただき、繁茂するアンパライの刈り取りを行いました。そのアンパライを活用したわらじ作りを行い、横山ピジョンセンターで販売する仕組みに取り組んでいます。



### 英虞湾周辺海岸清掃業務



伊勢志摩国立公園は周辺を海に囲まれています。その海は今、多くの課題を抱えています。「海洋ごみ」「マクロプラスチック」「海面温度の温暖化」など、そんな課題にできることとして、地域のみさんごと一緒に海清掃を行っています。

### 環境教育業務



地域の将来を担う児童・生徒たちに、自分たちが生活している場所と国立公園が密接に関わりあっていることを伝え、自然環境の大切さと守る責任を伝えていきます。

- 他にも…
- 直轄施設（施設・歩道等）の維持管理
- アカウミガメ産卵地保全
- 鳥類自然環境状況調査
- AR日記で情報発信
- 国立公園湖沼プロジェクトの推進 …など

## 美しい白山 白山国立公園の魅力

### ●白山国立公園とは

富士山、立山と並ぶ日本三名山のひとつ白山。最高峰の御前峰2,702mを中心に周辺の山々を総称して白山と呼んでいます。1962（昭和37）年に国立公園に指定された白山国立公園は、岐阜・富山・石川・福井の4県7市町村にまたがっており、日本最西端の高山帯でもあります。



### ●白山の魅力① 豊かな自然

ブナを主体とした広大な広葉樹林にはツキノフグマ、ニホンカモシカ、イヌワシといった野生鳥獣が生息しています。さらにハクサンフウロやクロユリなど約250種の高山植物が生育し、「ハクサン」とつく名前の植物が約20種あります。また、ユネスコの生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）に指定されています。

### ●白山の魅力② 多様な文化

717年に聖徳太子によって開山された白山。御前峰には全国三千余社ある白山神社の奥宮が置かれ、信仰の山として古くから崇拝されてきました。また、白山園に住む人々はお酒や堅豆腐を作ったり、湧き出る温泉に浸かったり、白山の豊かな恩恵を受けてきました。



### ●白山の魅力③ 火山景観

御前峰、大汝峰、剣ヶ峰の三峰が山頂部を形成し、翠ヶ池などの火山湖や、火山砕屑物や溶岩でできた室堂平などの平坦地とあいまって、優美な火山風景が広がります。山体の大部分は古い時代の地層や岩石でできており、その上を火山噴出物が覆い白山火山を形成しています。砂防新道の途中にある「黒ボコ岩」は噴火より山頂から運ばれたものです。

環境省 白山自然保護官事務所

## 白山国立公園 レンジャーとお仕事



各国立公園には「レンジャー」という国立公園の管理をする職員がいます。訪れる人が豊かな自然とのふれあいを楽しめるように、レンジャーは自然の保護や適切な利用をすすめるなど様々な仕事に取り組んでいます。

### 白山レンジャーの仕事はこれだ!

#### ●公園内の巡視

日本三名山のひとつである白山には、毎年たくさんの登山者が訪れます。そんな白山国立公園で重要なのが、登山道や避難小屋などを利用者が安全に利用できるように維持することです。このため、登山道等に異変がないかを確認する巡視を行い、危険な箇所があれば応急対応をしたり、大規模な異常があれば修繕しています。



#### ●外来植物対策

白山では登山者の靴、小屋や工事の荷物につくって、外来植物（白山にはなかった植物）が侵入し、その分布が拡大しています。その結果、白山の植物が外来植物との間に雑種を作ったり、外来植物に生育場所を奪われたりして、白山の自然への影響が懸念されています。このため、外来植物がどこに生えているかを調べたり、除去をしたり、靴の種子を除去するマットを設置したりしています。



#### ●二ホンジカ調査

黒く濡れた目が魅力的な二ホンジカですが、増えすぎると地域の植物を食べつくし、植物の枯死や土砂災害の原因になることが知られています。白山の周辺でも近年増加傾向のため、自動撮影カメラを設置して生息状況を調査したり、糞生を調査して食害のリスクの高い場所を調べたりしています。



#### ●普及啓発活動

皆さんに白山を守りながら自然とふれあい楽しんでいただくように、自然観察会を開催したり、レンジャーのミニ体験をする「子どもパークレンジャー活動」を開催したりしています。また、パークボランティアの皆さんとともに登山道の巡視や清掃、ゴミ持ち帰りの呼びかけなども行っています。



## 国指定藤前干潟鳥獣保護区

### ●藤前干潟保全の歴史

市民による15年以上に渡る保全活動の結果、1999年に藤前干潟がごみ埋立から守られました。2002年には国指定鳥獣保護区に指定され、その一部は「ラムサール条約湿地」登録となり、世界的にも渡り鳥にとって重要な干潟であることが認められました。名古屋は市民と協力してごみ減量化取組を進め、環境に配慮した街を目指しています。



藤前干潟



稲永ビターセンター

### ●稲永ビターセンター

稲永ビターセンターでは、地球を放る「渡り鳥のくらしや藤前干潟の自然環境や保全の歴史」について学ぶことができます。また、定期的に干潟と生きものとのつながりについて観察会を行っています。干潟に棲んでいるカニやトビハゼ、貝などを観察し、身近な自然環境を体感しませんか。



チュウシャウシギ



トビハゼ



ネコガニ

### ●藤前干潟活動センター

干潟にはアナジャコやトビハゼ、カニ、貝など120種類以上の生きものが棲んでいて、その一部は藤前干潟活動センターでも見ることができます。また、干潟観察会やグリーンアップ活動などの「体験活動」を通して、干潟環境を「体感」し、ひとり一人が「気づく」こと、「発見する」ことを大切にしています。ぜひ、藤前干潟の体験活動に参加してください。



藤前干潟活動センター



アナジャコ



干潟観察会

環境省 名古屋自然保護官事務所

## 名古屋自然保護官事務所のご紹介!!

私たちは、名古屋市内の港湾部にある「藤前干潟」を担当しています。「藤前干潟」は、昔より、渡り鳥の中継地として大きな役割を果たしてきました。しかし20世紀末には名古屋市のゴミ問題の解決策として干潟の埋め立てが計画されましたが、市民が中心となって保全運動が起こり、その自然は守られて現在に至っています。合わせて2002年から国指定鳥獣保護区、ラムサール条約に認定され、都心に残された数少ない自然豊かな場所になっています。



### 国指定鳥獣保護区とは?

日本の国指定鳥獣保護区は、国際的、全国的な鳥獣保護のため重要な場所として、「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」に基づき、国（環境省）で指定されています。国指定鳥獣保護区は、全国で66カ所指定され、環境省が指定する都道府県指定鳥獣保護区（全国で3,645カ所）とともに、日本の鳥獣保護における中心的な役割を果たしています。鳥獣保護区の中でも鳥獣の保護を定めるために必要であるとして指定される特別鳥獣保護区は、一定の制限行為が課せられます。

### ラムサール条約とは?

水鳥などの生息地として国際的に重要な湿地や、そこに生き・生育する動物の保全を保護することを目的とした国際条約（正式名称：特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約）で、湿地の保全及び賢明な利用（ウィズユース）促進のために条約締結国がとるべき措置等について規定しています。日本全国では、現在までに、藤前干潟を含む54カ所がラムサール条約登録湿地として登録されており、その合計面積は約166,134haにおよびます。

### 名古屋自然保護官事務所で働くレンジャー、アクティブ・レンジャーのお仕事紹介!!

#### ここが見どころ!

藤前干潟は、名古屋という大都会にありながら、貴重な自然を残し、渡り鳥が多く訪れることから、ラムサール条約に登録されています。また、カニ、トビハゼなどの渡り鳥、夏はカニや貝などの産生生物、冬はカニの観察がオススメです。

#### こんな活動をしています!

藤前干潟は、過去に埋立の危機にありましたが、市民活動によって守られました。この歴史と干潟の生態系の重要性を伝えたいために、干潟での体験学習や山形調査を定期的に行っています。

#### 藤前干潟の現状把握!

藤前干潟で活動するにあたり、なくてはならないのは、やはり現状を把握すること。日々生き物たちの変化や環境に変化がないかを観察する事項をはじめ、死の生き物の様子を知るために、必要に応じて現地での調査を行っています。その際にも、鳥獣保護区管理員が定期的にカウントする鳥の個数をまとめてデータにしたり、高解像度カメラで飛行シーンスームでは、調査を行い、撮影する際に撮影の機材がないかの確認や調査も行っています。

#### こんな仕事をしています!

- 藤前干潟協議会運営事務局
- 沼沢、尾ヶ浦、尾ヶ浦の調査
- 出羽調査、イベント実施での普及啓発活動
- 自然観察会や山形調査
- 鳥獣保護区（ビターセンター）の維持管理

#### 藤前干潟協議会運営事務局

藤前干潟協議会の事務局を担当しています。協議会の目的に賛同する方であれば誰でも出席することができ、市民、団体、研究者や行政が同じ目標で話し合えるよう、準備、運営を行っています。

#### 普及啓発活動

小・中学校へ出張して行ったり、イベントを行ったり、藤前干潟の存在や魅力を知ってもらう活動を行っています。干潟という環境と、そこに生息する生き物たち、また藤前干潟の歴史から、現在藤前干潟が抱えている課題と今後の目標などを藤前干潟を舞台に、環境について幅広くメッセージを送っています。

<国指定藤前干潟鳥獣保護区> 名古屋自然保護官事務所

【パネル展示、クイズ・ゲーム等を実施したブース設営・運営】



【だいだらポジー（着ぐるみ）の運営】（大学生アルバイト2名×2日雇用）



【ワークショップ運営】

「ヨシストローをつくろう！ヨシ刈り継続でネイチャーポジティブもヨシ！」（参加者10名）



## イ 子ども向け白山イベント開催

① イベント名

- はくさん大発見！  
～白山の自然や動物を見て・さわって・学んで、自分だけの白山づくり体験～

② 日時

- 2026年2月23日（月・祝）13：00～15：00

③ 会場

- 石川県立図書館 研修室（石川県金沢市）

#### ④主催等

- 主催：環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部）

#### ⑤参加者

- 28名（9組：子ども12名、保護者・同伴者16名）

#### ⑥プログラム

- |   |
|---|
| 1. はじめに「白山国立公園とは？」<br>お話しする人：環境省白山自然保護官事務所                        |
| 2. ふれてみよう・さわってみよう 「はくさんのひみつをふもとからてっぺんまで！」<br>お話しする人：環境省白山自然保護官事務所 |
| 3. ワークショップ 「ペーパークラフトで自分だけのミニ白山をつくらう！」<br>進行：EPO 中部                |
| 4. おわりに 「どんな白山ができたかな？」<br>本日の感想：参加したみなさん                          |



# はくさん 大発見!

参加者募集中!

白山の自然や動物を見て・さわって・学んで  
自分だけの白山づくり体験

と き : 2026年 2月 23日 (月・祝) 13:00 ~ 15:00

と ころ : 石川県立図書館 研修室 金沢市小立野2丁目43番1号  
<https://www.library.pref.shikawa.lg.jp/category/facilityguide/1026.html>

参加申込 : 右のQRコード、下のURLからお申し込みください。

<https://forms.gle/G2pAaY6ZRfhaJvt89>

- 小学生が対象です。(定員20名)
- 保護者の同伴が必要です。
- 中学生以上の方も同行者として参加可能です。

参加者には「白山国立公園オリジナル野帳」  
「白山マグネット」をプレゼント!

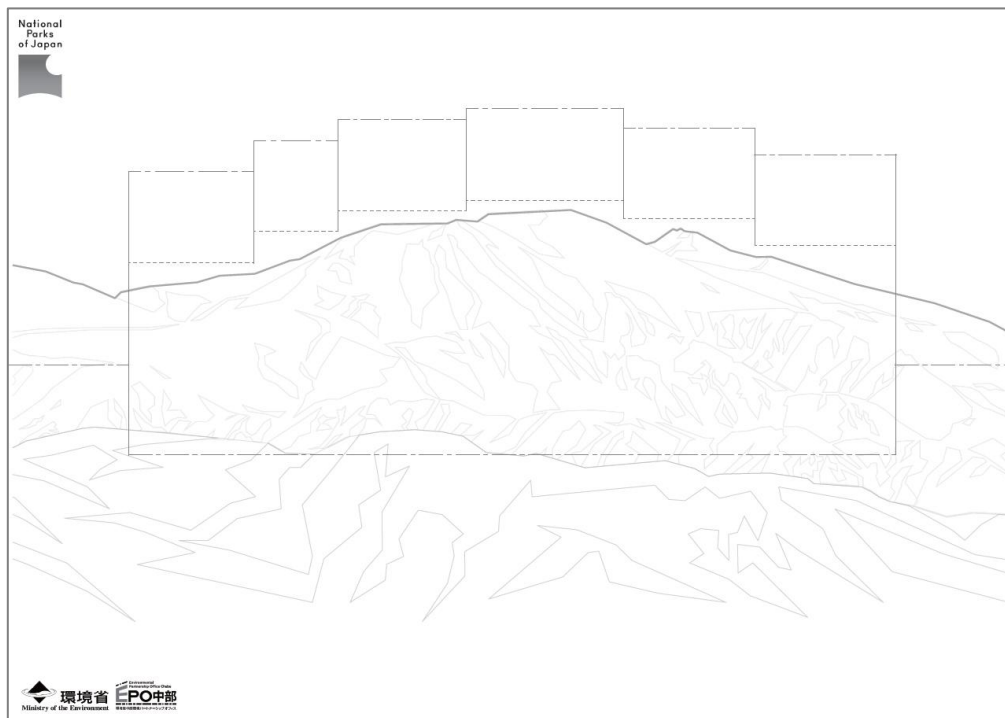
室内であたたかく! **プログラム** 親子で楽しく♪  
白山の魅力をのぞいてみよう!

環境省から  
ごあいさつ

- 1 はじめに  
白山国立公園とは?
- 2 ふれてみよう  
さわってみよう  
はくさんのひみつを  
ふもとから  
てっぺんまで!  
クイズもあるよ
- 3 ワークショップ  
ペーパークラフトで  
自分だけのミニ白山を  
つくろう!  
作品は持ち帰りOK!
- 4 おわりに  
どんな白山が  
できたかな?

主催 : 環境省中部地方環境事務所、中部環境パートナーシップオフィス (EPO 中部)  
問合せ先 (EPO 中部) : 電話 052-218-8605 メール [toiawase@epo-chubu.jp](mailto:toiawase@epo-chubu.jp)

⑧EPO 中部作成・ワークショップ作用「白山」型紙（A3サイズ）



(3) 地域循環共生圏づくりのための関係性の構築

- 業務を通じて地域での地域循環共生圏創造の担い手、背景情報及び活動状況について情報収集、及び、地域循環共生圏創造の担い手に対して地域循環共生圏に関する情報提供を行ったほか、次の2つの取組を実施した。
- EPO 中部で受け入れを行った高校生インターンに、地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の参加団体の一つである半田市地域循環共生圏推進協議会の取材記事を作成してもらい、EPO 中部ウェブサイトで公開した。記事については協議会側へも提供した。

相談対応（インターン協力依頼への対応）と共生圏事業との連携

高校生インターンが  
共生圏事業の半田市の取組を取材

- 2023年度から私立高校のインターンシップ・プログラムに協力。今年度も高校1年生3人のインターン生を受け入れ。
- 学生たちは、共生圏事業の採択団体・半田市地域循環共生圏推進協議会とその関連施設を取材し、紹介記事を作成。
- 堅い表現になりがちな協議会の取組に対し、高校生目線での表現による作成記事を半田側へも提供。
- インターン生作成の取材記事は、ウェブサイトで開催中である。

➤ <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/31986.html>



地域循環共生圏について学んで  
～ピオぐるファクトリーHANDAの取り組み～

高山高校女子部3年  
S.A.

環境省EPO中部へのインターンシップにて  
(2023年8月10日～18日)

ピオぐるファクトリーで  
学ぶ地域循環共生圏

高山高校女子部1年  
法律事務所

環境省EPO中部へのインターンシップにて  
(2023年8月16日～18日)

知多半田市を取材して

高山高校女子部1年

森 亮乃

環境省EPO中部へのインターンシップにて  
(2023年8月16日～18日)

- JICA 北陸が主催の「自然共生社会づくりの取組事例から学ぶ研修会」に参加し、海外研修生に対し地域循環共生圏の概念等についてインプットを行い、あわせて、「地域循環共生圏に貢献する資本増加に繋がるのか、評価チェックリスト（試行版）」（「(3)自治体・協働コーディネーター間の情報・意見交換の促進、地域循環共生圏への貢献についてのフィードバック」業務で構築検討を実施）の紹介と、実際に研修生に記入してもらい、使用した感想コメントなどをいただいた。

## ローカルSDGs活動に関する評価チェックリストの試行(H7年度)

### JICA研修への海外参加者に依頼して環境関係の取組について記入した事例

EPO中部に依頼のあった講演1時間の中で「地域循環共生圏と中間支援」について説明した後に参加者6人にチェックリスト記入を依頼。3人より記入結果を受領。

JICA北陸 2025年度課題別研修  
 「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興-SATOYAMA イニシアティブの推進」  
 2025年10月24日  
 演題：地域循環共生圏づくりへの中間支援組織の役割  
 講師：環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)原 理史



Item	Yes	No	Comments
1. The form is easy to understand and use.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
2. The form is useful for reflecting certain projects and programs.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
3. The form provides a lot of information in a summarised form.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
4. The form is very good for understanding the project objectives and other related pros and cons.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
5. The form is an excellent technique.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
6. I will try to organise similar forms back home for reflection and understanding.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
7. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
8. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
9. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
10. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
11. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
12. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
13. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
14. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
15. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
16. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
17. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
18. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
19. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
20. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
21. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
22. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
23. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
24. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
25. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
26. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
27. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
28. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
29. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
30. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
31. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
32. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
33. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
34. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
35. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
36. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
37. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
38. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
39. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
40. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
41. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
42. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
43. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
44. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
45. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
46. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
47. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
48. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
49. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
50. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
51. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
52. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
53. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
54. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
55. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
56. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
57. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
58. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
59. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
60. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
61. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
62. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
63. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
64. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
65. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
66. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
67. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
68. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
69. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
70. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
71. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
72. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
73. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
74. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
75. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
76. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
77. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
78. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
79. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
80. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
81. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
82. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
83. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
84. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
85. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
86. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
87. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
88. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
89. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
90. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
91. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
92. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
93. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
94. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
95. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
96. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
97. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
98. I will try to use the form in my organization.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
99. I will try to use the form in my community.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
100. I will try to use the form in my country.	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

### Mr.Sonu (Community Based Forest Parks) の記入事例:フィジー

Comments:  
 This form is really good in reflecting certain projects and programs. It provides a lot of information in summarised form that is very good for understanding the project objectives and other related pros and cons. Excellent technique. Will try to organise similar forms back home for reflection and understanding.

コメント  
 この様式は、各プロジェクトやプログラムを要領よく整理し、目的・成果・課題を理解するうえで非常に有効である。同様の様式を自国でも導入し、振り返りと学びに活用したい。



## イ ノウハウ共有と推進に関する方策の検討

- 全国センター主催の「ESD・気候変動教育の推進のための作業部会」に下記の通り、出席した。

区分	回/開催日	開催方法	会場	実施内容
ESD・気候変動教育の推進のための作業部会	第1回 7月9日	リアル	青山ブックストア (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ R7 作業部会のスケジュール及びねらいの説明</li> <li>▪ 話題提供: ①武蔵野大学工学部サステナビリティ学科教授 白井信雄氏、②特定非営利活動法人「環境・持続社会」研究センター事務局次長 遠藤氏</li> <li>▪ 学びあいプロジェクト説明</li> <li>▪ 意見交換: 学びあいプロジェクトの今後の進め方について</li> </ul>
	第2回 2月25日	リアル	TKP ガーデンシティ渋谷 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 学びあいプロジェクト中間レビュー案の説明</li> <li>▪ 各センターより学びあいプロジェクト中間レビューの報告</li> <li>▪ 各委員より質疑応答、フィードバック</li> <li>▪ 中間レビュー案に対する意見交換</li> </ul>

## ウ 学び合い（勉強会・意見交換会、ワークショップ等）の実施

### (ア) 学び合いの場①の開催

#### ①イベント名

- 学び合いの場①ワークショップ

#### ②日時

- 2025年7月18日（金）13:00～15:30

#### ③会場

- eco-T 豊田市環境学習施設 2F セミナールーム（豊田市渡刈町大明神 39-3）

#### ④主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 協力：豊田市環境政策課

#### ⑤参加者

- 21名（インタープリター16名4班、エコット職員5名1班）



## ⑥プログラム


- アイスブレイク 自己紹介とリーダー選び
- インプット ESDとしての「学び合いの場」づくりについて
- ディスカッション1：SDGs 学習も考慮したテーマの設定
- ディスカッション2：学び合いの場の形式検討
- ワーク1：学び合いの場の企画づくり
- ワーク2：企画内容のSDGs チェック
- ワーク3：企画のブラッシュアップ
- プレゼン 議論した内容を発表

### 【学び合いの場①の波及効果事例】

2025年度学び合いプロジェクト 地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育  
ワークショップ・SDGsの学びの場をつくる！波及効果の例：学び合いの場①⇒市民⇒企業⇒消費者(珈琲)


成果例の概要：学び合いの場①に参加した豊田市環境学習施設のインタープリターが、そこで作成した素案を元に企画を具体化、企業と協力してESDイベントを実現した。

●ESD学び合いの場づくりワークブック





●インタープリターが参加した企画づくりのワークショップ

学び合いの場①  
対象：eco-T「エコット」豊田市環境学習施設職員、同インタープリター、21名  
期日：2025年7月18日 13:00～15:30  
場所：愛知県豊田市 eco-T豊田市環境学習施設  
主催：中部地方ESD活動支援センター  
協力：豊田市環境政策課

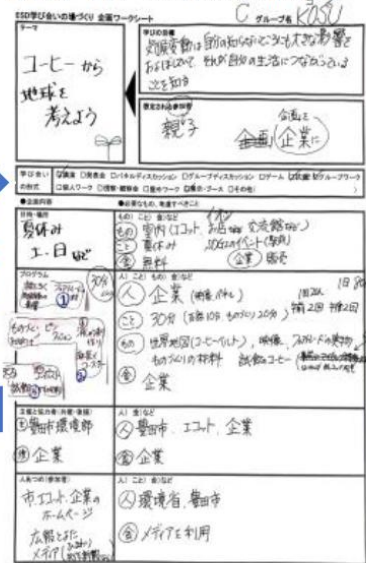


●インタープリター自ら企画して実現したESDイベント


親子で学ぶ気候変動とサステナブルな暮らし  
豊田市商業施設10/12(日)  
気候変動をフリップ8枚で説明  
バックに三本珈琲の海外農場写真  
1回30分×3回、72名の参加

●インタープリターがWSで作成した企画書案



●中部三本珈琲との協働



## (イ) 学び合いの場②の開催

### ①イベント名

- 学び合いの場②ワークショップ

### ②日時

- 2025年8月29日(金) 19:00～21:00

### ③会場

- 坂井市立春江中コミュニティセンター(福井県坂井市)

### ④主催等

- 主催：福井県坂井市役所

- 共催：中部地方 ESD 活動支援センター
- 協力：アルマス・バイオコスモス研究所

### ⑤参加者

- 17名



### ⑥プログラム

- オープニング：第3回 WS の位置づけ、目的・ゴール、共催紹介
- 前回のまとめ、決定グループ紹介
- インプット：ESD と学び合いの場づくり
- ワーク 1：第2回で決まった企画をプランに
- ワーク 2：企画書の SDGs チェック
- ワーク 3：企画プランのブラッシュアップ
- プレゼン作戦タイム
- 全体共有：3チームのプレゼンテーション、ふりかえり

## (ウ) 第1回 学び合いプロジェクト有識者検討会の実施

### ①日時

- 2025年6月2日(月) 15:30~17:00

### ②会場

- EPO 中部 (愛知県名古屋市)

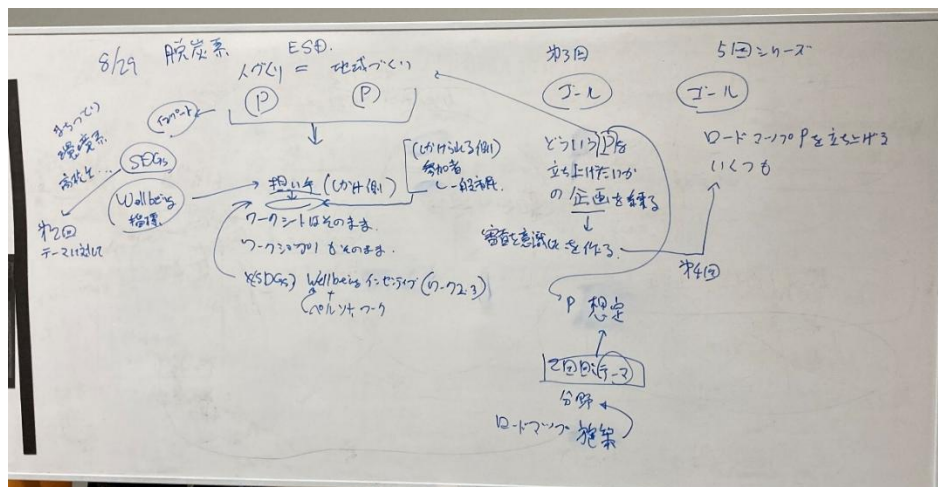
### ③出席者

古澤礼太 中部大学国際 ESD・SDGs センター教授 中部 ESD 拠点協議会事務局長  
 水上聡子 EPO 中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表  
 堺 勇人 EPO 中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長  
 原 理史 中部地方 ESD 活動支援センター  
 縄野正衡 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐  
 高木美里 環境省中部地方環境事務所 環境対策課 里海づくり推進専門官  
 清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス 統括



#### ④協議項目

- ワークショップパッケージについて
- 学び合いプロジェクト計画について（学び合いの場①②、実践活動の組み立て）



### (エ) 第2回 学び合いプロジェクト有識者検討会の実施

#### ①日時

- 2025年7月23日（水）15:10～17:00

#### ②会場

- 富山県民会館（富山県富山市）

#### ③出席者

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター教授 中部ESD拠点協議会事務局長  
水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表  
堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局長  
原 理史 中部地方ESD活動支援センター  
縄野正衡 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐  
清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス 統括

#### ④協議項目

- 学び合いの場①【7/18】の開催結果について
- 学び合いの場②【8/29】の開催計画について
- 実践活動（実践セミナー）の開催企画について
- 実施結果のとりまとめ【パッケージ】の方法について



## (オ) 第3回 学び合いプロジェクト有識者検討会の実施

### ①日時

- 2025年12月4日(木) 15:10~17:00

### ②会場

- EPO 中部 (愛知県名古屋)

### ③出席者

古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター教授 中部ESD拠点協議会事務局長  
水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表  
堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人環境市民プラットフォームとやま事務局長  
縄野正衡 環境省中部地方環境事務所 環境対策課長補佐  
高木美里 環境省中部地方環境事務所 環境対策課 里海づくり推進専門官  
清本三郎 中部環境パートナーシップオフィス 統括  
原 理史 中部地方ESD活動支援センター

### ④協議項目

- 学び合いの場②【8/29】の開催結果について
- 実践活動(実践セミナー)【11/25-26】の開催結果について
- 実施結果のとりまとめ【パッケージ】について



## (カ) 冊子、動画の作成、公表・配布

- 有識者検討会において、学び合いの場①②、実践活動の実施結果等をもとに、第6期に作成した「現場から学ぶESD学びの場づくりワークブック」の活用方法についてとりまとめた。
- また、その普及のための冊子と動画を作成し、中部地方ESD活動支援センターウェブサイトで公開するとともに、関係者への配布等を行った。


冊子・動画等の掲載URL：[https://chubu.esdcenter.jp/category/02\\_centerproject/02-1\\_workbook](https://chubu.esdcenter.jp/category/02_centerproject/02-1_workbook)

# ①作成した冊子（ワークショップ用ツール資料）

セミナーなどの企画運営者を育てる！

気候変動教育など・市民教育のための  
ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ  
【やり方と解説】Vr.2

「ESD学び合いの場づくりワークブック」  
を使って・・・



環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センター  
学び合いプロジェクト有識者検討会（2026年3月）

## ESD学び合いの場づくり企画ワークショップ

- 企画運営者のESDスキルアップを図り、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指す。

**ワークショップのミッション：SDGsなど市民教育の企画書を作る**

ESD学び合いの場づくり 企画ワークショップVr.2	作成者	
開催日時	開催場所	
開催時間	参加人数	
開催場所	開催内容	
開催趣意	開催費用	
開催連絡先	開催連絡先	
開催連絡先	開催連絡先	

・最終的に左の用紙に記入したり付箋を貼ったりしてESDの場の企画書案を作成します。  
・4～5人のグループいくつかで行います。  
・中部地方ESD活動支援センターが作成した「ESD学び合いの場づくりワークブック」を教材として使います。

## ワークショップのプログラム

10分	【アイスブレイク】自己紹介とリーダー選び	グループでの作業を円滑に進めるためお互いを知り、リーダーを選びます。
25分	【インプット】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて	ワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解します。
25分	【ディスカッション1】SDGs学習も考慮したテーマの設定	グループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。音読からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。
15分	【ディスカッション2】学び合いの場の形式検討	セミナーなのかワークショップなのか、どのよう形式で「学び合いの場」を作るのか検討します。
10分	<休憩>	
30分	【ワーク1】学び合いの場の企画づくり	グループごとに話合って実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します。
35分	【ワーク2】企画のブラッシュアップ	考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりずまして思いつかない議論をします。
15分	【ワーク3】企画内容のSDGsチェック	企画がSDGsの学びに貢献するかをもう一度チェックします。
10分	【プレゼン】議論した内容を発表	議論の内容を共有しましょう。

## 【アイスブレイク】自己紹介とリーダー選び

【アイスブレイク】ではグループでの作業を円滑に進めるためお互いを知り、リーダーを選びます。

## 【インプット】ESDとしての「学び合いの場」づくりについて

【インプット】ではワークショップの目的と意義について説明します。企画運営者のESDスキルアップを図る重要性を理解してください。


「ESD学び合いの場づくりワークブック」とともに、以下の12枚のスライドを使ってESDの重要性と企画の着眼点について説明します

## ESD学び合いの場づくりに役立つワークブック

気候変動教育・学び合いの場づくりのために企画運営力を伸ばすための虎の巻

地域づくりは人づくりから始まります。そのとき大切なキーワードが「ESD」と「SDGs」。「なんか巷ではやっているSDGs。関係あるのかなあ。勉強会が必要かなあ。なんか教育現場でESDとも言っているなあーそんなとき、このワークブックはきっと役に立ちます。ESDってなんだろ？ SDGsのための人づくりってなんだろ？

そんな基本的なことから、何を目標にするんだ？  
どんな分野があるんだ？  
どんなやり方があるんだ？  
どんな人を呼べばいいんだ？  
実際に何をすればいい？  
それで役に立つのか？  
といった実践的なことまで、考えるヒントが満載です。



いろんな場面で悩みはさまざまです。学びの目的は何でしょう？

<h3>企業でも</h3> <p>CSRの推進を社長から命じられるけど、SDGsの何が流行らない。何をすればいいのかわからない。何をやるべきか。どうすればいいかわからない。何をやるべきか。どうすればいいかわからない。何をやるべきか。どうすればいいかわからない。</p> <p><b>学びの目的</b> SDGから企業経営を捉え、地域への貢献のあり方を見える</p>	<h3>福祉協議会でも</h3> <p>活動したいのだけど何をやっていいかわからない。生活学習講座なんて誰も来ない。うちの施設をどうやって盛り上げようか。どうすればいいかわからない。何をやるべきか。どうすればいいかわからない。</p> <p><b>学びの目的</b> 「何が、なぜ、どこで、いつ」を高い視点から理解する</p>	<h3>自治会でも</h3> <p>最近自治会への参加者が減ってきて困っている。みんな、ごみの分別のルールがわからない。選挙の安全確保の件もあるし、町会や学区の役員もなかなか集まらない。何か目標を掲げたいけど、何をすればいいかわからない。</p> <p><b>学びの目的</b> 企業や自治会の思いを伝えたい地域への活用を目指す</p>
--	---	--

**もちろん学校でも**

持続可能な社会のための「学び合いの場」が大切！

## 地球・地域づくりは人づくりから始まります

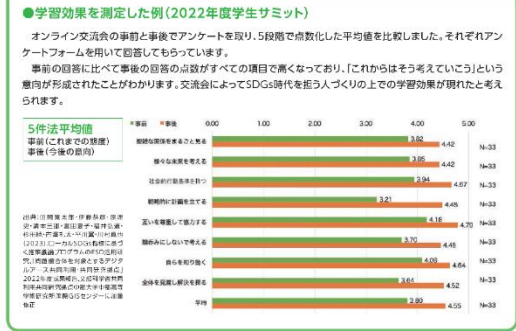
ESD Education for Sustainable Development  
(持続可能な開発のための教育)  
SDGs Sustainable Development Goals  
(持続可能な開発の到達目標)



住み続けられるよりよい地球社会の目標がSDGs  
そのために持続可能な地域ローカルSDGsを目指す  
そうした地球・地域社会を担う人づくりがESD



実施した結果を把握する重要性



企画づくりテーマの設定(公民館など社会教育のESD現場の場合)

日頃、市民の学習の場にふさわしいと思っているテーマを話合って決めましょう。

例えば地域の課題についての【分野】から考える

1. 食の分野・・・食×環境、食×貧困・・・SDGs G1、G2・・・
2. 森の分野・・・山の手入れ、熊対策、放置竹林・・・SDGs G11、G15・・・
3. まちづくりや交通の分野・・・公共交通利用、まちの賑わい・・・SDGs G11・・・
4. 防災の分野・・・避難経路、声かけ運動・・・SDGs G11・・・
5. 環境の分野・・・地球温暖化、リサイクル、自然環境保全・・・SDGs G13、G14、G15
6. 差別問題の分野・・・教育、外国人、ジェンダー・・・SDGs G3、G11、G16・・・
7. その他

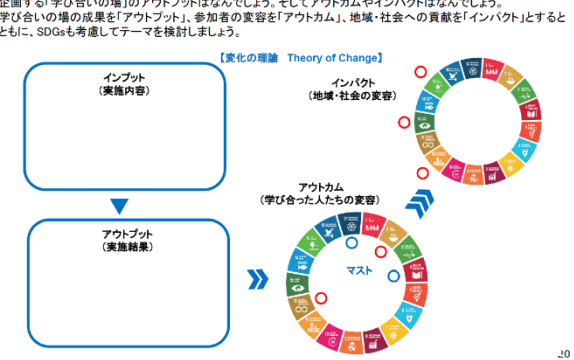
テーマ設定の時に使えるワークシートの例(公民館など社会教育のESD現場の場合)

企画を考えたい分野を考えるメモ	例えば 1. 食の分野 SDGs G1、G2・・・ 2. 森の分野 SDGs G11、G15・・・ 3. まちづくりや交通の分野 SDGs G11・・・ 4. 防災の分野 SDGs G11・・・ 5. 環境の分野 SDGs G13、G14、G15 6. 差別問題の分野SDGs G3、G11、G16・・・ 7. その他
テーマを検討しタイトルを付ける(あとで変わっても構わない)	
目標とする成果(アウトプット)	貢献するSDGs ↓
参加者の変容のねらい(アウトカム)	
社会への貢献のねらい(インパクト)	

【ディスカッション1】  
SDGs学習も考慮したテーマの設定

【ディスカッション1】ではグループごとに企画する「学び合いの場」のテーマをSDGsも考慮して決めます。普段からやりたいと思っているテーマがよいでしょう。

そのテーマの目標は？SDGsとの関係性は？



企画ワークシート用紙にテーマと目標を記入していきましょう

目的や分野を表すキーワードをテーマに使ってみよう。キャッチーで短いタイトルを考えよう。サブタイトルも活用しよう。

何のために開くのか、どんな持ち帰りをしてもらうのか、イメージしよう。イベントを開くこと自体は、目標ではありません。

だれに来てほしいのか、持ち帰った先も考えてイメージしよう。

テーマ

学びの目標

想定される参加者

【ディスカッション2】  
学び合いの場の形式検討

セミナーなのかワークショップなのか、どのように形式で「学び合いの場」を作るのか検討します

学び合いの場の形式検討

学び合いの場で行う方法の大体を考えます。

単独でも、組み合わせても

- ・講演
- ・ワークショップ
- ・野外体験・視察
- ・パネルディスカッション
- ・フロアディスカッション
- ・座談
- ・ブース展示

その他いろいろ

学び合い形式考えられる形式にできるだけ

講演 発表会 パネルディスカッション グループディスカッション  
ゲーム 試食 グループワーク 個人ワーク 視察・観察会 屋外ワーク 展示・ブース その他( )

## 【ワーク1】 学び合いの場の企画づくり

グループごとに話合ってから実際の企画を考えていきます。その内容を用紙に貼ったり、記入します

### 企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう①

日時・場所、プログラム

●企画内容 日時・場所	●必要なもの、考慮すべきこと もの) こと) 金) など
プログラム	人) こと) もの) 金) など

どの時期がよいか、週末か平日か、場所のイメージは。

どの分野のどんな内容で行うか、具体的な内容を考えよう。  
○講演?  
○話題提供?  
○ディスカッション?  
○ワークショップ?  
組み合わせも重要。併せて登壇者もイメージしよう。

もの) 場所は室内か、室外か。広さの規模もイメージしよう。こと) 他のイベントとの連携、時期やタイミングも考えよう。金) 会場費のことも頭の隅に置いておこう。

人) 誰にお願いすればよいか。登壇者の人選から企画が始まることもある。こと) 時間枠や全体の流れをイメージしてみよう。もの) しつらえやワークショップの道具もアイデアがあれば考えておこう。金) 登壇者が遠方の方だったり、有名人だったりだとするとお金がかかる。ある程度考えておこう。

26

### 企画ワークシート用紙に内容を添付したり記入していきましょう②

主催と協力者の確認、どうやって人集めをするか

●企画内容 主催と協力者 (共催・後援)	●必要なもの、考慮すべきこと 人) 金) など
人あつめ (参加者)	人) こと) 金) など

単独で開催するのか、協働で行うのか、協力者はあるのかなどを考えておこう。

どんな方法で参加者を募るか、イメージをもとう。

人) 協力してもらええる組織はどこか? 誰か相談できる人はいるか? 思いついたらメモ。金) ただでは協力してもらえないこともある。

人) 学校や町内会など、募集であてになる組織はあるか。こと) チラシを作ったり、Webに載せたりと、方法もいろいろ。金) メディアにうまく取材してもらえばお金もかからない。

27

### 記入、添付するとこんな感じ

28

## 【ワーク2】 企画のブラッシュアップ

考えた企画でいいかどうかを検討します。別人になりずまずと忌憚のない議論ができます。

例) ペルソナワークショップ  
選んだペルソナになりきって企画を見直す!  
①企画者、②企画者の上司、③財政担当、④一般市民

### ブラッシュアップの議論 ペルソナワークショップ

選んだペルソナになりきって以下の手順で企画を見直す!  
例) ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民

1. シート記入内容のうち、「見直した時の課題点」をグループ内で共有
2. 「企画の課題を解決するには」のメモなども元に議論
3. 企画内容を修正、ブラッシュアップ

30

### ペルソナワークショップ用ワークシート

ペルソナ概要	○をつける ①企画者、②上司、③財政担当、④一般市民
名前(仮名)	
どんな視点で批判的に見るか	
見直した時の課題点	
課題を解決するには	

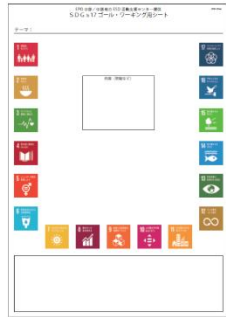
31

## 【ワーク3】 企画した学び合いの場についての SDGsチェック

記入した企画がSDGsの学びに貢献するかをチェックします

確認しよう！考えた企画はSDGsとどのように関連しているか

1. 中央に企画内容を記入
2. どのSDGsとどんな関連があるかを線で結んで記入
3. 書いた内容を共有してお互いに修正



33

### 【プレゼン】 議論した内容を発表

議論の内容を共有しましょう  
それぞれの発表は簡潔に  
時間を区切って余所のグループを見て回る  
方法もあります

## ②作成動画とその公開

公開した動画の URL : <https://youtu.be/fKz9bTbERGw?si=pSmN4GaIMx-rCWcw>

公民館主事研修（2025年11月）で実践した動画を公開しています。

▼ワークショップパッケージ説明動画はこちらから

## エ 実践活動

### ①イベント名

- 令和7年度公民館主事研修（ESD ワークショップ）

### ②日時（※同じ内容の研修を2回開催／各回の参加者は異なる）

- 1回目：2025年11月25日（火）13：00～16：00
- 2回目：2025年11月26日（水）9：00～12：00

### ③会場

- 1回目：大沢野会館大研修室（富山市高内）
- 2回目：Sakura ビル5F 大研修室（富山市新桜町）

### ④主催等

- 主催：中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）
- 協力：富山市教育委員会、一般社団法人環境市民プラットフォームとやま

### ⑤参加者（※各回の参加者は異なる）

- 1回目：30名
- 2回目：24名

### ⑥プログラム（※2回とも同じ内容を実施）

- 挨拶
- アイスブレイク：自己紹介とリーダー選び
- インプット ESDとしての「学び合いの場」づくりについて
- ディスカッション1：SDGs 学習も考慮したテーマの設定
- ディスカッション2：学び合いの場の形式検討
- ワーク1：学び合いの場の企画づくり
- ワーク2：企画のブラッシュアップ
- ワーク3：企画内容のSDGs チェック
- プレゼン：議論した内容を発表
- 終了挨拶



## オ 報告（全国フォーラムでの活動結果報告）

- 12月7日開催「ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2025」に出展し、今年度実施した学び合いプロジェクトの内容について報告・紹介を行った。



## カ 事務手続き

- 関係者との連絡調整、会場及び機器の手配・設営、当日の進行、議事録の作成、旅費及び謝金を支払等の事務手続きを行った。

## (2) 学校における気候変動教育プログラムの実証事業

### ア 高校へのヒアリング

#### ①名古屋市立桜台高等学校

##### ●対象者

名古屋市立桜台高等学校 校長 伊藤聡子 キャリアナビゲーター 牛田芳代

##### ●聞取者

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

##### ●ヒアリング日時

2025年7月22日 10:00～11:30

##### ●探究学習に関するヒアリング結果

###### ○探究学習の現状について

###### ◇キャリアナビゲーター制度について

・名古屋市では全国でも珍しく、キャリアナビゲーターと呼ばれるキャリアの専門家が各高校に1人が常勤で配置され、キャリア形成支援に係る取組を進めている。また「総合的な探究の時間」（以下、探究学習）のコーディネートにも関わっている。今年度より全中学校にも配置され、名古屋市全体で150人程度が活動している。中学校ではその学区内の小学校についても担当している。

・キャリアナビゲーターは、キャリアコンサルタント（国家資格）の取得者が名古屋市から委託を受けた事務局（NPO 法人 I C D S）より、各校に派遣される形式をとっている。

・進路指導関係でのキャリア形成や探究学習における校外との連携など、教職員では手が届きにくい実務を担っている。

・学校によりその実務内容は様々であるが、桜台高校では探究学習の授業計画や授業の実践に深く関わっている。

###### ◇探究学習の授業の実践について

・週に1回の授業で、1年生から3年生1学期までで探究学習を行う。1年生ではグループ探究、2年生では個人探究となり、3年生ではそれまでの探究学習を振り返り自分自身に活かす内容となる。

・1年生では1学期はテーマの設定を行う。5週ぐらいかけてガイダンスを行い、導入し、目的を理解させる。その後1クラスで8グループを形成し、グループディスカッションを行っていく。夏までにはテーマ設定を行い、探究を進めていく。授業はクラス単位で実施して担任とキャリアナビゲーターが2名で担当する。秋に中間発表があり、3学期まで探究が続けられる。最後にクラスで代表を決め、校内大会がある。

・2年生では、個人で新書を一冊読むところから初めて、それぞれがテーマ設定を行い、1年間の探究を進める。成果はレポート提出であり、2,000字以上のボリュームが求められる。

###### ○探究学習の実施における課題やニーズについて

###### ◇グルーピング

・1年生のグルーピングは、似たようなテーマ希望の生徒を中心に行うが、相性や役割分担も重要なので、それを加味して行っている。グルーピング用の京大の先生のアン

ケートを活用している。

#### ◇テーマ設定

・テーマ設定は苦勞している。地域や学校の中での課題感から問いを立てることが多いが、身近にするのが難しい。そのため課題設定のためのガイダンスやワーキングなどを行って、見つけ出す支援をしている。

・例えば学校に来るまでに何があったか、を検討して議論するなどの練習を行うこともある。またいくつかのテーマの系統を用意しておいて、その中から選ぶということも考えられる。

#### ◇探究方法

・ネットに頼りすぎるという問題がある。自らの観察や調査、実験が大切であるが、手早く簡便に答えを得るという方向に流れる傾向がある。また報告レポートのAI活用についてのチェックが課題としてある。

・インタビュー先を自分で探してくることができない。探し方もわからないといったところがある。担当教諭やナビゲーターも手伝うが、中間支援組織で支援いただけるとありがたい。

#### ◇地域の団体や企業との連携について

・具体的には2年前の例として、愛知県の野菜の消費量を調べた結果から生産者とのやりとりへ、そして日替わりキッチンメニュー開発へと繋がったというのがある。あるいは商店街での花とミツバチの活動と連携して探究を行った例もある。

・探究の動機づけとして、地域や企業のことを知る事が重要ではないか。地域や企業との連携という点では、地元の困りごとや企業の課題感を共有する事が必要ではないかと考える。

#### ○探究学習で気候変動教育もしくは気候変動に関連する題材を取り上げた事例や今後の可能性

・校内のテーマで体育館が暑すぎるという課題があれば、専門家との連携が必要で、そうした専門家の紹介などのニーズはあると考える。

#### ○ESD・SDGsについて

・ESDとして特に意識して取り組んでいるとは言えない。

・SDGsについても授業の中で取り上げている訳ではない。すでに中学校まででかなり触れてきている。

・グループ探究の中でSDGsを取り上げる例はある。

・普通科とは別にファッション学科ではサステナブルファッションとして取り上げられている。

## ②岐阜県立斐太高等学校

### ●対象者

岐阜県立斐太高等学校 教頭 足立 宏

### ●聞取者

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

### ●ヒアリング日時

2025年8月1日 13:00~14:30

## ●探究学習に関するヒアリング結果

### ○探究学習の現状について

#### ◇これまでの経緯

- ・岐阜県立斐太高等学校はいわゆる進学校であり、これまで様々な文科省の教育研究的な事業に応募して、探究学習に取り組んできた。
- ・H28 からカリキュラムに導入してきた。ふるさと創生企業コンテストに参加し、企業に話を聞いて手探りで始めた。この頃は2年生の総合的な学習の中で取り上げた。
- ・H29～H31 にはスーパーグローバルハイスクールの事業で探究学習を進めた。飛騨高山大学連携センターを通じて企業課題とも連携しクラスで二つの課題を取り上げ、1年で学び2年で発表する形で実施した。
- ・これらの初期の段階では役割分担など結構教員の負荷があったようだ。初めはなかなかうまくいかず失敗もあったと聞いている。どうしても成果の出やすい課題を取り上げることで、現在の探究の理念を十分実現できているとは言いがたかった。
- ・R2 から R4 には地域共創フラッグシップハイスクールに応募して、探究学習の教育研究を進めてきた。この間、学校内で携わる教員の組織化を行うことができた。
- ・R6 からはグローバル探究フラッグシップハイスクールに応募して理科系要素が大きく入る探究学習を実践している。
- ・これまでの探究学習の取組で地域と連携した学習実績が練られてきた。現在では探究学習のシステムは全校的に確立されていると考えている。

#### ◇探究学習の授業の実践について

- ・現状の探究学習は1年生と2年生で行っている。3年生は受験やキャリア学習に移行する。
- ・1年生ではミニ課題研究を行う。課題は与えられ探究のやり方を学ぶことに主眼が置かれている。ここでは外部講師なども招聘し講話や相談会という形で種まきが行われる。外から講師を呼ぶ旅費や会場の予算は岐阜県から予算が出ている。
- ・2年生で本格的に取り組み、グループもしくは個人でテーマを選び探究を進める。クラスで10から15くらいのテーマが設定される。自分でテーマを選定するのは楽しいと思う。
- ・11月に中間発表があり、12月には最終報告の選考会が各クラスで行われる。1月末の発表会はクラス代表が市内の会場で発表する特別な場となっている。この発表会では1年生も聴講することになっており、先輩の探究学習の成果に触れることで、次年度のテーマ選定に活かせるようになっている。
- ・探究の過程ではインターネットを用いた情報収集やパワーポイント作成などDXを活用している。ギガスクール構想でタブレットも普及しており、初めからITを活用した調査研究を行う環境が整っている。
- ・校外の様々な協力者による個人やグループの相談会も随時実施しており、うまくいかないテーマの変更や、グループの再編成なども行われる。
- ・地域との連携はこれら協力者の他、高山市のまちづくり協議会から課題のオファーや協力の申し出もある。こうした地域連携を生徒に結びつけるのは教員の役割となっている。
- ・探究学習の学校担当は探究活動推進部の5人の教員が担っており、外との連携の企画調整や毎週の授業の企画を行っている。クラスで授業を担うのは1年生はクラス副担、2年生は担任と副担で行う。
- ・全校的に総合的な探究学習の授業の実施システムは、教員に無理が出ないような形で出来

上がっていると考えている。

○探究学習の実施における課題やニーズについて

・探究のテーマは、以前は地域づくり、例えば観光や名産品開発などに偏っていたが、今ではバラエティに富んだものになっている。もっとも中にはテーマが大きすぎてまとまりきらないものもある。

・どちらかというネット情報に頼るので、自然科学的アプローチが足りないように感じる。理系の要素は今後入れていきたい。

○探究学習で気候変動教育もしくは気候変動に関連する題材を取り上げた事例や今後の可能性

・自然系のテーマ設定はあまり多くない。霧がかかるのが少なくなったとか、各月の最高気温の比較とかのテーマ設定はあり得ると思う。

・ITはZOOMなどオンライン会議を含め用いているので、専門家との接点は作れると思う。

・探究テーマとして気候変動を取り上げるのであれば、1年生の種まきの段階で講話の一つとして入れるのが一番現実的ではないか。

### ③愛知県立愛知商業高等学校

#### ●対象者

愛知県立愛知商業高等学校 安藤 駿 教諭

#### ●聞取者

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

#### ●ヒアリング日時

2025年10月20日 14:15～15:00

#### ●探究学習に関するヒアリング結果

○探究学習の現状について

・愛知商業高等学校では、探究学習に相当する学習として「課題研究」が実施されている。課題研究は3年生を対象とした授業であり、週3時間の授業として教育課程に位置付けられている。

・課題研究では、生徒が複数の講座の中から興味のあるテーマを選択し、グループまたは個人で研究活動を行う。講座のテーマは学科によって異なるが、地域活性化や商品開発、IT関連の制作活動など多様な内容が設定されている。

・多くの講座では企業と連携した活動が行われており、新商品開発や地域イベントでの販売活動など、実社会と関わる形で学習が進められている。

○探究学習の実施における課題やニーズについて

・同校では探究学習の枠組み自体は確立しており、大きな課題は特にないと認識している。ただし、外部講師による単発授業やワークショップなどの機会があれば、生徒の学びの幅を広げることができる。

・特に環境問題や気候変動など、学校単独では十分に扱うことが難しいテーマについては、専門機関や外部講師による授業が有効であると考えられる。

○探究学習の企業や地域との連携について

- ・企業との連携は探究学習の重要な要素となっている。多くの講座で企業との共同研究が行われており、企業から提示された課題をもとに商品開発や販売戦略の検討などを行っている。
- ・企業との連携は学校側が長年築いてきた関係を基盤としており、年度ごとに新たなプロジェクトが展開されている。

○探究学習で気候変動教育もしくは気候変動に関連する題材を取り上げた事例や今後の可能性

- ・現在のところ、気候変動をテーマとした探究学習は必ずしも多くはないが、環境教育に関する授業やワークショップが実施されれば、生徒にとって有益であると考えられている。特に環境省などの専門機関による授業や講演があれば、探究学習のテーマとして取り上げる可能性も広がるとのこと。

#### ④中部大学中部第一高等学校

##### ●対象者

中部大学中部第一高等学校 山田浩慶 教諭

##### ●聞取者

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

##### ●ヒアリング日時

2025年10月21日 16:30～17:00

##### ●探究学習に関するヒアリング結果

○探究学習の現状について

- ・総合的な探究の時間を中心に、SDGs を軸とした探究学習が実施されている。生徒は自身の興味関心や将来の進路と関連付けながらテーマを設定し、そのテーマが SDGs のどの目標と関係するかを考えながら学習を進めている。
- ・テーマ設定の際には「興味」「進路」「SDGs」という三つの要素を組み合わせることが基本となっており、生徒の主体的な学習を促す仕組みとなっている。探究活動では調査や資料作成、発表などが行われ、生徒の思考力や表現力の育成が図られている。
- ・また、ESD 部の活動や地域連携プログラムなども、探究学習の実践と相互に関連しながら展開されている。

○探究学習の実施における課題やニーズについて

- ・探究学習の課題としては、外部との連携機会の拡充や、学習成果を社会的に評価する仕組みの整備が挙げられている。生徒の研究テーマをより実社会と結びつけるためには、地域企業や行政との協働機会を増やすことが重要である。
- ・また、生徒の活動成果を証明する仕組みがあれば、進学や就職活動においても有効に活用できる可能性がある。

○探究学習の企業や地域との連携について

- ・企業や地域との連携については、教材提供などの形がある。企業が作成した教材や指導資料を活用することで、学校側の負担を軽減しつつ新しい学習内容を導入することが可能と



(イ) 「学校における気候変動教育のプログラムの実証事業」関連の研修・会議等

- 全国センターが進める「学校における気候変動教育のプログラムの実証事業」に関連する研修・会議等に、次の通り出席した。

区分	開催日	開催方法	会場	実施内容	
全国センター実証事業の 授業立ち合い	高校×セブン-イレブン・ジャパン 探究学習プロジェクト	10月1日	【参加方法】 オンラインで傍聴	【連携先高校】 京都先端科学大学附属 高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 探究テーマ:セブン-イレブンの環境にやさしい商品(環境配慮型商品)を買ってもらうためには?</li> <li>■ 講演:地球環境問題と私たちの暮らし…黒部一隆氏(環境省環境教育推進室長)</li> </ul>
	高校×近畿日本ツーリスト株式会社 探究学習プロジェクト	10月27日	【参加方法】 オンラインで傍聴	【連携先高校】 東京立正高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 探究テーマ:カーボン・スタディツアー～環境にやさしい修学旅行を考える～</li> <li>■ 近畿日本ツーリスト SDGs 関連の取組紹介</li> <li>■ ワークショップ:どのような研修旅行だとサステナブルか(近畿日本ツーリストの学校向けパッケージプログラムを活用)</li> </ul>
ガイドライン作成に向けた検討会	第1回 10月14日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高校における気候変動に関する探究学習実証事業の進捗説明</li> <li>■ ガイドライン構成の説明及び意見交換</li> </ul>	
	第2回 2月16日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ガイドライン案の説明</li> <li>■ 意見交換①(ガイドライン案の構成、内容など)</li> <li>■ 意見交換②(ガイドライン案の発信、普及方法など)</li> </ul>	

### (3) ESD 推進ネットワーク地域フォーラムの開催

#### ①イベント名

- 中部地方 ESD 推進ネットワーク地域フォーラム「ESD：探究学習と地域連携」

#### ②日時

- 2025 年 9 月 29 日（月）13：00～16：30

#### ③開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
- 会場：ウインクあいち（愛知県名古屋市）※会場参加は登壇者、地域 ESD 拠点登録団体のみ
- オンライン：zoom ※一般参加、地域 ESD 拠点登録団体関係者等が zoom 参加

#### ④参加者

- 33 名（会場参加 13 名、オンライン参加 20 名）

#### ⑤プログラム

- 挨拶・趣旨説明

《第 1 部》

- 基調講演「ESD としての探究学習の可能性と課題」名古屋市立大学准教授 松村智史氏
- 話題提供
  - ▶高校の探究学習事例①：名古屋市立桜台高等学校キャリアナビゲーター 牛田芳代氏
  - ▶高校の探究学習事例②：岐阜県立斐太高等学校教頭 足立宏氏
  - ▶探究学習の地域連携事例：NPO 法人まちづくりスポットとやま代表理事 田辺友也氏

《第 2 部》

- 地域 ESD 拠点参加者による活動紹介
- 交流ディスカッション  
コーディネーター：  
中部大学国際 ESD・SDGs センター長・教授、中部 ESD 拠点事務局長 古澤礼太氏
- 総括  
金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 加藤隆弘氏



⑥開催案内チラシ・ポスター

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム

# ESD:探究学習と 地域連携

2025年9月29日(月)  
13:00 - 15:50

オンライン開催・参加無料

[プログラム]

- 挨拶・趣旨説明

第1部

- 基調講演  
「ESDとしての探究学習の可能性と課題」……………名古屋市立大学准教授 **松村 智史** 氏
- 話題提供  
高校の探究学習事例……………名古屋市立桜台高等学校、岐阜県立斐太高等学校  
探究学習の地域連携事例……………NPO法人まちづくりスポットとやま代表理事 **田辺 友也** 氏

第2部

- 地域ESD拠点参加者による活動紹介
- 交流ディスカッション  
……コーディネーター：中部大学国際ESD・SDGsセンター長・教授、中部ESD拠点事務局長 **古澤 礼太** 氏
- 総括……………金沢大学人間社会研究域学校教育系准教授 **加藤 隆弘** 氏

申込方法

QRコードから申し込みサイトにアクセスしてください。  
<https://us02web.zoom.us/join/81QgQ78jRjCuzejSFFXuOQ>  
参加登録すると、@zoom.us または @chubuesdcenter.jp のアドレスから、  
登録されたメールアドレス宛に招待メールが自動送信されます。



中部ESDセンター 検索

主催事務局 / 問合せ先 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部) E-mail: educ@chubuesdcenter.jp



中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

## (4) 自然資本等の活用による ESD 促進 (ESD ダイアログの開催)

### ① イベント名

- ESD ダイアログ 2025 山と水と人間と～南紀からの ESD 発信～  
吉野熊野国立公園指定 90 周年を機会に

### ② 日時

- 1 日目 ESD ダイアログ：2025 年 10 月 17 日（金）13：30～17：00
- 2 日目 エクスカーション：2025 年 10 月 18 日（土）8：30～14：40

### ③ 会場／開催方法

- 1 日目の会場：三重県立熊野古道センター（三重県尾鷲市） ※ハイブリッド
- 2 日目の視察地：尾鷲市及びその近郊 ※リアルのみ

### ④ 主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 後援：尾鷲市 尾鷲市教育委員会 三重県立熊野古道センター

### ⑤ 参加者

- 1 日目 ESD ダイアログ：56 名（現地参加者 50 名（教育関係 16、行政 15、その他 19）、ライブ配信視聴 6 名）
- 2 日目エクスカーション：19 名

### ⑥ 1 日目 ESD ダイアログのプログラム

- 開催市挨拶 加藤 千速 尾鷲市長
- 主催者挨拶 環境省中部地方環境事務所 環境対策課
- 第一部 自然資産と ESD  
インプット①「南紀地方と吉野熊野国立公園 ～自然の保全と活用～」  
吉野熊野国立公園管理事務所 国立公園管理官 楊木 萌  
インプット②「尾鷲市のネイチャーポジティブと地方創生」  
尾鷲市 水産農林課長 芝山 有朋  
基調講演「自然資産を学びに活かす ESD と地域づくり」  
信州大学 教育学部 准教授 水谷 瑞希
- ESD の取組～中部地方のネットワークを通じて  
①尾鷲市の ESD 取組：尾鷲市立輪内中学校 「ふるさとキャリア学習」、三重県立尾鷲高等学校 「IT と地域課題（尾鷲甘夏）を連動させた解決方法」  
②他地域の ESD 取組：NPO 法人 大杉谷自然学校 校長 大西 かおり、豊田市自然観察の森 「とよたの自然パートナーズ」 所長 大坪 瑞樹
- 第三部 パネルディスカッション  
パネリスト：  
吉野熊野国立公園 管理事務所 国立公園利用企画官 辰巳 知之  
NPO 法人 大杉谷自然学校 校長 大西 かおり  
豊田市自然観察の森「とよたの自然パートナーズ」 所長 大坪 瑞樹  
三重県立熊野古道センター長 宮本 秀男  
尾鷲市 教育委員会 教育総務課 調整監 渡邊 史次

尾鷲市 水産農林課長 芝山 有朋  
尾鷲市 商工観光課長 濱田 一多朗  
コメンテーター：信州大学 教育学部 准教授 水谷 瑞希  
コーディネーター：中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

### ⑦アーカイブ配信の掲載 URL

- [https://chubu.esdcenter.jp/hot\\_topics/esddialogue20251017-1018-youtube](https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/esddialogue20251017-1018-youtube)

### ⑧開催案内チラシ

**ESDダイアログ 2025**

# 山と水と人間と

～南紀からのESD発信～  
吉野熊野国立公園指定90周年を機会に

豊かな自然や景観など自然資産を活用したESD(持続可能な開発のための教育)ダイアログを開催します。自然保全活動、観察会、観光などESD活動や環境学習活動の人づくり・地域づくりの学び合いの場に参加しませんか。

**2025年 10月17日(金)・18日(土) @ 南紀**

<b>1日目 ESDダイアログ</b> 日時 10月17日(金) 13:30-17:00 会場 三重県立熊野古道センター映像ホール 三重県尾鷲市向井12-4 オンライン YouTube配信	<b>2日目 エクスカーション</b> 日時 10月18日(土) 8:30-14:40 場所 尾鷲市及びその近郊の見学 出発・解散：尾鷲市役所
--	--

〈 ESDダイアログのプログラム及びエクスカーションの行程は、裏面をご覧ください 〉

### 参加申込方法

- **参加申込** 下記申込フォームから会場かYouTube視聴をお選びください。  
<https://forms.gle/WSH3J3ZY7RFhec8Z7>  
申込締切：10月13日(月)必着  
※ 1日目または2日目みの参加も可能です。
- **参加費** 参加は無料です。  
※ 宿泊は各自で手配願います。  
※ 2日目の昼食は自己負担となります。
- **お問合せ** 中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
E-mail:educ@chubuesdcenter.jp

中部 ESD センター 検索 申込フォーム

写真「みんなの森風景」  
提供：尾鷲市

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
後援：尾鷲市 尾鷲市教育委員会 三重県立熊野古道センター  
背景写真「九鬼オハイ」 提供：尾鷲市

# 山と水と人間と

～南紀からのESD発信～  
吉野熊野国立公園指定90周年を機会に

1日目 ESDダイアログ 10月17日(金)13:30～17:00

三重県立熊野古道センター※ 映像ホール  
YouTube 配信あり

※ 三重県尾鷲市向井12-4  
<https://kumanokodocenter.com/about/access/>

開催市挨拶 加藤 千速 氏 尾鷲市長  
主催者挨拶 環境省中部地方環境事務所環境対策課

## 第1部 自然資産とESD

インプット ① 「南紀地方と吉野熊野国立公園 ～自然の保全と活用～」

楊木 萌 氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園管理官

インプット ② 「尾鷲市のネイチャーポジティブと地方創生」 芝山 有朋 氏 尾鷲市水産農林課長

基調講演 「自然資産を学びに活かすESDと地域づくり」 水谷 瑞希 氏 信州大学教育学部准教授

…… 休 憩 ……

## 第2部 ESDの取組 ～ 中部地方のネットワークを通じて ～

① 尾鷲市のESD取組 尾鷲市立輪内中学校 「ふるさとキャリア学習」

三重県立尾鷲高等学校 「ITと地域課題(尾鷲甘夏)を連動させた解決方法」

② 他地域のESD取組 大西 かおり 氏 NPO法人大杉谷自然学校校長

大坪 瑞樹 氏 豊田市自然観察の森「とよたの自然パートナーズ」所長

## 第3部 パネルディスカッション

パネリスト

辰巳 知之 氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園利用企画官

大西 かおり 氏 NPO法人大杉谷自然学校校長

大坪 瑞樹 氏 豊田市自然観察の森「とよたの自然パートナーズ」所長

宮本 秀男 氏 三重県立熊野古道センター長

渡邊 史次 氏 尾鷲市教育委員会教育総務課調整監

芝山 有朋 氏 尾鷲市水産農林課長

濱田 一多朗 氏 尾鷲市商工観光課長

コメンテーター 水谷 瑞希 氏 信州大学教育学部准教授

コーディネーター 原 理史 中部地方ESD活動支援センター

2日目 エクスカーション 10月18日(土) 8:30～14:40 尾鷲市及びその近郊の見学

マイクロバスで移動。  
自家用車の利用も可能です。

- 8:30 ○ 尾鷲市役所 …………… 集合 / 出発
- みんなの森 …………… ボランティア活動紹介、ピオトープや山の手入れの視察等
- 九鬼町 …………… 九鬼町の伝統漁村の散策
- おわせお魚いちば おとと …… 自由時間、各自で昼食(昼食は自己負担)
- 13:10 ○ 尾鷲駅 …………… 電車にて帰宅の方はここで解散  
(JR特急南紀6号 名古屋行き 13:32尾鷲駅発)
- 尾鷲物産水産工場 …………… 水産加工場の見学
- 14:40 ○ 尾鷲市役所 …………… 解散



## ⑨ 2日目エクスカーショ

2日目 エクスカーショ		10月18日(土) 8:30~14:40	尾鷲市及びその近郊の見学	マイクロバスで移動。 自家用車の利用も可能です。
8:30	○ 尾鷲市役所	集合 / 出発		
	○ みんなの森	ボランティア活動紹介、ピクトブや山の手入れの視察等		
	○ 九鬼町	九鬼町の伝統漁村の散策		
	○ おわせお魚いちば おとと	自由時間、各自で昼食(昼食は自己負担)		
13:10	○ 尾鷲駅	電車にて帰宅の方はここで解散 (JR特急南紀6号 名古屋行き 13:32尾鷲駅発)		
	○ 尾鷲物産水産工場	水産加工場の見学		
14:40	○ 尾鷲市役所	解散		



## (5) SDGs 学生サミットの開催

### ① イベント名

- SDGs 学生サミット 2025

### ② 日時

- 2026年2月7日(土) 13:00~17:30

### ③ 開催・運営方法

- 登壇者：会場、zoom
- 一般参加：YouTube 配信を自由視聴

### ④ 主催等

- 主催：中部地方 ESD 活動支援センター（環境省 EPO 中部）
- 協力：中部大学中部高等学術研究所、国際 GIS センター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

### ⑤ 参加者

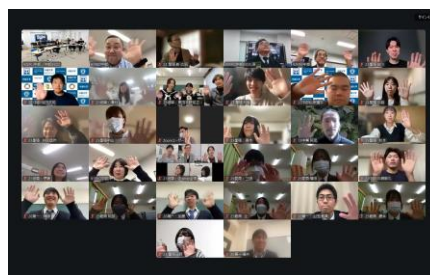
- 73名（大学生・高校生47名、その他登壇者8名、ライブ配信当日視聴者18名）

### ⑥ プログラム

- あいさつ  
環境省中部地方環境事務所  
名古屋市立大学副学長 伊藤 恭彦
- 団体発表「ユースと地域が連携するローカル SDGs」  
〈高校生の部〉  
愛知県立愛知商業高等学校  
中部大学第一高等学校  
岐阜県立斐太高等学校  
〈大学生の部〉  
岐阜大学 環境サークルG-amet  
中部大学 ESDエコマネーチーム  
金沢星稜大学 新ゼミナール
- 話題提供「地域の SDGs の取組～地域社会における SDGs の取組～」  
純国産メンマプロジェクト（富山県上市町）  
QRUWA のまちづくりプロジェクト（愛知県岡崎市）  
アブラギリ再活用プロジェクト（福井県小浜市）
- ディスカッション  
「ローカル SDGs のために。連携して協働取組を進めよう！」  
進行：原 理史（中部地方ESD活動支援センター）  
総括：伊藤 恭彦（名古屋市立大学副学長）

### ⑦ アーカイブ配信の掲載 URL

- [https://chubu.esdcenter.jp/hot\\_topics/260207sdgs-summit](https://chubu.esdcenter.jp/hot_topics/260207sdgs-summit)



## ⑧開催案内



# SDGs 学生サミット

2026年2月7日(土)  
13:00~17:30・オンライン

地域と連携してSDGsに取り組む大学生グループやSDGsに関連する探究学習活動を行う高校生グループがオンラインで取組を発表します。

### 発表団体

#### 高校生の部

- ▶ 愛知県立愛知商業高等学校
- ▶ 中部大学第一高等学校
- ▶ 岐阜県立斐太高等学校

#### 大学生の部

- ▶ 岐阜大学 環境サークルG-amet
- ▶ 中部大学 ESDエコマネージャーチーム
- ▶ 金沢星稜大学 新ゼミナール

### 一般参加 申込不要

- ▶ 当日 YouTubeライブ配信を視聴できます。
- ▶ 視聴URLは web ページに掲載します。



ハブとなる中部大学中部高等学術研究所  
デジタルアースルーム

### プログラム

#### ●第1部 団体発表

- 「ユースと地域が連携するローカルSDGs」
- ▶ SDGsの取組について、地域と連携して活動している大学生・高校生グループが取組について発表を行います。

#### ●第2部 話題提供

- 地域のSDGsの取組～地域社会におけるSDGsの取組～
- ▶ 中部地方でSDGsの取組をしている団体のプロジェクトを紹介していただきます。
- 純国産メンマプロジェクト（富山県上市町）
- QURUWAのまちづくりプロジェクト（愛知県岡崎市）
- アブラギリ再活用プロジェクト（福井県小浜市）

#### ●第3部 ディスカッション

ローカルSDGsのために。連携して協働取組を進めよう！

- 進行：原 理史（中部地方ESD活動支援センター）
- 総括：伊藤 恭彦氏（名古屋市立大学副学長、EPO中部・中部ESD支援センター運営委員会 座長）

Webページ  
はこちら▶



主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター（環境省EPO中部）  
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

 中部地方ESD活動支援センター  
Education for Sustainable Development

## (6) 地域 ESD 拠点等の ESD 活動の支援

### (ア) 地域 ESD 拠点登録団体への広報協力

- 拠点登録団体が主催するイベント等について、中部地方 ESD 活動支援センターウェブサイト等で下記の通り、広報協力を行った。

**地域ESD拠点トピック**

2026.02.18 地域ESD拠点トピック  
「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム2026 in Aichi」を開催  
日時：2026年2月28日（土）10：30～17：50  
申込：2026年2月25日（水）まで（定員100名に限り先着受付終了）  
場所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター

2026.02.10 地域ESD拠点トピック  
～環境研 特命研究員！五箇先生と考える～「生物多様性とこころトーク」を開催  
日時：2026年3月9日（土）14：00～16：30  
場所：伏見ライブプラザ14階  
申込：2026年3月23日（月）まで

2026.02.09 地域ESD拠点トピック  
令和7年度富山県SDGs成果発表&交流会～を開催  
日時：2026年2月13日（金）・YouTubeライブ配信  
午後の部：10：00～12：10  
午後の部：13：30～16：00

2026.02.05 地域ESD拠点トピック  
クマ出沒の背景から「闘い」をひらく講座を開催  
日時：2026年3月8日（日）13：30～15：30  
場所：しばさか5階人形格闘室（三島森四日市向）  
申込：2026年2月25日（水）まで

2026.02.03 地域ESD拠点トピック  
2025年度成果報告会を開催  
日時：2026年2月14日（土）13：30～16：15  
場所：しいのき迎賓館・セミナールームB（別冊）※オンライン参加も可能  
申込：2026年2月13日（金）まで

2026.01.28 地域ESD拠点トピック  
【富山市SDGsシネマ】映画「君の根は、大地再生にいとむらびと」上映会@富山を開催  
日時：2026年2月1日（日）12：40～14：14  
場所：ほとけ屋（シネマホール）

2026.01.23 地域ESD拠点トピック  
「ユース探査型湿地の未来プロジェクト 成果発表会」を開催  
日時：2026年2月7日（土）13：00～16：00  
場所：エコバルなごや（伏見ライブプラザ13F）  
申込：2026年2月18日（水）まで

2026.01.23 地域ESD拠点トピック  
活動をまとめた「NEXT NEWS 2025-2026」をご覧ください！  
今年度の活動をまとめました。ぜひご覧ください。

2026.01.21 中部の拠点等関係  
中部エリアの「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」について  
中部ブロックでは20団体で地域ESD拠点に登録されています。2026年1月、新たに「アルマス・バイオエコシステム研究所」さんが登録団体になりました。

2025.12.24 地域ESD拠点トピック  
《脱炭素を考える》基礎講座 次世代エネルギーワークショップを開催  
日時：2025年12月17日、18日《講師受講必須》  
費用：3,000円（テキスト代含む）  
申込：2025年12月4日（水）まで

2025.12.24 地域ESD拠点トピック  
「なごや環境大学」共有講座「どうする？なごやの脱炭素」～神楽川川における「気候市民会議」報告～を開催  
日時：2025年12月10日（土）14：00～17：00  
場所：名古屋国際会議センター エコバルなごや

2025.12.16 地域ESD拠点トピック  
「三洲の渡し遊船体験と古道整備」を開催  
日時：2025年12月24日（土）9：30～14：00  
集合・解散場所：大台町役場

2025.12.10 地域ESD拠点トピック  
令和7年度富山国際大学特別公開講演会「気候変動にどのように向き合うか」を開催  
日時：2025年12月15日（土）～3月7日（土）全4回  
13：30～15：30・要予約/定員確保  
申込：2025年12月12日（金）まで

2025.12.08 地域ESD拠点トピック  
2025年度北陸ユネスコスクール教育実践交流会を開催  
日時：2025年12月13日（土）13：30～15：30  
申込：別冊/2025年12月11日（木）まで  
オンライン：2025年12月13日（土）まで

2025.11.13 地域ESD拠点トピック  
2025年度地域サポーター研修を開催  
日時：2025年12月13日（土）～3月7日（土）全4回  
13：30～15：30・要予約/定員確保  
場所：占民あみりなの 等

2025.11.13 地域ESD拠点トピック  
SDGs全領域イロドリリー@富山「人運支援基準「スフィア基準」からひも解く、有希・平時の区別のない一人一人の尊厳」を開催  
日時：2025年11月22日（土）13：30～15：30  
場所：富山県民会館5階5号室（オンライン参加も可）

2025.11.12 地域ESD拠点トピック  
笹竹で作るヒンメリ体験WS～北産生まれの工芸品（モビール）～を開催  
日時：2025年12月5日（金）  
初級コース10：00～12：00・中級コース13：00～15：00  
申込：11月23日（日）まで

2025.11.12 地域ESD拠点トピック  
なごや環境大学ガイドブック2026年度前期表紙デザインコンペティションを実施  
締切：2026年1月6日（火）必着  
「脱炭素」をテーマに自由に表現してください。

2025.10.20 地域ESD拠点トピック  
森の恵みでつくろう！アロマウォーターわかさう！五右衛門門呂を開催  
日時：2025年11月15日（土）10：00～15：00  
申込：2025年10月19日（金）まで

2025.10.09 地域ESD拠点トピック  
なごや環境大学SDGsアソシエイト企画「スクリーンから始まる共創」  
日時：2025年11月1日（土）10：00から  
会場：愛知学際大学名経公園キャンパス キヤッセルホール

2025.08.28 地域ESD拠点トピック  
なごや環境大学20周年&ラムサール条約湿地都市認証記念シンポジウムを開催  
日時：2025年9月23日（火・祝）13：00～16：30  
締切：2025年9月19日（金）（先着順）

2025.08.28 地域ESD拠点トピック  
「これからの里山を考える！竹炭づくりで温室効果ガス削減体験」を開催  
日時：2025年9月17日（水）オンライン講座  
2025年9月26日（金）実地研修（竹炭づくり）  
締切：2025年9月13日（土）

2025.07.24 地域ESD拠点トピック  
第10回中部サステナブル政策塾～7月27日に開講します～  
日時：2025年7月27日（日）13：00～16：00  
場所：中部大学サステナセンター  
第10回は公開講座でオブザーバー参加が可能です。

2025.07.14 地域ESD拠点トピック  
みんなで発信しよう！～「ひやまの海ごみワークショップ」を開催  
日時：第1回：8月7日（水）、第2回：8月23日（土）、第3回（ヒヤマ現場）  
フェアでのステージ発表は、10月12日（日）

2025.06.26 地域ESD拠点トピック  
夏休みSDGsイベント in 2025 ～なごやSDGsスタンプラリー～を開催  
エコバルなごやでは夏休みにも楽しめるイベントを開催  
なごやSDGsスタンプラリー（7/19（土）～8/31（日））

2025.06.18 地域ESD拠点トピック  
流域経済プロジェクト「nebane」のホームページが公開  
デジタル絵本「モリトとアマノのたけのおはなし」もぜひご覧ください！

2025.06.16 地域ESD拠点トピック  
なごや環境大学20周年&ラムサール条約湿地都市認証記念シンポジウムを開催  
日時：2025年9月23日（火・祝）13：00～16：00  
申込：2025年7月11日（金）9時から（予定）

2025.06.16 地域ESD拠点トピック  
ユース探査型 湿地の未来プロジェクトを実施  
日時：2025年8月～2026年2月  
申込：2025年6月20日（金）9時から

2025.06.13 地域ESD拠点トピック  
第11回日本ユネスコ運動会大会 in 金沢を開催  
日時：2025年10月18日（土）12：30～17：35  
申込：2025年7月31日（水）17時まで

2025.06.05 地域ESD拠点トピック  
SDGsカフェ2025「みらいを変える羅針盤！～権利基盤型アプローチ（RBA）の可能性～」を開催  
日時：2025年6月29日（日）14：10～16：00  
場所：ほとけ屋ライブホール（富山市）

2025.06.05 地域ESD拠点トピック  
《大学生対象》次世代エネルギーワークショップを開催  
日時：2025年7月5日、19日、8月2日、3日（4日間）  
申込：2025年6月27日（金）まで

2025.06.04 地域ESD拠点トピック  
2025年度ユネスコ教室「さわって、感じて、楽しもう！自然まるごと体験シリーズ」を開催  
様子参加型ワークショップです（全3回）  
日程：2025年6月8日、8月30日、10月18日

2025.05.15 地域ESD拠点トピック  
なごや環境大学 開学20周年記念インタビューを公開  
開学初期から関わった方々にインタビューを行いました。20年間の想いと、これら先に関わっていたい思いをぜひご覧ください。

2025.04.28 地域ESD拠点トピック  
「いのちをつなぐ水と流域・地球市民フォーラム in EXPO 2025」を開催  
日時：2025年5月6日（火）13：30～15：30  
場所：大阪・関西万博会場（夢洲）「テーマパーク・スタジオ」

2025.04.14 地域ESD拠点トピック  
「愛・地球リレーシンポジウム2025～サステナブルな未来をおもよう～」を開催  
日時：2025年4月19日（土）13：00～16：00  
申込：2025年4月15日（火）まで（第1回分）

2025.04.07 地域ESD拠点トピック  
《SDGsカードゲームセミナー》を開催  
日程：2025年4月23日、4月26日、5月14日、5月28日  
企画運営：加山興業株式会社（中部のESD拠点登録団体）

2025.04.02 地域ESD拠点トピック  
環境学習施設で企画展示を実施  
テーマ「つくりつなぐ小さな地球～私たちがあなへ、そしてみなへ」  
期間：2025年3月28日（金）～5月29日（木）

## (イ) 拠点登録申請対応・後援申請対応

- 地域 ESD 拠点登録団体や、ESD 活動支援主体が主催するイベントについて、次表の後援申請があり、主催からの後援依頼や問合せへの対応、全国センターからの照会対応などを行った。
- また、地域 ESD 拠点の登録手続きにおいて、登録審査を行う全国センターに対する情報提供等を行い、中部地方環境事務所に共有した。

### 【後援申請】

申請主体	承認日	申請行事		
		名称	開催日	場所／方法
飯田市	4月11日	いいだ高校生 ESD 塾	2025年4月25日 ～2026年3月31日	対面・オンライン併用
名古屋市環境局環境企画課	4月14日	SDGs まちづくり推進事業	2025年6月1日～ 2026年3月31日	対面・オンライン併用
公益財団法人子ども教育支援財団※	4月24日	第17回環境教育ポスターコンクール	2025年8月18日 ～2026年3月31日	東京都内他
東北地方 ESD 活動支援センター※	10月10日	令和7年度 東北 ESD/SDGs フォーラム「ESD 推進に向けた教育委員会の役割を探る」	2025年10月31日	対面・オンライン併用
特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会	10月14日	市民の参加と協働を進めるコーディネーション研究集会 2026	2026年2月21日 ～2026年2月22日	至学館大学・対面
信州 ESD コンソーシアム	12月2日	令和7年度信州 ESD/SDGs 成果発表 & 交流会～ユネスコエコパークと共に学ぼう～	2026年2月13日	オンライン
金沢大学 北陸 ESD 推進コンソーシアム	2月2日	2025年度成果報告会	2026年2月14日	しいのき迎賓館・オンライン
公益財団法人子ども教育支援財団※	3月16日	第18回環境教育ポスターコンクール	2026年8月18日 ～2026年11月3日	東京都内他

※：全ての地方センターに後援申請があった催事

### 【地域 ESD 拠点登録申請】

団体名	県	申請日	登録日
アルマス・バイオコスモス研究所	福井県	2026年1月4日	2026年1月5日

## (7) 全国センターとの連携協力の推進等

### (ア) 全国センター主催会議等への出席

- 全国 ESD センターから招聘された次の会議等へ出席し、資料提供などを行った。
- また、中部センターのスタッフは、地方センター代表として全国センターの企画運営委員に選任されたため、企画運営委員会にも委員として出席した。

区分	回/開催日	開催方法	会場	実施内容
全国・地方 連絡会	第1回 6月13日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESDに関する最新動向(環境省)(文科省)</li> <li>令和7年度全国センター活動内容説明</li> <li>地方センター活動内容説明</li> </ul>
	第2回 1月16日	ハイブリッド	GEOC (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ESD for 2030 学びあいプロジェクトの成果について</li> <li>令和8年度 ESD 活動支援センターの活動方針について</li> <li>ふりかえり・まとめ未実施</li> </ul>
全国 協力団体 意見交換会	第1回 7月8日	リアル	ビジョンセンター 東京日本橋 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校における探究授業の最新動向:大江 隆徳氏(フューチャーアーティザン株式会社 ESG 経営共創ビジネスユニット ビジネスユニット長 事業統括)</li> <li>全国協力団体及び ESD センターから最新の取組紹介</li> </ul>
	第2回 12月7日 (全国フォーラム 併催)	ハイブリッド	立教大学池袋 キャンパス (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境教育・ESD 実践動画 100 選認定証授与式</li> <li>ポスターセッション</li> <li>基調講演:佐藤真久(東京都市大学大学院 環境情報学研究科 研究教授)</li> <li>こども・ユースからの報告</li> </ul>
全国 フォーラム	12月7日			
企画運営 委員会	第1回 6月9日	ハイブリッド	青山 ブックセンター (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度全国センター活動計画の説明</li> <li>令和6年度地域 ESD 拠点年次アンケート結果報告及び意見交換</li> <li>高校における気候変動を切り口とした ESD 支援の進捗報告及び意見交換</li> <li>ESD 推進ネットワーク全国フォーラムについての説明及び企画について意見交換</li> </ul>
	第2回 2月25日	リアル	TKP ガーデンシティ 渋谷 (東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度 ESD 活動支援センター活動実績及び学びあいプロジェクト中間レビュー案の説明、及び質疑応答、意見交換</li> <li>令和8年度 ESD 活動支援センター活動計画、及び質疑応答、意見交換</li> </ul>

### (イ) ESD 推進ネットワークの活動状況調査等への協力・対応

- 全国センターの求めに応じて情報提供や資料作成・提供等について積極的に協力するとともに、センターが実施する ESD 推進ネットワークの活動状況調査等に対しても協力・対応した。

## (8) ESD 推進のための教育現場等の実態把握と連携強化

### ア 専門家への包括ヒアリング（名古屋市立大学伊藤先生、松村先生）

#### ●対象者

名古屋市立大学 教授 伊藤 恭彦 先生、准教授 松村 智史 先生

●同席者 環境省中部地方環境事務所環境対策課 縄野正衡課長補佐

●聞取者 中部地方 ESD 活動支援センター 原 理史

#### ●ヒアリング日時

2025年5月21日 14:00～15:20

#### ●ヒアリング結果

○研究、教育などご自身の様々な取組について～ESD/SDGs の視点で

◇伊藤 恭彦 先生

- ・環境省 EPO 中部・中部地方 ESD 活動支援センター 運営委員会座長
- ・名古屋市立大学で SDGs 教育、中高の探究学習に係わる

◇松村 智史 先生

- ・元厚生労働省の職員で、子育て支援や社会福祉教育などの研究を行ってきた経緯がある。政策や法制度に携わってきた。SDGs で言えば G1 の貧困や G4 の平等な教育機会などの研究にかかわってきたと言える。
- ・探究学習に関する本「探究学習」とはいうけれど——学びの「今」に向き合う」の執筆に参加したのは、神奈川県での高校の探究学習にアドバイザーとしてかかわったのがきっかけとなっている。現場の先生や教育学の先生方と一緒に執筆した。

○高校の総合的な探究学習の現状について、推進状況や課題

◇探究学習の特徴

- ・これまでの学習はどちらかというと知識を理解し、それを再現するというところに重きが置かれ、直進型つまり一つの方向でカリキュラムに沿って段階的に理解するように習得させる形態であった。
- ・一方、探究学習はそうではなく、仮説を持って探索しつつ途中でちょっと違うと思ったら戻ったりする。最近だとアジャイル学習とも言われる、進みながら戻り調整していく、科学的研究手法に近い学習法で、調査実験する中で仮説をブラッシュアップしながら学びを進めていくと言う特徴がある。
- ・従って教員側の対応としては、指導型から伴走型への転換が必要となる。先生自身も生徒自らが立てた問いに答えを持っているわけではないので、生徒と一緒に伴走することが必要となる。一緒に走りながらアドバイスするという教授方法となる。

◇これまでの実践過程

- ・総合的な探究の実践過程において、全部が全部ではないが、指導型から伴走型へという性格が全体として強くなっていった。探究学習計画は各高校で策定しているが、それはかなり大変のようである。ただ探究学習自体の理解はここ5年ぐらいでだいぶ進んだと感じている。
- ・10年前だと先生方は正直、何をすればいいのかわからないという状況だったが、最近は様々なテキストが共有され先生方も結構勉強され、だんだん望ましい在り方みたいなのが共有されてきている。もちろん指導型の学習法に慣れている先生方は苦勞されているようだが、問いを立てて、仮説を実証して自分なりの考察を加えるという探究学習の一連の流れは、現場の先生方は理解を深めていると感じている。
- ・特にこの数年の理解の広がり方は大きい。現行の学習指導要領で総合的な探究の時間が正課

として位置づけられたことによる。これを契機にどこの学校でも、先生たちの中で、特化した委員会なり、担当部署なり立ち上げているところが多いと思われる。

#### ◇現状と課題

・名古屋市内のある高校では1年生でグループを作って探究を行い、2年生では個人で探究を行う全体計画を策定している。

・既成のワークシートなども出回っており、埋めていけば進めていけるようなものもある。ただ、成果発表ありきに随ってしまうこともあり、プレゼン至上主義にならないよう学びを進める必要がある。

・探究学習のテーマは生徒が自ら見つけ出すことになるのだが、ともするとこれが予定調和的になってしまうところがある。例えば小実験で検証が簡単で見栄えがし、わかりやすい結果が出やすいテーマを選んでしまうなどがある。

・SNSでのアンケート調査などがよく行われるが、簡単に作って友達や知り合いを動員して回答をもらえば、それなりに見栄えのする結果が得られ、一見すると「らしい」探究になるが、根拠として十分かと言われればなかなか難しい。

・反対に興味があるということだけで「宇宙とは」、「自分とは」など壮大で哲学的なテーマを選んで、後々扱いに困るという場合もある。

・良くない問いとしては、すぐに答えが出てしまうもの、検証不可能なもの、これまでの知見を無視するようなもの、などがあり、テーマ設定をうまく行う必要がある。

・探究学習の過程はそうした意味で事実上研究と同じで、大学の卒業研究をスケールダウンした内容になると一番よいかと考える。今後社会でこうした考え方を身につける訓練という意味でも「研究」の手法は重要と思われる。

・いずれにしても、問いを立てるところが最も重要かつ難しく、現場の先生方も苦慮されている。例えば最初のところでワークシートにどんなことに興味があるかを書いて、次のステップではそれに関連してどんなことを明らかにしたいか、というような形でテーマを絞り込むやり方をしている所もある。

・優良事例としては立命館中学、高校の酒井教諭のメソッドが知られている。

#### ○ESDと探究学習について、その関係性やあり方など

・探究学習の評価は、結果としてプレゼンされた内容というよりは、その過程における態度や行動変容を評価することが必要と思われる。ディスカッションができているかは評価の重要ポイントではないか。

・その意味ではユネスコの言うキーコンピテンシーを磨くということにつながる。ESDと探究学習の親和性は大きい。

・テーマ的には名古屋市立の高校の場合、環境そのものを取り上げているのは減ってきている印象はある。ただし社会状況をテーマにする例は防災や食、地域づくりなども見られ、広範囲な関連性で見るとSDGs、ESDのテーマということもできるものは多い。

・例えば、ある高校の発表で、食糧問題で今のように牛肉をたくさん食べていると温暖化に繋がるのでCO2を排出しないタンパク源として昆虫食をテーマにしたグループがある。

・このように気候変動についても、目の前の社会的現象の原因やその影響などに関連性はあるので、そうした部分で明示的ではないかもしれないが、ESDの一部を探究学習が担っていると行っていいのではないかと。

#### ○環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援センターなど中間支援組織への期待

・テーマ設定の入口としては、例えば気候変動など様々な関連性についての図みたいなものがあるといい。食から気候変動とかキーワードがいろいろ並んで分類されていて、地図、

チャートのようなものから具体的な事例に繋がるツールなどが考えられる。いろいろな事例にアクセスできるとありがたい。

・探究学習における子どもたちの学びの状況とか、先生の教え方とかが大丈夫だろうかというところなど、とりあえずチェックをしてもらいたいというニーズがある。

・現場の先生たちに自信がないらしいことが問題で、うちの大学教員も交互に支援に入っているのだが十分ではなく、そうした場面で専門家がいる相談窓口みたいなものがあるとありがたい。

・EPO のネットワークで関係する人を先生や子どもたちとオンラインでつないでくれる機会を作るとかなど考えられないだろうか。

## イ 教育部局、教育委員会、現場の教員等を対象にしたヒアリング

### ①愛知県立愛知商業高等学校

#### ●対象者

愛知県立愛知商業高等学校 安藤 駿 教諭

#### ●聞き手

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

#### ●ヒアリング日時

2025 年 10 月 20 日 15:00～16:00

#### ●ESD・SDGs に関するヒアリング結果

##### ○学校の特色について

・愛知商業高等学校はユネスコスクールに登録されており、持続可能な社会の担い手育成を意識した教育活動を展開している。特にユネスコクラブを中心として ESD・SDGs に関連する活動が行われており、地域社会と連携した実践的な取組が特徴である。ユネスコクラブは課外活動として設置されているが、学校の ESD 活動の中核的役割を担っている。

・同クラブは「マーケティング部門」と「ボランティア部門」の 2 つに分かれて活動しており、それぞれ地域社会に貢献する活動を行っている。マーケティング部門では、地域企業と連携した商品開発や販売活動を通じて、地域経済や社会課題に関心を持つ学びを実践している。一方、ボランティア部門では地域貢献活動や社会貢献活動を行っている。

・学校の活動は地域との結び付きが強く、地域資源を活用した取組が多い点も特色である。ユネスコクラブの活動は、もともと地域の文化資源である「文化のみち」地域の活性化を目的として始まった経緯があり、地域づくりと教育活動を結び付ける形で発展してきた。こうした地域連携型の活動は長年継続されており、地域企業との協働関係も構築されている。

##### ○ESD、SDGs など持続可能性に関する教育現場での具体的取組について

・ESD・SDGs に関する取組は、主としてユネスコクラブを中心に展開されている。マーケティング部門では、地域企業と連携した商品開発を行っており、養蜂活動を起点とした取組が特徴的である。学校で養蜂を行い、その蜂蜜を活用した商品を企業と共同で開発し、イベントなどで販売している。

・地域の豆腐店と協働して蜂蜜を使用したドーナツを開発したほか、和菓子店と連携して蜂蜜入りのういろうを販売するなど、地域の食品企業との協働が行われている。また、蜂蜜を使用したアイスクリームを地元企業と共同開発し、文化祭やイベントなどで販売するなど、地域との協働による実践的な活動が展開されている。

・これらの活動は単なる商品開発にとどまらず、フェアトレードの素材を活用するなど、国際的な社会課題にも配慮した取組となっている。例えば、フィリピン産カカオなどフェアトレード素材を活用した商品開発を行うことで、持続可能な消費や公正な取引といった SDGs の理念を学ぶ機会となっている。

・また、食品以外の分野でも活動が行われている。自動車の廃棄シートベルトを素材としたアップサイクル製品としてバッグを開発するなど、資源循環や廃棄物削減といった観点からの取組も実施されている。これらは「つくる責任 つかう責任」といった SDGs の理念に関わる活動として位置づけられている。

・さらに、生徒会による活動として、衣料品回収活動も行われている。これは企業の社会貢献プログラムと連携し、不要となった衣類を回収して途上国へ送る活動であり、全校生徒が参加する ESD 活動の一例となっている。

#### ○持続可能な社会の構築における教育（ESD）の役割について

・ESD は地域社会の課題に主体的に関わる人材を育成する教育として捉えている。特に商業高校という特性を生かし、地域企業と連携した実践的な活動を通じて社会課題を学ぶことを重視している。

・ユネスコクラブの活動では、商品開発や販売活動を通じて地域経済や社会課題への理解を深めるとともに、フェアトレードや資源循環などの観点から持続可能な社会のあり方について考える機会が提供されている。こうした活動を通じて、生徒が社会の課題に関心を持ち、自ら行動する力を育成することが ESD の重要な役割であると認識されている。

・また、実際の企業と連携する活動を通じて、社会で必要とされるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、課題解決能力を身に付けることも重視されている。同校の生徒は全国規模の発表大会等において高い評価を受けることもあり、発表能力の育成にも力を入れている。

・このように、ESD を単なる環境教育としてではなく、地域社会と関わりながら持続可能な社会を担う人材を育成する教育として位置付けている。

#### ○学習指導要領の前文や各教科に持続可能性の概念（ESD）が挿入されていることについて

・学習指導要領における「総合的な探究の時間」に相当する学習を、商業科の「課題研究」の授業で実施している。総合的な探究の時間そのものは設置されていないが、商業教育の専門科目の中で探究的な学習が行われている。

・課題研究は主に3年生で実施されており、週3時間の授業として位置付けられている。企業との共同研究や商品開発などの実践的な学習が行われており、商業高校の専門性を生かした探究活動となっている。

・一方、1年生および2年生では、各教科の授業の中でケースメソッドなどを活用した探究的な学習が行われている。実際の事例をもとに課題を考える授業や、外部講師による講義などを通じて、3年生の課題研究に向けた基礎的な学びを積み重ねている。

#### ○地域や社会の教育活動拠点としての取組や考え

・地域企業との連携を重視しており、商品開発や地域活性化に関する活動を通じて地域社会と関わる教育活動を展開している。地域企業と協働して商品開発を行うほか、地域イベントでの販売活動などを通じて地域社会との交流を深めている。

・地域企業との連携は単発の取組にとどまらず、長年継続しているものも多い。養蜂活動を起点とした商品開発は10年以上続く活動であり、地域企業との協働関係が継続的に築かれている。

・このような活動を通じて、生徒が地域社会の課題を理解し、地域の一員として行動する意識を育むことが期待されている。

## ②中部大学中部第一高等学校

### ●対象者

中部大学中部第一高等学校 山田浩慶 教諭

### ●聞き手

中部環境パートナーシップオフィス統括 清本三郎、中部地方 ESD 活動支援センター 原理史

### ●ヒアリング日時

2025年10月21日 15:30～16:30

### ●ESD・SDGsに関するヒアリング結果

#### ○学校の特色について

・中部第一高等学校は、2008年8月21日にユネスコスクールへ加盟しており、愛知県内では初の加盟校として知られている。加盟の背景には、私立高校として学校の特色を明確化する必要性があり、その一環としてユネスコスクールへの参加が検討された経緯がある。当時の管理職の提案により申請が進められ、英語教員が中心となって英文での申請書作成などを担い、加盟が実現したとされる。

・加盟当初の活動は、現在のようなESDの枠組みに限定されたものではなく、ユネスコ協会が実施する「世界寺子屋運動」への参加や、科学部による地域の希少魚であるミナメダカ類似種「ウシモツゴ」の保護・飼育活動など、多様な教育活動が含まれていた。例えば、文化祭では書き損じはがき回収キャンペーンを実施し、教育支援活動への寄付につなげる取組なども行われていた。

・その後、ESD活動をより体系的に推進するため、2015年に「ESD部」が設立された。部活動として位置付けることで、生徒が主体的に環境問題や地域課題に取り組む機会を確保するとともに、学校教育の枠組みの中で継続的な活動を行う体制が整えられた。ESD部では環境問題に関する啓発ゲームの制作や文化祭での展示など、生徒主体の学習活動が展開されている。

・私立学校であることから、教育活動の自由度が比較的高く、新しい取組を柔軟に導入しやすい点も学校の特色として挙げられる。こうした制度的柔軟性を背景に、ESDやSDGsをテーマとした教育活動を比較的早期から取り入れ、現在に至るまで継続的に発展させてきた点が本校の特徴である。

#### ○ESD、SDGsなど持続可能性に関する教育現場での具体的取組について

・同校におけるESDの取組は、当初は部活動を中心として進められてきた。ESD部では、環境問題や地域課題をテーマとした調査・研究活動や、啓発を目的としたゲーム制作などを行い、文化祭などの機会を通じて校内外へ情報発信を行っている。また、科学部による生物保護活動など、既存の活動とも連携しながらESDの理念を広げてきた。

・授業における取組としては、以前は「総合的な学習の時間」の中でESD概論に関する授業が設けられていた。生徒が選択できる授業の一つとして、環境問題や社会課題に関する動画や資料をもとに、自らの意見をまとめて発表する学習が実施されていた。このような取組は、現在のSDGs教育の先行的事例ともいえる内容であった。

・現在は学習指導要領の改訂に伴い、「総合的な探究の時間」の中でSDGsを軸とした探究学習が行われている。本校では「興味」「進路」「SDGs」の三つを軸としてテーマ設定を行うことが特徴である。例えば、生徒がゲーム制作に興味を持っている場合、その興味を社会課題の解決と結び付け、SDGsのどの目標と関連するかを考えるといった形で探究活動が進められている。

・このように、生徒の関心や将来の進路と社会課題を結び付ける形で学習を構成することによ

り、持続可能な社会に関する理解を深めるとともに、主体的な学習意欲の向上を図っている。

#### ○持続可能な社会の構築における教育（ESD）の役割について

・持続可能な社会の構築における ESD の役割については、高校教育の現場においては必ずしも抽象的理念としてではなく、生徒の進路や関心と結びつけながら理解を促していくことが重要である。

・高校生にとって社会課題は必ずしも身近なものではなく、教員側にとっても専門外の領域が多く含まれる。そのため、ESD を直接的に社会変革の理念として教えるのではなく、生徒の興味関心や将来の進路に関連付けながら課題に触れる機会を提供することが現実的であると考えられている。

・例えば、地域のまちづくりや環境問題といったテーマを、ゲーム、デザイン、ビジネスなど生徒の関心分野と関連付けることで、社会課題を自分事として考える契機をつくることができる。このような学習経験を通じて、生徒が社会の課題について主体的に考える姿勢を身につけることが、ESD の重要な役割であると認識している。

#### ○学習指導要領の前文や各教科に持続可能性の概念（ESD）が挿入されていることについて

・学習指導要領の前文や各教科に持続可能性の概念が明記されたことについては、学校現場における取組を後押しするものとして評価される。

・同校では以前から ESD に関連する活動を行ってきたが、学習指導要領に持続可能性の理念が位置付けられたことで、それらの活動を教育課程の中に正式に位置付けやすくなった。教員の立場から見ると、これまで実践してきた活動が制度的に認められた形になり、「取組を進めやすくなった」という感覚があるという。

・また、学習指導要領に明記されたことにより、特定の教員や部活動だけが担う取組ではなく、学校全体として取り組む教育課題として位置付けることが可能となった点も重要である。こうした制度的背景により、ESD や SDGs に関する教育活動が学校全体に広がりやすくなったと考えられている。

#### ○地域との連携

・ユネスコスクールには地域社会における教育拠点としての役割が期待されているが、本校では地域連携型のワークショップなどを通じてその役割を果たしている。

・具体的には、日進市環境課との連携により、地域の小学生を対象とした環境ワークショップを実施している。この取組は夏休み期間に学校施設を利用して開催され、小学生とその保護者、場合によっては地域住民も参加できる形で行われている。募集や受付は市の環境課が担当し、学校側が教育プログラムを提供する形で運営されている。

・ワークショップでは ESD 部の生徒が中心となり、アロマクラフトなどの体験型プログラムを実施している。また、同日に学校内の他学科がプログラミング講座などを行う場合もあり、学校全体として地域向けの学習機会を提供している。

・このような活動は、もともと地域イベントでの啓発活動から発展したものであり、現在では学校と自治体が連携する継続的な教育プログラムへと発展している。

#### ○ESD 推進の課題

・ESD 推進の課題としては、地域や企業との継続的な連携体制の構築が挙げられている。地域との協働は重要であるものの、学校単独で継続的な関係を維持することには一定の困難が伴う。

・特に地域の中小企業や自治体との協働を長期的に維持するためには、学校と地域をつなぐコーディネート機能が必要であると考えられている。また、教育活動として継続するためには、教員

の異動や業務負担の問題も考慮する必要がある。

・さらに、私立学校では比較的柔軟に教育活動を展開できる一方、公立学校では制度面や業務体制の制約により同様の取組を継続することが難しい場合もある。

#### ○中間支援組織への期待

・ESD 活動をさらに発展させるためには、学校と地域をつなぐ中間支援組織の役割が重要であるとの認識が示された。地域の企業や自治体との連携を円滑に進めるためには、学校単独ではなく、外部機関が調整役となることが望ましいと考えられている。

・例えば、教材提供や授業プログラムの支援、活動証明書の発行など、生徒の学習成果を社会的に評価する仕組みが整備されれば、生徒の学習意欲や進路形成にも寄与する可能性がある。

・また、オンライン勉強会や学校間の情報共有の場を設けることで、ESD に取り組む学校同士の連携を促進することも期待できる。

## ウ 中小企業経営者等を対象にしたヒアリング

### ①株式会社鈴六

#### ●ヒアリング対象

株式会社鈴六

#### ●ヒアリング日時 2025年8月26日 15:00～16:00

#### ●ヒアリング結果

#### ○SDGs の取組について

・創業 107 年の繊維リサイクル事業者であり、古着の回収・選別・再利用を中心とした資源循環型の事業を展開している。1970 年代から古着事業に取り組んでおり、現在は国内外へのリユース・リサイクルを通じて資源循環に貢献している。

・SDGs の取組としては、社長が SDGs 関連のセミナーに参加したことをきっかけに、企業としての取組を意識するようになったという。具体的には、女性のリフト運転への参入や女性管理職の登用など、女性の活躍の場を広げる取組を進めている。また、行政や民間店舗と連携して古着回収ボックスを設置するなど、地域と連携した資源回収にも取り組んでいる。

・さらに、工場見学の受入れや学校への出前授業などを通じて、繊維リサイクルや資源循環に関する情報発信も行っている。

#### ○SDGs にあたって、社内教育での ESD の必要性について

・SDGs や環境に関する取組については、社長の考え方としては重視しているものの、社内全体に十分浸透しているとは言えない状況であるとの認識が示された。

・現在は、まず管理職やリーダー層を中心に環境教育の理解を深めることが重要であると考えており、あいち環境塾などの外部研修に参加することで知識を深め、その内容を社内へ広げていくことを検討している。今後はこうした取組を通じて、段階的に社内の理解を広げていきたいとしている。

#### ○対外的アプローチとして例えば取組を一般に公開することによる教育（ESD）効果について

・同社では、工場見学の受入れや出前授業、子ども向けのワークショップなどを通じて、繊維リサイクルや資源循環について伝える取組を行っている。見学者には小学生や高校生のほか、行政

関係者なども含まれている。

- ・特に古着の選別工程は人の手でされているため、見学者にとって資源循環の仕組みを理解する機会となっているという。また、学校の研究活動に協力する形で、衣類リユースによる CO<sub>2</sub>削減効果に関する研究への協力も行っている。

- ・こうした活動を通じて、企業の取組を知ってもらう機会にもなっているとのことであった。

#### ○SDGs/ESD の取組の課題について

- ・社内教育の面では、SDGs や環境に関する考え方を社内全体に浸透させていくことが課題として挙げられた。現状では社長や一部の社員の取組にとどまっており、全社的な理解には時間がかかると考えられている。

- ・また、環境教育や見学対応などの活動には時間や人員が必要となるため、通常業務との両立が課題となっている。特に中小企業にとっては、教育活動に充てる時間やコストの確保が難しい面があるという。

- ・さらに、繊維リサイクル業界の課題として、回収できる品目が業界団体のルールによって制約される場合があることや、大手企業による回収の影響で処理が難しい衣類が増えていることなども挙げられた。

#### ○SDGs/ESD の取組の支援について

- ・取組を進めるうえでは、同業者間で情報交換ができる場や、専門的な相談ができる窓口があるとよいとの意見が示された。特に、繊維リサイクルに関する技術や業界動向については、企業単独で情報を得ることが難しい場合もあるため、外部からの情報提供や助言があると参考になるとのことであった。

- ・また、第三者的な立場からのアドバイスや事例紹介なども、中小企業にとっては取組を進めるうえで有効であると考えられている。

#### ○SDGs/ESD の取組の今後の期待

- ・今後については、現在の資源循環事業を基盤として SDGs の取組を継続するとともに、社内の理解を徐々に広げていきたいとの考えが示された。また、SDGs 認証制度の取得などを通じて企業の取組を対外的に示すことも検討している。

- ・一方で、こうした認証制度が直接的に利益につながるかどうかについては不透明な面もあるが、企業の取組を知ってもらう機会にはなるのではないかと考えているとのことであった。

#### ○その他

- ・古着回収については、行政と連携して公共施設や店舗などに回収ボックスを設置する取組を進めているが、業界の制度上、すべての地域で同様の取組ができるわけではないという課題もある。

- ・また、同社では衣類以外にも靴やカバン、ぬいぐるみ、タオルなどの回収にも対応しており、一般的な古着回収では対象外となるものも資源として活用しているとのことであった。

## ②特定非営利活動法人アスクネット

### ●ヒアリング対象

特定非営利活動法人アスクネット

●ヒアリング日時 2025年9月24日 13:00～14:00

## ●ヒアリング結果

### ○貴社（貴団体）のSDGsの取組について

・当団体は1999年に設立され、2001年に法人化した教育支援団体であり、現在は約20名の職員で構成されている。職員の多くはキャリア教育コーディネーターとして学校や行政と連携し、主にキャリア教育を中心とした事業を展開している。

・主な事業としては、高校を中心としたインターンシップ事業のコーディネートがあり、学校と企業のマッチングに加えて、事前学習や事後の振り返り、発表会などを含めたプログラム全体の設計を支援している。学校ごとに教育課題や生徒の状況が異なるため、教員へのヒアリングを行いながら目的に応じたプログラムを構築するなど、教育コンサルティングに近い役割を担っている。

・近年はインターンシップに加え、探究的な学習の授業コーディネートの依頼も増えており、カリキュラム設計や外部講師の調整など、学校の教育活動全体に関わる支援も行っている。特に普通科高校ではキャリア教育や探究活動の外部支援ニーズが高く、私立高校を中心に継続的な連携が生まれている。

・また、地域と学校をつなぐ教育活動として、企業や地域人材を学校教育に取り入れる取組も進めており、地域社会と連携した学びの環境づくりを重視している。これらの活動は、持続可能な社会を担う人材育成という点でESDやSDGsの理念とも重なるものと認識している。

・さらに、企業と連携した環境学習プログラムとして、企業グループと共同で小学校向けの環境教育事業を実施している。この事業では、環境の専門家による講義や体験型授業などを年間4回提供し、児童が環境問題を身近な生活や地域社会と結びつけて学ぶ機会を提供している。学校の要望に応じてテーマを調整するなど柔軟な授業設計を行っており、現在は約20校以上の小学校が対象となっている。

### ○SDGsにあたって、社内教育でのESDの必要性について

・当団体の職員の多くはキャリア教育コーディネーターとして活動しており、学校教育の現場と地域社会をつなぐ役割を担っている。そのため、教育活動を通じて社会課題を理解し、持続可能な社会づくりの視点を持つことは重要であると認識している。

・特に近年は学校教育において探究学習や地域連携が重視されており、教育支援を行う立場としてもSDGsやESDの理念を理解した上で活動することが求められている。子どもたちを育てる主体は学校だけではなく、地域の大人や企業も含めた社会全体であるという考え方を重視しており、地域社会の学びの環境づくりという観点からESDの重要性を捉えている。

### ○対外的アプローチとして例えば取組を一般に公開することによる教育（ESD）効果について

・当団体では、学校と企業、地域人材をつなぐ教育プログラムを通じて、社会との関わりの中で学ぶ機会を提供している。特にインターンシップ事業では、実際の企業や地域の現場での体験を通じて、働くことや社会の仕組みを理解する機会を提供しており、生徒にとっては社会課題を自分事として考える契機となっている。

・また、企業と連携した環境学習プログラムでは、企業の環境配慮の取組や地域社会への貢献を児童に伝えることで、環境問題や地域社会への関心を高める効果がある。企業側にとっても地域社会への貢献活動としての意味を持ち、教育活動を通じて地域との関係性を深めることにつながっている。

・こうした取組は、学校教育だけではなく地域社会全体での学び合いを促進するものであり、ESDの理念にも合致するものと考えている。

#### ○SDGs/ESD の取組の課題について

・教育支援の分野では、地域や学校ごとに教育課題が大きく異なるため、画一的なプログラムでは対応が難しいという課題がある。そのため、学校ごとのニーズに応じたプログラム設計や関係者の調整に多くの時間と労力が必要となる。

・また、企業や地域人材を教育活動に継続的に関与させるためには、単なる外部委託ではなく地域社会全体で教育を支える仕組みづくりが重要であるが、その体制づくりには時間がかかるという課題がある。

・さらに、環境教育などのプログラムについては企業の協賛による事業として実施されている部分もあり、企業の状況や予算によって対象校数などが変動する場合がある。

#### ○SDGs/ESD の取組の支援について

・当団体の活動は、教育委員会の委託事業や学校からの自主事業依頼などによって支えられている。公立高校については教育委員会のキャリア教育関連事業としてコーディネーターを派遣する形で関わる場合が多く、私立高校については学校から直接依頼を受ける形で事業を実施している。

・また、企業と連携した教育事業については企業の社会貢献活動として実施されており、教育委員会と連携しながら学校への提供を行っている。

#### ○SDGs/ESD の取組の今後の期待

・今後は、学校教育と地域社会を結びつける取組をさらに強化し、地域全体で子どもたちの学びを支える仕組みづくりを進めていきたいと考えている。特に探究学習やキャリア教育の分野では、地域企業や地域人材の関わりが重要であり、学校と地域をつなぐコーディネート機能の役割は今後さらに高まると考えている。

・また、SDGs や ESD の理念は、学校教育だけではなく地域社会の持続可能性とも関係するため、地域の大人も含めた学び合いの環境づくりを進めていくことが重要であると認識している。

#### ○その他

・教育活動を外部に委託する形だけでなく、地域住民や企業が主体的に関わる形で教育を支える仕組みを構築することが重要であると考えている。そのため、地域のニーズを丁寧に把握しながら、学校・企業・地域社会をつなぐコーディネート機能を強化していきたいと考えている。



## 7 EPO/ESD の行事を通じた意識や行動の変容の把握

- 代表的な行事後にどのような変化が地域にあったかなどを、行事に参加・協力したコアメンバーを対象に簡易ヒアリング（計6件）を実施し、そのヒアリング結果を今年度の EPO 中部運營業務における成果としてとりまとめた。

### ①地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025




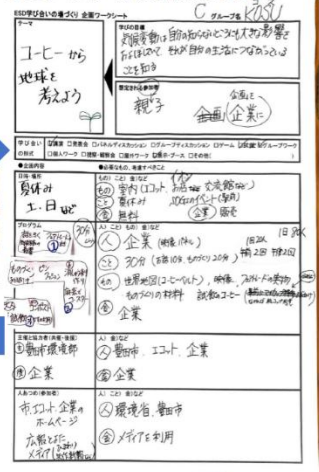
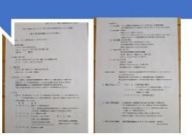
行事名	2025 年 12 月 6 日開催・地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025
対象	茶木 勝 氏 (株)ティー・ツリー・コミュニケーションズ 堺 勇人 氏 (一社)環境市民プラットフォームとやま
方法	茶木氏：電話ヒアリング、堺氏：オンラインヒアリング
ヒアリング 内容・結果	<p><b>【茶木氏に「柿取物語」の取組状況について質問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10 月に、「柿取物語」の柿の収穫体験イベントを試行的に実施し、そこで収穫した柿（渋柿）を、地元イベントでジャムにして販売する計画でした。しかし、イベント前日の夜中までかかって準備を進めていましたが、柿の渋抜きがうまくできず、これはお客さんに出せないということで、急遽、販売を中止しました。今回は失敗しましたが、「柿取物語」のチャレンジは今後も続けていくことになっています。</li> </ul> <p><b>【堺氏に上市でのローカル SDGs 実践に対する中間支援について質問】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「柿取物語」プロジェクトは、昨年度フォーラムで提示されたアイデアの段階から、今年度フォーラムで取組発表がされた通り、実行段階へと進んでいます。しかし、地域全体の巻き込みにはまだ至っていない点が今後の課題と感じています。</li> <li>フォーラムをきっかけに、登壇者同士が連携する可能性も創出されています。柿の収穫体験イベントやフォーラムへの副町長の参加により、行政も関心をもってきているようで、今後の展開に期待が持てると思っています。</li> <li>上市では地域課題解決ローカル SDGs への関心が高まっており、旧繁華街の空き家を活用したイベントなども行われるようになっており、地域内の回遊性促進につながるような取組もはじまっています。そうした中で、中間支援も重要と認識していますが、資金や人材の確保が難しく、持続的な支援体制の構築には課題が残っていると言わざるをえません。おそらく、地域循環共生圏の理念を実現するには、行政や企業の本気の関与も不可欠であると考えます。</li> </ul>

### ②地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025 関連イベント（JICA 研修会）

行事名	2025 年 10 月 24 日開催・JICA 研修：EPO スタッフが地域循環共生圏を概説 10 月 25 日開催・かみいち柿取物語（柿の収穫体験イベントの試行） ⇒12 月 6 日開催・地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町 2025 関連イベント
対象	JICA 研修生 6 名（出身国：ガボン 2 名、ソロモン諸島 2 名、フィジー 2 名）
方法	JICA から提供いただいた感想コメントの Google 翻訳からの抜粋・整理（付記等追加）
ヒアリング 内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>（地域循環共生圏の概説をうけて）私たちの生活を維持するためには、自然環境の豊かな恵みを享受し、自然、社会、経済のインスピレーションのバランスをとることが必要であることを学びました。</li> <li>フォーラムを利用して問題を共有し、問題解決の方法を議論する。廃棄された果物やその他の植物（柿、柑橘類、竹、杉、ヒノキなど）を利用して他の製品を生産するプロセスを参考にしたい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境省をはじめとする様々なステークホルダーの強力な連携に驚きと感銘を受けました。環境省は、天然資源の持続可能な利用を通じて地域社会への影響の源泉の創出を図っている。こうした個人的かつ協働的な取組は称賛に値します。地域循環共生圏という概念に非常に興味を持っています。</li> <li>特に環境省（EPO 中部）のプレゼンテーションを受けて、地域社会における環境教育に関連した SDGs の実施方法を研究する意欲が湧きました。この研究を通して、ガボンにおける国連の持続可能な開発協力枠組みにつなげられるものと考えています。環境省が地域社会の利益のために他のパートナーと協力するためのアイデアは新たな発見になりました。</li> </ul>
--	---

### ③学び合いプロジェクト・学び合いの場①

<b>行事名</b>	<b>2025 年度学び合いプロジェクト 地域づくりのための SDGs・気候変動社会教育 2025 年 7 月 18 日開催・学び合いの場①</b>
<b>対象</b>	eco-T「エコット」豊田市環境学習施設のインタープリター（※参加者の一人）
<b>方法</b>	メール（後日にいただいた自主企画イベントの実施報告メールより抜粋）
<b>ヒアリング内容・結果</b>	<p style="text-align: center;">2025年度学び合いプロジェクト 地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育 ワークショップ・SDGsの学びの場をつくる！成果の例：学び合いの場①⇒市民⇒企業⇒消費者（珈琲）</p> <p>成果例の概要：学び合いの場①に参加した豊田市環境学習施設のインタープリターが、そこで作成した素案を元に企画を具体化、企業と協力してESDイベントを実現した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>●ESD学び合いの場づくりワークブック</p>  <p>●インタープリターが参加した企画書づくりのワークショップ</p> <p>学び合いの場① 対象：eco-T「エコット」豊田市環境学習施設職員、同インタープリター、21名 期日：2025年7月18日 13:00～15:30 場所：愛知県豊田市 eco-T豊田市環境学習施設 主催：中部地方ESD活動支援センター 協力：豊田市環境政策課</p>  <p>●インタープリター自ら企画して実現したESDイベント</p> <p>親子で学ぶ気候変動とサステナブルな暮らし 豊田市商業施設10/12(日) 気候変動をフリップ8枚で説明 バンクに三本珈琲の海外農場写真 1回30分×3回、72名の参加</p>  </div> <div style="width: 45%;"> <p>●インタープリターがWSで作成した企画書案</p>  <p>●中部三本珈琲との協働</p>  </div> </div> <p>(※学び合いの場②の研修内容を受けて、自主的に気候変動の学びイベントを実施した参加者のインタープリターから、その実施報告のメールをいただいた。その内容を一部抜粋し、EPO が整理した内容を以下に掲載。)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10/12(日)無事イベントが終わりました。1回 30分 20人定員で3回、事前予約制で行いました。60人を目指していましたが、当日飛び込み参加もあって結局 73名参加していただきました。私はコーヒーと気候変動をフリップ8枚で説明し、協力事業者（会場提供などでも協力）の海外のコーヒー農場の写真を映してもらうなど、通常では得られないような支援・協力をいただき、大変良い経験をすることができました。</li> <li>自主的に企画運営するイベントを行うことで、インタープリターの力もつくと思いました。本当に応援いただき、ありがとうございました。これからも頑張っていきたいと思います。</li> </ul>

### ④学び合いプロジェクト・学び合いの場②

<b>行事名</b>	<b>2025 年度学び合いプロジェクト 地域づくりのための SDGs・気候変動社会教育 2025 年 8 月 29 日開催・学び合いの場②</b>
<b>対象</b>	水上聡子 氏 アルマス・バイオコスモス研究所

方法	メール
ヒアリング 内容・結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学び合いの場②WS を開催した感想 坂井市では、5回シリーズのゼロカーボン市民ワークショップのうち、アクションプランを作る最も重要な第3回目に位置づけをしたため、大変有意義な時間となりました。第1回、第2回と基礎から話し合いを始め、プランに向けて形にしていく段階の第3回目として実施したことは、5回シリーズの効果的な組み立てに寄与したと考えます。</li> <li>• 学び合いの場②WS の参加者が得たもの、きっかけになって変わったこと、行動成果等に現れた影響 新しい手法に触れた参加者は、刺激を得て集中してプランづくりに取り組んでいました。ただ、ペルソナワークの意味や目的を十分理解されていない方がおられたようで、皆から批判されているように感じ、自信をなくしたかもしれません。しかし、最終的には理解され、第4回、第5回とアクションプランのプレゼンテーションに向けてスライドを作成し、プレゼンの練習もしました。その成果は、坂井市ゼロカーボンシンポジウムの大舞台で3チームそれぞれが発表し、今後実行に向けて行動を起こしていくことが期待されています。</li> <li>• これらにまつわる EPO 中部・中部 ESD 活動支援センターへのご意見 坂井市の5回シリーズと協働していただくことができ、双方にとって有意義な時間になりましたこと、深く感謝しています。今後、例えば、地域循環共生圏の評価指標を用いていくつかの事業を評価してみたり、ウェルビーイング指標を構築して、試しに評価してみるということで協働していただければ有難いです。</li> </ul>

### ⑤学び合いプロジェクト・実践活動（実践セミナー）

行事名	2025 年度学び合いプロジェクト 地域づくりのための SDGs・気候変動社会教育 2025 年 11 月 25、26 日開催・実践活動（実践セミナー）
対象	東 氏 富山市教育委員会事務局 生涯学習課 生涯学習係
方法	メール（追加ヒアリング電話）
内容 ・ 結果	<p>参加者にも聞き取りしていただいた結果について以下回答をいただいた</p> <p>○ESD・SDGs のワークショップを実施した感想（主催者側、参加者側）</p> <p><b>【主催者側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 定型なお勉強スタイルの研修ではなく、アクティブラーニング形式のグループワークができたことが良い経験になったと感じる。</li> </ul> <p><b>【参加者側】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 研修を受ける前は聞き取れないタイトルのせいで身構えてしまったが、やってみると楽しく学ぶことができた。</li> <li>• 研修を通じて他の公民館職員と情報交換ができたので有益であった。</li> <li>• グループの人数や全体の受講者数等、研修の規模感はやかった。</li> <li>• 公民館主事研修としてのキャリアが短かったので、普段の業務から踏み込んで、ESD 的な視点で考えるのが難しい部分もあった。（ただし、グループメンバーから助言等もあるので何とかあった。）</li> </ul> <p>○ワークショップの参加者が得たもの、きっかけになって変わったこと、業務などに現れた影響</p> <p><b>【主催者側】</b></p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 公民館主事同士の横のつながりが広がったと感じるし、公民館事業の企画運営で悩むことがあった際に、情報交換できるネットワークができたと感じる。</li> <li>・ 直接的に業務がこう変わった！とまではいかないが、既存の事業を深掘することで広報の仕方を変更したり、内容をブラッシュアップする契機にはなったのではないかと感じる。</li> </ul> <p>【参加者側】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループメンバー（他の公民館主事）との情報交換により、公民館事業に生かせるアイデアを得られた。</li> <li>・ 公民館事業を行っていく上で、考え方や着眼点が広がった。</li> <li>・ 答えのないミッションについて、グループで考えることを通じて、人の意見を聞くことやアドバイスを求めたりと、協働するスキルが少しばかりか向上したのではないかと感じる。</li> <li>・ 前提踏襲的な事業の存在意義を考えてみたり、改善するならどのように掘り下げたら良いか？といった感じで、今後の事業企画で生かせると感じた。</li> </ul> <p>○これらにまつわる EPO 中部・中部 ESD 活動支援センターへのご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ （SDGs という）タイトルのせいとか、公民館主事の、研修受講に対する精神的なハードルは高かったように見受けられます。</li> <li>・ グループワークの支援体制は充実していたので、上記のように最初のハードルは高かったかもしれないが、グループワーク時はストレスなく受講できた。（講師側は大変だったかもしれないが…）。</li> <li>・ 今回のヒアリングに関し、何名かの受講者に意見を聞いたが、みなさん一様に、受講して良かったとの声をいただいた。通常業務への活用については、「考え方が広がった」、「普段の事業を深掘する契機になった」といった間接的にはなりがちですが、個人及びグループで考えてみるという体験自体が成果であったと思います。</li> <li>・ 結果的にグループ数等、研修の規模感は今回のケースぐらいが MAX かなと感じます。</li> </ul> <p>○その他（担当者への電話で追加のヒアリング）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最大の成果はグループワークの交流により、相談できるネットワークが形成されたことだと考えられる。いくつか参加者に聞き取りしたところ、皆さんがそれは口にしていたとのこと。</li> <li>・ また協働してワークショップ運営に協力いただいた地域 ESD 拠点の担当者と参加者が名刺交換をするなど、SDGs と ESD に関する地域の協働のネットワークが広がった。</li> </ul>
--	---

### ⑥ESD ダイアログ

<b>行事名</b>	2025 年 10 月 17-18 日開催・ESD ダイアログ 2025 山と水と人間と～南紀からの ESD 発信～<吉野熊野国立公園指定 90 周年を機会に>
<b>対象</b>	濱田 一多朗 氏 尾鷲市商工観光課長
<b>方法</b>	メール
<b>ヒアリング内容・結果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ダイアログを開催した感想</li> </ul> <p>地元の中高生はもとより、地域、管轄（中部地方環境事務所・吉野熊野国立公園管理事務所）をまたいだ多くの主体の参画により、話題提供、活動報告及びパネルディスカッションがなされたことで、取組に対する相互理解がなされ、様々な「気づき」が得られたことが非常に良かったと思います。</p>

特に、本市では初の試みであり、中高生の発表も含め、より具体的で分かりやすく取組ついて学ぶこともできたと思います。

- ダイアログへの参加者が得たもの、きっかけになって変わったこと  
「ESD」という言葉だけでなく、実際の活動報告と対話を通じてそれぞれに「気づき」があったと思います。特に、個々の活動団体だけでは、資金的にも、人力的にも厳しく、事業継続のためには行政の支援が必要不可欠であることも理解できたと思います。

特に、現在の本市での取組は、市が人的・金銭的にもイニシアチブをとりながら進めている事業ですので、他の活動団体とは大きく違うのではないかと思います。各団体の自主性を尊重しつつ、単に資金援助だけでなく、持続可能な活動のための基盤づくりのために、行政と民間がどう協力し、何を支援すべきか考えるきっかけになったのではないかと思います。

- 結果として、具体的な取組に現れているようなことや、計画・構想されている活動（例えば勉強会）などの例はあるか。現在は現れていなくても機運等はあるか。

市参加者には確認しておりませんが、現時点では機運的なものは確認出来ておりません。ダイアログ終了後に、関係者による「振り返り」の機会があれば、より次に続いていくのではないかと思います。

市役所内部でもそのような取組が出来ておりませんので、また、一度、商工観光課、水産農林課、教育委員会など参加していただいた関係各課に声掛けをしてみたいと思います。

- EPO 中部・中部 ESD 活動支援センターへのご意見  
地方自治体との連携強化により、地域の活動団体や教育機関への裾野を広げ、より EPO 中部や中部 ESD センターの活動を活発化させることができると思います。

地方自治体との連携会議の開催など、国・県・市町間での情報共有と具体的な取組を進めていくのが良いのではと思います。



## 8 関係主体との連携及び協働に関する業務

### (1) EPO・GEOC・ESD 活動支援センターのネットワーク活用及び連携の確保・強化

- 全国の地方 EPO・GEOC・ESD 活動支援センター（全国・地方）のネットワークの活用及び連携の確保・強化に努めることとし、このために必要な作業・情報交換などの業務を行うとともに、業務の進行管理や連絡調整のために開催される会合等へも参加した。

#### 【その他会合／催事等】

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等
地域循環共生圏事業説明会	4月8日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 実施方針の内容を中心に説明</li> </ul>
大阪万博 ESD プログラムの説明及び意見交換	4月23日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 日本国際博覧会協会と、万博の学校向けプログラムについて説明と意見交換</li> </ul>
地球環境基金とEPO顔合わせミーティング	5月20日	オンライン	—	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 連携業務の方向性について確認</li> <li>■ 更新された協定書・仕様書について確認</li> <li>■ 今年度の連携業務について企画調整</li> <li>■ 今後のスケジュール確認未実施</li> </ul>
地域脱炭素マッチングイベント	10月24日	リアル	ベルサール東京日本橋(東京)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地方公共団体によるプレゼンテーション</li> <li>■ ソリューション別グループトーク</li> <li>■ 個別面談(地方自治体×企業)</li> </ul> ⇒EPO 中部スタッフはグループトークで、ファシリテーターを務めた。

### (2) 中部地方環境事務所との情報共有及び意見交換

#### ①定期打合せ

- 中部地方環境事務所の担当官との定期的な打合せを月 1 回以上実施し、業務の進捗状況の確認、方向性などについて協議を行った。

	実施日	主な打合せ協議事項
第1回	4月8日	1. 「令和7年度業務実施計画」案について 2. ESD/EPO 運営委員会について 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 協働コーディネーター意見交換会について 5. その他(入居ビル提出「現況調査票」、報告書分類コードの確認など)
第2回	5月9日	1. ESD/EPO 運営委員会について 2. 主催イベント/会合関係について 3. 地域循環共生圏創造支援事業について
第3回	6月5日	1. 主催イベント/会合関係について 2. 地域循環共生圏創造支援事業について 3. 高校生インターンについて
第4回	7月11日	1. 主催イベント/会合関係について 2. 高校探求学習ヒアリングについて 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 高校生インターンについて 5. 第1四半期報告書について
第5回	8月19日	1. 主催イベント/会合関係について 2. ESD 関係者ヒアリング、高校探求学習ヒアリングについて 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 高校生インターンについて 5. その他 ・GEOC からの宿題(GEOC20周年に向けて)について ・ERCA: 地域課題解決戦略検討(能登)について ・SDGs チェックリストの活用報告(愛知県職研修会からの実施報告)

	実施日	主な打合せ協議事項
第6回	9月17日	1. 業務全体の実施状況について 2. 主催イベント／会合関係について 3. ESD 関係者ヒアリング、高校探求学習ヒアリングについて 4. 地域循環共生圏創造支援事業について 5. その他 ・ERCA: 地域課題解決戦略検討(能登)について ・協働コーディネーター候補について ・次回打合せ／第2四半期報告書について
第7回	10月7日	1. 主催イベント／会合関係について 2. ESD 関係者ヒアリング、高校探求学習ヒアリングについて 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 第2四半期報告書について 5. その他 ・ERCA 地域課題解決戦略検討ヒアリングについて ・新協働コーディネーターとの打合せについて ・次回打合せについて
第8回	11月6日	1. 主催イベント／会合関係について 2. ヒアリング関係について 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. その他 ・ERCA 地域課題解決戦略検討ヒアリングについて ・次回打合せについて
第9回	12月16日	1. 今年度業務の実施状況確認 2. 主催イベント／会合関係について 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 運営委員会について(スケジュール確認) 5. 外部評価委員会について 6. その他 ・ERCA 地域課題解決戦略検討ヒアリングについて ・次回打合せ／第3四半期報告書について
第10回	1月14日	1. 今年度業務の実施状況確認 2. 主催イベント／会合関係について 3. 地域循環共生圏創造支援事業について 4. 運営委員会 2/19 について 5. 外部評価委員会 3/2 について 6. 第3四半期報告書について 7. その他 ・ERCA 地域課題解決戦略検討ヒアリングについて ・次回打合せについて
第11回	2月16日	1. 今年度業務の実施状況確認 2. 主催イベント／会合関係について 3. 運営委員会 2/19 について 4. 外部評価委員会 3/2 について 5. 地域循環共生圏創造支援事業について 6. 年間報告書の納品物等について 7. その他 ・ERCA 地域課題解決戦略検討ヒアリングについて ・次回打合せについて
第12回	3月13日	1. 今年度業務の実施状況確認 2. 残り業務／未提示業務等について 3. 年間報告書について 4. その他 ・引越し関係のスケジュールについて ・次年度体制／次回打合せについて

## ②日々の業務報告提出

- 日々の業務についての「月次報告書」を作成し、業務内容等を記入したものを毎月（月初めに）、中部地方環境事務所へ提出している。
- 施設の運営・利用状況（次表）、相談対応票、EPO 中部が関わった審議会・委員会・検討会・会議等（他団体主催のもの）について、月次で報告資料を作成、提出を行っている。
- EPO 中部施設の今年度の開館状況、来館件数とメール・電話による問合せ件数等は、次の通りであった。

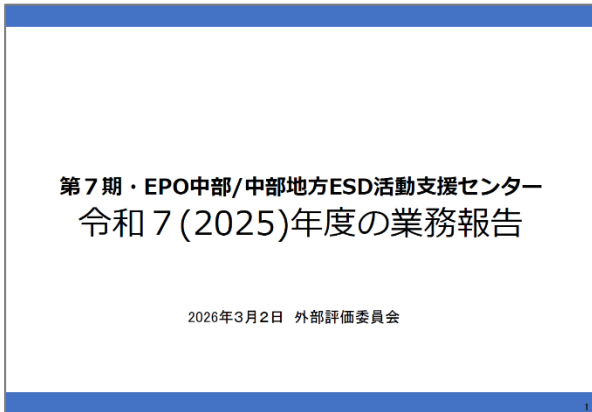
【施設の運用状況・使用状況等】

	業務実施 日数・計 (日)	開館日数・ 計(日)	来館者数・計(人)		来館件数・計		メール・電話による問 合せ件数(件)		スタッフ体制・計	
			日平均 (人/日)	日平均 (人/日)	日平均 (件/日)	日平均 (件/日)	日平均 (人/日)			
4月	21	21	10	0.5	5	0.2	18	0.9	57	2.7
5月	20	20	10	0.5	7	0.4	7	0.4	51	2.6
6月	22	21	13	0.6	6	0.3	14	0.7	70	3.2
7月	23	22	11	0.5	7	0.3	10	0.5	64	2.8
8月	16	16	26	1.6	9	0.6	14	0.9	61	3.8
9月	20	20	21	1.1	16	0.8	12	0.6	74	3.7
10月	25	22	5	0.2	5	0.2	16	0.7	89	3.6
11月	18	18	4	0.2	3	0.2	7	0.4	63	3.5
12月	23	20	16	0.8	7	0.4	13	0.7	75	3.3
1月	22	19	4	0.2	4	0.2	11	0.6	67	3.0
2月	21	18	15	0.8	5	0.3	9	0.5	65	3.1
3月	13	12	4	0.3	3	0.3	4	0.3	42	3.2
計	244	229	139	0.6	77	0.3	135	0.6	778	3.4

(3) 中部地方環境事務所が主催する会議（外部評価委員会等）への対応

- 中部地方環境事務所が実施した外部評価委員会に提示する資料として、自己評価シート、令和7年度（2025年度）の業務実施報告資料を作成し、中部地方環境事務所へ提出した。
- 3月2日に実施された外部評価委員会にEPO中部も出席し、資料説明等を行った。

【作成・提出した業務実施報告資料】



2025年度EPO中部主催イベント/国会

※②③…仕様書項目上の「自治体・協働コーディネーターとの連携によるフォーラム等開催(計2回)」に該当

区分	エリア	設置	時期	参加者数	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
①中間支 援セナ ー	—	オンライン -石塚 登壇者 -会場 会場集合	12月 5日	25名	地域循環共生圏づくり支援セミナー 「ローカルSDGsの挑戦とその中間支援 ～地域循環共生圏づくりが必要なこと ～大切なこと～」	活動主体…長野県EPOセンター ・有識者…早稲田大学・島岡先生、有識者WGメンバー(下記参照) など
②共生圏 づくり支 援	高山県 上市町	リアル	12月 6日	20人	地域循環共生圏フォーラム上市町 「地域資源を地域資源にするローカル SDGsの挑戦～」	協働コーディネーター/中間支援…PEOとやま・原氏 ・先進事例紹介…NPO代表-佐田氏 ・昨年度フォーラムで提案されたローカルSDGsアイデアの 試行実践報告…ネットラジオ「カミラジ」局長・高井氏
③ローカ ルSDGs事 例集	—	オンライン -石塚 登壇者	3月 11日 予定	—	中部エリアの地域循環共生圏づくりの 事例・組織主体を紹介(2025(オンライン 配信)/ローカルSDGsの集約や支援に 取り組む協働コーディネーター紹介	協働コーディネーターの取組事例集を6年ぶりに刷新、動 画で公開予定 ・今年度から次年度にかけて事例集コンテンツを作成・公開 ⇒ウェブサイトにも専用コーナーも新設予定
④協働コ ーディネ ーター少 数会	会場名 古野市 内	リアル	9月 3日	9名	地域活動主体の課題、中間支援のあり 方、コラボの可能性	協働コーディネーター8+新追加1名 さらに新たに推薦されたコーディネーター1名(次年度のた めの発案の中で紹介)
⑤活動評 価手法検 討WG (5名)	名古屋	リアル	6月 2日 7月 28日	3名	「6つの資本」など活動評価に関するPR 成果の検証とバージョンアップ 中間支援に関する評価手法の検討と活動 評価との連携	・メンバー(総括): ・石塚礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター長 教授、 中部ESD拠点協議会事務局長 ・水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオコスモ ス研究所代表 ・原 勇人 EPO中部運営委員、一般社団法人 環境市 民プラットフォーム代表(POC)や社 事務局長
⑥共生圏 事業中 間共有 会	愛知県 半田市	リアル	11月 13日 -14日	2名	・中間共有会 ・視察エクスカージョン	・ホスト:半田市、半田市地域循環共生圏推進協議会 ・出席:地域循環共生圏づくり支援体制構築事業の中部エ リア運営団体、関係者 ・視察先:ヒノクラ、協力農家 など

①地域循環共生圏づくり支援セミナー（2025年度：中間支援編）

- 12月5日に「地域循環共生圏づくり支援セミナー2025」を開催・配信。zoom参加・YouTube自由視聴合わせて34人が視聴(2025年12月末現在)。
- 早稲田大学教授・島岡未来子先生、共生圏事業の中間支援主体・長野県NPOセンター吉田氏による講演のほか、トークセッションを実施。
- 録画をアーカイブ公開中。トークセッションは冊子としてとりまとめ(作成中)。

2024年度の《地域循環共生圏づくり入門編》、今年度の《中間支援編》を開催。次年度は《総括編》としての開催を予定。

③か年度の動画・冊子を、取組主体に活用してもらおうとして公開。

### ② 共生圏づくり支援：富山県上市町におけるローカルSDGs展開支援

**地域課題を地域資源にするローカルSDGsの共創へ**

- 12月6日に地域循環共生圏フォーラムin富山県上市町2025を昨年度に続き、第3回を開催。
- 「かみいち特取物語」プロジェクトリーダーである高井氏が、積の収穫体験イベントの実施報告、今後の計画などを発表。
- 昨年度から中間支援の立場で、協働コーディネーターのPEGとやま・塚氏が協力。また、本フォーラムでも総合司会、昨年度までの振り返りを実施。
- そのほか、ローカルSDGs実践の先進事例として、能登で放置されていた柚子を活用したクラフトジップリに取り組みNTG代表・松田氏が講演。
- 後半ディスカッションでは、上市におけるローカルSDGsのアイデアやその実現・実践に必要な共創、情報、仕組み、支援は何かを登壇者・参加者で話し合った。

### 参考）富山県上市町におけるローカルSDGs展開支援の背景・経緯

**2024年度「地域循環共生圏フォーラムin上市町」(全2回)を開催**

- 協働コーディネーターの塚氏と高井氏が企画、登壇、ファシリテーターとして協力
- 第1回フォーラムのワークショップで地域課題解決/地域資源活用をローカルSDGsアイデアの提案
- 第2回フォーラムでローカルSDGsアイデアの発表と実践に向けたディスカッション

**フォーラム参加者から提案があった4つのアイデア**

- 放置された柿の活用
- KAMICHIハーブフェイストリート～健康で美しく～
- ヘチマとスタイル＝ヘチマ(ヘチマとスタイル)
- 放置竹林対策(竹の資源化と循環型農業を目指して)

**今年度「放置された柿の活用」の試行実施**

- 10月24日に、塚氏(PEGとやま)が事務局を務めたJICA研修プログラム参加者(3か国6名)や上市町住民(農び入り参加)が参加して、柿の収穫体験イベントを試行的に実施。
- プロジェクト名「かみいち特取物語」として、有志が組むのがめざされる予定。
- プロジェクトに対し、協働コーディネーター・塚氏による中間支援を、同・茶木氏(特産品の開発・販売の経営者)による共創を期待。

### ④ 協働コーディネーター意見交換会

9月3日に、EPO中部・協働コーディネーター9名が集まり、意見交換会を開催。うち1名は、新しく協働コーディネーターに加わった方で、ほかの8名の推薦のあった新コーディネーター(今回の会には参加できず)の紹介が行われた。

会合で、各コーディネーターによる取組の近況報告や、共生圏事業の中間支援を行っている協働コーディネーターが事業での取組紹介も行った。

意見交換では、行政との連携における課題について多くの意見が提示された。

プログラム	時間	内容	協働コーディネーターからの報告など
近況報告・新しい協働コーディネーターの紹介	4分30秒 4分30秒	【全員】活動の近況報告など 【新】協働コーディネーターさんのご紹介 登壇者	
(仮設店舗) 新設施設整備部からの中継提供 共有	15分	地域資源・事業の紹介 ・地域資源活用につなげる中間支援主体への期待 など	
(仮設店舗) 協働コーディネーターと連携するEPOの取組事例	15分	【三浦さん】合創型「地域資源活用事業」による取組事例としての取組報告 【中野さん】地域の企業でのSDGs実践事例による取組の紹介 【塚さん】企業と協働する取組事例による取組の紹介	
(仮設店舗) EPO中部からお知らせ等	10分	EPO中部主催イベントの告知など、地域資源活用支援の取組事例、活動報告等	
休憩	10分		
上記4つのセッションによる意見交換	40分	地域資源活用に関する取組事例、取組方法、取組課題 ・事例共有(中間支援)のあり方 ・協働コーディネーターの役割・役割	など

終了後 10:15 懇話会(登壇者・参加者) 10:45 懇話会(登壇者・参加者)

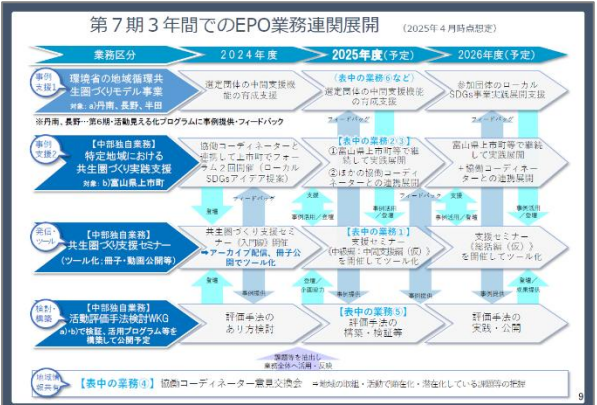
### 参考）2026年9月実施「協働コーディネーター意見交換会」で提示された主な意見等

#### 行政との連携、中間支援のあり方に関する課題に関する意見

- 多くの自治体において、職員は業務過多で、若手職員は現場経験や知識が不足しており、地域課題解決に対するビジョンを持たない状況がうかがえる。また、行政担当者が変わるたびに過去の積み上げがゼロになり、活動がゼロベースに戻ってしまうことが多い。
- 行政同士や、他地域行政機関との連携が不十分であり、施策が進められる際に市民活動団体への相談や横断がなれないこともある。
- 行政側の中から、新しい価値観や活動に対する「感度のよい人」を見極めて進めることも重要となる。
- 行政が中間支援の役割を外担化する際、その価値を適切に評価し、コンサルタントと同等の予算や権限での委託が必要である。地域の取組に関するノウハウは、外部のコンサルタントではなく、地域の中に蓄積されるべきである。

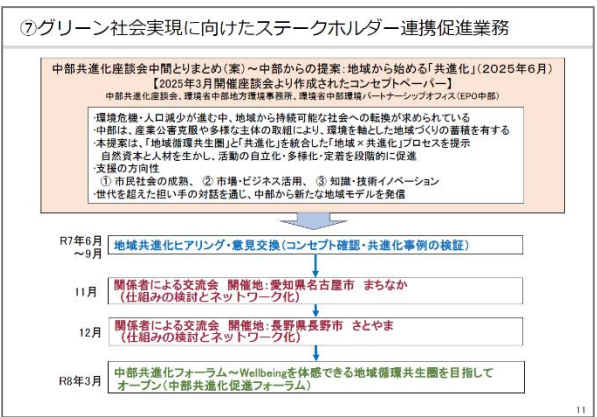
#### 事業者との連携、非経済的価値の評価の必要性に関する意見

- 企業評価では、財務評価だけでなく、SDGsや環境への取組等の非財務情報(非市場価値)でも評価されつつある。単なるCSRでなく、本業維持と資金調達のために地域貢献等に取り組む潮流がみられる。また、地域金融機関は企業の経営状況や関心事項の「情報集積地」であり、企業の非財務情報の格付けも行っている。地域金融機関を通じて、環境に関心を持つ企業を巻き込み、企業と本業レベルで地域活動との連携を構築することが有効となる。
- 地域資源を活用した活動(例、アブラダリ活用等)は、生産やコスト面で安価な外国産などの競合相手に勝つことは難しい。競争に勝つためには、社会的価値(例、トレーサビリティ、ストーリー性)や環境的価値(例、若狭湾の環境改善)といった非経済的な側面を差別化を図ることも重要である。



### その他の中部事務所企画・連携等による連携イベント/会合

区分	エリア	発表時期	参加	テーマ/内容等	連携先/関係者/登壇者等
グリーン社会実現に向けたステークホルダー連携促進業務	富山県上市町	11月18日	8名	志望の事業領域を、協働型に共通基盤を有する地域企業と連携し、志望分野での連携から「企業活動、地域活動」における協働の推進を図る	8名の学識者によるヒアリングを実施
	富山県上市町	11月17日	8名	さまざまな持続可能な地域づくりをテーマにした交流と意見交換	6名の学識者、活動主体が出席して意見交換を実施
自然資本の活用に関する意見交換会等	富山県上市町	11月15日	8名	さとやまでの持続可能な地域づくりをテーマにした交流と意見交換	6名の学識者、活動主体が出席して意見交換を実施
	富山県上市町	11月15日	8名	さとやまでの持続可能な地域づくりをテーマにした交流と意見交換	6名の学識者、活動主体が出席して意見交換を実施
白書を検討会	富山県上市町	10月30日	10名	SDGs認知度向上の中部事務所出張ブースの運営(10日)	ブース内で、パネル14点を作成して展示、生きたクイズワークショップ(ヨシトモ)をつくらう!ヨシトモチャレンジも!
	富山県上市町	10月22日	10名	はくさ大発見!～自山の自然や動物を育ててみて～(子ども向け)の自山づくり体験	子ども向けイベントとして石川県立図書館で開催、自山の観察、クイズ、生きたクイズ、WS!自分だけの自山をつくってみよう!実施



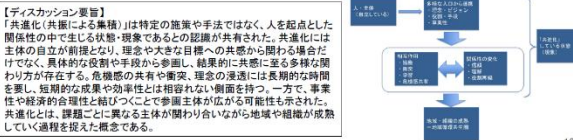
### 地域共進化ヒアリング・意見交換 (2025年6月～9月)

- 福井弘道教授・古澤礼太教授(2025年6月25日)
  - 人口減少や国際情勢の変化により地域力の低下が懸念される中、人づくりと共進化が重要と指摘。自然資本を基盤に、保全と活用の価値を可視化し、社会・自然を横断する「大きな共進化」をエビデンスに基づき推進すべきとした。
- 松田直己部長(2025年6月30日)
  - 共進化は価値観の違いを超えて主体が変化するプロセスであり、葛藤や対話自体が学びの場であると整理。ESDIによる人の変容が社会変化につながり、成果の記録・評価と中間支援人材の存在が持続性の鍵と述べた。
- 杉山龍子教授(2025年8月11日)
  - 共進化は多主体が刺激し合い高め合う過程であり、世界首長協約にその事例を見と指摘。個人から地球規模まで多層的に運動する仕組みと、気候変動対策を基盤とした自治体主導の共進化推進体制の必要性を強調。
- 高野雅夫教授(2025年8月27日)
  - ネットゼロとネチャーポジティブの両立という矛盾を提示し、制度横断的連携の重要性を指摘。関係人への参画、人材継承を支える仕組みと、行政を補完する「第二の役所機能」を持つプラットフォームの必要性を指摘。
- 橋本宏成教授(2025年8月27日)
  - 地域共進化にはワトホレックス型の協働が不可欠で、大学の実践的関与と課題解決型プラットフォームが重要と指摘。成熟した市民社会の形成やカレント教育、市民起業家の育成が前提条件とされた。
- 森下英治教授・林希一郎教授(2025年9月19日)
  - 自治体では環境課題の内在化が不十分とし、自然資本の価値を認識する必要性を指摘。共進化の概念を具体化するには、便益と負担の可視化と、将来世代を見据えた統合的意思決定が重要と指摘。

関係者による交流会 まちなか (2025年11月)

地域から始める「共進化」まちなかローカルSDGs交流会

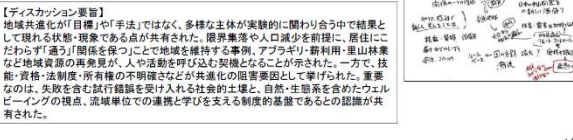
- 日時: 2025年11月27日(木) 13:30~16:30  
場所: 名古屋駅前 ウイングあいら 1109会議室
- オープニング/主旨説明 地域から始める共進化の意義(10分)
  - 話題提供1 まちなかにおける共進化の可能性と広がり(30分)  
名古屋大学大学院経済学研究科 経済学教授 橋本浩成
  - 話題提供2 現場からの声: 暮らし・なりわい・まちづくりの挑戦(5分)  
<話題提供・交流メンバー>  
・株式会社エリマゲネーション 代表取締役 CEO 名 知 恵  
・NPO法人志匠連いのみや 代表 星野博  
・株式会社マルワ 代表取締役 高野 久美  
・株式会社おとうら工務いしかわ 社長兼 石川麻利江 (お友愛・トイ難今津様)  
・株式会社鈴六 代表取締役 鈴木和人
  - ディスカッション「実践者のつながり・共進化でWellbeingな地域をどう育むか」



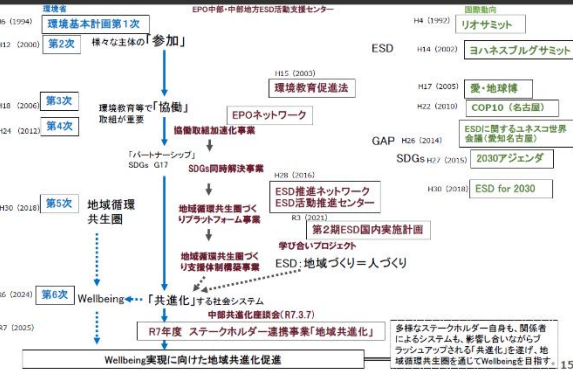
関係者による交流会 さとやま (2025年12月)

地域から始める「共進化」さとやまローカルSDGs交流会

- 日時: 2025年12月15日(月) 13:30~16:30  
場所: 長野市生涯学習センター3階教室
- オープニング/主旨説明 地域から始める共進化の意義(20分)
  - 話題提供1 さとやまにおける共進化の可能性と広がり(30分)  
名古屋大学 附属経済的発展政策研究センター教授 高野博夫
  - 話題提供2 現場からの声: 暮らし・なりわい・まちづくりの挑戦(5分)  
<話題提供・交流メンバー>  
・長野県NPOセンター コーディネーター 吉田善美夫  
・手井地区住民自治協議会 地域活性化推進員 岸 豊  
・NPO法人アオリスエエヌ 代表理事 阿部 大志  
・一般社団法人 自然エネルギー共同推進推進機構(NECO) 連絡員 余徳友康  
・WACおぼま NPO法人WACおぼま理事 NPO法人若狭くらしに水代表理事 中島阿児
  - ディスカッション「実践者のつながり・共進化でWellbeingな地域をどう育むか」



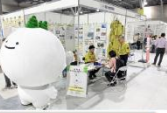
【参考】EPO中部・中部ESDC視点における環境政策に関わる多様なステークホルダー関係の考え方の変遷



⑧身近な自然資本の活用に関する意見交換会等

SDGs愛知expoの出展ブース運営

● 10月3・4日に、愛知県豊清市で実施されたSDGs愛知expoにて、中部地方環境事務所出展ブースの運営(2日間)とヨシトローブ(V)ワークショップを実施。  
● ブース内では、作成したパネル14点や生きものクイズなどを実施したほか、着ぐるみ「いだらぽーじー」(アルバイト学生による)を運営。



はくさん大発見! ~白山の自然や動物を見てさわって~学んで、自分だけの白山づくり体験~を開催

- 2月23日に、石川県金沢市の石川県立図書館で、白山国立公園の認知度・親しみ向上を目指し、子ども向けイベント「はくさん大発見! ~白山の自然や動物を見てさわって~学んで、自分だけの白山づくり体験~」を開催。
- 白山についての解説のほか、クイズ、ハンズオン展示のほか、ペーパークラフト・ワークショップ「自分だけのミニ白山をつくってみよう!」を実施予定。



⑨環境白書を読む会の開催

- 10月22日に、「環境白書を読む会」を名古屋市立大学でハイブリッド開催。会場10人、オンライン10人の計20人が参加。
- 第1回は令和7年度版白書の概説を行う一般公開オンラインセミナーとして開催し、第2回はリアル開催方式で、中部における施策を中部地方環境事務所職員が概説し、会場参加者との質疑応答を行った。



2025年度中部地方ESD活動支援センター主催イベント/会合 一覧

区分	エリア	施設	時期	参加人数	テーマ/内容等	連携先・関係者・登壇者等
学生向け	愛知	豊清市	10/18	25名	R6年度版SDGsへの貢献のワークショップ (ローカルSDGsへの貢献の観点での学び合いの場づくり)	中部ESDC事務局、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、リオサミット
	岐阜	岐阜市	10/29	17名	R6年度版SDGsへの貢献のワークショップ (ローカルSDGsへの貢献の観点での学び合いの場づくり)	坂井市環境課、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
実業関係者	岐阜	岐阜市	11/25	56名	学び合いの場づくり(2)と緑の経済成長を推進するSDGs実践者による学び合いの場づくり	自治体関係、環境課、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、山形市環境課、山形市環境課、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
	名古屋	名古屋	12/2	62名	R6年度の振り返りと今後の展望	名古屋大学、水と土壌学委員、林 真央 氏
有識者検討会	山梨	山梨市	1/20	6名	学び合いの場づくり(3)と緑の経済成長を推進するSDGs実践者による学び合いの場づくり	古澤礼大氏、水と土壌学委員、林 真央 氏
	名古屋	名古屋	1/24	36名	認知度の向上と、親子と動物の学び合い	
ESD/SDGs推進NW地域フォーラム	名古屋	パレット	10/19	33名	第7期推進テーマ「社会と学校のESDネットワーク」2025年度版ESD(環境教育)推進計画の発表・検討会 探求学習と地域の連携に関する基盤提供とディスカッション	基盤提供(愛知) 名古屋大学 林 真央 氏、環境課、環境課、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、探求学習と地域の連携に関する基盤提供とディスカッション、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
	岐阜	岐阜市	11/17	26名	第7期推進テーマ「山と水と人間と」2025年度版ESD(環境教育)推進計画の発表・検討会 探求学習と地域の連携に関する基盤提供とディスカッション	尾道市役所、福井市役所、尾道高等学校、知多自然公園事務所、大府市役所、岐阜市役所、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、富田市自然環境課、岐阜県、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
自然資産を活かしたESDダイアログ	岐阜	岐阜市	10/17	18名	第7期推進テーマ「山と水と人間と」2025年度版ESD(環境教育)推進計画の発表・検討会 探求学習と地域の連携に関する基盤提供とディスカッション	尾道市役所、福井市役所、尾道高等学校、知多自然公園事務所、大府市役所、岐阜市役所、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、富田市自然環境課、岐阜県、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
	岐阜	岐阜市	10/18	19名	第7期推進テーマ「山と水と人間と」2025年度版ESD(環境教育)推進計画の発表・検討会 探求学習と地域の連携に関する基盤提供とディスカッション	尾道市役所、福井市役所、尾道高等学校、知多自然公園事務所、大府市役所、岐阜市役所、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、富田市自然環境課、岐阜県、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター
SDGs学生サミット	岐阜	岐阜市	10/17	27名	ユースに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の提供 ・学生、生徒の取組発表、社会人の基盤提供 ・交流ディスカッション	ESD活動交流を通じたESDの場の提供、尾道市役所、福井市役所、尾道高等学校、知多自然公園事務所、大府市役所、岐阜市役所、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター、富田市自然環境課、岐阜県、EPO(エポ) 中部地方ESD活動支援センター

中部地方ESD推進ネットワーク地域フォーラム(9/29)

ESD: 探究学習と地域連携  
開催日時 令和7年9月29日(月) 13:00~16:30  
開催方法 対面及びオンライン(ハイブリッド)  
開催場所 ウイングあいら 907会議室 zoom20名参加、会場13名参加

【プログラム】  
・挨拶・趣意説明(5分) 橋野正衛氏 環境省中部地方環境事務所環境対策課課長補佐  
第1部 <オープニング>  
・基調講演(40分) ESDとしての探究学習の可能性と課題  
松村智史氏 名古屋大学准教授  
・話題提供(15分×3題)  
高校の探究学習事例①……牛田芳代氏 名古屋大学立桜高等学校キャリアナビゲーター  
高校の探究学習事例②……足立 宏氏 岐阜県立聖光高等学校教員  
探究学習の地域連携事例……田辺友也氏 NPO法人まちづくりスポートとよ代表理事  
……佐 勉  
第2部 <オープニング>  
・地域ESD拠点参加者による活動紹介(20分)  
・交流ディスカッション(40分)  
(コーディネーター)  
古澤礼大氏 中部大学国際ESD-SDGsセンター長・教授、中部ESD拠点事務局長  
・総 括(10分)  
加藤隆弘氏 金沢大学人間社会科学研究科学校教育学准教授  
第3部 <クロージング> 地域ESD拠点のみ  
・ふりかえり交流-ESD推進ネットワーク登録者、地域ESD拠点団体による意見交換(40分)  
(コーディネーター)  
古澤礼大氏 中部大学国際ESD-SDGsセンター長・教授、中部ESD拠点事務局長

自然資産を活かしたESDダイアログ2025 (10/17、18)

第7期(令和6年度~8年度)共通テーマ: 山と水と人間と 主催: 中部地方ESD活動支援センター  
ESDダイアログ2025 山と水と人間と ~南紀からのESD発信~ <吉野熊野国立公園指定30周年を機会に>  
【主催】中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)  
【協賛】岐阜県 尾道市教育委員会 三重県立熊野古澤センター  
【開催期】2025年10月17日(金)~18日(土)

【1日目】ESDダイアログ(オンライン参加) 参加56名  
【2日目】ESDダイアログ(オンライン参加) 参加18名

開催地: 尾道市 尾道市環境課 尾道市環境課環境対策課  
主催者: 尾道市 尾道市環境課 尾道市環境課環境対策課  
第1部 自然資産とESD  
インプット①「南紀からESD発信」～自然の宝と活用～  
橋本 尚氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園管理官  
インプット②「尾道市の自然資産とESD」～尾道市役所～  
尾道市役所 尾道市環境課 尾道市環境課  
基調講演「自然資産を学びに活かすESDと地域づくり」  
水谷 瑞希氏 尾道市教育委員会教育総務課長  
第2部 ESDの活用～中部地方のネットワークを通じて  
①尾道市OESD取組  
尾道市立輪内中学校「ふるさとキャリア学習」  
三重県立尾道高等学校「ITと地域課題(産業界)を連携させた解決方法」  
②地域ESD取組  
大府 かつひ氏 NPO法人大府自然学校校長  
大府市役所 尾道市自然環境課の部とよの自然パートナーズ/所長  
第3部 パネルディスカッション  
尾道 礼大氏 吉野熊野国立公園管理事務所国立公園管理官  
大府 かつひ氏 NPO法人大府自然学校校長  
大府市役所 尾道市自然環境課の部とよの自然パートナーズ/所長  
常本 秀夫氏 三重県立熊野古澤センター長  
尾道 友次氏 尾道市教育委員会教育総務課長  
尾道 有明氏 尾道市環境課長  
尾道 一多氏 尾道市商工観光課長  
コーディネーター 水谷 瑞希氏 尾道市教育委員会副課長

### SDGs学生サミット (2/7開催予定)

●発表: 2025年2月7日(土) 13:00~17:30  
 ●コア参加  
 ・SDGs関連活動に取り組む大学生、高校生、高大連携、世代間連携など  
 ・企業、NPO等のSDGs活動  
 ●一般対象: ユース(大学生、高校生など)、一般市民  
 ●開催方法: オンライン (ハブ: 中部大学デジタルアースルーム)

●プログラム

【第1部】 取組発表「ユースと地域が連携するローカルSDGs」～学習活動・取組紹介や質疑  
 中部地方に存在する大学等の学生・卒業生等ユースグループ(個人)  
 ・高校生: SDGsに関わる地域の課題に対する探究学習活動などの発表 2~3件  
 ・未知見立堂知理実高等専門学校、中部大学中部大学第一高等学校、岐阜立聖大高等学校  
 ・大学生の部: SDGsに関わる地域課題解決の取組の発表 3件  
 岐阜大学環境サークルG-amet、中部大学SDエマナーチーム、金沢星稜大学新ゼミ

【第2部】 経緯提供: 地域の取組～地域社会におけるSDGsの取組について～  
 中部地方のSDGsの取組をしている団体等のプロジェクト報告 3件  
 ・株式会社フューチャー・コミュニケーションズ 代表取締役、白粉地域山形活性化協議会副会  
 長シノブジツクリーダ 峯本様 福富産品プロジェクト(富山県上市町)  
 ・(株)O-NEXT 代表取締役社長、GURUWA7町・広域連合会 次世代の会 副代表 柏木友友  
 GURUWAのまちづくりプロジェクト(豊橋市岡崎町)  
 ・NPO法人おきま学 理事、NPO法人エクス・Gに共倉 代表理事中島阿見  
 アブラギリ再活用プロジェクト(福井県小浜市)  
 <参考インパクト>上記の活動に関するローカルSDGs可視化(案)(15分)

【第3部】 ディスカッション: ローカルSDGsのために、連携して協働取組を進めよう!  
 大学生・団体グループ×2、高校生・大学生グループ×1、計3グループを想定  
 ファシリテーター: EPO中部・中部地方ESD活動支援センター、及び(運営委員等) (予定)  
 司 導: 個人 一般社団法人環境情報学研究所 EPOと(やま)事務局長  
 田辺友也 認定NPO法人まちづくりイノベーション事務局  
 水上聡子 アルマス・バイオエコシステム研究所代表  
 原 陽矢 中部地方ESD活動支援センター

主催: 中部地方ESD活動支援センター  
 協力: 中部大学中部高等専門学校、国際GISセン  
 ター 問題解決体を対象とするデジタルア  
 ス共創利用・共同研究拠点

### 地域循環共生圏づくりの支援 (環境省事業の選定団体への支援等)

### 本年度業務における 主な支援主体や連携先について

#### 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業 (以下、共生圏事業)の選定団体への支援

「中間支援」を重視

共生圏事業に選定されている団体(3地域6団体)

※①: 中間支援主体、②: 活動団体

- ・PF丹南: ①ローカルSDクリエーション、②エコ・グリーンツーリズム水の里しらやま
- ・PF長野: ①長野県NPOセンター、②茅井地区住民自治協議会
- ・PF半田: ①半田市、②半田市地域循環共生圏推進協議会

【団体への支援に加えて】  
 11月に中間共有会(組織状況の中間報告)をEPO主催で愛知県半田市で開催

昨年度・今年度(2か年度間で)団体が取り組むこと  
 ローカルSDGs事業(地域課題解決・地域資源活用)やそれに取り組むプラットフォームの構築、地域の未来像の共有など

EPOは  
伴走支援

次年度・3年度目に団体が目指すこと  
 ローカルSDGs事業の事業化・事業展開、その創発が可能となるプラットフォーム発足、中間支援の展開など

### 地域循環共生圏事業選定団体への支援：中間共有会

- 11月13-14日に、地域循環共生圏事業の中部ブロック中間共有会を愛知県半田市で開催。3地域6団体等26名が出席。
- 3地域6団体による取組報告のほか、「(なりたい地域の未来像ではなく)なりたい地域の未来予想図とその回避言を考える」、「私たちの活動、或いは地域循環共生圏事業が地域にもたらすものは?」をテーマにディスカッションを実施。
- 2日目は視察エクスカーションとして、半田市地域循環共生圏推進協議会の関係施設等を見学。

### 相談対応(インターン協力依頼への対応)と共生圏事業との連携

#### 高校生インターンが 共生圏事業の半田の取組を取材

- 2023年度から私立高校のインターンシップ・プログラムに協力。今年度も高校1年生3人のインターン生を受け入れ。
- 学生たちは、共生圏事業の採択団体・半田市地域循環共生圏推進協議会とその関連施設を取材し、紹介記事を作成。
- 堅い表現に足りないがちな協議会の取組に対し、高校生目線での表現による作成記事を半田側へも提供。
- インターン生成成の取材記事は、ウェブサイトで公開中である。  
<https://www.epo-chubu.jp/epo-news/31988.html>

地域循環共生圏について学んで  
 ビオぐるファクトリーで学ぶ地域循環共生圏  
 知多半田市を取材して

### 独自プログラムの作成・活用① 2025年度学び合いプロジェクト 気候変動社会教育・社会への実装「学び合いの場の作り方」

### 2025年度学び合いプロジェクト ワークブック活用展開・冊子と動画のブラッシュアップ

・有識者検討会3回  
 ・学び合いの場2回  
 ・実践活動1回  
 ・冊子と動画の完成版の公開

← 全国センターの気候変動ESD推進課 協賛共有、方策検討作業部会への参加  
 → 全国フォーラム報告

学び合いプロジェクト有識者検討会  
 古澤礼太 中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授、中部ESD拠点協議会事務局長  
 水上聡子 EPO中部運営委員、アルマス・バイオエコシステム研究所代表  
 橋 秀人 EPO中部運営委員、一般社団法人環境情報学研究所プラットフォームとやま(PECとやま)事務局長  
 原 陽矢 中部地方ESD活動支援センター、中部大学国際ESD・SDGsセンター研究員  
 【オブザーバー】環境省 中部地方環境事務務所環境対策課  
 【事務局】清水三郎 EPO中部統括

### 2025年度学び合いプロジェクト ワークショップ・SDGsの学びの場をつくる!

目的: ローカルSDGsへの貢献観点での「学び合いの場づくり」の企画を学ぶ。  
 企画運営者のESDスキルアップを図ります。地球温暖化防止活動などの普及や出前授業などで、気候変動教育としての機会を充実させるため、様々なESDとしての学び合いの場の企画運営スキルの向上を目指すワークショップを実施します。

学び合いの場①  
 対象: eco-T(エクト) 豊田市環境学習施設職員、新インターンスタッフ  
 期日: 2025年7月18日 13:00~15:30  
 会場: 豊田環境学習施設  
 主催: 中部地方ESD活動支援センター  
 協力: 豊田市環境対策課

学び合いの場②  
 対象: 地域市長(ゼロカーボン50シリーズ)内  
 期日: 2025年7月24日、19時~21時  
 会場: 福井県庁  
 主催: 福井県庁  
 協力: 中部地方ESD活動支援センター  
 協力: アルマス・バイオエコシステム研究所

実践セミナー(実務活動)  
 対象: 富山県教育委員会社会教育主事等  
 期日: 2025年11月25日PM. 26日AM  
 会場: 富山県  
 主催: 中部地方ESD活動支援センター  
 協力: 富山県教育委員会、富山県環境調整課、PECとやま

ワークショップのミッション  
 気候変動教育などESD学び合いの場の企画書を作る

プログラム案  
 100 【アイスブレイク】自己紹介とリーダー挨拶  
 110 【インタビュー】ESDとしての学び合いの場づくりについて  
 120 【ディスカッション】SDGs学びも推進したチームの決定  
 130 【ディスカッション】学び合いの場の形を決定  
 140 <休憩>  
 150 【ワーク】学び合いの場の企画づくり  
 160 【ワーク】企画内のSDGsチェック  
 170 【ワーク】企画のアクションプラン  
 180 【プレゼン】実践した内容を発表

私の用紙に記入したり付箋を貼ったりしてESDの場の企画書を作成します。  
 ・企画で20分程度の時間を想定しています。  
 ・4~5人のグループづくついで行うことを想定しています。  
 ・中部地方ESD活動支援センターが作成したESD学び合いの場づくりワークブックの後半部分を使います。

教材「ESD学び合いの場づくりワークブック」



ローカルSDGs活動に関する評価チェックリストの試行 (H7年度)

JICA研修への海外参加者に依頼して環境関係の取組について記入した事例

EPO中部に依頼のあった講演1時間の中で「地域循環共生圏と中間支援」について説明した後に参加者6人にチェックリスト記入を依頼。3人より記入結果を安簿。

JICA北陸 2025年度課題別研修  
「持続可能な自然資源管理による生物多様性保全と地域振興-SATOYAMA イニシアティブの推進」  
2025年10月24日  
演題: 地域循環共生圏づくりへの中間支援組織の役割  
講師: 環境省中部環境ハートナッシュオフィス (EPO中部) 原 理史



Mr.Sonu (Community Based Forest Parks) の記入事例:フジ

Comments:  
This form is really good in reflecting certain projects and programs. It provides a lot of information in summarised form that is very good for understanding the project objectives and other related pros and cons. Excellent technique. Will try to organise similar forms back home for reflection and understanding.

コメント  
この様式は、各プロジェクトやプログラムを要領よく整理し、目的・成果・課題を理解するうえで非常に有効である。同様の様式を自国でも導入し、振り返りと学びに活用したい。

37

その他

38

7. 相談問合せ件数と対応状況

	A 照会・相談対応				I 対話の体制の構築			アライ
	相談に対し(伝達協力)外の支援対応を行った事例数 <sup>※1</sup>	照会・相談対応の延べ件数	来館件数	相談・照会、資料配架依頼等	メール・電話による相談、問合せ等延べ件数 <sup>※2</sup>	金曜・セミナー等地域活動への招待	その他協働主体との意見交換等	照会・相談対応の延べ件数 + 対話の体制の構築件数
2025年度 4月～12月	36	177	66	38	111	14	100	291
2024年度 4月～3月	45	225	3	45	26	153	20	136
合計								

※1) 事例件数: 最初の連絡から対応終了までの(その間の連絡・打合せ等を含めた)案件ごとをカウントした数となっている。  
※2) 延べ件数: 同じ案件・用途での来館、メール・電話等であっても、個別に回数をおこなった数となっている。

【2025年度の支援対応を行った相談についての分類】

月	相談件数	相談方法						相談主体の分類										EPOによる支援内容分類					
		電話	メール	来所	その他	学校・大学関係	企業	自治体	事業者	事業者主体	業界団体	その他	その他	EPOの職員	外部機関	民間企業	市民団体	その他	その他				
2025年度 4～12月	36	10	13	6	7	3	7	3	11	4	5	2	1	12	3	3	1	9	3	3	2		
合計																							

39

8. 収集した情報の発信 (ウェブサイトのアクセス数とメルマガ配信)

EPO中部ウェブサイト<sup>①</sup>のアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2025年度	2,611	1,983	3,070	2,427	1,928	2,850	2,604	4,574	2,400	24,447
2024年度	2,504	2,155	2,474	2,359	2,120	2,115	1,896	2,013	2,416	23,171
2023年度	2,440	2,374	2,942	2,324	1,800	1,752	2,029	2,474	2,745	20,888
2022年度	2,133	2,197	1,963	2,125	2,367	1,863	2,413	2,873	2,852	20,846
2021年度	3,310	2,965	3,574	2,579	2,203	1,923	4,015	2,791	2,271	25,631

中部地方ESD活動支援センターウェブサイト<sup>②</sup>のアクセス数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
2025年度	642	523	800	501	943	769	1,060	861	1,078	7,177
2024年度	628	614	703	824	708	654	579	849	668	6,227
2023年度	938	997	890	1,184	1,326	1,149	902	997	606	8,989
2022年度	1,057	1,030	1,026	1,025	1,331	963	775	949	761	8,917
2021年度	1,115	1,368	1,324	1,272	811	872	1,463	1,240	1,302	10,767

メルマガ<sup>③</sup>の配信記事数

★読者登録数: 728 (2024.12月号配信時点)

年間配信記事数・計	冒頭部EPO関係記事(等)	イベント関連	ツール・コンテンツ	助成金・表彰等	その他
2024年4月号～12月号で配信メルマガ(毎月第2火曜日発行)	327	19	147	33	105

40

外部資金を活用した事業

環境を軸とした地域課題解決に向けた戦略検討等に係る業務/全国ユース環境活動発表大会の支援

- ※ (独)環境保全機構との連携業務 <https://www.erca.go.jp/>
- 環境を軸とした地域課題解決に向けた戦略検討等に係る業務にアライアングとして、11月11日に石川県珠洲市でNPO・自治体等を対象にしたグループヒアリングを実施し、ヒアリング結果報告書を環境保全機構へ提出。
- 11月29日に開催された環境保全機構主催の全国ユース環境活動発表大会に出席。また、大会審査委員のEPO推薦者として環境カウンセラー・浅野氏を推薦。



41

愛知県環境学習コーディネート業務

- ※ 愛知県からの受託業務 <https://www.prof.aichi.jp/soeshiki/kankyokatsudo/000006443.html>
- 環境学習に関する学校等からの相談・照会依頼に対し、相談業務5件、コーディネート業務10件を実施。

主催イベント/会合等についての関係者へ成果聴き取り

※計6件の聴き取り等を実施予定のうち、下記2件を実施。

行事	対象	内容・結果
2025年10月24日開催・JICA研修: EPOスタッフが地域循環共生圏を概説、翌日開催・かみいち緑取物種(種の収獲体験イベントの試行) ⇒ 12月6日開催・地域循環共生圏フォーラムin富山県上市町2025関連イベント	JICA研修生6名(出身国: ガボン2名、ソロモン群島2名、フジ2名)	<ul style="list-style-type: none"> <li>フォーラムを利用して問題を共有し、問題解決の方法を議論する。廃棄された果物やその他の植物(根、種、繊維、竹、杉、ヒノキなど)を利用して他の製品を生産するプロセスを参考にする。</li> <li>環境省をはじめとする様々なステークホルダーの強力な連携に驚きと感銘を受けました。環境省は、天然資源の持続可能な利用を通じて地域社会への影響の源泉の削減を図っている。こうした個人的かつ協働的な取組は称賛に値します。地域循環共生圏という概念に非常に興味を持っています。</li> <li>特に環境省(EPO中部)のプレゼンテーションを受けて、地域社会における環境教育に関連したSDGsの実践方法を研究する意欲が湧きました。この研究を通して、ガボンにおける国連の持続可能な開発協力枠組みにつなげられるものと考えられます。環境省が地域社会の利益のために他のパートナーと協力するためのアイデアは新たな発見になりました。</li> </ul>
2025年度学び合いプロジェクト 地域づくりのためのSDGs・気候変動社会教育、2025年6月29日開催・学び合いの場②	eco-Tiエコティ 豊田市環境学習施設のインタープリター(※参加者の一人)	<ul style="list-style-type: none"> <li>(※学び合いの場②の研修内容を受けて、自主的に気候変動の学びイベントを実施した参加者のインタープリターから、その実施報告のメールをいただいた。その内容を一部抜粋し、EPOが整理した内容を以下に掲載)</li> <li>10/12日無事自主イベントが催されました。1回30分20人定員で3回、事前予約制で行いました。60人を目標していましたが、当日飛び込み参加もあって結局73名参加していただきました。私はコーヒーと気候変動フリップ8枚で説明し、協力事業者(会場提供などでも協力)の海外のコーヒー農場の写真を見せてもらって、通常では得られないような支援・協力いただき、大変良い経験を行うことができました。</li> <li>自主的に企画運営するイベントを行うことで、インタープリターの方もつくと思えました。本当に応援いただき、ありがとうございました。これからも頑張っていきたいと思えます。</li> </ul>

42

## (4) 環境白書を読む会の企画・運営支援

### ① イベント名

- 令和7年版 環境白書を読む会「持続可能な地域を考える～環境白書を手がかりに～」

### ② 日時

- 2025年10月22日（水）16:20～17:10

### ③ 開催方法・会場

- 開催方法：ハイブリッド
  - オンライン：YouTube
  - 会場：名古屋市立大学 滝子キャンパス（愛知県名古屋市）

### ④ 主催

- 主催：環境省中部地方環境事務所

### ⑤ 参加者

- 20名（会場参加10名、YouTube ライブ配信視聴10名）

### ⑥ プログラム

#### 第1部 環境白書を読む

- 挨拶 名古屋市立大学 理事・副学長 伊藤 恭彦
- 環境白書について 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 循環型社会白書について 環境省 環境再生・資源循環局 循環型社会推進室
- 生物多様性白書について 環境省 自然環境局自然環境計画課
- 質疑応答

#### 第2部 環境省の地方環境行政

- 自然資本が持つ価値について考える
- 地方環境事務所はどんなことをしているのか
- 質疑：自然資本の蓄積のために行政ができること



参加無料

令和7年版

# 環境白書を 読む会



令和7年版環境白書ダウンロード  
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>

## 持続可能な地域を考える

～環境白書を手がかりに～

日時

10月22日 水 16:20-17:10

オンライン開催（zoom または YouTube 視聴）

プログラム

- 挨拶 ..... 名古屋市立大学 理事・副学長 伊藤恭彦氏
- 環境白書について ..... 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 循環型社会白書について ..... 環境省 環境再生・資源循環局 循環型社会推進室
- 生物多様性白書について ..... 環境省 自然環境局自然環境計画課
- 質疑応答

参加申込方法

\* zoom 参加はこちら ▶



zoom の参加登録フォームへ  
<https://us02web.zoom.us/join/9VBOGzLjRPK5c55SE7KG2Q>  
登録すると @zoom.us または @epo-chubu.jp アドレスから招待メールが届きます。

\* YouTube 視聴はこちら ▶



YouTube の視聴登録フォームへ  
<https://forms.gle/u3JyoraKglTm1U9s6>  
申込をすると、YouTube 視聴のためのご案内 PDF が表示されます。

主催：環境省中部地方環境事務所

⑧開催案内チラシ（学生向け）

令和7年版

# 環境白書を 読む会



令和7年版環境白書ダウンロード  
<https://www.env.go.jp/policy/hakusyo/>

環境省地方事務所と

## 持続可能な地域を考える

～環境白書を手がかりに～

日時

10月22日（水） 16:20–18:00

会場

名古屋市立大学 滝子キャンパス1号館 309教室

プログラム

### 第1部 環境白書を読む

- 挨拶 ..... 名古屋市立大学 理事・副学長 伊藤恭彦氏
- 環境白書について ..... 環境省 大臣官房総合政策課 環境計画室
- 循環型社会白書について ..... 環境省 環境再生・資源循環局 循環型社会推進室
- 生物多様性白書について ..... 環境省 自然環境局 自然環境計画課
- 質疑応答

### 第2部 環境省の地方環境行政

- 自然資本が持つ価値について考える
- 地方環境事務所はどんなことをしているのか
- 少しだけ質疑：自然資本の蓄積のために行政ができること

主催：環境省中部地方環境事務所

## (5) 全国ユース環境活動発表大会への参加

### ① 中部大会への参加、審査委員の推薦

- 全国ユース環境活動発表大会実行委員会（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所）が主催する「全国ユース環境活動発表大会」の中部大会（11月29日開催）に参加し、出場校や関係者との情報収集・情報交換を行った。
- 中部大会の審査委員として環境カウンセラーである浅野智恵美氏を EPO 中部から推薦した。

### ② 参加団体の情報発信

- 全国ユース環境活動発表大会の出場校の募集について、EPO 中部ウェブサイトで広報協力を行った。また、中部大会、全国大会の結果を EPO 中部ウェブサイトで紹介した。

掲載 URL : <https://www.epo-chubu.jp/epo-news/34453.html>

**第11回 全国ユース環境活動発表大会《全国大会・地方大会》について**  
2026.02.10

**第11回 全国ユース環境活動発表大会～全国大会～**

全国から計131件の応募があり、2025年11月から12月に全国6地方で開催した地方大会において選抜された計16団体が、「全国ユース環境活動発表大会（全国大会）」において、日頃から熱心に取り組んでいる環境活動やSDGs活動の発表を行いました。中部地方から出場した愛知県立新城市教員養成高等学校作手校舎は（SDGs活動特別賞）を、愛知県立安城農林高等学校は（優秀賞）を受賞しました。

（参考）環境省（報道発表）は [こちら](#) に  
全国ユース環境ネットワーク（全国大会結果）は [こちら](#) に

**<大会概要>**

- ◆ 日程 2026年2月1日（日）
- ◆ 会場 国連大学・タント国際会議場（東京都渋谷区神宮前5-53-70）
- ◆ 主催 全国ユース環境活動発表大会実行委員会  
（環境省／独立行政法人環境再生保全機構／国連大学サステナビリティ高等研究所）
- ◆ 後援 読売新聞社
- ◆ 協力 地方環境パートナーシップオフィス（EPO）、地球環境パートナーシッププラザ（GEPC）、ESD活動支援センター
- ◆ 協賛 キンホールディングス株式会社、協栄産業株式会社、SGホールディングス株式会社、東芝システム株式会社
- ◆ 結果

○環境大甲賞  
青森県立名久井農林高等学校

○環境再生保全機構理事長賞  
宮城県農業高等学校

○国連大学サステナビリティ高等研究所所長賞  
東京大学附属牛久喜高等学校

○読売新聞社賞  
熊本県立八代農業高等学校泉分校

○高校生が選ぶ特別賞  
三川学園高等部

○先生が選ぶ特別賞  
立命館祥英高等学校

○国際企業特別賞  
奈良県立五條高等学校

○SDGs活動特別賞  
愛知県立新城市教員養成高等学校作手校舎

○優秀賞  
北海道真狩高等学校、愛知県立安城農林高等学校、京都府立桂高等学校、広島県立笠原高等学校、岡山県立高梁城南高等学校、愛媛県立大洲農業高等学校、愛媛県立宇和島高等学校、鹿児島県立高松高等学校

**第11回 全国ユース環境活動発表大会～中部地方大会～**

全国ユース環境活動発表大会（中部地方大会）に応募した11チームが出場し、活動発表を行いました。愛知県立安城農林高等学校と愛知県立新城市教員養成高等学校作手校舎の2チームが全国大会への出場を決めました。

（参考）全国ユース環境ネットワーク（中部地方大会結果）は [こちら](#) に

**<大会概要>**

- ◆ 日程 2025年11月29日（土）
- ◆ 会場 アーバンネット名古屋ネクスタカンファレンス（名古屋市）
- ◆ 結果

○地方大会優秀賞  
愛知県立安城農林高等学校 土壌研究研習班  
【発表タイトル】トマト副産物を活用したBSFによる資源循環型食料生産プロジェクト

○高校生が選ぶ特別賞  
愛知県立新城市教員養成高等学校作手校舎 作手校舎農業クラブ生物保全プロジェクト班  
【発表タイトル】生物補充計画—身近な生物を知る・守る・繋ぐ—

○審査員特別賞  
長野県豊後農業高等学校 JRC部  
【発表タイトル】設置竹林整備と竹の利活用

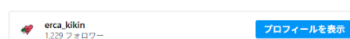
○先生が選ぶ特別賞  
岐阜県立加茂農林高等学校 森林科学科 やまもみじるやまざくら  
【発表タイトル】こゝなら できるぞ コナラの株立ち状苗木づくり

○国際企業特別賞  
愛知県立佐屋高等学校 園芸科学科2年生ベジタブルユース  
【発表タイトル】ストップ フードロス 規格外農産物の有効利用

○非営利団体特別賞  
福井県立大野高等学校 JRC「穂」  
【発表タイトル】"Mottainai"をシェアして未来へつなぐ～千年先へ！穂井の栽培と「すこしこーん」～

○地域貢献活動賞  
福井県立福井商業高等学校 JRC部 海るる  
【発表タイトル】みなさんは未来に何を残したいですか

○優秀賞  
高山県立上市高等学校 グリーン部  
【発表タイトル】上市川の豊かを守る活動～特定外来生物の駆除と絶滅危惧種の保護の取り組み～  
愛知県立佐屋高等学校 科学部  
【発表タイトル】本音川の流れる地域を深く～生き物たちとつくる私たちの未来～  
愛知県立吉田高等学校 福祉ボランティア部  
【発表タイトル】本音川のカワラサイコの生育地域外での栽培に挑戦！～カワラサイコの栽培を譲ろう！～  
福井県立坂井高等学校 農業科学科農業ユース草花班サステイナブルチーム  
【発表タイトル】絶滅危惧種の保全から見た未来～アゼトグリとエチゼンゲンシツソウの保全による持続可能な農業の実現～



Instagramでもっと見る

♡💬📌  
「いいね！」14件

erca\_kikin

■全国ユース環境活動発表大会【第2弾報告：中部地方大会開催報告】

全国ユース環境活動発表大会 中部地方大会が、11月29日（土）に開催されました。全国大会へ進む2校、地方大会最優秀賞と、高校生が選ぶ特別賞の受賞校を紹介します！

🌟 地方大会最優秀賞  
愛知県立安城農林高等学校 土壌研究研習班  
【発表タイトル】トマト副産物を活用したBSFによる資源循環型食料生産プロジェクト

🌟 高校生が選ぶ特別賞  
愛知県立新城市教員養成高等学校作手校舎 農業クラブ生物保全プロジェクト班  
【発表タイトル】生物補充計画—身近な生物を知る・守る・繋ぐ—

## 9 外部資金を活用した事業

### (1) 環境再生保全機構への協力

- 年間予算：711,819円

#### ア 地球環境基金 EPO 連絡会への出席

- 5月20日に実施された地球環境基金とEPO顔合わせミーティングに出席し、今年度の協力業務について、ERCA側の中部担当者と協議を行った。
- 7月29日にERCA主催研修会に出席した。

区分	開催日	開催方法	場所	実施内容等
ERCA 研修会	7月29日	ハイブリッド	地球環境保全機構 (神奈川県川崎市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>▪ 戦略検討業務の目的及び方向性の再確認(GEOC)</li> <li>▪ 連携業務の全体設計(ERCA)</li> <li>▪ 情報共有(各8地方から対象地域やテーマなど業務進捗を共有)</li> <li>▪ 地域ごとの計画すり合わせ(グループワーク)</li> <li>▪ 地球環境基金に関する情報共有</li> <li>▪ 自然共生部からの業務説明</li> <li>▪ 熱中症対策部からの業務説明</li> <li>▪ ERCA、EPOからの全体アナウンス</li> </ul>

#### イ 環境を軸とした地域課題解決に向けた戦略検討等に係る検討業務

##### (ア) ヒアリングの実施

###### ①日時

- 2025年11月11日(火) 9:30~12:00

###### ②会場

- 金沢大学 里山マイスター能登学舎(石川県珠洲市) /一部オンライン

###### ③出席者

- 8名

多田 進郎	NPO 法人能登半島おらっちゃん里山里海 理事長
鴨谷 欣治	NPO 法人能登半島おらっちゃん里山里海 専務理事兼事務局長
大坪 清子	NPO 法人能登半島おらっちゃん里山里海 事務
山口 茂樹	珠洲市 企画財政課長
宇都宮 大輔	珠洲市 自然共生室 自然共生研究員
入田 明大	能登建設株式会社 代表取締役社長
池端 克哉	興能信用金庫 能登復興支援部
中村 華子	金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授

- 独立行政法人環境再生機構 地球環境基金部 地球環境基金課 大島 P2M チームリーダー、小宮山主査
- EPO 中部 清本、原、富田

#### ④ヒアリング項目（環境保全活動に関する動向調査）

- 環境保全や自然との共生の状況、地域資源の地域内での循環の状況
- 脱炭素地域づくりやネイチャーポジティブ、循環経済等の政策課題への対応状況
- ステークホルダー間の協働状況、環境 NPO や環境 NPO の支援者の活動状況
- その他、地域における担い手の育成など、地域課題解決に向けた取組の状況
- 上記の項目の進展又は停滞に起因する要点など
- その他（能登地域の里山・里海における地域循環共生圏づくりの可能性）



#### （イ）ヒアリング結果とりまとめ報告書の作成・提出

- ヒアリング結果をとりまとめた報告書（全 16 頁）を作成し、環境再生機構に提出した。

#### 【作成した報告書（一部頁を抜粋）】

<p>2025 年度・中部 環境を軸とした 地域課題解決に向けた 戦略検討等に係る業務 報告書</p> <p>2026 年 2 月</p> <p>中部環境パートナーシップオフィス (運営受託：一般社団法人環境創造研究センター)</p>	<p>2025 年度・中部 環境を軸とした地域課題解決に向けた 戦略検討等に係る業務 報告書</p> <p>目 次</p> <p>1 業務の目的と背景 ..... 1  (1) 業務・調査の概要 ..... 1  (2) 調査対象の概要と選定理由 ..... 3</p> <p>2 調査結果の整理 ..... 6  (1) 【前提として】震災前までの団体の取組に対する評価 ..... 6  (2) ヒアリング結果から抽出された課題 ..... 6  (3) NPO 法人おらっちゃん活動による地域への貢献性 ..... 10</p> <p>3 地域課題解決に向けた戦略検討等 ..... 11  (1) 環境 NPO による取組に対する意向・期待 ..... 11  (2) 環境を軸とした地域課題解決のための方向性 ..... 12  (3) 今後の支援のあり方についての提案 ..... 13</p> <p>4 今後に向けて（次年度以降の本業務への提案） ..... 16</p>
---	---

# 1 業務の目的と背景

## (1) 業務・調査の概要

### (ア) 業務内容

本業務（環境を軸とした地域課題解決に向けた戦略検討等に係る業務）では、石川県珠洲市で活動する「NPO 法人能登半島おらっちゃの里山里海」（以下、NPO 法人おらっちゃ）を対象に、環境保全活動に関する動向調査の結果をまとめたものである。

調査では、地球環境基金の助成対象団体である NPO 法人おらっちゃと、同団体の多岐にわたるステークホルダー（行政、大学、企業、金融機関など）が集まる会合を開催し、ワークショップ方式でグループヒアリングを 2025 年 11 月 11 日に実施した。本報告書では、このヒアリング結果に基づいて、地域課題の現状、NPO の役割について整理し、課題解決に向けた支援方策についての提案を行った。

近年、能登地域は、新型コロナウイルス感染症の影響に加え、2024 年の能登半島地震、及び豪雨災害をはじめとする複合的な要因により、地域社会の持続性が脅かされている。これらの情勢下で、地域の環境保全活動とそれに取り組む NPO 団体が直面している課題を整理し、独立行政法人環境再生保全機構による地球環境基金（以下、地球環境基金）および地域環境パートナーシップオフィス（以下、EPO）が果たすべき支援のあり方について検討を行った。

### (イ) 調査概要

#### (1) 調査方法

- 調査対象団体とそのステークホルダーで構成される会合でグループヒアリング（ワークショップ形式）を実施。
- そのほか文献（WEB 公開されている既存活動資料、行政情報）等をもとに本報告書を作成。

#### (2) 実施日時

- 2025 年 11 月 11 日（火）10:00～12:00



1

### (3) 実施場所

- 金沢大学 里山マスター能登学舎（石川県珠洲市）
- 一部出席者はオンライン参加

### (4) 出席者 8 名

NPO 法人能登半島おらっちゃ里山里海 理事長	多田 進郎
NPO 法人能登半島おらっちゃ里山里海 専務理事兼事務局長	鴨谷 欣治
NPO 法人能登半島おらっちゃ里山里海 事務	大坪 清子
珠洲市 企画財政課長	山口 茂樹
珠洲市 自然共生室 自然共生研究員	宇都宮 大輔
能登建設株式会社 代表取締役社長	入田 明大
奥能信金庫 能登復興支援部	池端 克哉
金沢大学 先端科学・社会共創推進機構 特任准教授	中村 華子

### (5) 事務局

- 独立行政法人環境再生機構 地球環境基金部 地球環境基金課 大島 P2M チームリーダー、小宮山圭彦
- 中部環境パートナーシップオフィス（EPO 中部） 清木、原、富田



### (5) 主なヒアリング内容

- 震災（及びコロナ禍）前までの取組
  - 震災（及びコロナ禍）後の影響
  - 震災（及びコロナ禍）後に取り組みたいこと
  - 今後の取組に必要な支援
- ※ 当初、「震災」の前後の変化をたずねる設問項目を提示していたが、出席者からの提案により、「震災」を「震災及び新型コロナウイルス感染症（コロナ禍）の影響」と捉えた上でヒアリングを行うことになった。

2

## (2) 調査対象の概要と選定理由

### (ア) 調査対象の団体及びその活動地域

- 団体：NPO 法人能登半島おらっちゃの里山里海  
➢ 事務局：金沢大学能登学舎（石川県珠洲市三崎町小泊 33-7）内に設置
- 主な活動地域：石川県珠洲市



### ■ 「NPO 法人能登半島おらっちゃの里山里海（おらっちゃ）」について

（NPO 法人能登半島おらっちゃの里山里海ウェブサイト <https://npo-oraccha.com/> より）

- NPO 法人おらっちゃは、「能登半島 里山里海自然学校」（運営主体：金沢大学）の活動支援を行う「珠洲サポート会」から発展し、2008 年に設立された特定非営利活動法人である。活動の趣旨として、『自然学校の運営や自然体験事業の企画・実施、里山里海活動が生み出す貴重な「恵み」を提供する活動』を掲げている。
- 『おらっちゃ』は、奥能登地方の方言で『私たち』を意味し、団体名に冠している『おらっちゃ』は NPO 会員のみでなく、能登半島に住む人々を含むものとして捉えられている。
- 世界農業遺産に登録されている能登の里山里海において、先人が培ってきた自然との付き合い方の重要性を改めて認識し、奥能登の住民が誇りを持って暮らせる持続可能な地域づくりを目指し、活動している。
- 活動は、珠洲市を中心とする里山里海フィールドに、次の 8 つの柱の事業内容について「体験する」「調査する」「生産する」「学ぶ」の 4 つの取組を展開している。

#### 【事業内容の 8 つの柱】

- 1) 大学と連携した環境保全活動、各種事業の実施と協力
- 2) 体験交流、交流居住に係るメニューの企画立案および提供
- 3) 食育推進事業の実施
- 4) 行政並びに広域観光団体等まちづくりに関する各種団体との連携及び交流
- 5) まつりなど、地域の伝統文化の保全と伝承
- 6) 上記事業に関する調査研究、ツアー等の企画立案、イベント、セミナー等の開催及び支援
- 7) 農産物、水産物、地域特産品の生産と販売
- 8) 農産物、水産物等の加工及び加工食品等の販売

3

### (イ) 調査対象の選定理由

石川県珠洲市は、能登半島の先端に位置し、豊かな里山里海に恵まれ、環境保全活動も積極的に展開されてきた地域である。しかし、2024 年に能登半島地震・豪雨災害が発生し、本業務の調査時（2025 年 11 月）においても復旧・復興事業が各所で続けられている。このような地域事情を含め、本業務の調査対象として団体（及び地域）を選定した主な理由は、次の通りである。

- 堅実な活動基盤をもち、地球環境基金の支援対象である環境 NPO  
NPO 法人能登半島おらっちゃの里山里海は、設立以来、里山里海の自然保護を目的に活動してきた団体で、地球環境基金による支援対象団体である。環境保全活動と人づくりを重視した活動を展開しており、自治体・事業者・金融機関などの地域主体とも協力関係にあり、環境 NPO としての活動基盤を堅実に築いてきた団体であることから、本業務の調査対象として選定した。
- 環境と社会・経済が密接に連関している地域性  
能登半島エリアは世界農業遺産（GIABS）に認定されており、珠洲市は 2018 年 6 月に「SDGs 未来都市」にも選定されている。一次産業をベースとした里山里海の風景や文化を活かした地域づくりが、被災前は多彩に展開されてきた地域であり、自然・環境と地域経営が密接な関係にある。それがこの地域の根幹をなすとともに、NPO 法人おらっちゃの活動の目的・特性にも関わることから、本業務の調査対象に選定した。
- 複合的な課題が顕在化している活動地域（能登半島地震・豪雨災害を経て）  
珠洲市を含む能登半島は人口減少が進む地域であり、更にコロナ禍や、能登半島地震・豪雨災害などの複合的な影響により、様々な地域課題が顕在化している地域である。一方で、気候変動の影響や日本の地理的特性等により、今後、国内のどの地域も被災の可能性があると考えられていることから、災害からの復興に連携する地域における環境 NPO への支援のあり方を検討する事例として、珠洲市と当地の活動団体を調査対象に選定した。



珠洲市内の被災した港（写真左）、復旧工事中の集落（写真右）  
グループヒアリング会合前日 2025 年 11 月 10 日に撮影

5

## (2) 愛知県環境学習コーディネート業務

- 年間予算：668,800円
- 環境学習に関する愛知県内の学校・企業等からの相談、照会依頼に対し、相談業務5件、コーディネート業務11件を実施した。

No.	受付日	依頼先区分	分野	依頼内容	相談	コーディネート	
						実施日	参加人数
1	4月1日	民間	SDGs⑥(水衛生利用)、⑪(都市)、⑭(海洋・海洋資源)	身近な「川」の見方を学ぶ、小学生(5.6年)、中学生、高校生、NPOを対象とする学習講座の講師登録を希望。	①	—	—
2	4月15日	行政	川の水質と水生生物	川に親しみ、川を理解し、川を守ることを学ぶ環境学習の企画と講師の紹介。	—	①	10月8日 35名
3	4月15日	行政	地球温暖化、エネルギー、自然への愛着	緑のカーテン教室の講師の紹介。	—	②	6月12日・16日 140名
4	4月21日	行政	自然体験	イベントサポーター学生向け環境学習リーダー養成講座(座学)の企画と講師の紹介。	—	③	11月8日 8名
5	4月23日	行政	環境問題全般	親子で参加できる環境学習講座の企画と講師の紹介。	—	④	8月2日 28名
6	5月2日	小学校	SDGs⑪(都市)、⑦(エネルギー)、⑬(気候変動)	よりよい環境づくりについて学ぶ総合的な学習の講師の紹介。	—	⑤	6月20日 96名
7	5月2日	高校	SDGs⑦(エネルギー)、⑬(気候変動)	脱炭素社会・循環型社会を実現させるための発電技術を学ぶとともに、環境問題を自分ごととして捉えるための理科の授業の講師の紹介。	—	⑥	9月29日 8名
8	6月17日	小学校	SDGs⑫(消費、生産)	SDGs活動の一環として、身近な生活のなかでできるごみの減量について学ぶ環境学習の企画と講師の紹介。	—	⑦	11月19日 87名
9	6月23日	その他	水資源	体験を通して水の大切さを学ぶ環境学習の企画と講師の紹介。	—	⑧	8月28日 26名
10	7月8日	民間	SDGs⑫(消費、生産)古着のリサイクル	古着リサイクルをテーマとする環境学習の学習教材(カードゲーム)に対するアドバイスを希望。	—	⑨	8月26日 6名
11	8月5日	小学校	SDGs⑭(海洋・海洋資源)⑮(陸域自然)⑬(気候変動)	環境問題について多角的に知り、自分たちに何ができるかを考える環境学習の講師の紹介。	—	⑩	11月19日 67名
12	8月7日	民間	SDGs 全般	子どもたちが主体となって楽しく学ぶことができる環境学習の企画と講師の紹介。	—	⑪	9月14日 79名
13	9月12日	行政	SDGs⑦(エネルギー)⑬(気候変動)⑪(都市)	豊川市職員を対象とする地球温暖化対策に関わる研修会の企画と講師の紹介。	②	—	—
14	11月26日	行政	SDGs⑮(陸域自然)	生物多様性の重要性を学ぶための屋外活動の場所と講師の紹介(複数の講師の紹介を希望)。	③	—	—
15	1月22日	行政	川の水質と水生生物	川に親しみ、川を理解し、川を守ることを学ぶ環境学習の企画と講師の紹介。	④	—	—
16	3月2日	個人	SDGs⑫(消費・生産)⑬(気候変動)、⑦(エネルギー)	食品ロス削減、エシカル消費、SDGs、地球温暖化防止、省エネ、プラごみ削減等に関わる環境学習講座の講師登録を希望。	⑤	—	—
<b>合 計</b>					<b>5</b>	<b>11</b>	<b>580名</b>

## 10 今後に向けて

### ア 現状・課題の整理と今後の展開

#### (ア) 基本業務について

##### ①現状・課題の整理

- EPO 中部への相談件数、来館者数、メール・電話での対応件数等は、微増減を繰り返しており、ほぼ横ばいに推移している。
- EPO 中部／中部地方 ESD 活動支援センターのリーフレットについては、約 700 部を配布しており、例年より配布する機会が多く、配布部数も例年より多くなった。未だに EPO について知らなかったイベント参加者等も多いため、EPO 中部及びその役割の周知や認知度向上は引き続き課題と考えられる。
- EPO 中部による情報の受発信では、今年度はセミナー等の録画のアーカイブ配信を多く実施した。ライブ配信時の視聴者数が少ないことは課題であるが、その後のアーカイブ配信の視聴者数・ビュー数は増加し続けている。

##### ②今後の展開

- EPO 施設の利用促進と EPO 中部及び中部地方 ESD 活動支援センターの認知度・利用度の向上を目指し、相談対応や業務打合せ、イベント開催等を地域側主体と接触する機会でもありと捉えて、常にリーフレットが配布できるよう準備しておくなどして、地道に情報発信に取り組んでいく必要がある。
- 今年度はセミナー等主催イベント動画のアーカイブ配信を例年より多く行っており、一過性のイベント効果のみでなく、その後のツールとしての活用展開にも取り組むことが有用と考えられる。
- 特に、「地域循環共生圏」や「ESD」などの認知度の高いとはいえないテーマ・分野の情報を取り扱っていることもあり、それらのテーマ・分野に関心を持った人が関心を持った（検索をした）タイミングで EPO 中部の発信する情報にアクセスできるよう、イベントとしてのみの広報ではなく、今後、A I の活用が進むことも念頭においた、“活用してもらうべきデータ”として積極的に発信していく必要がある。

#### (イ) EPO 業務・地域循環共生圏づくり支援業務について

##### ①現状・課題の整理

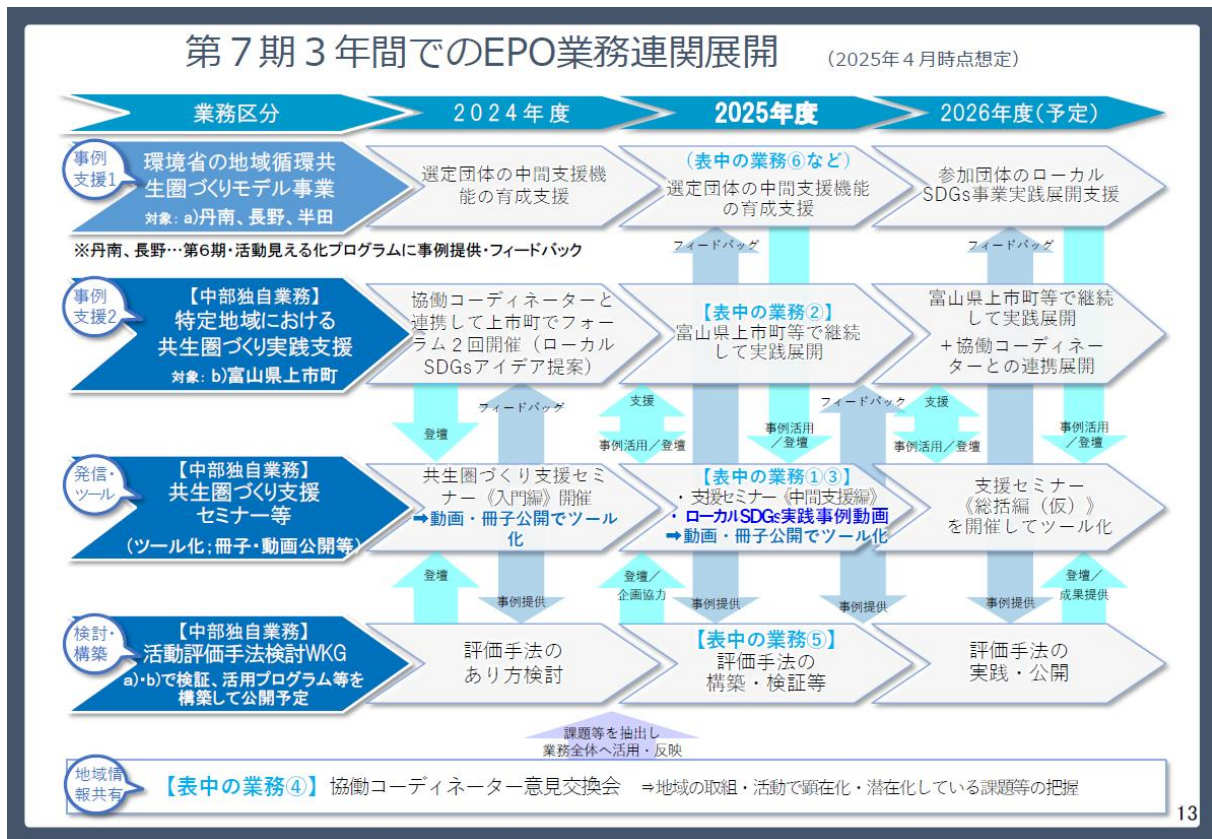
- 「地域循環共生圏フォーラム in 富山県上市町」は、前年度に続いて、具体のローカル SDGs 実践を促進するイベントとして開催し、関係者・参加者からは好評を得たが、参加者数の少なさは課題となった。
- これまでは地域循環共生圏づくりの具体の案件づくりを目的としたフォーラムを毎年度、異なる地域で開催してきたが、今年度は、広く地域循環共生圏づくりを支援する主体の存在の周知を目的に、ローカル SDGs 実践事例集として、協働コーディネーター等による取組紹介コンテンツの制作・公開も実施した。
- 協働コーディネーターについては、新しく 2 名のコーディネーターの追加があったが、ここ数年毎年実施している協働コーディネーター意見交換会は、議論内容がやや固定化しつつある面も否めない。
- 地域循環共生圏づくりの活動評価手法の検討業務では、今年度も有識者検討ワーキングを実施し、ワーキング委員に地域循環共生圏づくり支援セミナーのトークセッションに登壇

いただく連動企画を実施し、その内容をとりまとめた成果冊子を作成・公開したが、今後の活用方法等についての議論には至っていない。

- 地域循環共生圏づくり支援体制構築事業での参加団体支援では、昨年度よりも地域側との接触（壁打ち）機会を多く設け、中間支援主体と活動団体の取組状況や課題などに関する細やかな情報共有と対応策の打ち出し等に努めた。一方で地方事務局としての「中間支援」に対する支援が求められており、中間支援主体が目指す支援のあり方、意向の確認にも留意が必要と考えられる。

## ②今後の展開

- これまで、地域循環共生圏フォーラムとして、個別の地域による地域循環共生圏づくりの案件づくりを目的にした業務として展開してきたが、今後は、EPO にかかわって地域支援を行う中間支援主体をいかに創出・育成し、彼らが奨励されるような体制づくりを目指す取組が必要と考える。
- 特に、協働コーディネーターに中間支援能力を発揮していただくために、今年度（までに）公開したアーカイブ配信動画や冊子、活動評価検討 WKG の検討結果（評価チェック）を活用しつつ、ローカル SDGs 実践事例集コンテンツ（協働コーディネーターの取組事例）の発信を充実化させて、地域循環共生圏づくりやローカル SDGs 実践の具体の事例を提示すると共に、中間支援を担える主体・依頼できる主体（協働コーディネーター等）の存在をPRしていくことも必要である。
- 環境省施策の地域での実践展開を EPO と共に支援する主体や仕組みづくりを目指し、様々なある EPO 業務及び ESD 業務を有機的に連携させて取り組むロードマップ（もしくはその整理）が必要と考える。



## (ウ) ESD 業務について

### ①現状・課題の整理

- 学び合いプロジェクトでは、「中部版 ESD ワークブック」を活用した学び合いの場づくりができる人材育成のために構築したワークショップ用パッケージを改善するために、有識者検討会における検討を経て検証するとともに、ツールを作成し Web 公開した。その過程でワークショップの参加者が ESD 学び合いの場づくりを自主的に行うなどの効果が見られ、今後、ESD 学び合いの場づくりの促進が期待される。学び合いプロジェクトの成果であるワークブックや人材育成ワークショップの活用や、地域課題と SDGs を結びつける視点などの深化のための普及促進が必要である。
- 今年度新たに実施した高校の探究学習についてのヒアリングや、ESD 地域フォーラムで地域と連携した探究学習をテーマとして取り上げるなど、中部地方の高校の探究学習における ESD・気候変動教育の導入の可能性について情報を集積した。現場では高度でシステムティックな探究学習授業を構築している高校がある一方で、方法が十分に理解されず十分な取組となっていない高校もあるなど格差が生じている。また学習過程では地域との連携のあり方とともに生徒自身のテーマ選定に困難があることが指摘されている。これらの現状に対して、気候変動を中心とする環境サイドの ESD 分野のテーマを取り上げてもらうとともに、地域と連携した探究学習に資するツールや、マッチングなどの支援方法を検討することが今後の課題となる。
- ESD ダイアログにおいては尾鷲市にホストを担っていただき、地域で独立して実施されてきた様々な取組を一堂に会し交流することで、豊かな自然資産を活かした地域の人づくりの重要性が ESD として改めて認識された。本ダイアログでは初の試みとしてオンライン公開されるとともに、アーカイブ配信され、知見の一般共有に資するように努めた。ESD ダイアログの内容は地域の自然・社会特性に基づく ESD の現状と課題の共有としての性格が強いが、こうした動画コンテンツを集積公開していくことにより他地域の事例を参考にするためのツールとしての意義も認められ、さらに拡充していくことも一つの課題と考えられる。
- SDGs 学生サミットにおいては本格的に高校の取組紹介を導入するとともに、社会側の取組は身近に感じられる地域づくりやまちづくり団体に参加いただいた。これにより高校生と大学生、及び身近な「大人」の視線を入れた有意義なディスカッションが行われた。多世代による交流はそれぞれに大きな刺激をもたらしている。反面大学生グループは、いわゆる常連の固定化が見られ、その意義を再検討する必要がある。

### ②今後の展開

- ESD 促進ネットワークでは気候変動教育を導入した高校における探究学習による自ら学ぶ能力の育成を目指した実証事業が本格化する。次年度においては展開方策を検討し具体的な計画を策定することになっており、今年度集積した高校探究に関する情報を踏まえるとともに、これまでの学び合いプロジェクトで得られた知見やネットワークを活かし、実践的な計画を検討する。特に身近な社会と気候変動影響を受ける Biosphere を基盤とする社会経済との「つながりのストーリー」を重視したテーマを生徒が選定していく環境作り、及びそれらの学習を地域社会が支援するネットワーク形成を意識する。計画策定にあたっては R9 以降の実践も見据えてユネスコスクールへの打診やニーズの把握を行いつつ、専門家の助言を得つつ実施する。また地域連携として高校探究のための支援ネットワークのありかたにおいて、地域 ESD 拠点の役割について地域 ESD フォーラムで取り上げることを検討する。

- 次年度の ESD ダイアログは能登半島の珠洲市をホスト候補として検討したい。世界農業遺産も位置する同地は自然景観の維持という点でも大きな課題を抱えており復興が本格化しているこの時期に実施する意義は大きい。今年度外部資金の事業として実施したヒアリングで同地を訪れた際にも様々な形での交流ニーズが得られ、自然環境保全の担い手などの課題も聞き取ることができた。現地の受け入れのことも考えると、多くの人数を現地に集める大型のイベントではなく、中身の濃い議論をオンラインで発信する形が適切と考えられる。また動画コンテンツ蓄積という意味でも、現地からのオンライン発信は有用である。
- SDGs 学生サミットは同様な枠組みで開催する計画とする。高校生グループは探究学習の成果報告機会としての活用も見据えた募集を検討する。社会側の活動についても高校探究との連携を意識した団体の選定を検討する。一方で、大学生は新規の参加の発掘を行うが、いわゆる常連の学生グループについては位置づけを再検討し、高校生グループをリードする先輩的な役割を要請することも検討する。

## イ 主催イベントの参加者アンケート結果

- EPO 業務、ESD 業務の全ての主催イベントのうち、クローズ会合以外のイベントにおいては、参加者アンケートを実施しており、イベント終了後、アンケートの集計結果を中部地方環境事務所担当者へ報告、情報共有を行った。
- 全体的にアンケート回答数が少ないことから、本項では、共通設問を用いたアンケートの回答について、全イベントの回答をまとめて集計する全数での集計を行い、参考値として整理した。
- 学び合いプロジェクト関連イベントなどの一部イベントについては、アンケート結果を有識者ワーキングによる検討材料等として活用するため独自のアンケートを実施しており、本項の全数集計に含まれていない。
- 回答を得られた参加者アンケートの集計結果をみると、全体的にどのイベントに対する評価も高く、役立つ情報・事例があったか否かの設問でも「あった」の回答が多い。

### ① イベントの評価について

		● 今回の催事はいかがでしたか (5段階評価)						無回答
		たいへん良かった	良かった	ふつう	あまり良くなかった	良くなかった		
EPO 業務	251022 白書を読む会 (n=6)	2	5	1	0	0	0	
	251206 上市フォーラム (n=3)	1	2	1	0	0	0	
	260223 はくさん大発見 (n=11)	5	11	0	0	0	0	
	260303 共進化フォーラム (n=31)	20	28	2	0	0	0	
ESD 業務	250929 NWフォーラム (n=19)	9	16	1	2	0	0	
	251017 ESDダイアログ (n=12)	5	12	0	0	0	0	
EPO業務・計(n=51)		28	46	4	0	0	0	
ESD業務・計(n=31)		14	28	1	2	0	0	
全体(n=82)		42	74	5	2	0	0	

### ② 役立つ情報や事例の有無について

		● 今後のあなたの活動や取組で役立つ情報や事例などがありましたか			
		あった	なかった	どちらともいえない	無回答
EPO 業務	251022 白書を読む会 (n=6)	4	0	2	0
	251206 上市フォーラム (n=3)	2	0	1	0
	260223 はくさん大発見 (n=11)	11	0	0	0
	260303 共進化フォーラム (n=31)	26	2	2	1
ESD 業務	250929 NWフォーラム (n=19)	17	0	2	0
	251017 ESDダイアログ (n=12)	11	0	1	0
EPO業務・計(n=51)		43	2	5	1
ESD業務・計(n=31)		28	0	3	0
全体(n=82)		71	2	8	1

③（※上の②で「あった」と回答した情報・事例の内容） ※原文まま

251022 白書を読む会	サーキュラーエコノミーの取組の支援制度 環境に関する動向を把握することができた。 特に、生物多様性に関するセクション全体
251206 上市フォーラム	ノジンの話は面白く有意義でした 廃校を使った地域のイベント HUB のアイデア
260223 はくさん 大発見	タヌキやアナグマなど、実際に毛をさわらせていただけて、テレビや図鑑でみる動物が、自分と同じ世界で生きていることを実感をもってうけとめられる機会をいただけたかなと思いました。 外来植物を持ち込まない方法 桂湖ビジターセンターに泊まってみたいです。 国立公園について 国立公園について勉強になった。 白山にいる高山特有の動物や植物を知ることができて良かったです。また、動物の毛皮も触れてこどもも楽しそうでした。 外来植物の種を防ぐために、登山する時に靴の裏をきれいにすることも初めて知りました。登山する機会があれば、気を付けたいと思います。 白山に登った時の動物や、植物を知れてよかった  白山の動植物について詳しく知ることができた 白山の特徴 毛を触れた！ツノは重い！！登山の経験と知識がリンクした。
260303 共進化 フォーラム	「共進化」についての基調講演と、さまざまなお立場からの事例発表 ウェルビーイングや共進化の考え方 エリアマネジメントが錦の具体的なやりたい事を聞いた。町内会・自治会との取組みも聞いた。地域で活かしたい。 おとうふ工房いしかわ①豆の有機利用②容器のリサイクル、回収③子供への教育ツール④障害者への就労支援 課題と解決策を説明するだけでなく、「新たな気づき」を追加して、さらに考えや行動を発展させていくこと。 各主体での「共進化」に関する認識 共進化と環境問題 共進化についての情報を知ることができた。それぞれの組織でそれぞれの共進化があるのだなと感じた。 共進化の意味の理解が一步深まりました。 共進化の考え方。話題提供の 6 事例。 共進化の担い手となる市民としての素地を育む 仕組みがないと感じたこと 共創→共進化＝進化しつづける 教育の大切さ 国土保全 幸福とウェルビーイングの違い(将来世代までをしっかり見ること) 行政が熱心に共進化に取り組む事例が具体的で参考になった 市町村の話題提供 自治体の事例が参考になった。 取り組み事例はどれも参考になった 受援→ツボ→副次的な地域課題の解決、一石八鳥 情報を集め、必要な場所へ資源をマッチングする仕組み 新しい知見を得ることが出来とても有意義でした 多岐な背景をもった団体がそれぞれの指定から取り組んでおり、一概に語れない多様性を育てていることを知れた。 断熱ワークショップや生物多様性に配慮した活動など各地の取り組みを自分の地域でも実践していきたいと思った。 地域資源や行政の立場・視点からの考え方 特に坂井市の事例が参考になりました。どの取り組みも非常にマンパワーを必要とすることが想像できる取り組みばかりで、組織体制が気になります。
250929 NW フォーラム	ESD としての探求学習、その接続について 学校教育の重さ(固さ?)を今回も強く感じた。その固い体制の中に、新しく生まれて来た環境をどうさくかが変わらず問題になっているそしてすべての発表に通じていると思いました。 高校の具体的なケースや取組 高校の現場でどのように探究活動に取り組まれているか、それぞれの工夫が聞いた。 高校の現場での実施の様子を知ることができた。

	<p>高校の先生からの探求学習の姿勢と、一年生のときから準備が始まり、3年間をかけて取り組むこと。</p> <p>高校の探究学習で、いくつかの問題点があると思っていたのですが、1年生の段かいで、種まきをしていねいにされている所</p> <p>高校側の探究学習の段取りを知ることができてよかった</p> <p>事例を聞いて、探究の難しさについて悩んでいたことのヒントがあった。探究の授業は、とても魅力的であるが、現場の先生方の負担がとて大きいと感じていた。専門の方や外部の方と連携し、課題設定に意識をシフトしていくことの重要性を教えてもらった。</p> <p>他校の取り組み、地域での取り組みの事例が知れたこと。</p> <p>探求学習はESDの中に含まれる一要素のようなイメージを持っていましたが、松村先生のお話を聞いて、その違いや関係性が整理出来てクリアになりました。</p> <p>探究学習するポイントが学べた。斐太高校の事例が素晴らしかった。問いの作り方、段階的な指導、大学や専門家、地域との連携など感動しました。</p> <p>探究学習へのステップ、課題を現場の声で聞けてとてもよかったです。地域性もあるものかと思いますが、教員への負担は共通するテーマになると思うので、さらに教員の声を知りたいと思いました。</p> <p>探究活動とESDとの関係がはっきりした。</p> <p>ESDの立場に立った考え方が、現場で生かすことができる。</p> <p>地域と学校をつなぐコーディネーターの必要性について改めて実感できた</p> <p>斐太高校の体制整備</p> <p>名古屋市のキャリアコン対応</p>
251017 ESD ダイアログ	<p>ESDと尾鷲市の活動の親和性の高さが理解できた</p> <p>ESDの奥深さ(環境だけではない)事を知った。尾鷲の取り組みがすごいと思い、志摩地方でも活かせないかと思った</p> <p>ITで農業支援(尾鷲高等学校)子どもたちがナビゲーターになる(ラムサール条約湿地保全学習)教育の変化、その大切さを改めて感じられた。</p> <p>人との関わりが大切であり、それを支えるための資金も必要である。子どもたちがより良い環境の中で教育を受けられるよう人のつながりをつづけていくことが大切であると学びました</p> <p>水谷先生/ESDと地域課題の結びつきについてわかり易く具体的な内容で大変興味深く聞いた。芝山課長/尾鷲市取組がよくわかった。</p> <p>体験を体験だけで終わらない ヒント</p> <p>地域を学ぶことが愛郷心を持つことにつながる。まさにふるさと教育であると感じました。</p> <p>尾鷲育</p> <p>輪内中学校、尾鷲高校の取組、各団体の苦勞がよく分かった</p>

#### ④ イベント参加による積極性の喚起について

- ※ 「260223 はくさん大発見」の参加者アンケートは、イベント内容に適するよう異なる選択肢を使用したが、集計用の選択肢に置き換えて集計した。
- ※ ほかのイベントについても、イベントの内容にあわせて集計用の選択肢の言葉を一部変更してアンケートを実施した。

「260223 はくさん大発見」の選択肢	⇒	集計用の選択肢
1. 今回のイベントにより、白山への関心が増したと思う	⇒	1. もっと積極的に取り組みたいと感じられる内容だった
2. 以前から白山や自然に興味を持っており、関心度は変わらないように感じる		2. これまでの取組で充分と思える内容だった
3. 今回のイベントにより、白山への興味・関心が薄れたように感じた		3. 取り組む必要性を感じられない内容だった
4. よくわからない		4. よくわからない

		●催事テーマに今後も積極的に取り組む必要があると感じさせる内容でしたか ※一部催事で設問設定なし					
		もっと積極的に取り組みたいと感じられる内容だった	これまでの取組で充分と思える内容だった	取り組む必要性を感じられない内容だった	よくわからない	設問なし※	無回答
EPO 業務	251022白書を読む会 (n=6)	5	1	0	0	0	0
	251206上市フォーラム (n=3)	2	0	0	1	0	0
	260223はくさん大発見 (n=11)	11	0	0	0	0	0
	260303共進化フォーラム (n=31)	26	1	2	1	0	1
ESD 業務	250929NWフォーラム (n=19)	0	0	0	0	19	0
	251017ESDダイアログ (n=12)	10	1	0	1	0	0
EPO業務・計(n=51)		44	2	2	2	0	1
ESD業務・計(n=12)		10	1	0	1	19	0
全体(n=63)		54	3	2	3	19	1

⑤イベント開催のテーマや分野に対するニーズについて ※原文ママ

251022 白書を読む会	個々のテーマに焦点を絞ったセミナー(今回は範囲が広く駆け足にならざるを得なかったと思われるので) 国の支援制度について
251206 上市フォーラム	今回のフォーラムを継続的に開催できたらおもしろいです
260223 はくさん 大発見	マイクロプラスチックについて
	化石発掘
	海のことや、熊との共存についてテーマにしたものがあれば参加してみたいです。 こどもは工作好きなので、工作絡みだと参加しやすいと思います。
	蝶の話
	登山
260303 共進化 フォーラム	登山道の整備方法。レジャーになるためには…?! 直接触って、かいで、できるイベント。何故日本にはレジャーが少ない?! レンジャー施設の中で開催してほしい。白山の動物の動画をもっと見たい。
	白山の動物
	「共進化」についてはまだまだ理解が足りないので、「共進化」についてさらにお聞きしたい。
	・政治と環境・災害復興のシステム化(能登地振後のをち直り)
	1人の100歩ではなく100人の1歩となる 共進の担い手の育成の仕組み
	岡崎市の中山間振興課が何をしているのか。株式会社モリアゲの長野麻子氏のお話
	岡崎市の中山間振興課が何をしているのか。株式会社モリアゲの長野麻子氏のお話
	現在おこっている戦争・紛争で損なわれるであろう「CO2削減目標」について
	今回のような各地の取り組みの紹介など。
	失敗事例、その克服事例
若年層への環境教育について	
他の中小企業の環境への取り組みが知りたいです。	
250929 NW フォーラム	本日のセッションでも話題に上がりましたが、行政と民間のギャップを埋める方法については、双方に求められている話題ではないかと思えます。民間側は「行政」と一括りに話をするケースが多いのですが、属性の説明を除き、行政側が「民間」と一括りにするケースは少ないと思えます。これは、民間が多様な組織・人材によって構成されていることは認知されているものの、行政も同様に多様な組織・人材によって構成されていることを民間側が想像できていないことによるギャップだと感じています。このあたり深掘りしていくと双方にとって良い関係が構築できるのではと思えます。
	ESDの文脈と探究が強く?み合っている事例、中学・高校で、偏差値帯も50前後の学校のもの
	ESDの本筋を理解している方の話や、探究?ESDの実践事例を知りたい また、機会があったら参加させてください。

	やっぱり対面で参加したかったです。 各地域が抱えている環境の課題と対策の現状について 学生サミットの高校生版 高校生と一緒に参加して、地域での活動を体験できるようなセミナー 実践校の具体のとらえ方を見て、さらに考えるWS 小学校や中学校の探究について積極的に活動している学校の事例を聞けるとありがたい。 地域学習
251017ESD ダイアログ	難しいことですが、具体的な成果が表れている取り組みについて取り上げてほしいです。考え方はその とおりでその結果は？の部分。

⑥末尾・自由記入欄の感想等 ※原文まま

251022 白書を読む会	過去の施策について、立案→実施(試行)→結果(当初の見立て通りの結果が得られたか、また新たな 問題が生じたか)を流れとして把握できれば、より環境政策について理解が深まるように思われます ので、そういった視点からのセミナーがあればありがたいと感じました。 国の基本方針がわかりやすかった。
251206 上市フォーラム	SDGs は 2030 年までだが、ローカル SDGs はいつまでやるのか？ 楽しかったです 大変有意義な会をありがとうございました
260223 はくさん 大発見	レンジャーの仕事してみたいと子供が言っていました、どうやったらなれますか？ ワークショップの時間が足りなかった 環境省の方の貴重なお話が聞けました。 ありがとうございました 仕事が楽しかったそうです。特にシールを貼ることが出来たのが楽しかったそうです。 毛皮に触れたのも、なかなかない経験で、楽しそうでした。 お話もとてもためになりましたが、30分過ぎるとちよつとこどもは大変そうでした…。 楽しい時間をどうもありがとうございました。 西日本はいしづち山が一番ではないの？？東日本・西日本の分け方がちがうのかなー？博士のふく しゅうタイムが楽しかった 直前に知って申し込みましたが大変勉強になりました。 低学年の子にも読めるようにパワポにふりがなをつけてくださったり博士に扮したりとがんばって準備 していただいたのが、伝わってきました。ワークショップの作業時間が短かったので30分はあると絵が 完成するかと思いました。
260303 共進化 フォーラム	3大都市である名古屋がある都市となった 都市の育成の必要性があることに気づかされた 徳川尾 張からの脱出する ◎共進化エネルギーは復興に役立つか？ ありがとうございました！ パネルディスカッションがとてもよかったです。司会も素晴らしかったです。 共進化という概念を知る事ができた。動的平衡のように変化し続けないと残すことができないと考えて、 周りとの共感、化学反応を大切に進化していきたい。 共進化やウェルビーイングというものを国としてどのように捉えているのかという点をお伺いしたく参加 したが、極めて抽象的な議論に終始したというイメージ。計画自体は抽象度が高くてよいと思うが、その 解釈段階・実行段階(各自治体が行う段階など)にあつては、国として一定の方向性を指し示せる ようにしておかれるべきではないかを感じる。自治体任せという感が拭えない。 最後に鶴飼宏成氏が語られた地域毎に共進化を促すプレーヤーが違っていい 伝えていく 拡げてい く力が大切だというご意見は魅力的だった 準備から当日までありがとうございました。 前向きな取り組みだと思った。 全体を通して非常に勉強になる事例ばかりでした。情報の密度が濃く、可能であれば資料を展開してい ただけるとありがたいです。 多くの事例を具体的に聞くことで共進化の理解が深まった。 大変内容が濃く、勉強になりました。ありがとうございました! 長時間ありがとうございました 藤前干潟・アサギマダラに関わっているビオトープ・ネットワーク中部の長谷川明子氏のお話。農林水 産省農村プロデューサー高橋信博氏のお話。ウェルビーイング。どう生かされるか。教育とは何か 内容が盛沢山で、理解が追いつきませんでした。 非常に有意義でした。高野先生の考え方、参加費はとらず組織化 行政を動かすにはねばり強く看化 される 戦力的あいまいさ!!
250929 NW フォーラム	ZOOM のカメラが説明者の顔を映していない、フラフラしている画像が不要です コーディネーターの課題。特に外部の活用は、これからの探求学習の広がりや集合知のためにも必要 だと思います。

	<p>たくさんのヒントを頂いたのですが(後日加藤先生のまとめを下さい)テーマ設定のなげかけ方など、大変参考になりました。中学でのタネマキが必要だと思いました。</p> <p>とても大切な示唆を頂きました</p> <p>とても有意義でした。</p> <p>パソコンと携帯電話のどちらも Wi-Fi との接続が上手くいかず、会議の半分くらいしか聞かれなかった。申し訳ない！</p> <p>ボランティア団体は学校とつながりたくても学校に受け取る余力やスケジュールが年初に決まってしまうので、たがいに歩みよるふんいきを作りたいと思った。</p> <p>今後もこのようなフォーラム・機会を継続して行って下さい。</p> <p>参加させていただきありがとうございました。</p> <p>初めて参加させていただきました。大学や地域で様々な取組みをされている方々と連携を強めていきたいと思えます。</p> <p>他の ESD を牽引している団体の方と話すことができる機会はないので、視点が広がった。名古屋市の環境に対する組織作りも、参考にすべきものだった。</p> <p>探究の文脈では、もっと特色のある参考事例に出合えると。</p> <p>探究の本質について、学ぶことができ良かった。事例を聞くことができるのは、とても良い。今後も情報を共有して、勉強会ができるといいと思えます。ありがとうございました。</p> <p>都合により松村先生のパートまでしか参加出来ず失礼いたしました。</p> <p>企画運営お疲れ様でした。(関東 ESDC 松沼)</p>
251017 ESD ダイアログ	<p>1人ずつ発表の長さは適当だった。信大の先生の話は流しすぎで今回初めてという人には頭には入らなかったのではないかと思います</p> <p>さまざまな気づきをいただきました。ありがとうございました。</p> <p>次の世代につなげていくためには教育が重要であることを再認識しました。</p> <p>他地域でも取組を知ることができ、今後も頑張ろうという思いが大きくなりました。</p> <p>尾鷲市で開催いただき大変良かったです</p> <p>尾鷲市を中心に様々な取組を知ることができてよかったと思えます。ESD の取組は前向きに進んでいるように見える一方、地域におけるマンパワー&amp;資金の不足の課題も無視できないが、それら課題を克服しないかぎり、ESD を継続させることが難しいだろうと思いました。</p>

---

令和7（2025）年度  
中部環境パートナーシップオフィス運營業務  
年間報告書

2026年3月

発行：環境省中部地方環境事務所

〒460-0001 名古屋市中区三の丸 2-5-2  
TEL：052-955-2134／FAX：052-951-8889  
URL：<http://chubu.env.go.jp>

作成：中部環境パートナーシップオフィス

（運営受託：一般社団法人環境創造研究センター）

〒460-0003 名古屋市中区錦 2-4-3 錦パークビル4階  
TEL：052-218-8605／FAX：052-218-8606  
URL：<http://www.epo-chubu.jp>

---

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針における「印刷」に係る判断の基準に従い、印刷用の紙へのリサイクルに適した材料 [Aランク] のみを用いて作製しています。